

無視シテ取立ヲ爲シ又ハ轉付ヲ受クルコトヲ得サルモ
ノトス(大審大正四年民三六三頁)

二 劣等順位ノ物上擔保債權者又ハ物上擔保ヲ有セサル
債權者カ續業法ニ於ケル補償金ノ差押ヲ爲シタル場合
ト雖モ其補償金ハ優先權ノ目的トシテ保存セラレルモ
ノナレハ優先權アル債權者ハ之ニ對シテ其權利ヲ主張
スルコトヲ得ヘク自己カ先シテ之カ差押ヲ爲サザリ
シコトハ其優先權ヲ行使スルノ妨ト爲ルコトナシ(大
審大正四年民三六三頁評論四卷諸法七八頁)

三 順位ノ劣等ナル債權者又ハ普通債權者カ優先權ヲ有
スル債權者ニ先チテ補償金ノ差押ヲ爲シ且優先權者
無視シテ轉付ヲ受ケタルトキハ其轉付命令ハ優先權者
ニ對シテ其效力ヲ有セサルヲ以テ優先權者ハ尙ホ其補
償金ニ對シテ優先權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス但
第三債務者カ優先權者ヨリ差押ヲ受ケルノ前差押債權
者ニ對シテ辨濟ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ナルヲ以
テ第三債務者ハ更ニ優先權者ニ對シテ差押ヲ爲スノ義
務ナク優先權者ハ其權利ヲ害シテ差押ヲ受ケタル差押
債權者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ルニ過キサ
ルモノトス(同上)

……………(以下五〇一頁)……………

◎補償金ニ對スル抵當權ト轉付命令

一 土地收用ノ補償金同建物ノ移轉料ニ付キ抵當權ヲ行
使スルニハ土地收用法第六十五條ニ從ヒ其金員ノ支拂
前ニ於テ之カ差押ヲ爲スコトヲ要スヘク而シテ該差押
前右補償金請求權ノ讓渡アリタル場合ニ同條拂渡ト同
一ノ效力ヲ生シ抵當權ハ消滅スルモノトス而シテ轉付
命令ハ債權ノ讓渡アリタル場合ト異ナル所ナキカ故ニ
前段抵當權者ノ差押前ニ於テ第三債務者カ該補償金ノ
轉付命令ヲ得タルトキハ抵當權ハ消滅ス(大阪控大正
三年最一五卷一〇二頁)

二 土地收用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シ優
先權者自ラ差押ヲ爲シタル場合ハ勿論縱令然ラスシテ
劣等順位ノ物上擔保債權者有スル債權者又ハ物上擔保債
權者カ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ苟モ差押アル
ニ於テハ補償金ハ優先權ノ目的トシテ保存セサルヘク
差押ヲ爲シタル劣等順位ノ物上擔保債權者有スル債權者
又ハ擔保債權者モ亦補償義務者ト同シク優先權
ノ效力ヲ受ケサルヘカラス(大審大正四年民一一五七
頁評論四卷民法六〇六頁)

◎轉付命令ト債權ノ侵害

四 債權者カ代位訴權若クハ取消訴權ニ依ラス唯其債權
ヲ主張シテ同債務者ニ對スル他ノ債權者カ債權轉付命
令ノ效力ニ因リテ收受セシ金錢ノ給付ヲ請求スル場合
ニ在テハ縱令前者ノ得タル轉付命令後者ノ得タルモノ
ニ先チテ效力ヲ生シタルトスルモ其請求ハ仍チ失當タ
ルコトヲ免レス(大審四一年民一二四七頁)

……………(以下五〇二頁)……………

◎轉付債權ニ對スル相殺ノ可否

一 債權ノ轉付ヲ受ケタル者ハ其債權者ノ權利ヲ承繼シ
即チ被承繼者ノ地位ニ代リタルモノナリ故ニ被承繼者
カ債務者ニ對シテ所ノ債務アルトキハ縱令轉付ノ債
權ニ關係チ有セサルモ被承繼者カ其相殺ノ請求ヲ拒ミ
得サルト同シク承繼者モ其請求ニ應スルノ義務アリ
(大審三一年民二卷一一頁)

◎執行異議ト其ノ時期 [類題、五四四條]

一 執行裁判所カ債權差押命令ヲ發シタル後債務者ニ債
務名義ヲ送達スルハ不法ナレトモ差押命令及ヒ轉付命

一 債權假差押命令カ適法ニ第三債務者ニ送達セラレタ
ル以上ハ其後ニ他ノ債權者ヨリ同一債權ニ付キ發セラ
レタル轉付命令ニ基キ第三債務者ニ於テ轉付命令ヲ得
タル債權者ニ對シテ差押ヲ爲シタルモノ之ヲ以テ假
差押債權者ニ對シテ得ルモノニ非ス從テ右第三債務者
ヨリ轉付命令ヲ發シタル債權者ニ假差押ニ係ル金額ヲ
支拂ヒタリトスルモノ之ヲ以テ假差押債權者ノ執行權ヲ
不法ニ侵害シタルモノト云フコトヲ得ス(東京地大正
四年評論四卷民訴二七三頁)

二 甲者カ適法ナル管轄裁判所ヨリ某衆議院議員ノ歳費
差押轉付命令ヲ受ケタル場合ニ於テ乙者カ之ニ先チ
同一議員ニ對シ管轄違ノ裁判所ノ差押轉付命令ヲ得テ
其歳費ヲ受領シタルトスルモ乙者ハ固ヨリ甲者ノ債權
ヲ不法ニ侵害シタルモノニアラス(東京地大正五年最
一七卷三六九頁、同旨東京地大正五年評論五卷民訴二
七一頁)

三 劣等順位ノ物上擔保債權者有スル債權者又ハ物上擔保
債權者カ優先權者ニ先チテ補償金ノ差押ヲ爲シ
タル場合ニ轉付命令ヲ受ケルコトアルモ其轉付命令ハ
優先權者ヲ害スル範圍ニ於テハ效力ヲ有セサルカ故ニ
其轉付命令ハ優先權者カ補償金ニ對シテ優先權ヲ行使
スルノ妨トナラサルモノトス(大審大正四年民一一五

令ニシテ適法ニ第三債務者ニ送達セラレタルトキハ其執行手續既ニ終了シタルモノナレハ利害關係人ハ執行異議ノ方法ニ依リ其不法ヲ主張スルコトヲ得ス(大審大正二年民七二九頁、同旨東京控四二年法六一三號一頁)

二 債權ノ強制執行トシテ發セラレタル轉付命令カ第三債務者及ヒ債務者ニ送達セラレタル以上ハ強制執行ハ終了シ債權者ノ債權ハ辨濟セラレタルヲ以テ債權者ハ更ニ同一債務名義ニ基キ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモノトス從テ停止スヘキ強制執行アルコトナケレハ停止命令ヲ發スヘキ限ニ在ラス(大審大正五年民二三三八頁、同旨大審大正五年民一五三五頁評論五卷民訴三三一頁仙臺地大正五年法一一九五號二六頁)

三 強制執行ノ方法ニ關スル異議ノ申立ハ強制執行手續ノ進行中ニ於テノミ爲シ得ヘキモノトス從テ債權差押並ニ轉付命令ノ送達アリテ該執行手續ノ終了シタル後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス(仙臺地大正五年法一一七八號二九頁、同旨東京地大正三年法九四四號二三頁大阪地大正三年法九三三號二五頁)

四 債權差押ノ異議ハ管轄權ヲ有セサル裁判所ノ發シタル命令ニ對スルトキト雖モ強制執行ノ終了後ハ訴其他ノ方法ニ依リ手續ノ無効ヲ主張スルノ外之ヲ許ササル

適法ナリ(札幌地大正五年法一一一八號二七頁)
二 原告カ債權轉付命令ノ無効ナルコトヲ主張シ被告カ訴外第三債務者ヨリ取立テタル金額ノ支拂ノ無効ナルコトノ確認ヲ求メ且不當利得トシテ該金額ノ返還ヲ請求スルモノナルトキハ原告ハ確認訴訟ヲ提起スルニ付キ法律上ノ利益ヲ有スルモノトス(大審大正六年民一三〇四頁)

三 民事訴訟手續ニ依リ金鵝勳章ニ付フ年金債權ノ差押ヲ爲シ且ツ其債權ノ轉付命令ヲ得タル以上其實質的效力ハ否定シ轉付ノ無効ヲ主張スルニハ亦民事訴訟手續ニ依ルヘキコト固ヨリ當然ナレハ斯カル轉付命令ノ無効確認ヲ求ムル訴ハ不適法ニアラス(東京控大正四年評論四卷民訴五六頁)

四 強制執行完了後ト雖モ其無効ヲ承認スル意思表示ヲ訴求スルコトヲ得ルモ債權ヲ擔保トセル質權ニ基キ之ヲ侵害スヘキ債權差押命令及ヒ債權轉付命令ノ無効ナルコトヲ承認スル意思表示ヲ求ムルカ如キハ之ヲ許スヘキモノニ非ス(大阪地四二年法五六二號一二頁)
◎四四九頁「執行異議ニ代ル他ノ訴求」參看
五 同一債權ニ付キ二個ノ債權差押及轉付命令存在スルノ結果五ニ其權利ヲ主張シ其一方ノ權利ノ行使ハ他ノ一方ノ權利ヲ危殆ナラシムル場合ニ於テハ他ノ一方ニ

モノトス(大審大正五年民一五三五頁)
五 債權轉付命令ノ送達ニヨリテ強制執行手續ノ完了シタル者ニ對シテハ假令轉付命令カ抗告ニヨリテ未確定ナルモノニ對シテ強制執行異議ノ訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(宮崎地三六年法一八四號四頁)
六 事情届出ノ不十分ナリシ爲メ配當手續ニ不當ノ點アリシトスルモ荷モ執行裁判所ニ於テ配當ヲ實施シ其手續ヲ完了シタル以上ハ該供託金ニ對シ債權差押命令並ニ轉付命令ヲ得タリトスルモ其效力ナク該供託金ヨリ配當ヲ受ケタル他ノ債權者ニ對シ不當利得ノ請求ヲ爲スハ格別中央金庫ニ對シ之カ拂渡ヲ請求スルコトヲ得ス(東京地大正三年最一五卷二二九頁)

◎轉付命令ノ無効確認ノ訴

一 轉付命令ハ之ヲ第三債務者ニ送達スルニ因リテ辨濟ヲ爲シタル效力ヲ生シ假令轉付命令ハ無効ナリトスルモ形式上ニ於テハ之ニ依リ既ニ強制執行ヲ終了シタリト謂ハサルヲ得サルヲ以テ民事訴訟法ノ規定スル強制執行ニ關スル異議ヲ以テ救濟ヲ求ムル餘地ナキカ故ニ獨立ノ訴ニ依リ現ニ存スル差押及ヒ轉付命令ノ無効確認ヲ求メテ右執行ノ結果ノ發生ヲ妨ケントスル訴訟ハ

對シ其債權ノ自己ニ屬スルコトノ確認ヲ求ムルニ付キ法律上ノ利益アルモノトス(東京地大正五年法一一四四號一七頁)
………(以下五〇三頁)………

第六百一條(轉付命令ノ效力)

1 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

◎差押命令及轉付命令ノ發効要件 [補遺六〇一條]

一 債權轉付命令ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達スルニ非サレハ完全ニ其效力ヲ發生セサルモノトス(大審四四年刑七九頁)
二 債權ノ差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做サルモノナルモ債務者ニ對スル送達ハ右差押ノ效力ヲ發生セシムル爲メノ要件ニアラス(東京地大正四年法一〇一八號二四頁評論四卷民訴八八頁)

◎債權差押ノ終了時期 (類題、六二五條)

- 一 債權ニ對スル強制執行ハ債權者カ債權ノ満足ヲ得ルトキ終局スルモノナレハ轉付命令ヲ第三債務者ニ送達スルニ因リテ完結スヘキモノトス (大審四三年民二七頁)
 - 二 差押命令及ヒ轉付命令カ第三債務者ニ適法ニ送達セラレタル後ハ債務者ハ債務ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做サレ債權者ハ債權ノ満足ヲ得テ強制執行ノ目的ヲ達シ執行手續ハ之ニ依リテ完結スルモノニシテ其手續完結ノ關係ハ債務者ニ對スルト第三債務者ニ對スルトニ依リ差別ヲ設クヘキモノニ非ス (大審大正五年民一五三六頁)
 - 三 強制執行ハ之ニ依リテ債權者カ債權ノ辨濟ヲ得タル時ニ於テ終了スルモノナレハ金錢債權ニ付キ轉付命令ノ發セラレタル場合ニハ債權ノ存スル限リ第五百九十八條第二項ノ手續ノ爲サレタル時ニ終了スルモノトス (大審大正六年民一頁)
- 附 違法ノ差押命令ニ基キ轉付命令カ第三債務者ニ送達セラレタルモ強制執行手續ハ終了スルモノニ非サルカ故ニ之ニ對シ第五百四十四條ニ依リ異議ヲ申立ルコトヲ得ルモノトス (學說、評論四卷民訴二〇一頁)

◎四七八頁「不適法ナル執行ト終了時期」參照
…………… (以下五〇四頁) ……………

第六百三條「手形類ノ差押ノ方法」

- 1 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レレ債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

◎流通證券ニ對スル強制執行

- 一 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レレ債權ノ差押ニ付テハ債權差押命令ヲ第三債務者ニ送達スル外尙ホ執達吏カ其證券ヲ占有スルニ非サレハ差押ノ效力ヲ生セサルモノトス (大審大正三年民二五〇頁 評論三卷民訴六四頁)
- 二 手形債權ヲ差押ヘ轉付命令ヲ得タルトキハ轉付命令ノ效力トシテ差押手形債權ノ移轉ヲ受ケタルモノニシテ手形ノ裏書ニヨリ債權ノ讓渡ヲ受ケタルモノニ非ス故ニ之ニ基キ權利ヲ行使スルニハ裏書ヲ要スルモノニアラス (大審三八年民五九八頁法二八三號一二頁)
- 三 約束手形ノ如キ裏書ヲ以テ移轉シ得ル證券ニ因ル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノ

ナレハ若シ執達吏カ證券ヲ占有シテ差押ヲ爲シタル事實ナキニ拘ハラズ執行裁判所ニ於テ轉付命令ヲ發シタルトキハ其命令ハ轉付ノ效力ヲ生スルコトナシ (大審三六年民九四四頁)

- 四 有價證券ニ對スル轉付命令 (第六一七條)
 - 五 株券ノ引渡ト差押手續 (第六一四條)
 - 六 株券ニ對スル強制執行 (第五六六條)
- 附 手形其他ノ裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レレ債權ノ差押ハ執達吏カ其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ債權差押命令ヲ第三債務者ニ送達スルコトヲ要セス (學說、評論五卷民訴四九頁)
- 執達吏ハ其差押ヲ爲シ占有シタル手形ニ付キ期間内ニ引受け又ハ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ノ手續ヲ爲スヘキモノナリヤ (學說、評論一卷民訴二〇二頁)

第六百四條 (繼續收入ノ債權差押ノ效力)

- 1 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及ブモノトス

◎家賃ノ如キ將來收入ノ差押及轉付

- 一 毎月拂ノ報酬金並ニ家賃金ハ本條ニ所謂繼續收入ノ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 動産… 債權…

六〇四條 [五〇五] 七一七

◎官吏公吏ノ俸給ニ對スル差押

- 一 官吏ノ俸給ハ繼續收入ノ債權ニシテ其債權ハ官吏ノ在職ト執務トノ條件トスルコトハ疑ノ存セサル所ナレトモ斯ル條件ノ存スル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得レトモ之ヲ轉付スルヲ得ストスル法理ナシ (大阪控四五年法七九〇號二一頁 評論一卷民訴七四頁)
- 二 本條ニハ俸給ヲ以テ強制執行ノ目的ト爲シ得ヘキコ

…………… (以下五〇五頁) ……………

債權ニ該當スト認ムルヲ相當トスルヲ以テ之ニ對シテハ債權額ノ限度トシ將來ノ收入ヲ差押ヘ得ヘキモノト解セサルヘカラス而シテ差押ヘラレタル金錢ノ債務ニ付テハ其支拂ニ代ヘ券面額ニテ差押債權者ニ轉付命令ヲ發シ得ヘキコトハ第六百條ノ規定カ將來ノ收入ニ關スルト否トチ區別セサルノミナラス特ニ之ヲ區別スヘキ何等ノ法律上ノ根據ナキカ故ニ將來ノ收入ニ關スル債權ニ付キ轉付命令ヲ發スルモ該命令ハ毫毛無効ニアラス (東京地四五年法八〇九號二四頁)

附 將來ノ繼續收入ニ對シテ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ルヤ (學說、評論一卷民訴一六八頁)

トヲ認メ其差押ヲ許シアルヲ以テ特別規定ノ存セサル
限リハ公吏ノ俸給モ亦差押フルコトヲ得ルモノナリト
謂ハサルヲ得ス(東京地四五年法八一〇號一〇頁)

三 裁判所ヨリ債務者ニ支拂フヘキ俸給ニ對シ差押命令
竝取立命令アリタル場合ニ於テハ裁判所ハ債務者ニ交
付スヘキ俸給ノ支拂命令書ニ債權者ノ姓名ヲ記シ之ヲ
債權者ニ交付スヘキモノトス(民事局長回答二四年民
第二七八號)

◎議員ノ歳費ト差押及轉付

- 一 衆議院議員カ歳費ヲ受クル權利ハ公法上ノ權利ナリ
ト雖モ民事訴訟法上繼續收入ノ權利タル性質ヲ具有シ
又支拂ニ換ヘ券面額ニテ轉付ヲ受クルコトヲ得ルモノ
ナルヲ以テ之ニ對スル差押及ヒ轉付ハ有效ナリトス
(大審四五年民四六九頁評論一卷民訴七四頁、同旨東
京地三四年法三〇號八頁)
- 二 衆議院議員ノ資格ハ總選舉期日ヨリ之ヲ獲得スル者
ニシテ當選人ノ承諾ヲ要スルモノニアラス從テ其歳費
ヲ受クル權利モ右議員資格獲得ト同時ニ發生スシモノ
トス(東京控大正五年最一八卷三九七頁)
- 三 歳費請求權ハ投票ノ締切ト同時ニ發生スルカ故ニ當

選承諾證書交付ノ日以前ニ於テ爲シタル該歳費ノ差押
及ヒ轉付命令ハ固ヨリ無効ニアラス(東京地大正五年
最一八卷二四頁法一一四四號一七頁)

第六百六條 (債務者ノ債權證書引渡義務)
1 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡
ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ
以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

◎債權ノ差押ト證書ノ引渡

- 一 差押債權者カ轉付命令ニ因リ債務者ノ第三債務者ニ
對シテ有スル債權ヲ取得シタル場合ニ於テ第三者(裁
判所)カ該債權證書ヲ所持スルトキハ其自由ノ意思ニ
因リ之カ引渡ヲ受クルハ格別差押命令若クハ轉付命令
ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ之ヲ引渡サシムルコトヲ
得ス(大審三八年民二五六頁)
- 二 明治二十七年大藏省令第二號ニ依レハ金庫ノ保管證
書ナルモノハ金庫ニ對シ金員ノ支拂ヲ求ムルニ當リ必
要ナル債權證書ナルヲ以テ保管金ニ對スル債權全部ノ
轉付ヲ受ケタル者ハ其債權ノ一部ニ對スル保管證書ノ
引渡ヲ請求シ得ヘキモノトス(廣島控四三年法六五三

號一三頁)

- 三 本條ノ規定ニ依リ強制執行トシテ證書ノ引渡ヲ求メ
ントスルモ差押命令記載ニ超過セル供託受領證ノ引渡
ヲ強要スルコトヲ得サルトキハ供託物取扱規定第十一
條ニ所謂供託受領證ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ事
由アル場合ニ該當ス(宇都宮區大正六年法一二〇九號
二二頁)
- 四 裁判所カ供託原因消滅後供託證書ノ引渡ヲ爲ササル
トキハ供託者又ハ轉付債權者ハ本條ノ規定ニ依リテ取
立ノ手續ヲ爲スコトヲ得スシテ裁判所ニ對シ之カ還付
ノ申請ヲ爲スヘキモノトス(法曹會決議大正五年法曹
記事二六卷八號五二頁評論五卷民訴四五九頁)
- 五 執達吏假差押ノ金錢ヲ供託シ他ノ債權者カ該供託金
ニ對シ債權差押ヲ爲シ其後假差押ハ示談ノ上取消トナ
リ差押債權者轉付命令ヲ得タル場合ニ於テハ執達吏ハ
其保管ニ係ル受領證ヲ差押債權者ニ交付スヘキモノト
ス(民刑局長回答三七年民刑第九七六號)
- 六 前項ノ場合ニ於テ假差押取消トナラサル以前ニ於テ
ハ差押債權者取立命令ヲ得ルモ供託金ノ取立ヲ爲スコ
トヲ得ス從テ執達吏ハ供託受領證ヲ差押債權者ニ交付
スヘキモノニ非ス(同上)

……………(以下五〇六頁)……………

第六百七條 (轉付命令ヲ許ササル場合)

1 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又
ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カラルコトヲ許ス可キト
キハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲
ス可シ但此命令ハ第三債務者チシテ債務額ヲ供託セシ
ムル效力ノミチ有ス

◎債務額ノ供託ト差押命令

一 本條ニ依リ第三債務者カ債務額ヲ供託シタル場合ニ
於テハ取立命令ノ效果トシテ供託金ノ上ニ強制執行上
ノ權利存續スヘキカ故ニ該供託金ニ對シテハ明治二十
六年勅令第二百六十一號第一條第四項ニ據リ更ニ差押
命令ヲ發スルコトヲ要セサルモノトス(民事局長回答
四四年民事二一五號法曹記事二一卷五號七六頁)

第六百八條 (債權取立ノ届出)

1 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出
ツ可シ

◎取立ノ届出ヲ爲ササル效力

一 債務者ハ第三債務者ヨリ金錢ヲ支拂ヒタルトキ自己ノ債務ノ支拂ヲ爲シタルモノト看做シ其義務ヲ免レ得ヘキモ支拂ヲ受ケタル差押債權者カ其取立ヲ届出テスシテ他ニ配當要求ヲ爲ス債權者ノ存スルニモ拘ハラズ自己ノ債權ニ宛テ辨濟ヲ受ケタルモノト云フカ如キハ固ヨリ之ヲ採用スルヲ得サルモノトス(大審三二年民一一卷二二頁)

◎取立命令ニ因ル不當利得

一 債務者カ支金庫ニ供託シタル公債證書ニ付キ二個ノ差押アル場合ニ於テ取立命令ヲ得タル債權者カ他ノ一名ノ配當要求ヲ無視シ其命令ノ旨趣ニ違背シテ直接ニ該證書ヲ受取り一人ニテ之ヲ領得シタルトキハ即チ法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケカ爲メ他人ニ損失ヲ及ホシタルモノニ外ナラス(大審四三年民聯合七六四頁)

第六百九條 (第三債務者ニ對スル陳述ノ催告)

一 差押債權者ハ第三債務者チシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ

裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリノ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

2 右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

………(以下五〇七頁)………

◎數個ノ差押命令ノ競合 [類題、四九九頁]

一 債權ハ或債權者ノ爲メ既ニ差押ヘラレタリトスルモ他ノ債權者ニ於テ更ニ之カ差押ヲ爲ステ得ルコトハ本條第一項第三號ノ規定ニ依リ知レテ得ヘク或債權者ニ於テ既ニ取立命令ヲ得タリトスルモ其命令ハ其債權者ニ債權ノ取立權ヲ與フルニ過キスシテ取立ヲ終了セザ

ル限リハ差押債務者ノ債權ハ尙ホ存續シ他ノ債權者ヨリ配當ヲ受クルノ權利ヲ得レトモ之カ爲メニ自己ノ差押權ヲ失フモノニ非ス(東京地四二年法五八五號九頁同旨高知地四四年法七〇九號二三頁)

二 同一ノ債權ニ對スル二個以上ノ差押命令ハ其前後ヲ問ハス均シク差押ノ效果ヲ發生スレトモ差押債權者ハ更ニ取立命令又ハ轉付命令ヲ受クルニ非サレハ執行行為ヲ爲シ得サルモノトス(大審三九年民五六九頁)

第六百十條 (第三債務者ニ對スル取立ノ訴)

一 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

◎第三債務者ニ對スル取立ノ訴求 [類題、五一六頁]

一 金錢債權ヲ有スル債權者カ其債權ニ付テノ強制執行トシテ第三債務者ニ對スル金錢債權ヲ差押ヘ尋テ取立命令ヲ得タル場合ニ其命令ノ旨趣ニ基キ代位ノ手續ヲ要セス債權取立ノ爲メ第三債務者ニ訴求スルヲ得ルハ

第六百條及ヒ本條ノ規定ニ徴シ一點ノ疑ナシ(東京控大正二年法八八九號二七頁評論二卷民訴九七頁)

◎證書引換ニ支拂フヘキ債權ノ取立

一 取立命令ヲ得タル差押債權者ト雖モ其差押債權ニシテ若シ證書引換ニ支拂ヲ爲スヘキ旨特約アルモノナルニ於テハ假令其債權カ指圖債券又ハ無記名債券ニアラサルモ證書引換ニ支拂フヘキ旨ヲ以テセサルトキハ其爲シタル支拂ノ請求ハ不當ナリトス(東京地三九年法三六三號一二頁)

………(以下五〇八頁)………

條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十二條 (取立命令ニ基ク權利ノ拋棄)

- 1 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ請求ヲ害セラルルコト無シ
- 2 此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其原本ハ第三債務者及ヒ債權者ニ之ヲ送達ス可シ

◎債權差押ノ取下ト決定要否

- 一 債權者カ債權差押ノ效力ヲ消滅セシムルニハ裁判所ニ對シ差押申請ヲ取下クル旨ノ意思ヲ表示スレハ足ルモノニシテ裁判所ノ差押取消ノ決定ヲ要スルモノアラサルコトハ本條ノ債權者カ債權取立命令ニ依リ取得シタル權利ヲ拋棄スルニハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ストノ規定ヨリ之ヲ推論スルコトヲ得ヘシ(宮城控大正元年法八一四號二二頁評論一卷民訴一四九頁)

第六百十四條 (有體物引渡又ハ給付ノ債權ノ差押)

- 1 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二

◎所有權移轉ノ請求權ト強制執行

- 一 所有權移轉ヲ目的トスル請求權ノ執行ハ本條ノ規定ニ從フヘキモノニシテ第六百二十五條ヲ適用スヘキモノニアラス故ニ執行裁判所カ特別處分トシテ讓渡命令ヲ爲シタル執行處分ハ違法ニシテ實質上無効ナリトス(東京控大正二年法九一六號二一頁)
- 二 本條ニハ有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求トアリテ一見

◎貯蓄銀行ノ拂戻擔保ノ差押

- 一 貯蓄預金債權者ハ貯蓄銀行カ貯蓄銀行條例第四條ニ依リ供託所ニ預入レタル無記名國債證券ニ對シ本條及ヒ次條ノ規定ニ依リ強制執行ヲ爲スコトヲ得ルモノトス但供託ノ諸證券ハ貯蓄銀行條例施行細則第六條ニ依リ其銀行ノ所有ニ屬シ記名アルモノニ限ルヘシ(民刑局長回答三四年民刑第二號)

附 執達吏カ引渡ノ請求ヲ爲スモ金庫ニ於テ之ニ應セサルコトキハ債權者ハ金庫ニ對シ訴ヲ提起スヘキモノトス(同上)

特定物又ハ代替物其物ノ引渡ヲ請求スル權利ノミニ限定セラレ所有權移轉ノ請求權ノ如キモノヲ包含セサル觀ナキニ非スト雖モ有體物ノ所有權ノ移轉ヲ請求スル權利ノ如キハ本條ニ包含スルモノニシテ即チ右所有權移轉ノ請求權ニ對シテハ第六百二十五條ニ依リ可キ者ニ非ス第六百十六條ノ規定ニ從ヒ先ツ保管人ニ所有ヲ移轉シ然ル後第六百四十條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ競賣ニ付シ其ノ賣得金ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツ可キモノト解スルヲ相當トス(同上)

………(以下五〇九頁)………

◎株券ノ引渡請求ト差押手續

- 一 株券ノ差押ニ付テハ本條ノ所謂有體物ニ該當スルヲ以テ之カ引渡ノ請求權ニ付キ差押ノ申請アリタルトキ執行裁判所ニ於テ差押ノ命令ヲ發スヘキ要アリト認メタルトキハ本條ニ準據シ有體動産ノ請求ノ差押ニ關スル次條ヲ適用シ第三債務者ニ對シ該株券ハ之ヲ債權者ニ委任セル執達吏ニ引渡スコトヲ命スヘク尙ホ取立命令ノ申請アルトキハ本條及ヒ第六百條第六百十七條所定ノ趣旨ニ基キ債權者ニ債權ヲ移轉スル爲メ取立命令

ヲ發スヘキモノトス故ニ執行裁判所カ差押命令ヲ發スルト同時ニ債權者ノ委任シタル執達吏ニ差押債權ノ目的物ヲ引渡スヘキ命令ヲ發セサルトキハ違法ナリトス(大阪地四二年法五八五號一四頁)

附 有價證券ニ對スル金錢債權ノ強制執行(學說、評論二卷民訴一四〇頁)

◎轉付命令後ノ取立命令

- 一 引渡スヘキ動産カ第三者ノ手中ニ存スル場合ニ於テ債權者ノ引渡請求權カ債權者ニ轉付セラレタルトキハ其請求權ハ債權者ニ移轉シ債權者ハ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ實行スルコトヲ得ルモノトス從テ他ノ差押債權者ノ爲メ發セラレタル取立命令アリトスルモ其命令ハ第三債務者ニ對シ何等ノ效力ヲ生モス(大審四四年民二三〇頁)

第六百十五條 (有體動産ノ請求權ノ差押)

- 1 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スコトヲ命ス可シ
- 2 右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

◎有體動産請求ノ強制執行

- 一 有體動産ノ請求ノ差押ニ付債權者カ取立命令ヲ得タル場合ニ於テモ之カ引渡ハ執達吏ニ對シテ爲スヘキモノナリ（民事局長回答四四年民事二〇九號法七二九號二九頁）
- 二 有體動産ノ請求ノ差押ハ第五百十八條第一項ノ命令ヲ俟テ引渡ノ命令ヲ發スヘキモノトス但差押命令中ニ同時ニ引渡命令ヲ爲スヲ普通トス（同上）
- 三 執達吏カ本條ノ規定ニ依リ引渡ヲ受ケタル物件ヲ換價シ賣得金ヲ領收シタル以後ハ執行裁判所ニ引繼テ爲シ執行裁判所ニ於テ爾後ノ手續ヲ完結スヘキモノトス（民刑局長回答四四年民事第三七二號）
- 四 換價命令カ執達吏所屬ノ區裁判所以外ノ區裁判所ニ於テ發シタルモノナルトキト雖モ執達吏ハ該命令ニ基ク競賣委任ニ應スヘキモノトス（民刑局長回答三四年民刑第二五三號）
- 五 債權差押命令ニ依リ差押ヘタル債權其他ノ財產權ノ目的物ヲ換價スル爲メ競賣ヲ爲スヘキ場合ニ於テモ民事訴訟法第五百七十六條ニ準據スヘキモノトス（同上）

◎國債證券ノ給付ヲ受ル債權ト轉付（補遺六一五條）

- 一 救恤金ノ給與トシテ無記名ノ國債證券ノ給付ヲ受クル債權ニ對スル強制執行ニ付テハ引渡命令ニ依ルヘキモノニシテ轉付命令ヲ以テ爲シタルハ無効ナリ（民事局長回答四四年民事二〇九號法七二九號二九頁）
- 二 債權者カ沖繩縣諸祿處分法ニ因リ國債證券ノ給付ヲ受クヘキ場合ニ右請求權ノ差押ハ國債受給者（債務者）カ法令ノ規定ニ依リ國債證券ノ交付ヲ請求スル債權ノ差押ナリトス右差押ニ拘ラス受給者ヨリ甲種登錄簿ニ登錄ノ請求アリタルトキハ相當手續ヲ爲スコトヲ得又國債證券ヲ發行スルヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ受給者タル債務者ニ交付セス差押債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スヘキモノトス（民刑局長回答四三年民刑第六八一號）
- 三 有價證券ニ對スル轉付命令（第六一七條）
◎國債證券ト私權ノ目的（續民法六八九頁）
……………（以下五一〇頁）……………

◎數箇ノ引渡命令ノ競合

- 一 數箇ノ引渡命令競合シタル場合ニ第三債務者ハ何レニ引渡ヲ爲スヘキヤハ法律上任意タルヘキモ最初ニ引渡ヲ求メタル執達吏ニ引渡スヲ穩當トス又引渡命令ト競合シタル場合ニハ第三債務者ハ取立命令ニ基キ請求シ來リタル債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スヘキモノトス若シ數箇ノ取立命令競合シタル場合ニ於テハ最初ニ命令ノ送達アリタル債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スヘキモノトス（民事局長回答四四年民事二〇九號法七二九號二九頁）

◎不適法ナル動産引渡調書

- 一 動産引渡調書ハ差押命令ニ關シ執達吏ノ所爲ノ適法ナル事ヲ明確ニスル爲メノモノナルカ故ニ其調書中執達吏ノ所爲カ偶不適法ナルコトアルトキハ之ヲ證明スル證據ト爲ルヘキモ調書ノ無効ヲ惹起スル理ナシ（大審二八年民三八二頁）

◎不動産請求權ノ差押ト取立命令

- 一 不動産ノ請求權ニ對スル差押ニ付テノ取立方法ハ本條ニヨリ保管人ニ引渡ノ命令ヲ爲スヘキ特別規定アリテ債權者ニ取立權ヲ付與スル取立命令トハ同時ニ兩立スル能ハサレハ取立命令ハ之ヲ準用スル限ニアラス故ニ若シ其強制執行ニ取立命令ヲ發シタルトキハ違法ナリ斯ノ如キ違法命令ハ執行當事者間ニハ形式上存在スルモノヲ以テ第三債務者ニ對シテ有效ニ其取立權ヲ主張シ得ヘキモノニアラス（東京控三五年法一一六號九頁）
- 二 所有權移轉ノ請求權ト強制執行（第六一四條）

第六百十七條（轉付命令ヲ許ササル場合）

- 一 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

◎有價證券ニ對スル轉付命令

第六百十六條（不動産ノ請求權ノ差押）

- 一 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡スコトヲ命ス可シ

一 公債證書即チ有價證券ニ對スル執行ニ付テハ本條ノ規定ニ依リ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス(大審三四年民六卷七七頁)

二 國債證券ノ給付ヲ受ケル債權ト差押(第六一五條參看)

……………(以下五一頁)……………

第六百十八條 (差押ヲ禁シタル債權)

1 左ニ掲ケル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 第一 法律上ノ資料
- 第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈善ニ因リ受ケル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル
- 第三 下士、兵卒ノ給料及ヒ其遺族ノ扶助料
- 第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入
- 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

◎本條ノ官吏ニ公吏ヲ包含スルヤ

一 本條第五號ノ所謂文武ノ官吏ハ畢竟公職ニ在ル者ヲ指稱スルモノニシテ其用語ニ於テ稍穩當チ缺クノ憾ミアルモ公吏チ包含スルモノト解スルチ相當ト爲スヘキニ似タリ然レトモ官吏ト公吏トハ明カニ其觀念チ異ニスルモノナルノミナラス第二百九十條第一項第二百九十八條第一號及第三百二十七條第二項ニハ官吏ナル文字ニ對シテノ公吏ナル文字ヲ使用シアリ又第三百四十六條第一項ニハ公吏ナル文字ヲ使用シアルニヨリ攷フレハ民事訴訟法ハ觀念チ異ニスル官吏ナル文字チ公吏ナル文字ト嚴格ニ區別シテ使用シタルコト自ラ明カナルチ以テ本條第五號ニ單ニ文武ノ官吏トノミアルハ公吏チ除外スル趣旨ニ出テタルモノト解セサルチ得ス(東京地四五年法八一二號一一頁)

◎軍人恩給ノ差押ト本條

- 一 民事訴訟法ノ後ニ公布セラレタル軍人恩給法ニ依リ軍人ノ恩給ハ絕對ニ差押ヲ禁シタルカ故ニ本條第二項ハ軍人ノ恩給ニ對シテハ其適用ヲ除外セラレタルモノトス(大審大正三年民二二七頁評論三卷民訴五四頁)
- 二 軍人恩給ノ差押ハ之ヲ許サス(東京地三六年法一四七號一八頁)

◎二十三年法律第四十五號軍人恩給法第四十二條及同年四十三號法律官吏恩給法參照

附 恩給及ヒ扶助料ハ年額參百圓ヲ超過スルトキハ本條第二項ノ規定ニ依リ其半額ヲ差押フルコトヲ得ヘキモノトス(學說、評論五卷民訴四六頁)

◎金鵄勳章ノ年金ト差押ノ可否

一 本法中金鵄勳章ノ年金ニ對シ差押ヲ禁止スルノ規定ナシト雖モ該年金ノ規定ヨリ觀察シ之カ支給ヲ受ケルノ權利ハ性質上一身ニ專屬スヘク敢テ明文ヲ要セス絕對ニ其差押ヲ許ササルモノトス(東京控大正四年法一〇一一號二四頁評論四卷民訴五六頁、同旨東京控大正五年評論五卷民訴一〇一頁東京地大正四年評論五卷

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 動産… 債權…

民訴二九頁東京地大正三年法九五三號二五頁)

- 二 右年金ヲ受ケル權利ハ公權ニシテ私法上ノ債權ニアラスト雖モ之ニ對シ執行ノ目的ニ適スルモノトシテ差押轉付命令ヲ爲シタル以上ハ之カ實質上ノ效力ヲ否定シ轉付ノ無效チ主張スルニハ亦民事訴訟手續ニ依ルヘキモノトス(同上)
- 三 金鵄勳章年金ニ對シテハ民事訴訟法ノ規定ニ依リ有效ニ之ヲ差押ヘ且轉付スルコトヲ得ルモノトス(廣島控大正四年法一〇一〇號二六頁)
- 四 叙勳者ニ加賜セラレル年金ハ別ニ差押禁止ノ規定チキテ以テ之ヲ差押フルコトヲ得ルモノトス(民刑局長回答四二年民刑第八三九號)
- 五 金鵄勳章ノ年金ニ對シテハ差押ヲ爲スチ得ス(法曹會決議大正三年第二四卷一〇號三六頁)

……………(以下五一二頁)……………

◎軍人ノ一時賜金又ハ手當金ノ差押

一 軍人カ戰役ノ功ニ依リ下賜セラレタル一時賜金又ハ後備役ノ軍人カ召集中支給セラレタル手當金ハ本條ノ所謂恩給又ハ職務上ノ收入ト看做スヘキヤ否ヤチ問ハ

ス一旦之ヲ受領シテ他ニ預ケアルモノニ付テハ差押フルコトヲ得ルモノトス(陸軍司法兩次官回答二九年九月十日)

◎海軍定期職工ノ滿期賜金ノ差押

一 海軍定期職工條例第五條ノ滿期賜金ニ對シテハ差押命令及ヒ轉付命令ヲ發スルヲ得ス(法曹會議決大正五年第二六卷第四號四〇頁)

◎囚人ノ給與工錢ノ差押

一 囚人カ在監中給與セララル工錢ハ本條第一項第六號ニ該當スルモノナルヲ以テ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス(司法大臣回答二四年民第九八九號)

第六百十九條 (債權ノ共同差押ノ手續)

一 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

◎共同差押ノ意義

一 共同差押トハ執行力アル正本ヲ有スル多數債權者カ

同時ニ共同シテ差押ヲ爲シタル場合ヲ謂フモノニシテ本條ニ所謂「數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押」ト稱スルハ即チ此場合ヲ規定セルモノトス(學說、評論六卷民訴一二六頁)

◎共同差押ト競合ノ有無

一 共同差押ノ場合ニ於テ該債權者ノ多數ハ實體法上若クハ判決手續上共同團體ヲ爲スト否トニ拘ラス強制執行上ノ共同團體ヲ爲シ該共同團體トシテ差押債權者タル資格ヲ有シ其共同團體即チ債權者團體ノ申請ニ基キテ爲サレタル差押ハ單一ニシテ差押ノ競合ナキモノトス(學說、評論六卷民訴一二六頁)
二 右債權者團體ハ第六百條ニ所謂「差押債權者」トシテ轉付命令ヲ申請シ得ルモノトス(同上二二七頁)
三 執行スヘキ債權カ實體法上數人ノ債權者ノ共同ニ屬シ其數人ノ債權者カ共同スルニ非サレハ執行スヘキ債權ヲ處分スルコトヲ得サル場合ニハ其數人ノ債權者カ共同スルニ非サレハ轉付命令ヲ申請スルコトヲ得ス又共同ニ差押ヲ爲シタル數人ノ債權者カ各自獨立シテ其執行スヘキ債權ヲ處分スルコトヲ得ル場合ニ於テモ他ノ差押債權者ノ執行スヘキ債權ニ付テハ處分權ヲ有セ

サレテ以テ數人ノ債權者ハ共同スルニ非サレハ轉付命令ヲ申請シ得サルモノトス(同上)

四 共同差押ヲ爲シタル數名ノ債權者カ共同シテ轉付命令ヲ申請シタル場合ニハ裁判所ハ轉付命令ヲ發セサルヘカラス(同上)

五 債權者團體ノ申請ニ基キ發セラレタル轉付命令ハ本條ノ規定ニ依リ第六〇一條ヲ準用シテ其效力ヲ決スヘキモノナルヲ以テ荷モ轉付セラレタル債權ニシテ存在スル以上ハ其債權ノ轉付命令ノ送達ニ依リ共同差押ヲ爲シ且共同ニテ轉付命令ヲ申請シタル債權者團體ニ歸屬シ從テ實體法ノ定ムル所ニ從ヒ該團體ニ屬スル債權者ノ共同ニ屬シ又ハ其間ニ分割セララルモノトス(同上二八頁)

..... (以下五一三頁)

第六百二十條 (配當要求ノ時期及效力)

一 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ： 動産： 債權：

六二〇條 (五二三) 七二九

◎債權差押ト配當要求

一 二人以上ノ債權者カ同一ノ債權ニ對シテ各別ニ取立命令若クハ轉付命令ヲ受ケタルトキハ本條第一項及ヒ第二項ノ區別ニ從ヒ取立命令ノ場合ニハ其第一項ニ依リ各配當要求ヲ爲シ得ルモ轉付命令ノ場合ニハ同第二項ニ據リ絕對的ニ此要求ヲ爲シ得サルモノトス(大審三九年民五六九頁)
二 轉付命令ト配當要求トノ關係(四九八頁)
◎共同差押ト競合ノ有無(前條參看)

附 一債權者カ特定ノ金錢債權ノ執行トシテ債權其他ノ財産權ヲ差押ヘタル場合ニ於テ他ノ債權者若クハ同一ノ債權者カ他ノ金錢債權ノ爲メ配當要求ヲ爲シ又ハ配當要求ヲ爲シタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ一差押債權者竝ニ其差押ニ於テ配當要求ヲ爲シタル債權者アルノミニシテ差押ノ競合ナク本條ハ此場合ノ規定ナリトス(學說、評論六卷民訴一二七頁)

◎債權差押ト假差押ノ競合 [類題、四九九頁]

- 一 債權ニ對スル強制執行ニ在テハ本條ニ於テ他ノ債權者モ配當ヲ要求シ得ルコトヲ規定シタルカ故ニ本條ハ間接ニ假差押債權者カ假差押ノ目的物ヨリ辨濟ヲ得ヘキ權利ノ他ノ債權者ト平時ナルコトヲ定メタルモノトス(大審大正三年民八一〇頁)
- 二 假差押債權者ノ債權カ確定シタル以上ハ債務者カ假差押ノ執行ヲ取消ス爲メ供託シタル金額ニ對シ債權差押ノ效力ヲ主張スルニ妨ナキモ數個ノ債權差押カ競合シタル場合ニ於テハ單ニ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有スルニ過キス(東京地大正四年評論四卷民訴三四二頁、同旨學說、評論六卷民訴一二六頁、評論二卷民訴三八九頁)

タルトキハ假差押債權者ハ該供託金ニ付キ配當要求ヲ爲シタルモノト看做ス(東京地大正三年最一五卷二三九頁評論三卷民訴三〇三頁、同旨東京地大正四年法一〇七六號一六頁)

七 第六百二十一條ニ依リ第三債務者カ更ニ供託セシ場合ニ於テモ假差押債權者ハ供託金ニ對シ強制執行特ニ配當手續ニ於テ配當要求ノ效力ヲ持續スルモノトス(同上)

八 第三債務者ハ債務者ニ對シ金百圓ノ債務ヲ有セリ此中金參拾圓ニ對シ債權者甲ヨリノ債權假差押命令ノ送達アリ數日ヲ經テ右百圓ノ全部ニ對シ債權者乙ヨリ債權差押命令及轉付命令ノ送達アリ右ノ場合ニ於テハ(一)假差押ヲ爲シアル債權ヲ轉付シタル場合ト雖モ轉付命令ハ實質上假差押ノ效力ニ制限セラレルニ過キスシテ其形式の效力ヲ妨ケラレヘキモノニ非ス而シテ右ノ場合ニ於テハ假差押債權者甲ハ差押債權中金參拾圓ニ對シ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ權利ヲ有スルモノナルヲ以テ(第六百三十條第三項參照)此部分ニ對スル轉付命令ハ差押債權者乙ノ債權カ優先權アル場合ノ外實質上轉付ノ效果發生セサルモノナルモ其餘ノ部分ニ付テハ轉付命令ハ完全ニ效力ヲ生スルモノトス(二)前項ノ如ク差押債權中假差押ヲ爲シアル部分ト

三 債權者ハ債務者ニ對スル強制執行トシテ債權者カ他ノ債權者ヨリ受ケタル假差押ノ執行ヲ取消ス爲メ提供シタル供託金ニ對シ債權差押ノ手續ヲ爲シ次テ其轉付命令ヲ受ケムトスルモ假差押ニ因リテ配當要求ヲ爲セル他ノ債權者アル以上右ノ如キ申請ハ到底之ヲ許容スルコトヲ得ス(奈良地大正元年法八一七號二三頁)

◎配當要求ノ申立時期

- 一 執行裁判所カ轉付命令ヲ發シタル以上ハ縱令其命令カ未タ第三債務者ニ送達セラレサル以前ニ在リテモ他ノ債權者ハ差押債權ニ對シ配當要求ノ申立ヲ爲スコト能ハサルモノトス(大審大正六年民一二八四頁評論六卷民訴三二三頁)
- 二 第三債務者カ次條ニ依リ債務額ヲ供託シタル場合ニ於テハ差押債權者カ供託所ヨリ差押金錢ヲ受取り取立ノ届出ヲ爲スマテ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民刑局長回答二九年民刑第七七六號)

雖モ形式上轉付命令ハ有效ナルモノナルヲ以テ爾後假差押ノ取消アリタル場合ニ於テハ轉付命令ノ實質的效力ノ制限ハ茲ニ除去セラレ命令ハ完全ニ效果ヲ發生スヘキモノトス(法務局長回答大正二年民第九七六號法曹記事二三卷一一號八五頁)

◎配當要求ノ發効時期

- 一 執行裁判所カ轉付命令ヲ發シタル以上ハ縱令其命令カ未タ第三債務者ニ送達セラレサル以前ニ在リテモ他ノ債權者ハ差押債權ニ對シ配當要求ノ申立ヲ爲スコト能ハサルモノトス(大審大正六年民一二八四頁評論六卷民訴三二三頁)
- 二 第三債務者カ次條ニ依リ債務額ヲ供託シタル場合ニ於テハ差押債權者カ供託所ヨリ差押金錢ヲ受取り取立ノ届出ヲ爲スマテ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民刑局長回答二九年民刑第七七六號)

◎配當要求ノ發効時期

……………(以下五一五頁)……………

一 債權差押手續ニ於ケル配當要求カ其效力ヲ生スルカ爲メニハ常ニ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ對シ送達ヲ爲スコトヲ要件トス(東京地大正六年評論六卷民訴一三六頁)

第六百二十一條 (第三債務者ト供託ノ權利義務)

- 1 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ
- 2 第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ
- 3 第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

◎債權ノ差押ト債務額ノ供託

- 一 債權ノ差押ニ付キ配當要求ノ申立ヲ受ケタル第三債務者ハ其債權ノ實質如何ヲ問ハズ債權額ヲ供託セハ債務ノ免責ヲ得テ重ネテ請求ヲ受クル義務ナキモノトス(東京地大正六年最二卷三六頁)
- 二 有體動産請求ノ債權差押カ競合シタル場合ニ於テハ第三債務者ハ目的物ヲ供託スル方法ナキモノトス(民

事局長回答四四年民事第七一八號法曹記事二一卷一〇號八八頁)
三 前項ノ場合ニ於テハ第三債務者ハ引渡命令若クハ取立命令ニ基キ請求シ來リタル執達吏ニ引渡スヘキモノトス(同上)

◎本條ノ供託ト通知義務

- 一 本條ニ依ル供託ハ民法第四百九十四條以下所定ノ供託ト異ナリ差押債權者ニ通知スルノ要ナキモノトス(東京地大正六年法一三六一號二九頁)

第六百二十二條 (第三債務者ト不動産引渡ノ權利義務)

- 1 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

◎本條ノ解釋

- 一 本條ハ第三債務者ノ債務存在スルコトヲ前提ト爲シ

タル規定ニ外ナラサレハ差押債權者ト第三債務者トノ間ニ債務ノ存否ヲ爭フヘキ場合ニ於テハ差押債權者ハ債務ノ存在スル事實ヲ立證スル責アリ(大審四一年民一一〇〇頁)

第六百二十三條 (第三債務者ニ對スル取立ノ訴)

- 1 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得
- 2 執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ
- 3 訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラシムルコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得
- 4 右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ボス效力アリ

……………(以下五一六頁)……………

◎第二債務者ニ對スル取立ノ訴求 (類題、五〇七頁)

- 一 本條ハ第三債務者カ第六百二十一條第二項所定ノ供

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 動産… 債權…

託義務ヲ履行セサル場合ニノミ適用セララルヘキ規定ナリトス(東京地大正六年法一三六一號二九頁)

第六百二十五條 (財産權ニ對スル執行方法)

- 1 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本條ノ規定ヲ準用ス
- 2 若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
- 3 右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

◎所有權移轉ノ請求權ト強制執行 (第六一四條參看)

◎讓渡命令ノ意義

- 一 本條第三項ニ所謂讓渡トハ執行ノ目的タル財産權ヲ第三者ニ移轉スルコトヲ謂ヒ所謂讓渡ヲ命ストハ裁判所カ目的タル財産權ニ對シ之ヲ第三者ニ賣却スト云フ處分ヲ指稱スルモノトス(學說、評論四卷民訴三六四頁)

六二三條—六二五條 [五一六] 七三三

◎電話使用權ト差押

- 一 債務者カ電話局ニ對シテ有スル電話加入權ハ支拂ニ換ヘ其評價額ニテ之ヲ債權者ニ轉付スルコトヲ得ルモノトス(東京區大正三年評論三卷民訴一五七頁)
- 二 電話加入者ノ使用權ノ差押假差押又ハ假處分ノ申請アリタルトキハ國チ第三債務者トシ郵便局長ヲ其代表者トシテ命令ヲ發スヘキモノトス(法曹會決議大正三年第二五卷八號五九頁)

◎立木引渡ヲ求ムル債權ノ差押

- 一 立木引渡ヲ求ムル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得(仙臺地四〇年法四五五號八頁)
- ◎五七六頁「立木ニ對スル假差押」參照
- 二 債務者カ樹木生立ノ土地ヲ賣却シ立木ニ付テハ債務者ニ於テ之ヲ收取スヘキ權利ヲ有スル場合ニ於テハ債權者ハ本條ノ規定ニ依リ右債務者ノ權利ヲ差押フルコトヲ得ルモノトス(民刑局長回答三二年民刑第二〇三五號)

◎財産權ニ對スル數個ノ差押命令〔類題、五九六條〕

力ニハ何等妨トナラス(東京控大正四年最一七卷四〇頁評論四卷商法四三七頁)

三 合資會社ノ持分(社員權)ハ人格權ナリヤ財産權ナリヤ今假リニ財産權ナリト爲スモ商法第百五條及ヒ第五十九條ノ規定ニ依レハ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社ニ對抗スルヲ得サルヘク執行機關ノ執行行為ニ因リテ其讓渡ニ絕對的效力ヲ附與スルニ由ナキモノナレハ金錢債權ニ付テノ強制執行ニ適セサル權利ナリト斷定セサルヲ得ス(東京區大正六年評論六卷商法二一八頁)

四 或權利カ金錢債權ニ付テノ強制執行ニ適シ得ルカ爲メニハ其權利カ財産權ニシテ且讓渡性ヲ具フルモノナルノミナラス尙執行機關ノ執行行為ニ依リテ其讓渡ニ絕對的效力ヲ附與シ得ヘキモノタルコトヲ要ス(同上)

五 持分ニ對スル轉付命令(四九四頁)

附 會社ノ持分ハ性質上人格的權利ニシテ本條ニ所謂財産權ニ屬セス從テ金錢債權ノ爲メ強制執行ノ目的物タルヲ得サルモノトス(學說、評論六卷商法二一六頁學說、カ一ト六八)

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 動産… 債權…

一 本條第一項ニ定メタル財産權ニ對スル強制執行ハ債權ニ關スル強制執行ノ規定ニ準據シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ別段ノ規定存セサルカ故ニ此場合ニ於テモ亦債權ニ對スル強制執行ト均シク同一財産權ニ對シ數個ノ差押命令ヲ發スルコトヲ得ルモノトス(東京地三八二年法二六五號九頁)

◎持分ノ本質ト差押ノ許否

- 一 合名會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一ノ財産權ニ外ナラサレハ本條ノ規定ニ從ヒ之ヲ差押フルコトヲ得ルモノトス(大審大正五年民一三五〇頁評論五卷商法六九七頁、同旨東京控大正四年最一七卷四〇頁學說、評論六卷商法二一四頁)
- 二 合名會社ノ定款ニ社員持分ノ讓渡買入禁止ノ規定アルモ其ノ趣旨ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ持分ノ讓渡買入ヲ爲スモ會社ニ對抗スルコトヲ得スト云フニ在リト解スルテ相當トシ之カ讓渡等ヲ絕對ニ禁止シタルモノニ非サルカ故ニ差押ヲ爲スコトヲ得ルモノトス但シ換價手續ヲ爲シ又ハ利益配當請求權ノ轉付ヲ爲ス等ノ場合ニ於テ總社員カ承諾ヲ爲ササルトキハ其手續ヲ爲スコト能ハサルノ結果ヲ生スヘシト雖モ差押ノ效

◎利益配當ノ差押ト其ノ適條

一 確定セラレタル利益金ノ配當ヲ求ムル利益配當請求權ハ定時總會ニ於ケル株主ノ決議ニ依リテ始メテ發生スルモノナリト雖モ決議以前ニ於テモ條件附權利即チ將來ノ債權トシテ差押フルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於ケル差押ハ本條ニ依ルヘキモノトス(大邱覆審法院大正六年評論六卷商法五一二頁)

附 株主總會カ利益配當ノ決議ヲ爲ス以前ニ於テ株主ノ有スル利益配當請求權ハ本條ニ所謂他ノ財産權ニ屬スルヲ以テ之ヲ金錢債權トシテ差押ヘ又ハ換價シタル場合ニハ強制執行ノ方法ニ違背スルモノナレハ債務者ハ勿論該執行ニ因リテ其利益ヲ害セラルヘキ第三者モ亦強制執行ノ方法ニ對スル異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(學說、評論四卷商法三四四頁)

◎鑛區採掘權ニ對スル強制執行〔類題、五二三頁〕

- 一 鑛山採掘權ニ對スル強制執行ハ本條ノ規定ニ違據スヘキモノナレハ特ニ公示ノ手續ヲ爲ササルモ第三者ニ對シ有效ナリ(大審二九年民二卷九七頁)
- 二 採掘權ハ一ノ財産權ナルモ權利ノ性質ハ動産不動産

又ハ債權ニ屬セサルカ故ニ之ニ對スル強制執行ハ本條ノ規定ニ依ルヘキモノトス而シテ裁判所カ探掘權ニ對シ強制執行ヲ爲シ競賣ノ方法ニヨリ競賣シタリトスルモ競落人ハ競落ニヨリ直チニ探掘權ヲ取得スルコト能ハサルモノトス(宮城控四三年法六四二號一四頁)

三 執行裁判所カ本條第三項ニ依リ強制執行ノ目的物タル探掘權ニ付キ強制競賣ノ處分ヲ爲シ競落許可決定ヲ與ヘタルトキハ該決定ハ續業條例施行ノ當時ニ在テハ直ニ完全ナル探掘權移轉ノ效力ヲ生セサルモ更ニ同法所定ノ手續ヲ經テ完全ニ其效力ヲ生セシムルコトヲ得ルモノナレハ競落人ハ之カ對價トシテ競落代金ヲ納付スル義務アリ(大審四三年民六五〇頁)

四 探掘權ノ賣買讓與ハ農商務大臣ニ出願シ特許證ノ書換ヲ要スルカ故ニ裁判上ノ強制執行ニ因ル探掘權ノ取得ト雖モ該實體法規ノ手續ニ從ハサルヘカラス即チ競落人ハ特許證ノ書換ヲ受クルコトヲ條件トシテ競落シタルモノニシテ固ヨリ有效ナルヲ以テ競落人ハ該當代金ヲ納付スル義務アルヤ勿論ナリトス(宮城控四三年最六卷二〇七頁)

五 鑛山持分ノ如キ財産權ニ對スル執行爲ハ執行裁判所ノ掌理ニ屬スルモノナルヲ以テ執達吏カ擅ニ該持分ノ賣得金ヲ交付シタル場合ニ於テハ其行爲ハ無効ナリ

トス(東京控四一年法五四二號一二頁)

六 金鑛試掘權ハ鑛業權ノ一種ナル物權ニシテ性質上強制執行ニ因ル差押ノ目的トナルモノトス(東京地三九年法三八〇號九頁)

七 石炭坑區探掘權ニ對スル強制執行ニ付テハ本條ノ規定ニ依ルヘキモノトス(民刑局長回答三三年民刑第一〇一五號)

八 鑛山探掘權ニ付キ強制執行ヲ爲シ其換價方法トシテ競賣ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ特ニ裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ付キ命令ナキ限リ第五百七十六條ノ規定ニ準據スヘキモノトス(民刑局長回答三三年民刑第六八號)

九 共同鑛業權ノ持分ハ他ノ共同鑛業權者全員ヲ第三債務者トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ルモ其登錄ハ之ヲ爲スコトヲ得ス(民刑局長回答三九年民刑第四六二號)

一〇 共同鑛業權者ノ持分ハ本條ノ規定ニ依リ之ヲ差押フルコトヲ得ヘク其結果ハ債權者ニ於テ利益ノ配當ヲ受ケ且解散ノ場合ニ殘餘財産ノ分配ヲ受ケルニ至ルモノトス(民刑局長回答三九年民刑第二二號)

.....(以下五一八頁).....

◎砂金採取權ニ對スル強制執行

一 砂金採取權ハ土地所有權ニ基キ砂金ヲ採取スル權利ニシテ性質上讓渡シ得ヘキ財産權ナルモ警察上取締ノ必要アルニヨリ其讓渡ニハ官廳ノ認可ヲ要スルモノニ過キサルヲ以テ強制執行上差押ヲ爲シ得ヘキモノトス(東京地三九年法三八〇號九頁)

◎永代借地權ニ對スル強制執行

一 本條ノ不動産ヲ目的トセストハ不動産ノ所有權ヲ目的トセサル意義ナレハ永代借地權ハ所有權ニアラサルヲ以テ特別ノ規定ナキ限リハ民事訴訟法中不動産所有權ニ對スル強制執行手續ニヨリテ之ヲ競賣スルコトヲ得サルモ本條ニヨリ競賣スルコトヲ得(橫濱地三六年法一四八號一六頁)

附 永代借地權ハ不動産所有權ニ對スル強制執行ノ手續ニヨリ競賣スルコトヲ得(學說、法一四九號七頁)

◎強制讓渡ニ於ケル讓受人ノ權利

一 強制競賣其他金錢債務ニ關スル執行處分トシテ債務者ノ財産ヲ處分スル場合ニ於テハ讓受人ハ現狀ノ儘其財産ニ關スル權利ヲ取得スルニ止リ讓渡人ノ地位ニ立ツ所ノ債務者等ニ對シ其權利行使ヲ可能ナラシムヘキ

狀態ヲ以テ目的物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ス(大審大正四年民一二二頁)

二 財産權讓渡ノ命令ハ其權利ノ實體ヲ引渡サシムル主意ナレハ其命令ニ基キ其權利ノ目的タル物件ノ引渡ヲ請求スルハ相當ノ手續ナリ(大審二九年民二卷一一六頁)

.....(以下五一九頁).....

◎財産權差押ノ終了時期 [類題、六〇一條]

一 財産權ニ對スル強制執行ニ於テ執行裁判所ノ發シタル轉付命令又ハ讓渡命令カ第三債務者ニ送達セラレタルトキハ其執行手續ハ之ニ依リテ終了シタルモノトス(大阪區大正五年法一一五二號二二頁)

二 債務者ノ有スル會社ノ持分ニ對スル換價ニ因ル賣得金ヲ債權者ニ交付スル行爲ハ執行裁判所ノ職權ニ屬スヘキモノトス從テ執達吏カ如上ノ行爲ヲ爲スモ強制執行終了スルコトナシ(大審四二年民三七頁)

三 本條第三項ニ依リ裁判所カ差押ヘタル權利ノ讓渡ヲ命シタル場合ニハ債權者ニ賣得金ヲ交付シタル時ヲ以テ強制執行ハ終了シ讓渡命令ノ送達ヲ以テ執行ハ終了

スルモノニ非ス（東京區大正六年評論六卷民訴三〇五頁法一二九二號二五頁）

- 四 本條ニ依リ差押ヘタル電話加入權チ一定ノ代金ニ評價シ讓渡命令ヲ以テ之ヲ差押債權者ニ讓渡セラレタルトキハ差押債權者ハ現金授受若クハ相殺ノ意思表示ヲ省略シ該權利其モノチ以テ直ニ債權ノ辨濟ニ充當スルヲ妨ケサルモノナレハ此場合ニハ強制執行ハ讓渡命令ニ因リテ終了シタルモノトス（同上）

第四款 配當手續

第六百二十六條（配當手續チ爲スヘキ場合）

- 1 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金銭差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額チ供託シタルトキ之ヲ爲ス

◎競賣法ニ依ル競賣ト配當手續

- 一 競賣法ニ依ル競賣手續ニ於テハ民事訴訟法ノ強制執行ノ規定中配當ニ關スル規定ハ其性質上之ヲ準用スルコトヲ得サルモノトス（東京地大正二年法九一一號二頁）

二頁）

……………（以下五二〇頁）……………

第六百三十條（配當ノ實施）

- 1 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當チ實施ス可シ
- 2 停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ
- 3 第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ
- 4 配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

◎配當實施ノ效力

- 一 適法ニ調製セラレ且執レノ債權者モ異議チ申立ステシテ適法ニ實施セラレタル配當表ハ終局的判決ノ性質ヲ帶ヒ裁判所及ヒ各債權者チ絕對ニ羈束シ得ル確定決定ノ效力チ有ス（大審三〇年民一〇卷八七頁）

- 二 債權ニ對スル強制執行ニ於テ尙モ配當チ實施シ其手續チ完了シタル以上ハ其手續ニ於テ不當ノ點アリトスルモ強制執行ノ目的物ハ既ニ其存在チ失ヒ之ニ對シテ債權差押命令竝ニ轉付命令チ得タリトスルモ何等其效チキモノトス（東京地大正三年評論三卷民訴三〇三頁）

◎假差押債權者ト賣得金ノ配當

- 一 本條第三項ニ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託スヘキ旨ノ規定アルチ以テ假差押債權者ハ更ニ配當要求ノ手續チ爲サスシテ競賣ニ因ル賣得金ノ配當ニ與カルコトヲ得ヘキモノトス（東京控四四年法七一號二二頁）
- 二 本條ハ假差押ニ係ル債權ニ對シ他ノ債權者カ強制執行チ爲シタルトキハ假差押債權者モ其強制執行ニ對シテ配當要求チ爲シタルト同一ノ權利チ有スルモノト爲ス（大審大正六年民一八三四頁評論六卷民訴四六四頁）

第六百三十一條（配當實施ノ異議）

- 1 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述チ爲ス可シ若シ關係人異議チ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ

- 方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表チ更正シ配當チ實施ス可シ
- 2 異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當チ實施ス可シ

◎配當實施ノ異議

- 一 配當ノ實施ニ付キ異議アルトキハ第六百二十九條第六百三十條及ヒ本條等ノ規定ニ從ヒ異議ノ申立チ爲スヘキモノニシテ直ニ訴チ以テ之ヲ主張スヘキモノニ非ス（大審三一年民五卷六八頁）
- 二 配當實施後之ニ不服チ唱ヘ訴チ起シテ不動産上ノ抵當權チ主張スルニハ配當表ニ對シ異議チ申立テタルコトヲ要ス（大審三〇年民一〇卷八七頁）
- 三 本條以下ニ規定スル所ノ配當ニ關スル異議中ニハ債權ノ存否優劣又ハ配當ノ比例等ニ對スル異議ノミニ限ラス尙モ配當ニ關係チ有スルモノタル上ハ差押債權者カ取立テタル金銭ニシテ配當額ニ加ヘサルコトチ不當トスルノ異議チモ包含スヘキモノト解釋セサルヘカラス（大審三二年民一一卷二二頁）
- 四 金銭カ供託ニ漏レタルハ差押債權者ヨリ其取立チ執

行裁判所へ届出テサレ結果ニシテ從テ配當表ノ作成手續ニ失體ナシトスルモ配當要求ヲ爲ス債權者ニ於テ差押債權者ノ違法ナル行爲ニ對シ異議ヲ主張スルノ妨ト爲ルコトナシ(大審三二年民一一卷二二頁)

………(以下五二一頁)………

第六百三十三條 (配當異議ノ訴)

1 期日ニ於テ異議ノ完結セザルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

◎配當異議ノ訴ト當事者

一 不動産ニ對スル強制競賣代金ノ配當表ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタル債權者力提起スル配當表更正ノ訴ニ於テハ異議ノ申立ヲ承認セザル總テノ債權者ヲ共同被告ト爲スヘキモノナルモ競賣不動産ノ取得者タル第三者ハ該訴訟ニ於テ被告タルヘキ適格ヲ有セザルモノトス(大審大正四年民一三〇〇頁評論四卷民訴二五〇頁)

(東京控四三年最七卷四〇頁)

第六百三十四條 (前條ノ期間ヲ怠リタル債權者)

1 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラレルコト無シ

◎競賣代金交付ノ錯誤ト抵當權

一 配當實施ニ際シ競賣裁判所ノ失錯ニ出テ抵當權者ニ配當スヘキ競賣代金ヲ土地所有者ニ交付スルモ抵當權者ノ優先權ハ消滅セス抵當權者ハ其優先權ニ基ク訴ヲ以テ競賣代金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ直接之カ取戻ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(長崎控四一年最二卷八〇頁)

………(以下五二二頁)………

第六百三十六條 (異議ノ訴ノ判決)

1 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤチ定

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 動産… 配當手續

六三四條—六三九條 [五二二] 七四一

二 此確定決定ニ對シ不服ノ訴權ヲ有スル者ハ次條ニ明揭スル所ノ異議ヲ申立テタル債權者ニ限リ其他ノ債權者ハ斯ル訴權ヲ有セス(大審三〇年民一〇卷八七頁)

三 物上ノ擔保權ヲ主張スル債權者ト雖モ本條ノ訴ヲ提起シ得ルモノトス(東京控四一年法五二一號二〇頁)

四 動産ニ對スル強制執行手續ニ於テ賣得金ノ配當ニ與ルコトヲ得ル者ハ差押債權者及ヒ配當要求ヲ爲シタル債權者ニ限ルコト勿論ナリ從テ假差押ヲ爲シタルノミニシテ配當要求ヲ爲サザルトキハ縱令其者カ其動産ニ付キ先取特權ヲ有シタリトスルモ競賣賣得金ニ付キ配當ヲ受ケルコトヲ得ス(同上)

◎配當異議ノ訴ト一定ノ申立

一 配當異議ノ訴ハ配當數額ヲ定メテ申立ナ爲スヘキコトヲ要求セス受訴裁判所カ異議ノ訴ヲ正當ト認メタルトキハ其裁判所ナシテ職權ヲ以テ判決ニ依リ自ラ配當表ヲ變更セシメ若クハ配當裁判所ニ對シ配當表ノ調製及ヒ配當手續ノ實行ヲ命セシメタルモノト解釋スルテ相當トス故ニ配當異議ノ訴ニシテ原告ノ訴旨苟モ配當表ノ變更ヲ求ムルニアルコトヲ認ムルニ足ル以上ハ其異議ノ内容ヲ調査シ以テ其當否ヲ判斷スルコトヲ要ス

◎配當異議ノ訴ト其ノ裁判

一 本條ノ規定ハ受訴裁判所カ配當異議ノ訴ヲ正當ナリト認メタルトキハ其裁判所ナシテ職權ヲ以テ判決ニ依リ自ラ配當表ヲ更正セシメ若クハ配當裁判所ニ對シテ新ナル配當表ノ調製及ヒ配當手續ノ實行ヲ命シタルモノト解スヘキモノトス從テ配當異議ノ訴ニ於ケル訴旨カ苟モ配當表ノ變更ヲ求ムルニ在ルコトヲ認ムルニ足ル以上ハ其異議ノ内容ヲ調査シ以テ其當否ヲ判斷セサルヘカラス(東京控四三年法六六五號一一頁)

第六百三十九條 (配當ヲ結了スル手續)

1 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ
2 債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

- 3 債權一分ノミノ配當ヲ受ケ可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ
- 4 期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ
- 5 右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

◎配當受領ヲ禁止スル假處分ノ當否

- 一 執行裁判所ハ配當表ノ確定シタルトキハ縱令其配當ヲ受ケルコトヲ拒ム債權者アルモ其配當額ヲ供託シテ配當ヲ終了スヘク債權者ハ此供託ニ因リ辨濟ヲ受ケタルモノナルカ故ニ債權者カ配當表ニ基キ辨濟ヲ受ケルコトヲ禁スルハ法律上不能ナリ(長崎控三九年法三六四號八頁)

◎居所不明ノ債權者ト配當額ノ處置

- 第一 強制競賣
- 第二 強制管理
- 2 債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得
- 3 強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

◎鑛業權ニ對スル強制執行 (類題、六二五條第二二條)

- 一 鑛業權ニ對スル強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ依ルモノトス(法曹會決議大正四年第二五卷八號五七頁)
- 二 共同鑛業權ノ持分ハ強制競賣ノ目的ト爲スコトヲ得ス(民刑局長回答四二年民刑第七四一號)

◎競賣ノ性質 (類題、競二條)

- 一 我國法上強制競賣ハ民事訴訟法上ノ所謂強制競賣ト競賣法ニ依ル競賣トナ間ハス一種ノ賣買契約ナリト解スヘシ(東京控四二年最七卷九一頁法六六〇號一一頁同旨大阪控大正二年法八五八號二八頁)
- 二 如上競賣カ一種ノ賣買行爲ナリトセハ其結果或ハ商法第二百六十五條ニヨリ一ノ商行爲タル場合ナキニア

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 通則

六四〇條 (五二二) 七四三

一 不動産強制執行競賣事件ニ付キ登記簿上ノ抵當權利者ニ對シテ配當期日呼出狀ヲ郵便ニ依リ送達シタルニ同債權者ノ居所不明ノ爲メ其呼出狀ノ返戻セラレタルニ付キ其旨配當期日調書ニ記載シ配當實施ノ上右債權者ニ配當スヘキ金額ヲ第六百九十七條及七本條第四項ニ依リ金庫ニ供託シタル場合ニハ該供託金ニ對シテハ保管金規則第一條ヲ適用シ滿五年ノ期間ヲ經過スルトキハ政府ノ所得トスルコトヲ得ルモノトス而シテ斯カル場合ニ於ケル滿五年ノ期間ハ配當期日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(法務局長回答大正二年民六五四號法曹記事二三卷一〇號一〇七頁)

……………(以下五二三頁)……………

第二節 不動産ニ對スル

強制執行

第一款 通則

第六百四十條(不動産ニ對スル執行方法)
 1 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

ラス然レトモ商法第二百六十六條ハ競賣ノ場合ニ適用スルコトヲ得ス(同上)

三 競賣ハ獨立シテ一定ノ效果ヲ有スル裁判所ノ處分行爲ニシテ私法上ノ賣買ト其性質ヲ同ウスルモノニアラス(長野地方松本支部四〇年法四四一號六頁)

附 競賣ノ場合ニ於ケル競落人ノ所有權取得ハ競落許可ノ決定ニ因ルト執達吏ノ執行處分ニ因ルトニ論ナク又其目的物ヲ不動産タルト動産タルトナ間ハス一種ノ承繼取得(賣買)ナリトス(學說、評論四卷民訴三四六頁)

◎競賣申立ト債務辨濟ノ趣旨

一 債務ノ履行ニ付キ債權者カ遲滞ニ付セラレタル後ニ於テモ債權者カ其債權ノ擔保タル抵當不動産ノ競賣申立ヲ爲シタルトキハ其競賣申立ハ債務辨濟ヲ求ムルノ趣旨ヲ包含スルモノナレハ債務者ハ辨濟ノ提供又ハ供託ヲ爲スニ非サレハ履行遲滞ノ責ヲ免レス從テ相手方ハ競賣手續ノ進行ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス(岐阜地大正三年評論三卷民法六一二頁)

……………(以下五二四頁)……………

◎強制管理中ノ不動産ト強制競賣

一 強制管理ヲ爲シタル不動産ニ對シ更ニ他ノ債權者ヨリ強制競賣ノ申立アリタル場合ト雖モ強制管理ノ執行ヲ取消スヘキモノニ非ス右ノ場合ニ於テハ二種ノ執行方法ヲ並行シ強制管理チ一ノ賣却條件ト爲シ競賣ノ後競落人ニ之ヲ對抗セシムヘキモノトス(民刑局長回答二六年年刑第一〇五號)

◎差押後ニ於ケル貸借ノ效力 (類題、六四四條)

一 本條第二項ハ債權者ノ選擇ニ從ヒ強制競賣及ヒ強制管理ノ中一箇ノ方法ニ依リ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシメ得ヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ債權者ヨリ強制競賣ノミチ申立テタル場合ニハ債務者ニ於テ競落許可決定以後迄存続スル貸借ノ如キ管理行為ト雖モ尙ホ之ヲ實行シ得ルノ法意ニ非ス(大審三八年民一四七六頁)

第二款 強制競賣

第六百四十二條(強制競賣ノ申立ノ要件)

一 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示
第二 不動産ノ表示
第三 競賣ノ原因タルノ一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

◎競賣申立ノ要件 (類題、競二二條)

一 抵當權者カ抵當不動産ニ付キ抵當權ノ實行トシテ競賣ノ申立ヲ爲スニハ抵當權者ノ存スルコト並ニ債務者ノ遲滯ニ在ルコトニ付キ疎明ヲ爲スコトヲ要ス(東京地大正四年評論四卷諸法三九頁)

◎競賣申立人ノ調査義務及過失責任

一 競賣目的物ニ付キ所有權ヲ主張スル第三者アレトキハ競賣申立人ハ其主張事實ノ眞否ヲ調査スヘク若シ競賣開始ノ時マテニ調査ヲ爲ス能ハサルトキハ競賣ハ一應之ヲ延期シ其調査ヲ完了スヘキモノナレハ競賣申立人カ右ノ如キ調査ヲ爲サシテ競賣手續ヲ遂行シ以テ第三者ノ權利ヲ侵害シタルトキハ過失ノ責ニ任スヘキ

モノトス(大審大正四年民三五頁)

◎競賣事件ト裁判所ノ審査權

一 競賣法ニ依ル競賣事件ニ付キ裁判所ハ其競賣手續ヲ進行スルニ必要ナル程度ヲ限トシテ競賣ノ基本タル債權及ヒ其擔保物件ノ存否ニ關スル實體上ノ判斷ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(大阪控四一年法四八〇號八頁)

◎競賣ノ開始ト債務名義ノ送達

一 競賣法ニ依リ競賣ヲ開始スル場合ニ於テハ債務名義ヲ其債務者ニ送達スルヲ要セス(大阪控四二年法五七三號一〇頁)
二 不動産ノ競賣申立ニハ執行力アル正本ヲ添付スヘキモノニ非ス又競賣申立ニハ執行正本ニ代ルヘキ借用證書即チ債權證書ヲ添付スヘシトノ法規ノ存スルコトナキヲ以テ之ヲ要セス(長崎地四二年法六〇八號一七頁)

………(以下五二五頁)………

◎本法前ノ勸解ト債務名義

一 治安裁判所ノ勸解ニ依ル濟方ナルモノハ民事訴訟法施行後ニ於ケル裁判上ノ和解ト其性質ヲ異ニシ公賣ノ如キ裁判所カ命スル強制處分ノ基本トナリ得サリシモノナリ(大阪控大正二年法八六一號二六頁)
二 勸解ト和解トノ別(三二二頁參看)

◎買主ノ登記懈怠ト競賣申立

一 未登記不動産ニ對スル強制執行ハ債權發生時期如何ヲ問ハス執行ノ當時債務者ノ所有ニ屬スルモノナル以上ハ第三者カ所有權ヲ取得シタルモノニ對シテモ之ヲ爲シ得ルモノトス(大審大正五年民七四頁評論五卷民法二一四頁)
二 登記怠慢ノ買主ト競落人トノ關係(第六八六條參看)

◎山林ノ競賣ト立木ニ對スル效力

一 抵當權者カ抵當權ノ目的タル山林ニ對シ既ニ權利ノ實行ニ著手シ競賣ノ開始セラレタル場合ニ於テハ民事訴訟法ニ依ルト競賣法ニ依ルトヲ問ハス土地及ヒ之ト

一 一體ヲ爲ス立木ニ對シ差押ノ效力ヲ生スルモノナレハ不動産所有者ハ爾後之カ處分ヲ制限セラレルモノニシテ所有者ヨリ立木ノミヲ買受ケタル第三者ハ抵當權ヲ無視シテ其目的物ノ價格ヲ減少スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス抵當權者ハ其者ニ對シ立木ノ伐採ヲ差止メ得ルハ勿論既ニ伐採シタルモ尙ホ其地上ニ存スル木材ハ縱令性質ヲ變シテ動産ト爲ルモ之カ搬出ヲ拒ムコトヲ得(大審大正五年民一〇八三頁評論五卷民法八〇四頁)

◎共有物ノ競賣ト其ノ手續

一 民法第二百五十八條ニハ共有物ノ競賣ヲ命スルコトヲ得ル旨ノ規定アルモ民事訴訟法ニ於テハ共有物ヲ裁判所カ競賣ニ付シ其競賣代金ヲ各共有者ニ分配スル手續ノ規定無シ又判決ヲ以テ共有物ヲ競落ニ付シ其代金ヲ各共有者ニ分配スルヲ得ス(東京地三五年法八四號六頁)

◎建物ノ一部ト強制執行 (類題、競二二條)

一 一棟ノ建物ト雖モ所有者ノ意思ニヨリ區分特定セラレタル場合ハ當該部分ハ法律上數個ノ建物ト看做サレ各部分獨立シテ權利ノ目的ヲ得ヘキカ故ニ各部分執

レモ強制執行ノ目的物タルニ妨アルモノニアラス(東京地大正五年最一七卷三四五頁)
 二 裁判所カ登記簿ノ一用紙ニ記載シアル建物ハ併合シテ競賣ヲ求ムルニアラサレハ許可スヘキモノニアラストノ理由ニ依リ競賣申立テ却下シタルトキハ斯ル規定ヲ爲シタル法律無ク且ツ右ノ如キ法理存セサルヲ以テ其決定ハ正當ナラス(東京地三四年法六五號一〇頁)

◎建物ノ競賣ト疊建具 (類題、第五六六條)

一 家屋ノ抵當權ノ效力ハ其ノ家屋ノ從物タル疊建具等ニ及フモノニシテ其ノ家屋ノ競落人ハ其ノ從物ナル疊建具ノ所有權ヲ取得スルモノトス(東京區大正三年法九八四號七八五頁)

..... (以下五二六頁)

◎地番ナキ建物ノ差押

一 地番ナキ建物ニ付テハ登記記入ノ手續ヲ爲スコト能ハサルニ因リ差押又ハ假差押ヲ爲スコトヲ得サルヘシ(民刑局長回答三二年民刑第二七九號)

◎寺院所有ノ不動産ノ競賣

一 借主寺院名義ニテ檀家總代二名以上連署シ寺院所有地所ヲ抵當トシ金圓ノ貸借ヲ爲シタルトキハ縱令官廳ノ許可ナク且公示ノ手續ヲ爲ササルトキト雖モ該貸借ハ有效ナリ從テ債權者カ右債權ニ付キ支拂命令ヲ申請シ次テ執行命令ヲ得テ之ニ基キ寺院所有地所ノ強制競賣ヲ申立タル場合ニ於テハ裁判所ハ競賣手續ヲ爲スヘキモノトス(民刑局長回答三三年民刑第五〇號)

◎小學校ハ差押ノ目的タリ得ルヤ

一 公有財産タル小學校ハ差押ノ目的ト爲スコトヲ得ス(千葉地三七年法二〇三號一八頁)

◎抵當債權者ト強制執行

一 抵當債權者カ優先ノ辨濟ヲ受クル目的ニテ其債權ニ基キ強制執行ニ因リ抵當不動産ヲ處分シテ其賣得金ヨリ優先ノ辨濟ヲ受ケ抵當權ノ實行ヲ爲シタルト同一ノ結果ヲ獲得シ得タリトスルモ之レヲ以テ抵當權ノ實行ニ外ナラサルモノト論斷スルコトヲ得ス(東京控大正元年法八六七號二一頁)

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ： 不動産： 強制競賣

二 抵當權者カ主タル債權ニ付キ債務名義ヲ有スル場合ニ於テ其抵當物件ノ競賣ヲ爲サントスルニハ競賣法ノ規定ニ依リ競賣申立ヲ爲スモ將又民事訴訟法ノ規定ニ依リ強制競賣ノ申立ヲ爲スモ自由ナルモノトス(民刑局長回答三三年民刑第一三二〇號)

◎強制競賣ト抵當權ノ實行通知

一 普通債權者カ債權ニ基ク強制執行ニ因リ債務者所有ノ抵當權ノ設定シアル不動産ニ對シ強制競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ抵當債權者ハ抵當不動産ノ賣得金ヨリ其債權ノ優先辨濟ヲ受クルコトノ目的ヲ以テ配當要求ノ申立ヲ爲シ以テ第三取得者ニ何等ノ通知ヲ爲スコトナク其抵當不動産ノ賣得金ヨリ優先辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトス(東京控大正元年法八〇六號二一頁、同旨東京控大正元年法八六七號二一頁)

◎所有權移轉後ノ競賣申立

一 假差押後不動産所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ト雖モ假差押債權者ハ債務者ニ對スル執行名義ヲ以テ強制競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民刑局長回答三七年民刑第八三四號)

二 差押物賣買ノ效力 (第六四四條參看)

◎罰金ノ徴收ト強制競賣ノ申立

一 罰金科料過料裁判費用又ハ追徴金等徴收ノ爲メ不動産強制競賣又ハ債權差押ノ申請ヲ爲ス場合ハ檢事局ノ長官又ハ其指定シタル所屬官吏ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ檢事ハ執達吏ニ命シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス (民事刑事兩局長回答四五年民事第五八四號)

◎類題、刑訴三三四頁

二 檢事カ刑事裁判費用徴收ノ爲メ不動産ノ強制競賣ヲ申請スル場合ニハ民事訴訟用印紙法ノ規定ニ依リ相當印紙ヲ貼用スヘキモノトス (司法大臣指令二六年民刑第一〇九號)

◎競賣申立ト假處分トノ關係 (類題六五一條號二六條)

一 假處分ハ其命令ヲ受ケタル者カ任意ニ賣買讓與ヲ爲スコトヲ禁セラレタルモノナルモ強制執行ヲ妨クルコトヲ得サレハ假處分ノ登記アル不動産ニ對シ強制競賣ヲ爲スコトヲ得 (東京地三五年法一〇五號一二頁)

二 假處分中ノ不動産ニ付キ競賣申立ノ登記ヲ爲ストキハ競賣手續ヲ續行スル結果トシテ第三者カ競落ニ依リ

テ之レカ所有權ヲ取得スルニ至リ假處分ノ效力ヲ徒爾ニ歸セシムルニ至ルヲ以テ假處分ノ登記ヲ爲シアル不動産ニ付キテハ競賣申立ノ登記ヲ爲スコトヲ許ササルモノトス (東京地三六年法一八一號八頁)

三 不動産ノ處分行爲ヲ禁止シタル假處分命令ニ基キ處分制限ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ該不動産ニ對シ強制競賣ノ申立アルモノ之ヲ許ササルヲ相當トス (民刑局長回答三三年民刑第二七五號)

……… (以下五二七頁) ……

◎競賣申立ト假登記トノ關係 (類題六四四條六八六條)

一 抵當建物ニ對スル競賣開始決定前既ニ所有權取得ノ假登記ヲ爲シタル場合ニ於テ開始決定後ニ其本登記ヲ爲スコトハ決シテ新ニ不動産ノ處分ヲ爲スモノニ非サルニ依リ登記權利者ハ有效ニ其本登記ヲ爲スコトヲ得而シテ其本登記ハ假登記ノ當時ニ週リテ效力ヲ生シ登記シタル權利ハ假登記ノ當時ヨリ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至ルモノトス (大阪地大正四年法一〇三六號二四頁)

二 債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付キ他人ノ

所有權取得ノ假登記アル場合ト雖モ之ヲ強制競賣ニ付スルコトヲ得サルモノニ非ス (大審四二年民六二頁)

三 抵當權ノ目的物タル不動産ノ所有權カ假登記ヲ以テ第三者ニ移リタルモノナルニ拘ラス元ノ所有權者ニ對シ強制競賣力行ハレタルトキノ如キハ之カ競落人ハ右第三取得者ニ對抗シ得サルカ故ニ該競落決定完了スルモ抵當權ハ消滅セス (大阪控四一年最三卷九一頁)

四 假登記カ競賣申立ノ登記記入ト同日ニ爲サレタリトスルモ競賣ノ登記カ假登記ノ後ナルトキハ假登記權利者カ假登記ノ當時該競賣ノ申立アリタルコトヲ知レリト認メラルヘキ場合ハ格別然ラサレハ假登記ハ其競賣ノ登記ニ對抗シ得ヘキモノトス (大阪控大正五年最一九卷二八頁)

五 假登記權利者カ本登記ヲ爲ス際ニ於テ既ニ該不動産カ抵當權實行等ニ因リ差押ヘラレタルトキハ縱令本登記ヲ爲スモ差押權者ニ對抗スルコトヲ得ス (東京地大正三年最一五卷七二頁)

六 競賣申立ノ登記アル不動産ニ付キ假登記假處分命令ノ申請アル場合ニ於テ其申請ニシテ適法ナルトキハ裁判所ハ之ヲ認容スヘク單ニ競賣申立ノ登記アルノ理由ニ依リ假登記假處分命令ノ申請ヲ却下スルコトヲ得ス (大審大正四年民二一〇六頁評論五卷民訴二六頁)

第六百四十三條 (強制競賣ノ申立ト添附書類)

- 1 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添付ス可シ
 - 第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書
 - 第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書
 - 第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一箇年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書
 - 第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一箇年ノ公課ヲ證ス可キ證書
 - 第五 地所、建物ニ付キ貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書
 - 第六 第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得
 - 第七 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債

權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏チシテ其取調ヲ爲サシム可シ

4 強制管理ノ爲メ既ニ不動産チ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件チ記載シタルモノ有ルトキハ其證書チ添附スルコトヲ要セス

………(以下五二八頁)………

◎競賣申立ノ添附書類ニ關スル判例〔類題、競四一條〕

- 一 本條ハ訓示的規定ニシテ競賣申立ノ要件チ定メタルモノニ非サルヲ以テ本條ニ規定スル書類ノ添附チ缺キタル結果適當ナル證明チ爲ス能ハサルトキハ實體上不當ナリトシテ却下シ得ルモ之ヲ以テ不合法ノ申立トシテ却下スルコトヲ得ス(大阪地大正元年法八三五號二五頁)
- 二 本條第二項ノ規定ハ債權者ニ於テ公簿チ主管スル官廳ニ其證明書チ請求シタルトキ其官廳ハ之レカ付與チ爲スノ義務アルコトヲ定メタルモノニシテ本條第二項ノ證書チ公正證書ニ限定シタル趣旨ニアラス(關東都

◎競賣ト貨貸借存否ノ調査

- 一 競賣法ニ依リ地所建物チ競賣スル場合ニ於テ債權者カ其地所建物ニ付キ貨貸借ノ期限及ヒ借賃ノ取調チ申請セサルトキハ裁判所ハ貨貸借チキモノトシテ手續ノ

督府高等法院四三年法七〇一號二六頁)

- 三 競賣申立書ニ地價證明書ノ添附チキ場合ト雖モ之チ違法ノ申立ト謂フコトヲ得ス蓋シ本條ハ訓示的ノ規定ニシテ競賣申立ノ要件チ定メタルモノニ非サレハナリ(大邱覆審法院大正四年法九九五號二六頁)

- 四 建物ニ付公簿チ主管スル官廳ナクシテ債權者之カ證明チ爲スコト能ハサルトキハ本條第三項ニ依リ其取調方チ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得ルモノトス(民事局長回答二四年民刑第一六六號)

- 五 本條第一項第三號ニ依リ競賣申立ニ添附スヘキ證明書ハ地方稅ニ付テハ郡役所ニ市町村稅ニ付テハ市役所町村役場ニ其他ハ土地臺帳主管廳ニ之レカ證明チ求ムヘキモノトス但市町村長ニ於テ市町村稅以外ノ各事項ニ付キ證明チ與ヘタル場合ト雖モ裁判所ハ之チ當該官廳ノ與ヘタル證明書ト同視スルコトヲ得ヘシ(民事局長回答二四年民刑第一八〇號)

第六百四十四條〔競賣開始決定ト其ノ效力〕

- 1 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産チ差押フルコトヲ宣言ス可シ
 - 2 差押ハ債權者カ不動産ノ利用及ヒ管理チ爲スコトヲ妨ケス
 - 3 差押ハ其決定チ債務者ニ送達スルニ因リ其效力チ生ス此送達ハ職權チ以テ之チ爲ス
- ………(以下五二九頁)………

◎競賣開始決定ト假登記トノ關係〔類題、五二七頁〕

- 一 甲カ乙ヨリ不動産チ買受ケタル旨ノ假登記チ爲シタル後之ニ基ク本登記チ爲シ其假登記後本登記前ニ丙カ乙ニ對スル債權ニ基ク強制執行ノ爲メニ該不動産ニ對スル強制競賣手續開始ノ決定チ受ケ其決定ニ基ク登記アリタル場合ニ於テ若シ果シテ甲カ其假登記ノ當時真

實賣買ニ因リ既ニ該不動産ノ所有權チ取得シタルモノトセンカ其權利保全ノ爲メニ爲シタル假登記ハ後ニ爲シタル本登記ト相俟テ完全ニ其效力チ發生シ上告人ハ假登記ノ當時既ニ其所有權チ取得シタリシコトヲ以テ被上告人ニ對抗スルコトヲ得從テ乙ニ對スル債權ニ基ク強制執行ハ之チ續行ス可カラサルモノトス(大審大正三年民一〇六四頁評論四卷民訴一四頁)

- 二 假登記アル不動産ニ對スル強制競賣開始決定ハ假登記ノ存スル狀態ニ於テ不動産チ差押ヘ之チ競賣スルモノナレハ差押ノ繼續中本登記アルトキハ競賣開始決定ハ取消サルコトアルモノトス(東京地大正三年評論三卷民訴八九頁)

- 三 抵當權實行ニ依ル競賣手續開始決定アリタル不動産ニ付キ所有者カ抵當權ノ實行チ妨クヘキ處分チ爲スモ其處分ハ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得スト雖モ開始決定アル以前ニ所有者カ其所有權チ他人ニ移轉シ取得者カ其假登記チ爲シタル場合ニ於テハ開始決定アリタル以後ニ於テ其本登記チ爲スコトハ既ニ處分アリタル事項ノ登記チ爲スモノニシテ新タニ處分スルモノニ非サレハ登記權利者ハ其本登記チ爲シ以テ所有權取得チ假登記當時ニ週リ抵當權者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス(大審大正四年民五頁評論三卷民訴二

◎ 抵當權ノ實行ト差押手續

- 一 競賣法ニ依ル不動産ノ競賣手續ニ付テハ本法中不動産ニ對スル強制執行ノ規定カ一般ニ準用セラルル結果抵當權實行ノ爲メニスル競賣開始決定ノ如キモ其途達ニ依リ當然差押ノ效力ヲ生シマタ其確定ヲ前提トセサルモノトス(大審大正六年民一〇一六頁評論六卷諸法三〇三頁)
- 二 競賣法ニ依ル競賣開始決定ハ其内容ニ於テ特ニ差押ノ宣言ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス(東京地大正四年評論四卷諸法三九頁)

◎ 競賣開始決定ト確定力 (類題競二條二五條)

- 一 競賣開始決定ノ效力ハ形式上ノ確定力ヲ有スルノミニシテ判決ノ如ク實體上ノ確定力即チ債權及抵當權ノ存立ヲ確定セシムヘキモノニ非サレハ假令實體上ノ權利關係ヲ判斷シ居ルモ更ニ同一事實ニ付キ他ノ訴訟ニ依リ之ヲ爭フコトヲ妨ケス從テ此場合ニ於テハ一事不再理ノ抗辯ハ之ヲ採用スヘキモノニアラス(名古屋地岡崎支部四四年法七一號二三頁)

- 二 不動産競賣開始決定ハ確定スヘキ性質アルモノニアラス(東京控三五年法九三號七頁)
- 三 競賣開始決定ト競落許可決定トハ全然別個ノモノナレハ競落許可決定ヲ取消スヘキ旨ノ抗告アル場合ニ抗告裁判所ハ開始決定ノ確定ヲ理由トシテ其抗告ヲ却下スルハ不當ナリトス(東京控三五年法九三號七頁)

……………(以下五三〇頁)……………

◎ 差押ト不動産ノ利用及管理

- 一 本條ニ所謂利用及ヒ管理トハ競落人ノ所有權ニ制限ヲ加フヘキ不動産ニ關スル權利ノ設定ヲ許シタル法意ニアラス(東京控三八年法二七四號一三頁)

◎ 競賣手續中成熟シタル果實

- 一 抵當地所ニ付キ強制競賣ノ申立ヲ爲シタル後競賣前不動産ノ管理ニ關スル別段ノ規定ナキヲ以テ該土地ヨリ分離セサル果實カ成熟シテ收納時期切迫シタル場合ニ於テハ債務者ヲシテ適當ニ之ヲ管理セシムルノ外ナキモノトス但強制管理ノ申立ヲ爲シ競賣ニ至ルマテ管理人ヲシテ不動産ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

(民利局長回答三五年民利第九一三號)

- 二 抵當地所ノ差押後競賣前ニ其果實ヲ刈取リ該土地ニ保存シアル場合ニハ土地ト共ニ競賣スヘキモノトス(同上)
- 三 前項ノ果實ヲ他所ニ運搬シ保存シアル場合ト雖モ不動産ト共ニ競賣ニ付スヘキモノトス(同上)

◎ 差押後ニ於ケル貸借ノ效力 (類題、六四〇條)

- 一 本條ハ不動産ノ差押以後競落許可決定ニ至ル迄債務者カ其不動産ヲ利用シ又ハ必要ナル管理ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ差押ノ後ニ至リ競落許可決定以後迄存續スヘキ貸借ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス(大審三八年民一四七六頁)

◎ 差押物ノ賣買ノ效力 (類題、六五〇條)

- 一 不動産ニ對スル強制競賣手續ハ競賣申立カ登記簿ニ記入セラレタル當時ノ狀態ニ於テ進行スヘキモノトス故ニ競賣申立カ登記簿ニ記入セラレタル以後ニ於テ競賣不動産ニ對シ如何ナル權利カ登記セラレルモ右權利ハ其設定ノ時期如何ヲ問ハス之ヲ以テ差押債權者(假差押債權者配當要求債權者)ニ對抗スルコトヲ得サル

モノトス(東京控大正三年法九五號二六頁、同旨東京地大正二年法八七〇號三頁)

- ◎ 同旨(大審院判例)競二六條參看
- 二 本條第二項ノ規定ハ強制管理トノ區別ヲ明カニシタルニ止リ此規定ヲ以テ差押ハ處分行爲ヲ禁シタルモノト解釋スルコトヲ得ス(民利局長回答二九年民利第三八六號)
- 三 所有權移轉後ノ競賣申立(第六四二條)

◎ 建物ノ差押ト地上權トノ關係 (類題、六八六條)

- 一 工作物又ハ竹木カ現實地上ニ存在スル爲メ地上權ノ設アル場合ニ於テ其工作物等ヲ不動産トシテ之ニ對シ競賣ノ申立アルトキハ別ニ反對ノ意思表示ナキ以上ハ其競賣開始決定ニ依リ該不動産ト共ニ之ニ附隨シテ地上權ニマテ差押ノ效力ヲ及ボサシムルヲ通例トス(大審三七年民七九頁)

◎ 民法前ノ長期貸借ト不動産ノ利用

- 一 民法施行前ニ在テハ十年ノ期間ヲ超ユル地所ノ貸借ヲ以テ本條第二項ニ所謂不動産ノ利用ト看做ササルノ規定ナシ(大審三三年民二卷一六頁)

◎競賣開始決定ト欠缺ノ補正

一 債權譲渡前讓受債權者ノ申立ニ因リ抵當不動産ノ競賣開始決定ヲ爲シタルハ不當ナルモ其讓渡通知ヲ爲シ之カ欠缺ヲ追完セラレタルトキハ爾後該決定ニ對シ右欠缺ヲ理由トシテ攻撃スルコトヲ得サルニ至リタルモノトス (東京地大正三年最一三卷二八〇頁)

◎債權額ニ相違アル競賣開始決定 (類題競二五條)

一 競賣開始決定ニ表示シタル債權ノ範圍カ實際ノ債權ノ範圍ニ比シテ僅少ノ差異アルモ之カ爲メニ債權ノ同一性ヲ害セサル程度ノモノナルニ於テハ之ヲ理由トシテ該決定ノ取消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス (東京地大正四年評論四卷諸法三九頁)

◎競賣開始決定ニ對スル不服申立 (同上)

一 競賣法ニ依ル不動産競賣開始決定ニ對シ不服ノ點アルトキハ第五百四十四條ノ規定ニ依リ先ツ異議ノ申立ヲ爲シ其申立ニ關スル裁判ニ對シ抗告スヘキモノニシ

テ直チニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス (大審大正三年民一一四四頁、同旨大審三八八年民一一五五頁大阪地四三年法六四六號一四頁東京地大正二年法八八〇號一五頁)

二 強制執行ノ方法ニ關スル不服ハ本條ニ依リ先ツ原裁判所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スヘク直チニ第五百五十八條ノ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ス故ニ競賣開始決定ハ強制執行ノ方法ニ過キスシテ終局的性質ヲ有スル裁判ニアラス故ニ抗告人カ異議ノ申立ヲ爲サスシテ直チニ提起シタル即時抗告ハ許スヘカラサルモノトス (東京地三五年法一〇九號一一頁、同旨東京地大正三年評論三卷民訴二頁)

三 競賣法ニ依ル不動産競賣開始決定ニ對スル異議ハ所謂執行方法ニ關スル異議ナルカ故ニ其性質上執行手續ノ進行中ニ於テノミ適法ナルコトヲ得ヘク其終了後ハ目的物ヲ失フノ結果トシテ自ら不適法ニ歸スヘキモノトス (東京地大正三年評論三卷諸法一三一頁)

四 不動産競賣開始決定ニ對スル異議ノ申立ニ付テハ別ニ期間ノ定メナシト雖モ競落許可決定ノ既ニ確定セルハ其申立ヲ爲スヲ得ス (大審大正五年民八三八頁評論五卷民訴二四六頁)

◎四三五頁「執行異議ト其ノ時期」參照

◎競賣ニ對スル實質上ノ異議 (類題三八六頁競三二條)

一 競賣法ニ依ル不動産ノ競賣ト雖モ單ニ形式的ノ性質ヲ有スル事由アル場合而已ナラス實質的性質ノ事由ニ據ル異議ト雖モ理由アリト認メタルトキハ競賣ヲ許ササルモノトス然レトモ其異議ニ係ル債權ノ成立ニ付キ單ニ司法警察官ノ捜査中ナリトノ一事ノミニテハ未タ競賣ヲ許スヘカラスト爲ス理由タラス (大阪控四一年最三卷一三一頁)

二 競賣裁判所ハ競落代金ヲ受領シ之ヲ債權者ニ交付スルニハ其債權額ヲ調査シ現在ノ債權額ニ付テノミ之ヲ行フヘク從テ眞實ノ債權額カ競賣申立書並ニ競賣開始決定ニ表示セル債權額ト相違スルモ該決定ヲ違法ナリト云フヲ得ス (東京地大正三年最一三卷二八〇頁)

第六百四十五條 (強制競賣ノ申立ノ競合)

1 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
2 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

六四四條

六四五條

(五三一)

七五五

第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
3 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

◎本條第二項ノ意義

一 本條第二項ニ所謂「效力ヲ生ス」トハ既ニ取消ト爲リタル前ノ開始決定ノ效力ヲ其儘承繼スルノ謂ニ外ナラサルヲ以テ更ニ第六百五十四條及ヒ本條ノ手續ヲ爲スヲ要セス (大阪地四五年法八〇七號二六頁)

…………… (以下五三二頁) ……………

◎數個ノ競賣ノ競合 (類題、競二五條)

一 民事訴訟ニ依ル強制競賣ト競賣法ニ依ル競賣及ヒ競賣法ニ依ル二個以上ノ競賣手續ノ競合ハ孰レモ之ヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス (東京地四四年法七五〇號二三頁、同旨大阪地四四年法七二六號二三頁民刑局長回答三七年民刑五五〇號)
二 國稅滯納處分ノ爲メ差押ヲ爲シタル不動産ニ對シテ

ハ更ニ強制競賣ノ申立ノ必要ナキヲ以テ之ヲ許スヘキ
モノニアラス(大阪地四五年法七八〇號二〇頁評論一
卷民訴二頁)

三 本條第一項ハ民事訴訟法ノ規定ニ基キ競賣開始ノ決
定ヲ爲シタル不動産ニ付テハ更ニ開始決定ヲ爲スヲ得
スト規定セルノミニシテ他ノ法規ニ依據シ不動産ヲ差
押フル場合ニ於テハ更ニ民事訴訟法ノ規定ニ則リ競賣
手續開始決定ヲ爲スコトヲ禁止シタルノ趣旨ニ非ス
(大阪控四五年法七九〇號二二頁評論一卷民訴七〇頁)

四 滯納處分ニ因リ差押ヘラレタル不動産ニ對シ抵當權
者ハ競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス(法曹會決議大正二
年法曹記事二三卷二號五七頁)

附 競賣法ニ依ル競賣手續ニ於テモ一旦競賣開始決定ア
リタル不動産ニ付キ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得サル
モノトス(學說、評論四卷民訴一一二頁)

◎競賣法ノ競賣ト配當要求

一 民事訴訟法ノ強制執行ノ規定中配當ニ關スル規定ハ
其性質上競賣法ニ準用ヲ許ササルモノナルヲ以テ本條
第二項ノ如キ配當ニ關スル規定ハ競賣事件ニ之ヲ準用
スヘキモノニアラス(東京地大正二年法九一一號二二

第六百四十六條 (配當ノ要求及其ノ時期)

1 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲ
モ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判
所ニ之ヲ爲スコシ
2 右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

◎配當要求ノ始期 [類題、五九二條]

一 金錢債權ニ基ク動産船舶其他債權ニ對スル強制執行
ノ場合ニ於ケル配當要求ノ始期ニ關シテハ何等ノ制限
ナキヲ以テ之ヲ申立ツルニハ金錢債權ニ付テハ強制執
行力現實ニ發生シ得ヘキモノニシテ且執行機關特定
シ之ニ依リテ爲サルヘキ強制執行力配當ヲ許スヘキモ
ノナルトキハ其要求ヲ爲シ得ルモノニシテ必スシモ現
實ナル強制執行ノ實施ヲ必要トスルモノニ非ス(東京
控四三年法六七〇號一七頁)

第六百四十七條 (前二條ノ通知並ニ其ノ債權ノ諾否)

1 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利
害關係人ニ通知ス可シ

2 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ア
ルトキハ債權者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ
其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申立ツ可シ
3 債權者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルト
キハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務
者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ
..... (以下五三三頁)

◎債權不認諾ノ申出ト印紙

一 本條第二項ニ依ル債務者ノ債權不認諾ノ申出ニ付テ
ハ印紙ヲ徵收スヘキモノニ非ス(法曹會決議四四年法
曹記事二二卷二號五一頁)

第六百四十八條 (競賣手續ニ於ケル利害關係人)

1 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス
第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ
要求スル債權者
第二 債務者

◎競賣手續ノ利害關係人 [類題、競二七條]

一 本條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アル不動産上權利者
トハ不動産上ニ物權ヲ有スル者即チ抵當權者又ハ質權
者ノ如キヲ指稱セルモノニシテ賃借人ハ之ニ包含セス
(大審三六年民一八三頁、同旨大審大正二年民六九五
頁評論二卷民訴二二九頁)
二 建物所在地ノ所有者カ土地ノ賃借人ニ對シ土地明渡
請求權保全ノ爲メニ建物ニ對シ假處分命令ノ登記ヲ爲
シタルノミニテハ建物ノ上ニ何等不動産上ノ權利ヲ有
スル者ニアラス(東京控三九年法三四三號一七頁)
三 不動産上競賣手續ニ於ケル利害關係人トハ不動産上
ノ權利ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ者ヲ指稱ス(東京
地大正四年評論四卷諸法一〇〇頁)
四 所謂不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者
トハ登記ヲ要セスシテ第三者ニ對抗シ得ヘキ權利ヲ指

- 稱ス(同上)
- 五 債務者ノ抵當物件賣渡後ト利害關係 (民法三五三頁)
- 附 登記シタル不動産ノ賃借人ハ競賣手續ニ於ケル利害關係人ナリトス(學說、評論四卷民訴一一六頁法二三二號一一頁)

◎假登記名義人ト利害關係人 (類題、五二七頁)

- 一 競賣ノ目的タル不動産ニ對シ競賣手續開始以前ニ賣買契約ニ因ル所有權移轉ノ請求權保全ノ爲メ假登記ヲ爲シ競賣開始決定後競落許可決定前ニ於テ其假登記ニ基キ本登記ヲ爲シタル者ハ本條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アル不動産上權利者ニ該當スルモノトス(大審大正四年民七二頁評論四卷民訴八四頁、同旨大審大正四年民五頁)
- 二 假登記ハ將來ノ本登記ノ爲メニ順位保存ノ效力ヲ有スルニ止マリ本登記ヲ爲シタルトキニ非サレハ不動産ニ關スル物件ノ得喪變更ヲ以テ第三者ニ對抗セシムルノ效力ヲ有セサルモノトス而シテ本條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アル不動産上ノ權利者トハ不動産ニ付キ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ既登記ノ物權ヲ有スル者

- ナ指稱スルモノトス(大審大正五年民五〇一頁評論五卷諸法一四三頁、同旨大審大正三年民四八三頁評論三卷諸法一〇一頁)
- 三 競賣不動産ニ付キ所有權取得ノ假登記ヲ爲シタルニ止マル者ハ競賣手續ノ利害關係人ニ非ス(東京地大正四年評論四卷諸法七七頁)
- 四 抵當權者、登記ヲ爲シタル賃借權者ハ不動産上ノ權利者ナルモ登記判事カ登記簿謄本ヲ執行裁判所ニ送付シタル後假登記ヲ爲シタル地上權者ハ特ニ届出ヲ爲スニ非サレハ利害關係人トナラス(民刑局長回答三四年民刑第五七八號)
- 五 假登記ト競落許可決定トノ關係(第六八六條)

..... (以下五三四頁)

◎犯罪ニ因ル抵當權ト所有者ノ地位

- 一 他人ノ犯罪行為ニ因リテ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ抵當不動産ノ所有者ハ本條第二號ニ所謂債務者ニ相當セス即チ第三者ノ地位ニ在ルモノトス(大審三四年民九卷一一三頁)

第六百四十九條 (差押不動産ノ賣却條件及賣却ノ效力)

- 1 差押債權者ノ債權ニ先タズ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス
- 2 不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス(民法施行法第五十一條ヲ以テ本項改正)
- 3 留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)
- 4 質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

◎剩餘アル見込ナキ場合ノ競賣 (類題、五三七頁)

- 一 本條第一項ノ規定ハ競賣法ニ依ル競賣手續ニ之ヲ準用スヘキモノトス(大審大正四年民二五二頁、同旨岐阜地大正三年評論三卷民訴二八二頁)

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ： 不動産： 強制競賣

六四九條 (五三四) 七五九

◎不動産ノ競賣ト抵當權ノ消滅

- 一 本條ニ於テ賣却ニ因リテ抵當權ノ消滅スルモノトシタルハ所有權競落人ニ移轉スルコトヲ豫想シタル規定ニシテ假令形式上競賣手續ハ完了シタリトスルモ實體法上抵當不動産ノ所有權ハ競落人ニ移轉スルノ理由ナキ場合ニ於テハ本條ニ依リテ抵當權ノ消滅ヲ來スモノニ非ス(大阪控四一年法五二〇號一七頁)
- 二 債權ニ基ツク強制執行ニ因リテ抵當不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ抵當權ヲ消滅セシムヘキモノト爲シタルハ抵當權ノ效力ノ當然ノ結果ニアラスシテ民事訴訟法カ同一不動産ニ對シテ重ノ競賣手續ヲ爲スノ不便不利ヲ避ケンカ爲メ設ケタル規定ノ結果ニ外ナラス(東京控大正元年法八六七號二一頁)
- 附 抵當權ノ設定セラレタル土地ニ對シ永小作權ヲ取得シタル者アル場合ニ於テ其後土地所有者ノ一般債權者ヨリ其土地ニ對シテ競賣ノ申立ヲ爲シ競落許可ノ決定アリタルトキハ永小作權ハ消滅スヘキモノニ非ス(學說、評論一卷民法四二〇頁)

◎船舶ノ公賣ト抵當權ノ消滅

一 水難救護法ニ依ル公賣ニ於テモ他ノ競賣ニ於ケルカ如ク遭難船舶ノ上ニ存スル抵當權ハ之ニ因リテ消滅スルモノトス(大審四〇年民六八五頁)

第六百五十條 (第三者ニ對スル差押ノ效力)

〔競賣申立ノ取下ノ效果〕

- 1 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス
- 2 若シ不動産力差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ
- 3 競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

……… (以下五三五頁) ……

◎競賣開始後ノ登記上ノ權利

- 一 不動産競賣申立カ登記簿ニ記入セラレタル以後ニ於テ爲シタル登記上ノ權利ハ差押債權者ニ對抗シ得サル

ノミナラス假令該登記後ニ爲サレタル配當要求債權者ニ對シテモ亦優先ノ權利ヲ許スヘキモノニアラス(東京控大正三年第一四卷八九頁)

◎競賣開始後ノ貸借ノ效力

- 一 抵當權實行ニ因リ競賣申立ヲ登記シタル後所有者カ第三者ニ對シテ目的物上ニ設定シ且其登記ヲ爲シタル貸借ハ民法第三百九十五條ノ規定ニ基キ有效ナリト主張スルコトヲ得ス(大審大正二年民一一頁評論二卷民法五八頁、同旨大審三八年民一四七六頁法三二五號一七頁)

◎差押物ノ賣買ノ效力 (類題、六四四條六八六條)

- 一 金錢債權ノ爲メ債務者ノ不動産ニ對シ差押アリタルトキハ爾後債務者ハ其不動産ノ使用收益及ヒ管理行爲ヲ爲シ得ルニ過キスシテ之カ處分行爲ヲ爲シ得サルニ至ルヲ以テ第三者ハ其差押後ニ於テハ本條第一項ニ依ルニ非サレハ債務者ノ行爲ニ因リ差押不動産上ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サルモノトス(新瀨地四四年法七一五號二三頁、同旨東京地大正二年評論二卷民訴一三八頁)

◎競賣申立ノ取下時期 (類題、競二三條)

- 一 競落許可ノ決定ハ第六百八十八條ノ場合其他法律ノ規定ニ依ルノ外效力ヲ失フコトナシ從テ該決定以後ニ於ケル競賣申立取下ノ申請ノ如キハ同ヨリ之ヲ許容スヘキモノニ非ス(大審三九年民六一二頁、同旨長崎控四一年法五一五號一三頁)
- 二 既ニ競落許可決定アリタルトキハ縱令競落許可決定ノ確定前ト雖モ競賣申立ノ取下ヲ許スヘキモノニアラス尤モ競落許可決定ノ確定セサル間ハ競落人ノ所有權ハ確定不動ノモノニアラス從テ競落許可決定ノ廢棄等ニ依リ再ヒ取下ヲ爲シ得ヘキ時期ノ到來スルコトアルヘキヲ豫想シ得サルニアラサレトモ苟モ該決定カ效力ヲ失ハサル以上ハ其理由ノ如何ヲ問ハス絶對ニ取下ヲ爲スヲ得ス(大阪區四五年法八一二號五頁評論一卷民訴一三三頁)

第六百五十一條 (競賣申立ノ登記)

- 1 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

六五〇條

六五一條

〔五三五〕

七六一

◎競賣申立ト假處分トノ關係 (類題、六四二條)

- 一 所有權ノ移轉ヲ禁止スル假處分ハ債權者ノ任意處分ニ因ル所有權移轉ノ效力ヲ假處分債權者ニ對抗スルコトヲ得サラシムルニ外ナラス故ニ右假處分命令ノ登記以前ニ登記アリタル抵當權ノ實行ニ依ルト又假處分命令ノ登記以後ニ登記セル抵當權ノ實行ニ依ルトト問ハス競賣申立ノ記入ノ囑託ハ之ヲ受理シテ登記ス可キモノトス(法曹會決議大正二年法曹記事二四卷四號五四頁)

◎競賣申立記入ノ登録稅

- 一 競賣申立人カ申立書ニ請求金額トシテ債權元金ノミヲ表示シタルトキハ其元金ノミヲ標準トシ又元金ノ外利息訴訟費用等ヲ表示シタルトキハ其合算額ヲ標準ト爲シ競賣申立記入登記ノ登録稅ヲ課スヘキモノトス(民刑局長回答三九年民刑第五八號)

……… (以下五三六頁) ……

◎登記簿記入ノ誤謬ト抗告理由

一 不動産ノ競賣申立人トシテ二名ヲ登記簿ニ記入スヘキヲ其中ノ一名ノミチ記入シタレハトテ單ニ之ヲ更正スレハ足ルモノニシテ之ヲ以テ競落許可決定ニ對スル抗告ノ理由ト爲スコトヲ得ヘキモノニ非ス(大審大正三年民一頁評論二卷諸法一六一頁)

第六百五十三條 (競賣手續ノ取消)

一 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨グ可キ事實カ登記ノ事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

◎競賣申立ノ停止若ハ取消

一 權利者カ一旦其權利ヲ實行セントシテ競賣機關ノ行動ヲ求メシモ後ニ事情ノ變更ニ依リ之ヲ停止若クハ廢止セント欲スルトキハ其旨ヲ競賣機關ニ申立ツルコト

行ノ停止ヲ命シタルニ拘ラス競賣裁判所カ競賣手續ヲ續行シ競賣申立人ナシテ其權利ヲ遂行セシメントスルカ如キ場合ニハ受訴裁判所ハ假處分ヲ以テ其停止ヲ命スルコトヲ得ルモノトス(長崎控四三年法六三九號一五頁)

◎競賣申立後ノ辨濟延期ノ效力

一 競賣申立後ニ於ケル辨濟期ノ延期ヲ禁シタル規定ナキテ以テ其延期ノ契約ハ之ヲ無効トスルノ謂ハレナキモノトス(東京控大正三年法九九三號二二頁)

………(以下五三七頁)………

第六百五十六條 (剩餘ノ見込ナキ場合ノ手續)

一 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先ダツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ
二 右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ

ヲ得ヘキモノトス(東京控四二年法五九八號一四頁)

二 裁判所カ競賣法ニ依リ不動産競賣手續ノ開始ヲ決定シタル以上ハ同裁判所ハ職權ヲ以テ競賣手續ヲ遂行スヘク申立人ノ申請又ハ他ノ裁判所ノ命令ヲ以テスルモ一旦開始シタル競賣手續ノ中止ヲ爲スヘキモノニ非ス(長崎控四二年法五八九號一三頁)

三 競賣手續開始後其完結前ニ於テ申立人ノ權利消滅シ若クハ其行使ヲ禁セラレタル場合ニ於テモ尙ホ手續ノ續行ヲ阻止セラレサル可カラズ從テ開始決定後民事裁判所ニ於テ競賣申立人タル權利者ニ對シ其權利行使ヲ禁スル旨ノ假處分命令ヲ發シタルトキハ申立人ハ該處分命令ノ存續中其權利ヲ行使スルコトヲ得サルヲ以テ競賣手續モ亦之ヲ停止セサル可カラズ而シテ競賣手續スヘカラサルトキ又ハ續行スヘカラサルトキハ手續ヲ停止シ職權ヲ以テ競落不許ヲ宣言スヘキモノトス(長崎地四二年法六一四號一三頁)

四 強制競賣完結前ニ債務名義ノ正本ニ付與セラレタル執行文ヲ取消ス決定カ確定シタル以上其決定ノ當否如何ヲ問ハス之ヲ理由トシテ執行方法ニ關スル異議ヲ主張シ已ニ爲シタル強制競賣手續ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(大阪地大正元年法八三〇號二三頁)

五 受訴裁判所カ競賣申立人ニ競賣ノ停止即チ其權利實

應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

◎剩餘アル見込ナキ場合ノ競賣

〔類題五三四頁 競二八條〕

一 競賣法ニハ本條及ヒ次條ニ反對セル趣旨ノ規定ナキヲ以テ此規定ハ競賣法ニ依ル競賣手續ニ之ヲ準用スヘキモノトス而シテ本條ハ強制的規定ニシテ訓示の規定ニ非サルモノトス(橫濱地大正六年評論六卷民法一六四頁) ◎反對(民利局長回答四四年民事第五四號)

二 最低競賣價格カ優先ナル不動産上ノ負擔ヲ辨濟スルニ足ラサレハトテ必スシモ競賣申立人ノ利益ナキニ歸スヘキモノニ非サレハ特別規定ナキ限り競賣手續ノ進行ヲ妨ケサルモノトス(前橋地四三年法六三八號一六頁、同旨大阪控三九年法三六七號一二頁)

附 賣得金ヲ以テ競賣申立債權者ニ先ツ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘ナキニ拘ラス競落許可決定ヲ爲シタルニ對シ抗告ノ結果原決定ヲ廢棄シ更ニ裁判ヲ爲スコトヲ原裁判所ニ委任シタル場合原裁判所ハ先ツ競落不許可ノ決定ヲ爲シ其確定ヲ缺テ始メテ本條ノ手續ヲ爲スヘキモノトス(學說、評論四卷民訴一五五頁)

◎破産手續ノ競賣ト本條ノ適用

一 破産手續ニ於テ破産管財人ノ申立ニ依ル競賣手續ハ假令其目的不動産評價ノ結果不動産上ノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ル見込ナキモ執行裁判所ハ本條ノ規定ニ拘ハラズ競賣手續ノ履行ヲ爲スヘキモノトス(東京地大正四年最一六卷二九二頁)

◎最低競賣價額ノ算定方

一 最低競賣價額ヲ算定スルニ當リ抵當權ノ設定アルコトハ之ヲ斟酌スヘキモノニ非サルモ賃借權ハ不動産ノ負擔トナルモノト看做シ價額ヲ算定スヘキモノトス(民利局長回答三四年民利第五七八號)

第六百五十八條(競賣期日ノ公告ノ要件)

- 一 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 不動産ノ表示
第二 租稅其他ノ公課
第三 賃借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執

ルヲ以テ之レ以外ノ地上權永小作權等ヲ掲記セサルモ何等違法アルコトナシ(大阪控四〇年法四四八號七頁)

◎競賣公告ト實測坪數 [類題、六八六條]

一 競賣期日ノ公告ニハ競賣ノ目的物件ヲ表示スヘク該目的物件カ土地ナルトキハ之ヲ表示スル爲メ登記簿ニ基キ其所在地名番地等ト共ニ坪數ヲモ記載スヘキモノトス尙其坪數ハ登記簿ニ基キ記載スヘク實測坪數ハ必ずシモ併記スルヲ要セサルモノトス(大阪地四一年法五二三號一三頁)

◎競賣公告ト租稅公課ノ記載

一 競賣期日ノ公告ニハ單ニ租稅其他ノ公課ヲ記載スヘキ旨規定シアリテ競賣期日ノ當時ニ於ケル租稅其他ノ公課ヲ記載スヘシト規定セサルヲ以テ公告ヲ爲ス當時ノ年度ニ於ケル租稅其他ノ公課ヲ記載セハ足レリトス(大阪控四〇年法四五〇號七頁)
二 本條ニ於テ租稅其他ノ公課ヲ競賣公告ノ要件トセシ所以ノモノハ其競賣セラレヘキ不動産ノ公ノ負擔ハ幾何ナリヤチ周知セシムルノ趣旨ニ外ナラサレハ租稅ト

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ： 不動産： 強制競賣

六五八條 [五三八] 七六五

- 達吏ノ氏名並ニ住所
第六 最低競賣價額
第七 競賣期日ノ場所及ヒ日時
第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨
第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨
(以下五三八頁)

◎競賣法ニ依ル競賣ト公告ノ記載

一 競賣法ニ於ケル競賣公告ハ民事訴訟法ニ基ク強制競賣ノ場合ト異リ執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所ヲ記載スルコトヲ要セス從テ競賣法ニ依ル競賣ノ場合ニハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供スルコトヲ要セサルモノトス(函館地四四年法六九六號二四頁)

◎競賣公告ト地上權及永小作權

一 本條ハ競賣期日ノ公告ニ掲記スヘキ事項ヲ列舉シタ

其他ノ公課ヲ區別セス一併シテ公告スルモ違法ニアラス(大阪控三八年法三一七號一一頁)

◎賃借借ヲ公告セシムルノ旨趣

一 本條第三號ノ規定ニ依リ競賣期日ノ公告ニ賃借借ノ期限並ニ借賃ヲ掲載セシムル法意ハ敢テ其物權取得者ニ該賃借借ヲ甘諾セシムルノ趣旨ニ非スシテ其期限ニ依リ或ハ之ヲ引受ケサルヲ得サル場合アリ又ハ之ヲ解除セシメ得ヘキ場合アルコトヲ知得セシムルト其借賃ニ依リ該不動産ノ價格ノ標準ヲ豫知セシムルトナ慮リタルモノニ外ナラス(大審三七年民三六九頁)

◎公告ニ記載ヲ要スル賃借借

一 不動産競賣期日ノ公告ニ記載スルコトヲ要スル賃借借ノ期限並ニ借賃ハ其登記アルカ爲メ競賣人ニ對抗シ得ルモノニ限リ登記ナキ賃借借ニ至リテハ必スシモ之ヲ該公告ニ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス(大審大正三年民三九七頁評論三卷諸法一二三頁)
二 事實賃借借ノ現存スル場合ニ於テハ登記ノ有無ニ拘ラス之ヲ公告スヘキモノナルト同時ニ假令賃借借ノ登記アルモ事實賃借借ノ存セサル場合ニ於テハ之ヲ公告

スヘキモノニ非サルコト文理上極メテ明白ナルノミナ
 ラス其法意ハ競買人ナシテ競賣不動産ノ現在ノ收益ヲ
 知ラシメ以テ其價格ヲ推量セシムルニ在ルニ徴スルモ
 亦疑ヲ容レサル所ナリトス(大阪控四五年法七九〇號
 二二頁評論一卷民訴六七頁)

三 不動産競賣ノ開始決定ハ其性質タル競賣ニ付スル不
 動產ヲ該決定ノ登記アリタル權利狀態ニ於テ賣却スル
 モノニシテ右登記後ニ登記セラレタル賃借權ハ競買人
 ニ對抗スルコトヲ得ス(東京控三八年法三一二號一六
 頁)

四 競賣申立登記後ニ爲サレタル賃借借ノ登記ハ假令民
 法第六百二條ノ期間ヲ超エサルモノト雖モ競買人ニ對
 抗スルコトヲ得ス(東京控三七年法二二七號二〇頁、
 同旨東京控三八年法三一二號一六頁)

.....(以下五三九頁).....

◎假登記賃借ト公告ノ要否

一 第六百七十二條第四號及ヒ本條第三號ニ依リ競賣期
 日ノ公告ニ記載スル事ヲ命セラレタル賃借借ハ其賃借
 權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノノミニ限ル
 而シテ未タ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル假登記ノ賃

借權ニ付テハ之ヲ公告セサルモ不法ニアラス(東京控
 三七年法二〇五號一九頁)

二 假登記アル賃借借ハ競賣期日ノ公告ニ掲クヘキモノ
 ニアラス何トナレハ假登記ハ本登記ニ付キ順位ヲ保持
 スルノ效力アルニ止マリ本登記ノ如ク第三者ニ對抗シ
 得ヘキモノニアラス第三者ニ對抗スルコトヲ得サル權
 利ハ公告ニ掲ケサレハトテ違法ニアラス(東京地三七
 年法二三一號一八頁、同旨東京地大正二年評論二卷諸
 法一三〇頁)

◎一括セル最低競賣價額

一 數個ノ不動産ヲ競賣ニ付スヘキ場合ニ於テハ債務者
 保護ノ規定タル第六百七十五條ノ法意上競賣ヲ適當ノ
 個數ニ止メサルヘカラサル場合アルカ故ニ本條第六ニ
 所謂「最低競賣價格」トアルハ固ヨリ各別ニ最低競賣
 價格ヲ定ムル法意ナリ從テ斯クノ如キ手續ニ依ラサル
 コトヲ理由トスル競落許可決定ニ對スル抗告ハ理由ア
 ルモノトス(東京地三四年法五三號七頁)

二 一棟ノ建物ハ一箇ノ不動産ナリ故ニ數箇ノ建物ノ競
 賣期日ノ公告ニハ必ス各建物ニ付各最低競賣價格ヲ示
 ササルヘカラス之ヲ一括シテ公告スルハ恰モ公告無カ

リシニ同シ(東京地三五年法七三號九頁、同旨金澤地
 三五年法一一一號九頁)

三 競賣手續ニ於テハ數箇ノ不動産ヲ合併シ競賣スルコ
 トヲ得ヘシ故ニ數箇ノ不動産ヲ合併シテ競賣スル場合
 ハ一箇毎ニ最低競賣價格ヲ定メテ公告スルヲ以テ足ル
 モノトス(宮城控四三年最六卷一〇九頁)

四 數箇ノ不動産ト賣却條件(第六七五條)

◎競賣期日ノ變更ト其ノ公告 (類題、五四四頁)

一 競賣期日ヲ變更シタル場合ニ於ケル公告ニハ變更シ
 タル期日ノミチ掲ケルヲ以テ足レリ前同同様一切ノ要
 件ヲ具備シタル公告ヲ爲スノ要ナキモノトス(函館地
 四四年法六九六號二四頁)

二 競賣期日變更後ノ公告ハ其以前ノ公告中ニ指定シタ
 ル期日ノミノ變更ニシテ公告全部ノ變更ニ非ラサルヲ
 以テ單ニ競賣期日ト競落期日トチ公告スルヲ以テ足リ
 本條ニ掲ケタル他ノ要件チ公告スルヲ要セサルモノト
 ス(大阪控四〇年法四五〇號七頁)

.....(以下五四〇頁).....

◎錯誤アル競賣期日公告ノ效力 (類題、六七二條)

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ： 不動産： 強制競賣

六五八條 六五九條 (五四〇) 七六七

一 競賣期日公告ニ表示セル數箇ノ物件中其一箇ノ表示
 ニ誤記アルトキハ其誤記ノ物件ニ對シテハ公告ナキニ
 等シケレハ競落不許可ノ決定ヲ爲スヘキモノナレトモ
 其事由ハ以テ完全ニ表示セラレタル他ノ物件ニ對シ何
 等ノ影響チ及ボササルモノトス(神戸地四二年法五九
 八號一三頁)

二 公告事項ノ遺脱ト競落ノ效果(第六七二條)

第六百五十九條 (競賣ノ期日及其開始ノ場所)

1 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可
 シ

2 此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所
 ニ於テ執達吏チシテ之ヲ開カシム

◎競賣期日ノ變更ト十四日ノ期間

一 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少クトモ十四日ノ後タルヘ
 キコトハ第一ノ期日及ヒ新競賣期日等ノミニ限ルヘキ
 モノニアラスシテ第一ノ期日ヲ變更シタル場合ニ於テ
 モ亦必ラス本條ヲ適用セサルヘカラサルコトハ其期日
 チ公告スルコトト爲シタル趣旨ニ照ラシ明白ナリトス
 (宮城控三六年法一五四號一〇頁)

第六百六十一條 (競落期日ノ公告箇所)

- 1 競落期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス
 - 第一 裁判所ノ揭示板
 - 第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板
- 2 此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

◎競賣公告ノ抵觸 (揭示板ト新聞紙ト)

- 一 不動産ノ競賣手續ニ於テ新聞紙ニ依ル公告ハ裁判所又ハ物件所在地役場ノ揭示場ニ於ケル公告ニ對シ補充的ノモノタルニ過キス從テ裁判所又ハ物件所在地役場ノ揭示場ニ於ケル公告ニハ競賣ノ建物ヲ土藏ト表示シ新聞紙ニ依ル公告ニハ之ヲ木藏ト表示シアリトスルモ以テ其競落許可決定ヲ不當ナリト謂フヲ得ス (東京地大正三年法九七五號二四頁、同旨東京地大正三年評論三卷諸法一四四頁)
- 二 公告シタル事實ト明記ノ要否 (第六七九條)

第六百六十二條 (賣却條件ノ變更)

- 1 最低競賣價額ヲ除外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更

ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

◎賣却條件ノ意義 [類題、五四五頁競三〇條]

- 一 賣却條件トハ競賣裁判所カ競賣ノ目的タル債務者ノ不動産ノ所有權ヲ對價ヲ得テ競落人ニ移轉スルニ必要ナル條件ニシテ競落人ノ權利義務ヲ定ムル項目ヲ指稱スルモノナレハ競賣ヲ實施スル時期ニ過キサル競賣期日ハ之レテ賣却條件ト云フヲ得ス (函館地四四年法六九六號二四頁)
- 二 數箇ノ不動産ト賣却條件 (第六七五條)

◎競賣期日ノ職權變更 [類題、競三〇條]

- 一 裁判所ハ一旦競賣期日ヲ指定シタル後ニ至リ之ヲ不適當ト認メタル時ハ其期日ヲ變更シテ更ニ適當ナル期日ヲ指定スルコトヲ得ルモノトス (東京地大正四年法九九三號二一頁)
- 二 競賣期日ノ變更ト其公告 (第六五八條)

第六百六十三條 (期日ニ於ケル競賣實施ノ手續)

- 1 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

◎競賣期日ノ開始ト公告時刻トノ關係

- 一 不動産競賣期日ノ公告ハ其指定セラレタル時刻ヨリ競賣手續ヲ開始シ得ヘキコトヲ定メタルモノニシテ同時刻ニ必ス之ヲ開始スルコトヲ要スル旨趣ニ非サルモノト解スルチ相當トス (大審大正六年民一〇六九頁)

◎競賣期日ノ開始ト競買申出ノ催告

- 一 競買價額申出ノ催告ハ競賣期日ヲ開キ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタル瞬間ニ於テ爲スチ妨ケサルモノトス (東京地大正四年法九九三號二一頁)

◎不動産ノ競賣期日ノ續行

- 一 執達吏カ不動産競賣ヲ爲ス場合其期日ニ於テ競賣完結セサルトキト雖モ翌日ニ續行スルコトヲ得サルモノトス (民利局長回答四二年民利第二四八號)

第六百六十四條 (競賣申出ニ對スル保護)

- 1 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメシメコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス
- 2 右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

◎一人ノミノ競買人ト競賣ノ適否

- 一 競賣ノ目的タル素ト競買ヲ欲スル多數ノ者ヲ競爭セシメ成ルヘク高價ノ申出ヲ爲サシメントスルニ在ルモ偶々其競賣期日ニ至リ競買ノ爲メニ出頭スル者唯々一人ノミナリトノ事由ヲ以テ競賣ヲ不能ニ終ラシムルハ法ノ精神ニ非ス一人ニテモ最低競賣價額ヲ下ラサル競買ノ申出人アリテ一時間ノ競賣期間中他ニ申出人ナキトキハ之ヲ以テ最高價ノ競買人ト爲シ之ニ對シ競落ヲ許可スヘキモノトス (東京地三七年法二五三號一一頁)
- 二 假令競買申出人カ一人ノ外出頭セサリシトスルモ其

申出タル競買價格カ最低競買價格以上ナル限リ其競買人ハ最高競買人ニ外ナラス(大阪控四二年最四卷八七頁)

◎競賣申立ノ代理人ト競買能力

- 一 被控訴人ハ合名會社虎屋銀行ヨリ係争不動産ノ強制競賣申立ヲ爲ス行爲及ヒ代金受領其他該申立ニ付キ必要ナル行爲一切ヲ委任セラレタリト認メ得レトモ強制競賣ニ於ケル賣主ハ強制競賣ノ目的タル不動産ノ所有者ニシテ強制競賣ノ申立人ニ非サルニ付キ被控訴人カ競落人ト爲リタレハトテ法律行爲ニ付キ相手方ノ代理人ト爲リタリト云フヲ得ス(大阪控大正元年法八六三號二五頁)
- 二 競賣ノ場合ニ於ケル賣主ハ競賣ヲ申立テタル債權者ニ非スシテ競賣ノ目的物ヲ所有スル債務者ナレハ債權者ノ代理人トシテ競賣ノ申立ヲ爲シタル者カ競落人ト爲リタリトテ民法第百八條ノ規定ニ抵觸スルモノニ非ス(大審大正二年民四〇一頁)

……………(以下五四二頁)……………

◎保證ヲ立テシメンコトノ申出時期

履行ノ結果再競賣ヲ爲スニ因リ生シタル損害ヲ擔保スル性質ヲ有スルモノニシテ前ノ競落人ヲシテ不足額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔セシムヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ眞キニ供託セシメタル保證金ニ付テノ處分ヲ爲スヘキハ當然ナリ(東京控三五年法一一四號一〇頁)

◎競買保證金下付ノ請求ト無訴權

- 一 裁判所ニ對シ競買保證金ノ下付ヲ求ムル訴ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス(大阪控四四年法七四六號二五頁)

第六百六十六條 (競賣終局ノ方式)

- 1 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ
- 2 他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

◎他ノ競買申出ヲ妨害セシ競買ノ效力

- 一 不動産ノ強制競賣ノ現實競買ノ申出ヲ爲シタル者ノ

一 本條ニ於テ利害關係人ノ爲ス競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトノ申出ハ競買價額ノ申出アリタル後直ニ之ヲ述フルコトヲ要スル旨ノ規定ハ保證ヲ立テシムルコトノ申立ニ藉リテ利害關係人カ或ル競買人ノ競落ヲ不當ニ妨害セントスルヲ防止セントスルニ出テタルモノナルヲ以テ競買價額ノ申出アリタル後即時ニ爲スヲ要スルノ意ニアラス故ニ荷クモ次ノ競買價額ノ申出ナキ以前若クハ競賣期日ノ終了前ニ爲シタル申立ハ適法ナリ(長崎地四二年法五八四號一五頁)

◎共同競買ノ申出ト競買人ノ意思 (題題、競三二條)

- 一 不動産競賣ノ場合ニ於テ數名ノ競買人カ共同シテ競買ノ申出ヲ爲シタルトキハ共同競買人ハ代金支拂ニ付キ不可分若クハ連帶ノ義務ヲ負擔シテ其申立ヲ爲シタリト看做スヘキ法規ナキヲ以テ共同競買人ノ意思ハ不可分若クハ連帶ノ義務ヲ負擔スルニ在ルヤ又ハ平等ノ割合ノ義務ヲ負擔スルニ在ルヤハ事實認定ノ範圍ニ屬スルモノトス(長崎控大正二年法八七一號二六頁)

◎競買保證金ノ處分

- 一 最高價競買人ノ供託シタル保證金ハ競買人カ義務不

中ニ就キ最高價競買人ヲ定メテ之ヲ終局スヘキモノナレハ他ニ一層高價ニ競買セント欲シタル者カ競買申出人ノ妨害ニ因リ競買ノ申出ヲ爲サザリシ事實アルモ現ニ最高價ノ競買ヲ申出タル者ヲ眞正ノ最高價競買人トシテ終局シタル競賣ノ效力ハ之カ爲メニ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス(大審四二年民五一三頁)

- 二 假令競落人カ他ノ競買者ノ競買價額申出ヲ妨害シタルカ爲メ途ニ競落人ト爲リタリトスルモ其事由ヲ以テ該競落人ハ競買物件ノ所有權ヲ適法ニ取得シタル者ニアラスト爲スコトヲ得ス(大阪控四二年最四卷一〇六頁)

……………(以下五四三頁)……………

第六百六十七條 (競賣調書ノ要件)

- 1 競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 第一 不動産ノ表示
 - 第二 差押債權者ノ表示
 - 第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

- 第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
- 第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許シ可キ競買ノ申出ナキコト
- 第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時
- 第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト
- 第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト
- 2 最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルキハ其旨ヲ附記ス可シ
- 3 競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ

◎瑕疵アル競賣調書ト抗告理由

- 一 競賣調書ニ競買人ノ住所ノ記載ヲ最高價競買人ニ止

メ其他ハ單ニ氏名ノミヲ表示シタルハ無効ノ調書ナリ
〔競落許可決定ニ對スル抗告ハ理由アリトス〕 (長崎控四四年法七二八號二三頁)

- 二 競賣調書ニ第六百六十七條ニ記載スルカ如キ要件ヲ記載セス又ハ保證金受取證ヲ添附セザリシト云フカ如キハ競賣法ニ依ル競落ヲ許ス決定ニ對スル抗告適法ノ理由中ノ何レニモ該當セサルヲ以テ之ヲ理由トスル抗告ハ棄却スヘキモノトス (東京地大正三年評論三卷諸法一九一頁)

◎不要ノ署名捺印ト競賣調書ノ效力

- 一 競賣調書ニ債權者ノ代理資格ナキ者ノ署名捺印アルモ之カ爲メニ該調書ノ無効ヲ惹起スルモノニ非ス (大審大正二年民三五七頁)

…… (以下五四四頁) ……

第六百七十一條 (競落期日ニ於ケル手續)

- 1 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ
- 2 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ

亦同シ

◎競落期日ノ變更ト其ノ公告 (類題、五三九頁)

- 一 競落期日ヲ變更シタル場合ニハ必ス其旨ノ公告ヲ爲スヘキモノニシテ此手續ヲ缺如シタル競落期日ニ競落許可決定ヲ爲スハ失當ナリ (長崎地四三年法六八六號二二頁)

◎競落許可決定ニ對スル異議ノ許否

- 一 競落許可ニ付テノ異議ナルモノアルモ競落許可決定ニ對スル異議ナルモノナシ故ニ新ル異議申立アルトキハ許シ可カラサルモノトシテ之ヲ却下スヘキモノトス (大審大正四年民一一〇頁評論四卷民訴七二頁)
- ◎第六八〇條「異議申立トアル即時抗告ト其ノ訂正」參照

附 民事訴訟法ハ競落ノ許可ニ付テノ異議及ヒ競落ノ許可若クハ拒絕決定ニ對スル即時抗告ハ之ヲ認ムルモ競落許可決定ニ對スル異議ナル制度ハ之ヲ認ムルコトナシ (學說、評論六卷民訴二九六頁)

第六百七十二條 (競落許可ノ異議ノ理由)

- 1 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス
 - 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
 - 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
 - 第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
 - 第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
 - 第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
 - 第六 第六百五十九條ニ規定シタル期日ヲ存セザリシコト
 - 第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
 - 第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナ

◎本條ニ省略シタル判例

- 一 他ノ競買申出ヲ妨害セシ競買ノ效力(第六六六條)
- 二 競落許可決定ニ對スル抗告理由(第六八〇條六六一條)

……………(以下五四五頁)……………

◎強制執行ヲ許スヘカラサル場合

- 一 本條第一號ニ所謂強制執行ヲ許ス可カラサルコトトハ實體的要件ノ欠缺セル場合ノミナラス其形式的要件ヲ具備セサル場合ヲモ包含セシメタル法意ナリトス而シテ事實ニ吻合セサル公正證書ハ前記ノ要件ヲ缺如シ所謂強制執行ヲ許スヘカラサルモノニ該當ス(大阪地四五年法八〇七號二六頁、同旨大阪控四一年法五四五號一六頁)
- 二 本條第一號ニ所謂執行ヲ續行ス可カラサル場合トハ其事由方實體的タルト形式的タルトニ論ナク執行手續ヲ停止シ又ハ取消スヘキ場合ハ總テ之ヲ包含シ從テ第

六百五十六條ノ如キ場合モ亦之ニ該當スルモノトス

(岐阜地大正三年評論三卷民訴二八二頁)
三 本條第一號ノ規定ヲ不動産競賣ニ準用スル場合ニ於テハ本法ノ如キ制限存セサルヲ以テ右第一號ニ所謂強制執行ヲ許ササルコトトハ競賣ノ基本タル權利ノ存在ヲ爭フ如キ場合モ亦之ニ包括スルモノト解スルヲ允當トス(長崎控四一年法四八三號九頁)

◎執行裁判所ニ實體權ノ審査權ナシトスル判例(大阪控三七年法二三七號二三頁)

- 四 競賣ノ基本タル債務力辨濟ニ依リ消滅シタル事實ハ即チ本條第一號ニ所謂執行ヲ續行スヘカラサル場合ニ該當スルモノトス(東京控四〇年法四四七號七頁)
- 五 抵當權者ハ假登記權利者ノ濫除ノ通知ヲ受クルモ増價競賣ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テ競賣ハ許スヘキモノニアラスト主張スルハ競賣法第三十二條第二項本條第一號ノ事由ニ該當スルモノトス(大審大正五年民一〇七九頁評論五卷民訴一九三頁)

◎賣却條件ノ意義 (類題、五四〇頁)

- 一 本條第三號ノ法律上ノ賣却條件トハ本法ニ規定シタル賣却條件ノ義ニ外ナラス而シテ本法中民法第三百八

十九條ノ如キ規定ナキヲ以テ民法ノ該規定ハ本法ノ所謂法律上ノ賣却條件ト稱スヘカラス故ニ民法第三百八十九條ノ場合ニ於テ土地ト建物ヲ別異ノ人カ競買スルモ違法ニアラス(大阪控三八年法二六八號一〇頁)

二 數個ノ不動産ト賣却條件(次頁)

◎錯誤アル競賣期日公告ノ效力 (類題、六五八條)

- 一 競賣期日ノ公告ニハ競賣スヘキ不動産ヲ表示スルコトヲ要スルモノニシテ之ニ表示セラレタル不動産カ競賣スヘキ不動産ト全然相違スル場合ニ於テハ競賣期日ノ公告ニ競賣スヘキ不動産ノ表示ナキニ歸シ第六百八十一條第二項及ヒ本條第四號ニ依ル抗告ノ理由トナルモノトス(大審大正四年民二一一二頁評論五卷民訴九五頁)

◎公告事項ノ遺脱ト競落ノ效果

- 一 第六百五十八條列記ノ事項ヲ不動産競賣期日ノ公告ニ遺脱スルモ其競落ノ許可ニ付テ異議ノ申立ナク裁判所モ亦之ヲ看過シテ競落許可ノ決定ヲ爲シタルトキハ瑕疵ナキ決定ト同一ニ歸シ當然無効ノモノニ非ス(大審三二年民一〇卷九五頁)

第六百七十三條(異議ノ理由タル利害關係)

1 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

◎請求ニ關スル異議ノ理由 (第五四五條ノ判例參照)

……………(以下五四六頁)……………

第六百七十五條(競落ノ必要程度)

- 1 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス
- 2 此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

◎本條ノ法意

- 一 本條第一項ハ例ヘハ甲乙丙ナル三箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ甲及乙ナル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足

ルトキハ丙ナル不動産ニ付テハ競落ヲ許サストノ法意ナルカ故ニ甲及乙ナル不動産ヲ以テ辨濟及執行費用ヲ償フニ足ラサルトキハ他ノ丙ナル不動産ヲモ一括シテ之ヲ競賣スルヲ得ヘキコト明カナリ(大阪地四五年法八〇七號二六頁)

◎本條ノ「各債權者」ノ意義

一 本條ニ所謂各債權者中ニハ執行權利者及ヒ其優先權利者以外ノ債權ヲ包含セサルモノトス(岐阜地大正三年評論三卷民訴二九三頁)

◎數箇ノ不動産ト賣却條件

一 數箇ノ不動産ヲ競賣スルニ當リ果シテ其賣得金カ右所要ノ額ニ達スルヤ否ヤハ各一箇毎ニ之ヲ競賣スルニ依リ判明シ得ヘク若シ之ヲ一括シテ競賣スルトキハ其何レノ不動産ニヨリ右所要ノ賣得金ヲ生シタルモノナリヤ其分界ヲ知了シ難キヲ以テ右ノ場合ニ各一箇ノ不動産ニ付キ競賣ニ付スルコトハ其不動産ノ所有權ヲ移轉スルニ付テノ一ノ條件ニシテ即法定ノ賣却條件ト稱スヘク從テ之ヲ變更セントスルニハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得ルコトヲ要ス(大阪地大正二年法八七〇號

一八頁評論二卷民訴二〇九頁同旨大阪地四五年法七八一號二七頁大阪地三五年法九六號七頁)
二 數箇ノ不動産ヲ競賣スル場合ニ於テハ其數箇ノ不動産ヲ各別ニ競賣ニ付スヘキコトハ民事訴訟法ニ所謂賣却條件ニシテ之ヲ變更スルニハ利害關係人ノ總テノ合意ヲ要ス(神戸地四二年法六一三號九頁)
三 建物カ數棟アルモノノ建物ニ附屬セル關係アリテ登記簿上ニモ一用紙ニ記載セラレアル場合ハ之ヲ一箇ノ不動産ト稱スヘキモ登記簿上二用紙ニ區分シテ登記アル場合ハ假令同一番地上ニ存在スル場合ナリト雖モ之ヲ二箇ノ不動産ト謂ハサルヘカラス(大阪地大正二年法八七〇號一八頁)
四 一括セル最低競賣價額(五三九頁)
附 過分ニ數箇ノ不動産ニ對シ差押ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(學說、評論三卷民訴一五九頁)

◎或不動產ノミノ競落ノ適否 (類題、競三二條)

一 競賣法ニ依ル競賣ニ於テモ本條ニ依リ裁判所カ競賣ニ付セラレタル數箇ノ不動産中或不動產ノミノ競落ヲ許可スルニ當リ其或不動產ノ賣得金カ債權及ヒ競賣費用ヲ償フニ足ル以上競落ヲ許スヘキ不動産ノ選擇ハ專

ラ裁判所ノ自由ナル意見ニ依リテ定ムヘキモノトス(大審大正三年民六六七頁)

二 四筆ノ土地ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ其内二筆ニテ債權全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキトキハ其二筆ノミニ付キ抵當權ノ實行ヲ爲スコトヲ得(法曹會決議大正二年二三卷四號五二頁)

………(以下五四七頁)………

第六百七十八條 (事變ニ基ク競買ノ取消)

1 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産力著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上テ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

◎天災其他ノ事變ニ因ル競買ノ取消

一 天災其他ノ事變ニ因ル競買ノ取消ハ競落許可決定前ニ限リ之ヲ爲シ得ヘク其決定後ニ在リテハ縱令本條ニ規定セル條件ヲ具備スルモ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス(大審大正四年民一一〇八頁)

第六百七十九條 (競落許可決定ノ要件)

1 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ
2 右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

◎事實不存在ノ建物ト競落

一 競落ニ因リ取得シ得ル物件ハ競賣開始決定ニ表示セラレタル物件ナルコトヲ要シ競落許可決定ニ表示セラレタル物件ニ限ルヘキハ勿論ニシテ任意賣買ノ場合ト異リ賣買ニ干與シタル者ノ所信如何ニ因リ何等ノ影響ヲ受ケヘキモノニ非ス(神戸地大正六年評論六卷民訴二二〇頁法一二三三號二四頁)
二 不動産ノ競落ト實測坪數(第七〇〇條)

◎一括セル競落價額ノ表示

一 不動産競落許可決定ニハ必ス各不動産毎ニ其競落價額ヲ掲ケ可シトノ法令ナキヲ以テ該決定ニ競落ヲ許シタル競買價格ヲ一括シテ掲ケルモ違法ニアラス(東京

公告シタル事實ト明記ノ要否

一 競落許可決定ハ裁判所カ事實上同廳ノ揭示板ニ揭示公告シタル事實ノ存スルヲ以テ足り一件記録ニカ明記ヲ要スルモノニアラス(東京地大正四年最一六卷三五〇頁)

(以下五四八頁) ……

第六百八十條(競落許可ノ決定ト即時抗告)

- 1 利害關係人ハ競落ノ許可ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
2 競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得
3 右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
4 第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テ

害關係人及ヒ競賣人ノ何レニモ該當セサルヲ以テ同法ニ依ル競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(東京地大正三年評論三卷諸法一九〇頁)

「異議申立」トアル即時抗告ト其ノ訂正

一 或申立カ實質上競落許可決定ニ對スル抗告ナルトキハ縱令其申立書ニ「異議申立」ナル文字アリト雖之ヲ抗告トシテ取扱フヘキモノナレハ申立人ハ抗告期間經過後ト雖モ右文字ヲ「抗告申立」ト訂正スルカ如キ單純ナル字句ノ修正ハ有效ニ之ヲ爲シ得ヘキモノトス(大審大正四年民一一〇頁、同旨學說、評論六卷民訴二九七頁)

競落許可ノ決定ト抗告理由 [類題、六八一條]

- 一 競賣法第三十二條及ヒ本條ニ依リ競落許可決定ニ因リ損失ヲ被リタリトシテ抗告ヲ爲スニハ次條ノ要件ヲ具備スルコトヲ要スルモノトス(大審大正六年民四一八頁評論六卷民訴一一九頁)
二 強制執行ニ因ル不動産ノ競落ヲ許ササル決定ニ對シテハ該決定ニ因リ損失ヲ蒙ルヘキ場合ニ限リ抗告ヲ爲シ得ルモノトス(大審大正五年民一一五三頁評論五卷

タル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競落許可決定ト抗告權利者 [類題、競三二條]

- 一 不動産ノ強制競賣ニ於テ競落許可決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ル利害關係人ハ第六百四十八條ニ規定セル第一號乃至第四號ノ者ニ限ル故ニ不法占據者ニ對シテ地所明渡ノ訴訟ヲ提起シ又ハ其原狀ノ變更ヲ防止スル目的ヲ以テ家屋ノ所有權讓渡ヲ禁止スル假處分命令ヲ得タル者ハ競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ス(大審三七年民九〇七頁)
二 債務者カ不動産ノ競落許可決定ニ對シテ抗告ヲ爲スニハ本人法定代理人若クハ其委任ニ因ル代理人等ノ外之ヲ申立ツルコトヲ得ス故ニ單純ノ事務管理人ニ於テ本人ノ爲メニ申立テタル抗告ハ不合法ナリ(大審三九年民一一七八頁)
三 競賣手續ノ利害關係人ニアラス又不動産上ノ權利者ニモアラサル者ハ競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スノ權利ヲ有セサルモノトス(東京地三九年法三四三號一七頁)
四 競賣不動産ニ付キ賃借權ヲ有スル者ハ假令之カ登記ヲ爲シタルトキト雖モ競賣法第二十七條ニ擧ケタル利

民訴三二七頁)

- 三 不動産ノ所有者ハ競賣手續ニ於ケル利害關係人ニシテ競落許可ノ決定アルトキハ其所有權ヲ喪失スヘキ地位ニ在ルヲ以テ競賣法第三十二條第二項本條第一項ニ所謂競落ノ許可ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ルヘキ場合ニ該當スルモノトス(大審大正五年民一〇七八頁評論五卷民訴一九三頁)
四 債務者ノ死亡シタルコトヲ知ラスシテ其氏名ヲ競落許可決定ニ記載シタリトテ如此理由ハ之ヲ違法トシテ抗告理由ト爲スヲ得ス(大阪地四四年法七三五號二四頁)
五 登記簿記入ノ誤謬ト抗告理由(第六五一條) …… (以下五四九頁) ……

限定承認ノ清算中ト競落許可

- 一 債務者ノ相續人カ相續ノ限定承認ヲ爲シ其承認ニ基ク清算中ナリトスルモ抵當權者ノ申立ニ基ク競落許可決定ヲ爲スノ妨ト爲ルモノニ非ス(大阪地四四年法七三五號二四〇頁)

抗告ノ不變期間ノ進行

一 競落許可決定ニ對スル抗告ニ付テノ不變期間ハ他ノ利害關係人ノ爲シタル抗告ニ因リ停止セラレルモノニ非ス（大審大正四年民二〇三七頁評論五卷民訴八頁）

◎競賣法ノ再抗告ト其ノ理由〔類題、三八四頁〕

一 競賣法ニ原由スル抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ハ非訟事件手續法第二十四條ノ規定ニ從ハサルヘカラス即チ法律ニ違背シタル事以外ノ理由ヲ以テ再抗告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス（名古屋控四一年最二卷四六頁）

二 競賣事件ノ審理手續ト準據法（三八二頁）

◎競落ニ關スル抗告ト決定理由

一 本條ニ依リ利害關係人カ競落許可決定ノ爲メ損失ヲ被ムルヘキモノトシテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テモ裁判所カ抗告人ニ於テ次條第二、三項所掲ノ理由ノ執レテモ主張セサルコトヲ判示シタル以上ハ其被ムルヘキ損失ノ有無ニ付キ判斷セサルモ不法ニ非ス（大審大正五年民一〇〇九頁）

第六百八十一條〔競落許可否ノ決定ト抗告理由〕

果チ來スヘキコトヲ理由トシテ右競落許可ノ決定ヲ許ササルハ違法ナリ（大阪地四四年法七三七號二五頁）

三 競賣ノ目的物カ債務辨濟ノ用ニ供シ得ヘキモノナルコトハ競賣執行ニ關スル實體的要件ナレハ此ノ要件ノ欠缺ハ競落許可決定ニ對スル抗告ノ理由タリ（東京控四三年法六四一號一一頁）

四 競賣開始決定ニ對スル抗告ヲ棄却シナカラ全ク之ト同一ノ理由ニ基ク競落許可ノ決定ニ對スル抗告ヲ認容スルモ違法ニアラス（同上）

五 競賣ノ場合ニ於テ債務者ニ對シ競賣期日ノ通知ヲ缺クカ如キ事項ハ第六百七十二條所定ノ事由ニ該當セサルヲ以テ斯ル事由ヲ以テ不動産競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ス（奈良地大正元年法八三三號二三頁）

六 競買代價ノ低廉ナルコトヲ競落許可決定ニ對スル抗告理由トスルコトハ民事訴訟法上許容スヘキモノニ非ス（東京地三四年法四八號一三頁）

七 單ニ不動産カ詐欺ノ手段ニ罹リ格外ノ低價ニ競賣セラレタリト云フニ過キササル場合ハ抗告理由ト爲ラサルモノトス（大審大正三年民四頁評論二卷諸法一五八頁）

八 瑕疵アル競賣調書ト抗告理由（第六六七條）

1 競落許可ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

2 競落許可シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調査ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

◎競落許可決定ニ對スル抗告理由〔補遺六八一條〕

一 不動産競賣事件ノ競落許可決定ニ對スル抗告ハ第六百七十二條ニ掲ケタル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調査ニ牴觸シタルコト又ハ取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得（大審大正三年民四頁、同旨東京地三四年法四八號一三頁大審大正五年民一〇〇九頁評論五卷民訴二九〇頁）

二 一括シテ競賣ニ付シタル結果競落代金配當不能ノ結

九 錯誤アル競賣期日公告ノ效力（五四五頁）

……………（以下五五〇頁）……………

◎後見人ノ競賣抗告ト親族會ノ同意

一 競賣法ニ原由スル抗告ハ原來非訟事件ニシテ訴訟行爲ノ範圍ニ屬スル性質ノモノニ非ス故ニ後見人カ被後見人ニ代リ競賣法ニ依リ競落許可決定ニ對シテ爲ス抗告ニハ敢テ親族會ノ同意ヲ要スルモノニ非ス（名古屋控四一年最二卷四六頁）

第六百八十二條〔競落許可否ノ抗告ノ審判〕

1 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

2 一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

3 第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

◎競賣事件ノ審理手續ト準據法〔類題、三八二頁〕

一 競賣法ニ依ル不動産競賣事件ニ付キ抗告裁判所カ競

賣法第三十二條第二項及ヒ本條第一項ニ依リ口頭審理ヲ爲ス場合ニハ非訟事件手續法ニ依ルヘキモノニ非スシテ本法ノ規定ニ從フヘキモノトス(大審大正三年民六三二頁)

◎抗告裁判所ノ審判 (類題、三九〇頁)

一 最高價競買人カ不動産ノ競落ヲ許可セストノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テ抗告裁判所カ右抗告ヲ適法ニシテ理由アリト爲スニ於テハ前記決定ヲ廢棄スルト同時ニ宜シク第六百七十七條ニ從ヒ自ラ競落ヲ許ス旨ノ決定ヲ爲スカ又ハ之カ裁判ヲ前審ニ委任スル旨ノ決定ヲ爲スノ必要アルモノトス(大審大正四年民一三六九頁評論四卷民訴二一九頁)

………(以下五五一頁)………

第六百八十六條 (競落ニ因ル所有權ノ取得)

一 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

◎本條ニ省略シタル判例

一 競落人ノ登記抹消請求權(第七〇〇條)
二 家屋ノ競賣ト疊建具(第六四二條)

◎假登記ト競落許可決定トノ關係 (類題、六四二條)

一 競賣開始決定ノ記入登記以前ニ爲シタル假登記ハ其後競落許可決定アルモ其效力ヲ失フヘキニ非サルヲ以テ假登記權利者ハ競落ニ因ル所有權取得者ニ對シテモ假登記ノ效力ニ基キ其所有權取得登記ノ抹消ヲ求メ得ヘキモノトス(大審大正六年民一四四五頁評論六卷諸法三一九頁)

二 債權者カ第六百四十三條ノ規定ニ從ヒ登記簿上ノ現所有者ヲ以テ債務者トシテ適法ニ強制競賣ヲ申立テ競賣手續完了シタル以上ハ縱令其進行中假登記ニ於テ本登記ヲ爲スモ之カ爲メニ競賣手續ヲ不適法タラシムヘキ理ナケレハ競落人ハ競落許可決定ニ因リ不動産ノ所有權ヲ取得シ其不動産ハ登記簿ニ記入スヘキ總テノ負擔ヲ免ルモノトス(大審四二年民六二頁)

三 假登記名義人ト利害關係人(第六四八條參看)

四 不動産ノ競賣開始以前既ニ抵當權ノ假登記アリタル以上ハ縱令競賣手續進行中ト雖モ其設定ノ本登記ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(東京控四三年法六六六號一一

頁最七卷八六頁)

五 強制競賣ノ申立後所有權移轉ノ本登記ヲ爲シタル者ハ縱令其所有權移轉ノ請求權保全ノ假登記カ強制競賣申立前ニ爲シタリトスルモ其後ニ競落許可決定ニ因リ所有權ヲ得タル競落者ニ對抗スルコトヲ得ス(大阪地大正元年法八〇五號二六頁)

◎競落後ニ於ケル本登記ノ手續

一 不動産競落ノ後假登記權利者カ所有權取得ノ本登記ヲ爲サントスルニハ先ツ競賣人ニ對シ其所有權取得ノ登記抹消ヲ求メ其手續ヲ經タル後原所有者ヲ登記義務者トシテ本登記ヲ爲スコトヲ要スルモノトス(大阪控大正五年最一九卷二八頁)

◎差押物件ト權利取得ノ效力 (類題、六五〇條)

一 競落人ハ競賣申立登記アリタル當時ノ權利狀態ニ於テ不動産ノ所有權ヲ取得スヘシ該登記後ニ登記セラレタル不動産上ノ權利ハ競落人ニ對シ其ノ效力ナキモノト爲ササルヘカラス(東京控三七年法二四八號六頁)
二 差押債權者カ差押不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テハ抵當權實行ト同シク其抵當權ノ後ニ設定セラ

レタル物上擔保權ナルモノハ差押債權者ニ對シ其設定ナキト同一ノ狀態ニ於テ競賣ニ付セラレ之カ競買人ハ右擔保權ノ存在セサル狀態ニ於ケル不動産ヲ取得シ同時ニ其擔保權ハ總テ消滅スルモノト云ハサルヘカラス(大阪控三八年法二六九號六頁)

◎競落不動産ト所有權ノ取得

一 競落者ハ競落許可決定ニ因リテ直ニ不動産ニ對スル所有權ヲ取得スルモノト見ルチ相當トス但抗告其他ノ理由ニ依リ決定確定ニ至ラサルトキハ其權利モ亦解除セラレモノトス(東京地三四年法六三號八頁)

◎次頁「競落許可決定ノ效力」參照

二 競賣法ニ因ル競賣ハ競落許可決定ノ言渡アリタルトキ始メテ賣買力成立シ競賣ノ目的タル權利カ買主ニ移轉スルモノトス(東京控四〇年最二卷四七頁)

………(以下五五二頁)………

◎競落許可決定ノ效力

一 競落許可決定ハ直接ニ競賣ノ目的物タル不動産ノ所有權ヲ競落人ニ付與スルト共ニ之レカ間接ノ效果トシ

テ原所有者ノ所有權ハ消滅スルモノトス(長野地松本支部四〇年法四四一號六頁)

◎代金ノ支拂ト所有權ノ移轉 (類題、前頁)

一 競落代金支拂ノ時期ハ競賣不動産ノ所有權移轉ノ時期ト何等ノ關係ナク只競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ目的不動産ノ引渡ヲ求ムルヲ得サルニ止マルノミ從テ目的不動産力競落許可決定以後ニ於テ滅失毀損シタルトキハ其危險ハ固ヨリ競落人ノ負擔スヘキモノトス(東京地大正六年法一二七一號二八頁)

◎家屋ノ競落ト地上權トノ關係 (類題、五三〇頁)

一 競落決定ハ其目的タル權利ヲ競落人ニ移轉スルモノニシテ其決定ニ宣言セサル權利ハ如何ナル權利ト雖モ競落人ニ移轉スルモノニ非ス故ニ家屋ノ競落ニ依リ當然地上權ヲ取得シタリト云フヲ得ス(東京地三四年法四六號一三頁)

◎家屋ノ競落ト敷地ノ使用權

一 競落許可ノ決定ニヨリ競賣家屋ノ所有權力競落人ニ移轉スルトキハ競賣家屋ノ所有者タリシ者ハ競落人ニ

對シ該家屋ノ引渡保管其ノ他敷地ニ關スル借地權ノ設定又ハ移轉等賣主ト同一ノ義務ヲ負擔スルニ至ルモノトス(東京地大正三年法九八〇號一八頁)

二 競賣家屋ノ所有權力敷地ノ所有權ト異リ該家屋ノ所有者ノ有シタリシ借地權力讓渡禁止ノ貸借權ナル場合ニ於テハ其ノ借地權ヲ家屋競落人ニ移轉スルコト能ハサル結果トナルモ競落人ニ對シ其ノ借地權ノ内容タル土地ノ使用ハ之ヲ許容スルノ義務アルモノトス(同上)

◎敷地明渡ノ訴訟中ナル建物ノ競落

一 他人ノ地所ニ建設シアル建物ノ強制競賣ノ場合ニ告示ニ因リ地所所有者ト被競賣者トノ間ニ於テ地所明渡ノ訴訟中ナル事實ヲ了知シタル上之ヲ競落セシメタルトキハ其競落人ハ地所所有者ヨリ確定判決ノ結果トシテ明渡ヲ請求セラレルモノニ對シ異議ヲ唱フル權利ナシ(大審三三年民九卷二一頁)

◎坪數相違ノ競落ト不當利得 (類題、六五八條)

一 不動産ノ競賣ハ特定ノ不動産ヲ競賣スルモノナルヲ以テ之ヲ競落シタル者ハ其目的タル不動産全部ノ所有

權ヲ取得ス即チ競賣期日ノ公告ニ掲ケタル坪數力實際ノ坪數ト相違スルモ競落人ハ坪數力不足スルト超過スルトト相違ハ其特定不動産ノ全面積ノ所有權ヲ取得スルモノトス故ニ如何ニ實際ノ坪數力超過スルモノ之ヲ以テ不當利得ト爲スコトヲ得ス(大阪控四一年最三卷一〇〇頁法五三三號一五頁)

二 競賣ノ申立ハ實測坪數百七十餘坪ノ土地全體ニ對スルモノニシテ其手續ニ因ル競落人ハ土地全體ノ所有權ヲ取得スヘキモノトス(東京地大正三年評論三卷民法一八四頁)

◎競賣手續ト代位辨濟トノ關係

一 抵當權者ノ爲シタル競賣申立ハ其後ノ代位辨濟ニ依リ當然其效力ヲ失フモノニ非サルヲ以テ競賣裁判所ハ其目的タル不動産ニ付キ代位辨濟ノ附記登記アルモ依然其手續ヲ進行セサルヲ得サルヘク又競落許可決定ニ依リ競賣完結シタルトキハ其登記ヲ囑託スヘキモノニシテ登記官吏ハ之ニ應シ登記ヲ爲スヘキモノトス(大審大正四年民一三六五頁)

……… (以下五五三頁) ……

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

六八六條 (五五三) 七八五

◎配當手續ノ完結ト抵當權者ノ代位權

一 不動産競賣事件ニ付キ配當手續ノ完結シタル後ニ於テ抵當權者カ代位權(民法第三九二條第二項)ヲ行使スルニハ競賣代金ノ配當ニ依リ適當ニ金額ヲ受領シタル各債權者ニ對シ不當利得金返還ノ請求ヲ爲スハ格別其代位申立却下ノ決定ニ對スル抗告ヲ以テ救濟ヲ求ムルカ如キハ許スヘカラサルモノトス(大審大正三年民五四九頁)

◎競賣物件ノ瑕疵ト損害賠償

一 強制競賣ノ場合ニ於テ競落人ハ民法第五百六十八條第三項ニ基キ債務者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スニハ債務者カ其競賣ノ目的物タル物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テサル過失アリタルトキニ限ルモノニシテ物又ハ權利ノ欠缺タルヤ既ニ強制競賣以前ヨリ存在セサルヘカラサルモノトス(大阪地四一年法五二八號一六頁)

二 強制競賣ト賣買規定ノ適用 (民法三五四頁參看)

◎強制執行完結後ノ訴權 〔類題、四四九頁〕

- 一 不動産ノ強制競賣ニ付キ異議ノ訴又ハ抗告ノ提起ナクシテ執行手續ヲ完結シタル後ト雖モ其執行ニ關シ實體法上無効ノ原因存在スルニ於テハ該不動産ノ所有權ヲ主張スル第三者ハ尙ホ訴ヲ提起シテ權利ノ回復ヲ請求シ得ルモノトス（大審四〇年民五五五頁同旨大審大正二年民五一三頁大審大正五年民一一一三頁評論五卷民法一〇九三頁）
- 二 公證人ノ作りタル證書ノ債務名義ニ因レル強制競賣ト雖モ競賣法ニ依ル競賣ト等シク權利實行ノ方法ニ外ナラサレハ其強制競賣力適法ニ完結ヲ告ケルモ唯權利實行ノ方法カ手續上有效ニ行ハレタルニ止マリ之カ爲メニ所有權移轉ニ關スル實體上ノ效力ヲ確定スルモノニ非ス（大審四五年民一八五頁同旨大審四〇年民九一五頁）
- 三 第三者ノ所有物件ヲ債務者ノ所有トシテ競落シ第三者カ其ノ所有權ニ基キ之カ回復ヲ求ムルカ如ク全然強制執行ノ目的トシテ實行サレタル權利カ無効ナルカ如キ場合ハ格別然ラサルニ於テハ一旦強制執行手續ノ終了スル以上更ニ右手續ノ瑕疵ヲ理由トシテ其ノ執行方法ヲ攻撃シテ競落物件ノ回復ヲ求ムルカ如キハ其ノ請

求者ノ債務者タルト將タ第三者タルトニ關セス我國法ノ全然許容セサル所ナリ（京都地大正三年法九六七號二九頁）

四 強制執行終了後ニ至リ競賣申立ノ委任ニ欠缺アルコトヲ主張シ競落人ニ對シテ不動産買取行爲ノ無効確認並ニ所有權移轉登記ノ抹消手續ヲ請求スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ（大審三九年民一五三四頁）

附 不動産競落許可決定力確定シタルトキハ他ノ方法ニ依リテ之カ無効ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス（學說、評論四卷民訴二〇頁）

◎無効ノ債權ニ基ク強制執行 〔類題、四九六頁〕

- 一 無効ノ債權ニ原因スル強制執行ノ結果裁判所ノ競賣ニ因リ不動産ヲ賣得スルモ所有權ヲ取得スルコトヲ得ス（東京地四四年最八卷八九頁）〔前項參照〕
- 二 所有權移轉ノ實體上ノ效力ハ競賣處分適法ニ完結スルモ之ニ因リテ定マラス實行サレタル權利カ實體上眞正ニ存在セザリシトキハ競落ニ因ル所有權移轉ノ效力ハ競賣手續完結後ト雖モ尙ホ之ヲ爭フノ餘地アルモノトス（東京控四一年最三卷一三一頁）
- 三 競賣申立人ノ實體上ノ權利ノ有無ハ競落人ノ取得シ

タル所有權ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ（長野地松本支部四〇年法四四一號六頁）

附 債務名義ト實體上ノ權利關係トノ不一致タル債權又ハ物上擔保權ノ實質上ノ不存在設定行爲ノ無効債權ノ消滅及ヒ物上擔保權ノ消滅ハ競賣處分ヲ妨クルノ效力ヲ生スヘキモ既ニ爲シタル競賣處分ヲ無効ナラシムルノ效力ヲ有セサルモノトス（學說、評論四卷民訴三四六頁）

……………（以下五五四頁）……………

◎配當ノ錯誤ト抵當權ノ效力

一 配當實施ノ際競賣裁判所カ抵當權者ニ配當セラレキ不動産競賣代金ヲ誤テ土地所有者（第三取得者）ニ交付スルコトアルモ之カ爲メ抵當權者ノ優先權ハ消滅スルコトナク依然土地所有者カ競賣代金トシテ交付ヲ受ケタル上ニ存ス故ニ抵當權者ハ其優先權ニ基ク訴ニ因リ直接之カ受戻ヲ爲シ得ルモノトス（長崎控四一年法四八九號六頁）

◎犯罪行爲ニ因ル競賣ノ效力

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

◎判決ノ廢棄ト競落ノ效力

一 本條ノ競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スル旨ノ規定ハ強制執行トシテノ競賣手續

- 一 競賣ハ權利ノ實行方法ニ外ナラサルヲ以テ假令競賣法上適法ノ手續ニ依リ競賣スルモ眞ノ權利者ニ非サル者カ他人ノ權利ヲ冒認シテ自己ノ所有名義ト爲シ之ニ基キ競賣ヲ實行セシメタルモノナルトキハ該競賣ハ實體法上所有權移轉ノ效力ヲ生セス（長崎控四一年法四八八號八頁）
- 二 偽造ノ債務名義ニ基キ開始セラレタル強制競賣事件ニ於テ言渡シタル競落許可決定ニ因リ競落人ト爲リタル者ハ競賣ノ目的物タル建物ノ所有權ヲ取得スヘキ謂レナシ（長崎地三九年法三六三號一四頁）
- 三 證書カ債權偽造ニ係リ之ニ依リテ強制競賣行ハレ而モ異議抗告等ノ方法ニ依リ攻撃セラレルコトナク競賣手續完了スルモ其競賣ノ爲メ實體法上所有權移轉ノ效力ヲ生スルモノニ非ス又右競賣セラレタル不動産カ轉讓シ第三者ニ移轉登記セラレルモ前所有者ハ依然トシテ其所有權ヲ何人ニ對シテモ主張スルコトヲ得ヘシ（東京控四四年最九卷一五一頁）

カ適法ニ行ハレタルコト即チ其強制執行ノ前提タル債務名義カ完全ニ其效力ヲ存続スルコトヲ豫想スルモノナルヲ以テ再審ノ訴ニ因リ其債務名義カ效力ヲ失ヒタルモノニ在リテハ曩ニ爲サレタル競落許可決定ハ強制執行トシテノ處分タルコトヲ得サルノ結果先ノ競落人ハ之ニ因リテ完全ニ不動産ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得ス(大阪地大正元年法八七三號二頁)

二 判決ノ廢棄ト給付ノ返還(四一五頁參照)

◎他人ノ物ノ競賣ノ效力

一 誤ツテ債務者ノ所有ニ屬セサル物ヲ競賣ニ付シ競落許可決定アリタルトキハ他人ノ物ノ競賣ト雖モ當然無効ニアラスシテ其競賣ノ解除セラレサル間ハ競賣ハ有效ニ成立スルモノトス(大阪控三七年法二五〇號一九頁)

附 競賣ノ目的タル不動産ノ所有ニ係ルトキハ競落許可決定及ヒ執達吏ノ執行行為ハ目的物ノ所有權ヲ競落人ニ移轉スルノ效力ヲ生セス(學說、評論四卷民訴三四六頁)

◎登記怠慢ノ買主ト競落人トノ關係

一 曾テ債務者ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得シタル者カ其登記ヲ怠リ且其不動産ノ競落許可ノ決定後マテ異議ヲク經過シタルトキハ其取得者ハ競落人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ニ對シ所有權ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス(大審三四年民九卷二三頁)

◎競落人ノ意思ノ善惡ト競落ノ效果

一 競賣ノ目的物ノ所有權カ完全ニ競落人ニ移轉シタル場合ニハ競賣ノ際競落人ノ意思ノ善惡ニ因リテ效果ヲ異ニスヘキモノニ非ス(大審三四年民九卷二三頁) [民法第五六八條參照]

◎虛偽ノ意思表示ニ因ル競買ト競落

一 最高價申出チ爲シ競落人ト爲リタルハ眞實競落スルノ意思アリタルニ非ス執達吏ニ對スル虛偽ノ意思表示ニシテ執行債權者カ該事實ヲ知悉シ居リタリトスルモ斯ル事實ハ右競落ノ無効ヲ來スヘキ理由ト爲ラス(東京控大正六年評論六卷民訴四五頁)

◎債務者ノ爲ニスル第三者ノ競落

一 債務者ノ所有ニ屬スル不動産ノ強制競賣ニ付テハ債務者自身競落人ト爲ルヲ得サルモノナルヲ以テ縱令債務者カ第三者ニ託シ自己ノ爲メ名義上競落人タラシメタルトキト雖債務者ハ之ニ因リテ當然該不動産ノ所有權ヲ取得スルヲ得ス(大審大正二年刑一四九八頁)

◎競落物ノ所有權爭ト立證責任

一 競賣手續カ一旦完結シタル以上ハ損害賠償ノ方法ニ依リテ救済ヲ求ムル外如何ナル理由ヲ以テスルモ最早競賣手續ノ無効ヲ主張シ所有權移轉ノ效力ヲ爭フコトヲ得サルモノトス(廣島控大正四年法一〇六〇號二九頁)

◎第五五三頁「強制執行完成後ノ訴權」參照

二 競落物ニ對スル競落人ノ所有權ヲ爭ハントスル者ハ須ク民法第九十二條ノ適用ヲ妨クヘキ事實ノ存在ヲ立證セサル可ラサルモノトス(福岡地四二年法六一〇號一二頁)

◎不動産ノ競落ト對抗條件 [類題、續民法一七七條]

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

六八六條

六八七條

[五五五]

七八九

……… (以下五五六頁) ……

第六百八十七條 [競落不動産ノ管理及引渡]

1 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス
2 競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメント申立

テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ
3 債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債権者ノ
申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ
其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

◎競落不動産ノ引渡及ヒ管理

- 一 競賣法ニ依ル不動産ノ競賣ニ於テ競落人カ競買代金支拂ノ義務ヲ完全ニ履行セルニ拘ラス債務者カ故ナク不動産ノ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ競落人ニ其不動産ヲ引渡サシムヘキモノトス(大阪地大正三年法九五九號二七頁同旨奈良地大正元年法八三一號二六頁評論一卷民訴二二〇頁)
- 二 不動産引渡命令ハ競買代金全部ヲ支拂ヒタル後ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得(新潟地三五年七月八日反對東京地三五年法一〇〇號九頁)
- 三 本條第二項ハ管理人ナル文字ヲ用フルモ立法ノ精神及ヒ沿革ニ徴スルトキハ競賣代金ヲ支拂ヒタル競落人ハ勿論未拂競落人若クハ債権者モ共ニ債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒ミタルトキハ執達吏ヲシテ之カ引渡ヲ強制

セシムヘキ法意ナリト解釋セサルヲ得ス(大阪地三八
年法三二六號七頁)
四 競賣法第三十二條第二項及ヒ本條ニ於テ競落不動産
ヲ管理人ニ引渡サシムヘキコトヲ命スルハ競落人ニ於
テ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡
ヲ求ムルコトヲ得サルカ爲メナルヲ以テ競落人カ既ニ
代金ノ全額ヲ支拂ヒタル以上ハ縱令管理人ノ任命アリ
タル後ト雖モ競落人自身ニ引渡サシムル命令ヲ發スヘ
キコトヲ求ムルヲ得ヘク競落人ニ於テ特ニ不動産引渡
ノ訴ヲ提起スルコトヲ要セサルモノトス(大審大正六
年民三〇六頁)
附 競落管理人ノ選定ト其權限(競三二條參看)

◎強制競賣ノ終了時期 [類題、四七八頁]

- 一 不動産ノ強制競賣ニ於テハ競落ヲ許スノ決定アリタル後競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行シ不動産ノ引渡ヲ請求シ得ル時ヲ以テ強制執行ノ終了時期トス(大審三八年民一五〇一頁同旨大阪地四三年法六四五號一六頁)
- 二 不動産ニ對スル強制競賣ハ競落許可ノ決定確定スルモ未タ競賣代金配當手續ノ完了セサル間ハ完結セサル

◎本條第五項ノ法意

- 一 本條第五項ニ於テ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキ前競落人ヲシテ不足額ヲ負擔セシムルハ競落代價ノ減少ニ因リ不利益ヲ受クル者ニ對シ其損失ノ補償ヲ得セシムル爲メ負擔セシムル法意ナリトス(大審大正六年民一四三四頁)

◎再競賣ノ意義

- 一 本條ニ所謂再競賣トハ第三回以下ノ競賣ヲモ包含スト雖モ第三回又ハ第四回ノ競賣ヲ再競賣ト稱スルトキハ第二回又ハ第三回ノ競賣ニ對シテ立言スルモノニシテ常ニ之カ原因ヲ爲セル競落人ノ干與シタル直近ノ前競賣ニ對シテ用キタル文詞ナリ(大審三四年民一卷三〇頁)
- 二 競賣法ニ依リ競賣ニ準用スヘキ本條末項ニ所謂前ノ競落人トハ競落代金ノ不足額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔スヘキ義務ノ上ニ於テハ再競賣ニ直近スル前競賣ニ於ケル競落人ヲ指稱スルモノナルモ若シ再競賣ニ於テ最低競賣價額ニ達スル競買價額ノ申出ナキ爲一旦實施セラレタルモ結了スルニ至ラスシテ更ニ新競賣ニ付セラレ

- モノトス(大阪地大正元年評論一卷民訴二〇七頁)
- 三 競落代金ノ配當ハ執行手續ノ一部ニ屬シ配當手續カ實施セラレサル限リハ強制執行ハ未タ終了セサルモノトス(大阪地三五年法一一三號五頁)

第六百八十八條 (再競賣ヲ爲スヘキ場合)

- 1 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ
- 2 最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス
- 3 再競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ
- 4 競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ
- 5 再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

タル場合ニ於テハ前競賣ニ直近スル再競賣ハ更新セラレ新競賣ニ於ケル競落人ニアラスシテ其新競賣ニ因リテ結了セラレタル再競賣ニ於ケル競落人ナリトス(大阪控三七年法二〇四號七頁)

◎再競賣期日ノ意義

一 競賣法第三十二條ニ於テ準用スル本條第四項ニ所謂再競賣期日トハ再競賣開始後一旦再競賣期日指定セラレタリトスルモ同期日變更セラレ更ニ新期日ノ指定アリタルトキハ其新期日ヲ謂フモノナリト解スルヲ妥當トス(大審大正六年民二一三三頁評論六卷諸法四三七頁)

◎再競賣ニ於ケル不足額ノ性質

一 再競賣ハ前競落人所有不動産ニ對シテ行フ新ナル競賣ニ非スシテ債務者所有不動産ニ對シテ行フ最初ノ競賣ノ繼續ニ外ナラサルヲ以テ再度ノ競賣代價力最初ノ競賣代價ヨリ低キ場合ニ於テ前競落人ノ負擔スヘキ不足額ヲ即チ最後ノ代價ト共ニ競賣手續ニ於ケル賣却代價ノ一部ヲ構成スルモノトス(大阪地大正五年法一一九七號二三頁評論五卷民訴三八五頁)

◎不足額請求權ト其發生原因

一 債權者カ不足額請求權ヲ取得スル法律上ノ原因ハ法律規定ニ存シ又其權利取得ノ時期ハ配當手續終了ノ時ニ在ルモノトス(大審大正六年民一四三四頁評論六卷民訴四四八頁)
二 再競賣ハ前競落人ノ所有不動産ニ對シテ行フ新ナル競賣ニ非スシテ前競賣ノ再開ニ外ナラス(東京控大正六年評論六卷民訴四五〇頁)
三 不動産ノ強制競賣モ亦賣買ノ一種ナルヲ以テ此場合ニ於ケル賣主ハ任期賣買ニ於ケルト同シク不動産ノ所有者ニシテ本條第四項ニ所謂不足額ハ賣買代價ノ一部ナリトス(大阪控大正二年法八五八號二八頁同旨大阪地大正三年法九二八號二五頁)
……………(以下五五八頁)……………

◎再競賣ノ不足額請求權ト權利者(類題、競三二條)

一 競賣ハ獨リ債務者ノ爲メニノミ執行スルモノニ非スシテ利害關係人全般ノ爲メニ執行スルモノナリ故ニ本條末項ニ規定セル前競落人ノ補足ノ義務ニ對スル請求

權ハ債務者ニノミ專屬スヘキモノニ非スシテ利害關係人ハ皆之ヲ享有行使スルコトヲ得ヘキモノトス(大審三二年民一〇卷九五頁同旨大審大正四年民二一一七頁大阪控四〇年法四二三號六頁)

二 競落人ノ不足額ヲ支拂フノ義務ハ一般競落代金ノ支拂義務ト雖モ實質ニ於テハ債務者若クハ擔保物權設定者ニ對スル義務ナリトス(東京控大正三年法九六四號二三頁)

三 再競賣ナルモノハ以前ノ競賣ノ再開ニシテ債務者ノ所有ニ屬スル不動産ヲ賣却スルモノト謂フヘク從ツテ前競落人ノ負擔スヘキ不足額及ヒ手續費用ノ請求權ハ債務者ニアリトスルヲ妥當ナリトス(東京控大正二年法八五一號二〇頁評論二卷民訴四九頁同旨東京控大正三年評論三卷民訴二六九頁同旨宮城控四二年最五卷八七頁)

四 再度ノ競賣代價ニシテ前競賣代價ヨリ減少シ債權者ノ債權ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ債權者ハ之カ爲メ配當ヲ受クルヲ得サルカ又ハ配當額減少ノ不利益ヲ受ケ又債務者ハ最初ノ競賣代價ヲ以テセハ債權者ノ債權ヲ満足セシメ餘利アルヘカリシニ競賣代價減少ノ爲メニ其得ヘキ餘利ヲ生セサルカ又ハ餘利額減少ノ不利益ヲ受クヘキモノナレハ不足額請求權ヲ有スル者ハ

債權者又ハ債務者ナリトス(大審大正六年民一四三四頁同旨大阪地大正五年法一一九七號二三頁評論五卷民訴三八五頁)

五 不足額ノ請求權ハ第一位ニ於テ不動産ノ賣却代金ニ依リ債權ノ満足ヲ得サル債權者ニ屬シ債務者ハ不足額カ債權者ノ損失ヲ補償スルニ餘リアル場合ニ於テ請求權ヲ有スルニ過キサルモノトス(同上及ヒ東京控大正六年評論六卷民訴四五頁)

六 不動産ニ對スル強制執行ニ於テ再競賣ノ結果後ノ競賣代價力前ノ競賣代價ヨリ低ク價格ニ不足ヲ生シタルトキハ抵當權者ハ前ノ競落人ノ負擔ニ屬スル右不足額ニ對シ同競落人ヨリ自己ノ優先權ニ基ク部分ノ債權ノ支拂ヲ受クル權利アリ隨テ其部分ニ限り直接ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス(大審三四年民四卷六八頁同旨大審三六年民二六四頁)

七 執行力アル正本ニ因ラサル債權者ト雖モ苟クモ配當要求ヲ爲シ且第六百九十一條以下ノ規定ニ從ヒ配當ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ再競賣ノ場合ニ於ケル競賣代價不足額ニ付キ前競落人カ其競賣代金支拂ノ義務ヲ履行シタランニハ其金額ノ配當ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ割合ニ應當スル限度ニ於テ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(長崎控三九年法三八六號六頁)

………(以下五五九頁)………

◎再競賣ニ基ク不足額ノ請求

- 一 再競賣ニ基ク債権者ノ不足額請求權ハ當該執行手續以外ニ別個ノ訴ヲ以テ之ヲ主張スヘキモノニシテ債権者ハ裁判所カ不足額ヲ配當ノ目的ニ加ヘサルニ對シ異議ヲ申立ツル權利ナク異議ヲ申立テスシテ配當手續ヲ終了ニ至ラシムルモ不足額請求ノ權利ヲ失フヘキモノニ非ス(大審大正六年民一四三四頁)
- 二 再競賣ノ場合ニ於ケル不足額請求權ノ實行ハ當該執行手續ノ外ニ立ツモノナルヲ以テ其請求權者ハ各自固有ノ權利ニ基キ直接ニ前競落人ニ對シ之カ支拂ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(東京控大正六年評論六卷民訴四五〇頁)

◎再競賣ノ不足額ト相殺 [類題、四九六頁]

- 一 競賣法ニ依ル不動産競賣開始決定以後ニ於テハ債務者ハ該不動産又ハ其賣却代金ニ付キ處分權ヲ有セサルカ故ニ債務者カ右競落人ト再競賣ニ因ル不足額ノ請求權ニ付キ相殺契約ヲ爲スモ抵當債権者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(東京控大正三年最一四卷二四三頁)

評論三卷民法三八八頁)

- 二 再競賣ノ場合ニ於テ前競落人ノ負擔スヘキ不足額ニ付テハ抵當權者ハ特ニ差押ノ手續ヲ爲ササルトキト雖モ自己固有ノ權利ニ基キ前競落人ニ對シ之カ支拂ヲ請求シ得ヘキモノナルヲ以テ前競落人カ債務者ニ對スル自己ノ債權ト不足額支拂ノ債務ト相殺ヲ爲スモ抵當權者ニ對シテ何等ノ效ナキモノトス(東京控大正四年評論四卷民法五三八頁同旨大審大正四年民二一一七頁)

- 三 抵當權者カ抵當債權ノ強制執行トシテ債務者カ前ノ競落人ヨリ不足額ノ支拂ヲ受クヘキ債權ヲ差押ヘ之カ轉付命令ヲ得タルトキハ轉付債權ノ債務者ハ債務者ニ對スル反對債權ヲ以テ相殺ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス(大審大正三年民二七八頁評論三卷民訴七二頁)
- 四 不動産競落人カ代金支拂ノ爲メ再競賣ノ結果其不足額支拂義務ニ付キ抵當債権者ニ對シ相殺ノ意思表示ヲ爲スモ轉付命令ヲ受ケタル抵當債権者即チ競賣申立人ニ對抗シテ右不足額ノ支拂責任ヲ免カレルコトヲ得ス(東京地大正三年最一四卷二一七頁評論三卷民法三二三頁)

◎再競賣ノ不足額ニ對スル抵當權

- 一 不動産再競賣ノ場合ニ於テ債務者カ前競落人ヨリ不足額ノ支拂ヲ受クヘキ債權ハ民法第三百四條ニ所謂目的物ノ賣却ニ因リテ債務者ノ受クヘキ金錢ニ外ナラサルヲ以テ競賣不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル債権者ハ之ニ對シテモ抵當權ヲ行フコトヲ得ルモノトス(大審大正三年民二七八頁評論三卷民訴七一頁同旨大審大正二年民七一三頁評論二卷民法五一六頁)

- 二 競賣法ニ依リ抵當權實行ノ爲メ抵當不動産ノ競賣行ハレタル場合ニ於テ再競賣ノ爲メニ前競落人ノ負擔スル不足額及ヒ手續費用ニ對シテハ抵當權者ハ差押ノ手續ヲ爲ササルトキト雖モ前競落人ニ對シ之カ支拂ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(大審大正三年民九一一頁評論三卷民訴二六五頁同旨大審大正四年民二一一七頁)
- 三 抵當權者カ不足額ヲ請求シ得ヘキ場合ニハ其請求シ得ヘキ部分ニ付テハ前競落人ハ債務者ニ對シ之レカ支拂ヲ爲スヘカラサルモノナルカ故ニ債務者ノ該請求權ハ差押アリタルト同一ノ状態ニ在ルモノト謂フヘク抵當權者ハ特ニ差押ノ手續ヲ爲ササルトキト雖モ自己ノ權利ニ基キ前競落人ニ對シテ之レカ支拂ヲ請求シ得ヘキモノナリ(東京控大正四年法一〇三九號二六頁)

差押ヲ要ストノ判例、大阪控大正二年法八五八號二

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

六八八條 [五六〇] 七九五

………(以下五六〇頁)………

◎義務不履行ノ競落人ノ責任

- 一 最初ノ競賣ニ於ケル競落人カ其義務ヲ履行セサルニ依リ本條第五項ニ從テ負擔シタル責任ハ其競落ノ完結ニ至ルマテ存續スヘク再競賣ノ期日ニ競買申出人ナカリシトテ自然消滅スヘキモノニ非ス(大審三八年民七七頁)

◎競落代金不支拂ノ契約

- 一 競落人カ買主トシテノ代金支拂義務ヲ履行セサルヘキコトヲ第三者ニ對シ約スルモ此ノ如キ契約ハ公序良俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノニシテ法律上無効ナ

リ（大阪地大正二年法八七一號二三頁）

◎競賣代金ノ保管方（類題、競三三條）

- 一 本條第四項ノ競落代金ハ保管物取扱順序ニ依リ歳入歳出外現金ノ取扱ヲ爲シ該金員拂渡ノトキハ各債權者ニ區分シタル拂渡證書ヲ事件主任官ニ交付シ出納官吏ハ事件主任官ノ領收證ヲ徴シ保存シ置クヲ可トス（會計課回答三四年七月一五日）
- 二 本條第四項及ヒ競賣法第三十三條ノ競賣代金額ノ金庫ヘ寄託方ハ豫納金ニ準スヘシ（大藏省理財局長回答三四年四月一二日）
- 三 配當剩餘金ノ取扱方（五六二頁參看）

第六百九十一條（競落ニ依ラサル競賣手續ノ完結）

- 1 競賣申立方競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

◎基本債權ノ消滅ト競賣申立ノ却下

- 一 基本タル債權ニシテ既ニ消滅シタル以上ハ裁判所ハ單ニ競落許可決定ヲ廢止スルニ止ラス競賣開始決定ヲ

モ取消シ進シテ競賣ノ申立ヲ却下スヘキモノトス（長崎地四三年法六八六號二二頁）

◎競落決定前ノ債務辨濟

- 一 不動産ニ對シ競賣手續ヲ終ヘタリトスルモ未ダ競落決定ナキ以前ニ於テ其債務ヲ辨濟セハ競落許可ノ決定トハ爲ラス（東京控四〇年最一卷一二七頁）

……（以下五六一頁）……

第六百九十二條（債權計算書ノ差出）

- 1 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ
- 2 前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

◎米穀貸與ノ抵當權ト債權額計算方

- 一 不動産ヲ抵當トシテ米ヲ貸付ケタルモノナルトキハ其債權額計算方ハ不動産登記法第二百十條ニ依リ申請書ニ記載シテ登記シタル價格ニ依ルヘキモノトス（民

刑局長回答三三年民刑第四二〇號）

◎競落期日以後ノ利息

- 一 競落期日以後ニ生スヘキ利息ハ唯リ計算書ヲ差出ササル債權者ノミナラス計算書ヲ差出シタル債權者ト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得ス（大審三三年民三卷九頁）

◎配當不要求抵當權者ノ配當

- 一 不動産力競賣セラレタル場合ニ該不動産ニ對シテ抵當權ヲ有シ且之ヲ登記シタル者力配當要求ヲ爲スヘキ競落期日ヲ失シ其申立ヲ爲サストスルモ該期日ハ普通債權者ノミニ適用サルヘキモノニシテ抵當權者即チ優先權ヲ有スル者ニ適用スヘキモノニアラス隨テ抵當權者ハ總令競落期日後ニ其債權ヲ請求シタリトスルモ何等支障ナク他ノ普通債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキモノトス（大阪地三九年法三九〇號七頁）

第六百九十四條（配當スヘキ賣却代金ノ範圍）

- 1 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルカヲ定ム可シ
- 2 左ノモノヲ賣却代金トス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ： 不動産： 強制競賣

六九二條—六九四條

〔五六一〕

七九七

◎不足額ト配當スヘキ賣得金

- 一 再競賣ノ場合ニ於テ配當スヘキ不動産賣却代金中ニハ前競賣人ノ負擔スヘキ競落代金不足額ヲ包含セサルモノトス（大審大正六年民一四三四頁評論六卷民訴四四八頁同旨東京控大正六年評論六卷民訴四五〇頁）

◎不動産ノ競賣代金ト其所屬

- 一 債務者力有スル不動産ノ公賣ニ付テハ第五百七十九條ノ如キ特別ノ規定ナケレハ其公賣代金ハ依然債務者ノ所有ニ屬スルモノニシテ各債權者ノ共有ニ非ス（大審三七年民一四二一頁）

- 第一、代金
- 第二、不動産力果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息
- 3 代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
- 4 最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

◎競賣代金ト民法上ノ債權關係

一 國家ハ其機關カ公法上ノ手續ヲ執行スルモ之カ爲メ
ニ民法上ノ義務ヲ負擔セサルヲ原則トス而シテ區裁判
所カ競賣法ニ從ヒ競賣手續ヲ執行スルハ國家ノ機關ト
シテ公法上ノ手續ヲ執行スルニ外ナラサレハ區裁判所
カ競賣法ノ規定ニ從ヒ競賣人ヨリ競賣代金ヲ受領スル
モ亦公法上ノ手續ヲ執行スルニ因ルモノナレハ何人モ
競賣代金ニ對シ民法上ノ債權ヲ有セス(長崎地四一年
法五四四號一五頁)

……(以下五六二頁)……

第六百九十五條(配當表ノ確定手續)

1 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ
因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ
確定ス可シ

◎債權額相違ノ計算書

一 競賣裁判所ハ競落代金ヲ受領シ之ヲ債權者ニ交付ス
ルニ當リ其ノ債權額ヲ調査シ現存ノ債權額ニ付テノミ

債權者ニ競落代金ヲ交付ス可キヲ以テ眞實ノ債權額カ
競賣申立書竝ニ競賣手續開始決定ニ表示セル債權額ト
相違シタレハトテ毫モ申立人ノ不利益ヲ來スコトナキ
モノトス(東京地大正三年法九二八號二五頁)

第六百九十七條(配當異議ノ完結及配當實施)

1 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ
第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別
段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

◎配當表ノ更正ヲ求ムル訴ト被告

一 不動産ニ對スル強制競賣代金ノ配當表ニ對シ異議ノ
申立ヲ爲シタル債權者カ期日ニ異議ノ完結セサル場合
ニ於テ提起スル配當表更正ノ訴ニ於テハ異議ノ申立ヲ
承認セサル他ノ總テノ債權者ヲ共同被告ト爲スヘキモ
ノニシテ競賣不動産ノ取得者タル第三者ハ該訴訟ニ於
テ被告タルヘキ適格ヲ有セサルモノトス(大審大正四
年民一三〇〇頁評論四卷民訴二五〇頁)

◎期限附債權者ノ配當額

一 強制競賣ニ於ケル配當實施ヲ爲スニ際シ期限附債權

ノ配當額ハ其期限ノ到來スル迄之ヲ供託スヘキモノト
ス而シテ其債權者ハ期限前ト雖モ該供託金ニ就テ權利
ヲ有スルカ故ニ配當裁判所カ其者ヲ供託金ヲ受取可キ
權利者ト指定シ得ヘキハ當然ナリ(浦和地四一年法五
〇二號一一頁)

◎出頭セサル債權者ノ配當額

一 不動産強制競賣得金配當ノ場合ニ於テ期日ニ出頭
セサル債權者ニ對スル配當額ハ其儘乙號保管物トシテ
保管セシメ置クヘキモノトス(民事局長回答四四年民
事第八八六號)

◎配當剩餘金ノ取扱方 (類題、五六〇頁)

一 不動産強制競賣得金配當ノ場合ニ於テ各債權者ニ
配當シタル剩餘金ハ債務者配當期日ニ出頭セサルトキ
ハ之ヲ呼出シ若シ債務者居所不明ナルトキハ其財產保
管人ヲ呼出シ下付スヘキモノニシテ其手續ヲ爲スニ至
ルマテハ裁判所ニ於テ保管スルノ外ナカルヘシ(民刑
局長回答三一年民刑第七三號)
二 不動産競賣代金ヲ各債權者ニ配當シ剩餘金ヲ生シタ
ル場合ニ於テ債務者配當期日ニ出頭セサルトキハ裁判

所ハ民法第四百九十五條ニ依リ之ヲ供託スヘキモノト
ス(民事局長回答三二年民刑第一八九八號)
三 不動産ノ競賣代金配當ノ場合ニ於テ債務者ニ還付ス
ヘキ剩餘金ハ債務者出頭セサルトキハ數日內ニ支拂フ
ヘキ見込ノモノハ歳入歳出外現金出納官吏ニ保管セシ
メ其以上ニ渉ルモノハ金庫ニ寄託スヘシ(會計課長回
答三四年七月十五日)

……(以下五六三頁)……

第六百九十八條(配當表ニ對スル異議申立)

1 期日ニ出頭シタル債權者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ
其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利
アリ
2 出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權
者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ
3 執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百
四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定
ニ從ヒテ之ヲ完結ス

◎配當表ニ對スル債務者ノ異議

一 不動産競賣代金ノ配當表ニ對スル債務者ノ異議ニ付テハ本條ノ外何等ノ規定ナケレハ債務者ハ便宜上配當期日ニ異議ヲ申立ツル權利ヲ付與セラレタルニ止マリ縱令異議ノ申立ヲ爲ササルモ之ヲ爲メ後日ニ至リ債權者ニ對シテ債務ノ存否若クハ數額ノ多寡ヲ爭フヘキ權利ヲ喪失スルコトナシ(大審三七年民一一七三頁)

第七百條(配當實施後ノ登記手續)

1. 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

2. 右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之チ負擔ス可シ

◎本條ニ適合セサル登記囑託

二 本條第一項第二號ニ所謂競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消トハ競落ニ因リテ消滅シタル先取特權及ヒ抵當權ノ登記抹消ヲ指示スルモノトス(法曹會決議大正五年法曹記事第二七卷第四號二二頁)

◎競落人ノ登記抹消請求權 (類題競三三條)

- 一 不動産ノ競落人ニ對シ效力ヲ生セサル貸借借カ登記簿ニ登記セラレタル場合ニ於テハ其競落人ハ該登記ヲ抹消セシメ以テ貸借ノ存立セサルコトヲ明カニスヘキ權利アルモノトス(大審三八年民一四七六頁)
- 二 競賣目的物上ニ存スル抵當權ハ競落ニ因リテ消滅スルモノナレハ其抵當權消滅後ニ在リテハ裁判所ノ囑託ニ依リ登記セラレタル競落人ニ於テ該抵當權抹消ノ手續ヲ爲シ得ルモノトス然レトモ競落許可決定力確定シ競落人ヨリ代價ノ支拂アリテ其中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ得ヘキ時期マテ其手續力進行シタル場合ニ於テハ競落人ハ其抵當權抹消登記ヲ請求シ得サルモノトス(甲府地四二年法五六九號一〇頁)
- 三 競賣法ニ因リ競落シタル不動産ノ抵當權先取特權ノ登記ノ抹消手續ハ本條第一項第二號第三號及ヒ同第二

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 不動産… 強制競賣

七〇〇條

〔五六四〕

八〇一

一 執行裁判所カ不動産強制競賣ニ付キ登記判事ニ囑託スヘキ抹消登記ハ本條第一項第二號第三號ニ規定スル記入ニノミ限ラレ貸借權ノ登記ノ如キハ本條ニ包含セラレサルモノトス(大阪地三五年法一〇〇號八頁)

二 本條ニ適合セサル登記ノ囑託ハ之ヲ却下スヘキモノトス(法曹會決議四四年二一卷七號三九頁)

◎耕地整理ト競落不動産ノ登記囑託

一 競落許可決定ノ日以後競落人ノ所有權取得登記囑託ノ日マテノ間ニ耕地整理登記アリタルトキハ囑託書ニ於ケル土地(從前ノ土地)ノ表示カ換地ト一致セサルモ其囑託ハ之ヲ受理スヘキモノトス(法曹會決議大正五年法曹記事二六卷七號四三頁)

……………(以下五六四頁)……………

◎競落人ノ引受サル不動産上ノ負擔

一 本條第一項第二號ニ所謂競落人ノ引受ケサル不動産上ノ負擔トハ不動産強制競賣申立ノ登記記入以前ニ發生シタル負擔ノミチ意味スルモノトス(大阪控四〇年法四三四號八頁)

項ノ趣旨ニ準シ職權ヲ以テ登記ノ抹消ヲ囑託スルテ相當トス(法務局長回答大正四年民第一五二八號法曹記事二五卷一〇號一四七頁)

附 競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ト同時ニ前項ニ掲クル登記ノ抹消ヲ囑託スル場合ハ之チ一事件ト看做スヘキニ付キ右ノ登記ニ付キ各別ニ囑託書ヲ作ルコトヲ要セスト雖モ登録稅ノ徵收ニ關シテハ一事件ト看做スヘカラサルヲ以テ各別ニ登録稅ヲ徵收スヘキモノトス(法務局長回答大正三年民第三五一號法曹記事二四卷三號一〇七頁)

◎地上權及ヒ永小作權ノ登記抹消

一 抵當地所ニ付キ抵當權設定登記後ニ地上權ノ登記アリタル場合ニ於テ抵當權者ノ申立ニ因リ強制競賣ヲ爲シタル場合ト雖モ該地上權登記ハ本條第一項第二號ノ規定ニ依リ抹消スヘキモノニ非ス競落人ハ訴ノ方法ニ依リ抹消ヲ求ムルモノトス(民刑局長回答三五年民刑第一〇八八號)

二 競賣申立ノ登記アリタル後永小作權設定ノ登記アリタル場合ニ於テハ競落人ハ訴訟ヲ提起シ該登記ノ抹消

ヲ請求スルノ外ナキモノトス（民利局長回答大正三年
民利第二二三二號）

三 不動産ノ競賣ト抵當權ノ消滅（第六四九條參看）

◎競落人ノ所有權ノ登記料

一 本條第一項第一號ノ競落人ノ所有權登記ニ付テハ賣
買ノ登記料ヲ徵收スヘキモノトス（司法省總務局長回
答二五年參民第二八〇號）

………（以下五六五頁）………

第三款 強制管理

一 入札ニハ不動産ヲ表示スルコトヲ要件トス故ニ其所
在及ヒ構造形態坪數等ハ總テ入札期日ノ公告ニ從ヒテ
之ヲ表示セサルヘカラス（東京地四三年法六三五號一
三頁）

第七百六條（強制管理ノ準用規定）

1 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、
第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至
第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス
2 不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタ
ル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提
出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疎明
スル證書ヲ以テ足ル

◎相續登記前ノ強制管理ノ記入

◎入札ノ方式

第七百三條（入札ノ方式）

1 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ
2 入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 入札人ノ氏名及ヒ住所
第二 不動産ノ表示
第三 入札價額

◎強制管理ヲ爲シ得ル場合

一 強制管理ハ不動産ノ收益ヨリ債權ノ辨濟ヲ得セシム
ル強制執行ノ方法ナレハ縱令債權者ニ於テ現ニ收益ヲ
得ヘカラサル場合ト雖モ債權者ニ就キ觀察シテ現ニ收
益ヲ生シ得ヘキモノナル以上之ヲ爲スコトヲ得ルモノ
トス（大審大正三年民三七頁）

第七百七條（強制管理ノ開始決定ノ效力）

1 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ
事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スル
コトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者ア
ルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコ
トヲ命ス可シ
2 既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ
到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス
3 開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效
力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

………（以下五六六頁）………

◎強制管理開始ト使用貸借ノ效力

一 不動産ノ強制管理ハ債務者ノ管理權及收益處分權ヲ
失ハシメ管理人カ國家ノ機關トシテ其管理ヲ爲シ以テ
之ヨリ生スル收益ニヨリ債權者ノ債權ヲ辨濟セシムル
ニ過キスシテ債務者ト第三者即チ賃借人又ハ其他ノ使
用借人等トノ間ニ於テ強制管理設定前締結シタル契約
ノ效力ヲ消滅セシムルモノニアラス（大阪區大正二年

◎強制管理開始決定ニ對スル不服

- 一 債務者カ收益權ヲ有セサルコトカ強制管理ノ申立ニ添附セル證書ニ依リ既ニ明ナルニ拘ラス執行裁判所カ強制管理開始決定ヲ爲シタルトキハ即チ執行方法ニ關スル規定ニ違背シタルモノニシテ右第三者ハ之ヲ理由トシテ第五百四十四條ニ因ル執行方法ニ關スル異議ヲ主張スルコトヲ得(大阪地四四年法七六一號二四頁)
- 二 不動産強制管理手續ノ開始決定ハ強制執行ノ方法ナルヲ以テ之ニ對シ不服ノ點アレハ第五百四十四條ノ規定ニ依リ其決定ヲ爲シタル執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ニ對シ抗告スヘク直ニ之ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得サルモノトス(大審大正二年民四八六頁評論二卷民訴一五〇頁同旨大審四三年民五五二頁)
- 三 質權ノ目的物ノ強制管理開始ノ決定アリタル場合ニ於テ質權者ハ所謂強制管理ヲ許スコトヲ妨クル第三者ニ外ナラサレハ訴ヲ以テ異議ヲ主張スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ該決定ニ對シテ抗告ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ非ス(大審三八年民七三一頁)

四 強制執行ノ方法ニ關スル異議(四三四頁參看) 附 強制管理開始決定ハ強制執行ノ方法ナリヤ(學說、評論四卷民訴四一頁)

……………(以下五六七頁)……………

第七百二十二條(管理人ニ對スル指揮及監督)
1 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ノ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ
2 裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

◎管理人ニ對スル過料ノ裁判ト抗告

- 一 本條ノ規定ニ依リ不動産管理人ニ言渡シタル過料ノ裁判ニ對シテハ口頭辯論ヲ經サルトキニ限リ第五百五十八條ノ規定ニ依リ即時抗告ヲ爲シ得ルモノトス(民事局長回答二四年民第五〇號)

第七百十三條(強制管理ト第三者ノ異議)

1 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

◎強制管理ノ開始ト抗告權利者

- 一 質權ノ目的物ノ強制管理開始ノ決定アリタル場合ニ於テ質權者ハ所謂強制管理ヲ許スコトヲ妨クル第三者ニ外ナラサレハ訴ヲ以テ異議ヲ主張スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ該決定ニ對シテ抗告ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ非ス(大審三八年民七三一頁)
- ……………(以下五六八頁)……………

第三節 船舶ニ對スル強

制執行

第七百十七條(本節ノ適用アル船舶)

1 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ… 船舶ニ對スル…

七二三條—七二〇條 [五六八]

八〇五

◎製造中ノ船舶ニ對スル強制執行

一 龍骨ノ据附ヲ了シ船底外部ノ工事ハ終テ告ケ進ンテ船側ノ工事ヲ爲シツツアル製造中ノ船舶ニ對スル強制執行ノ方法ニ付テハ本法中特別ノ明文ナシト雖モ其物體ノ最モ類似近接セル本條以下ニ規定アル船舶ニ對スル強制執行ノ手續ニ準據シ執行スヘキモノニシテ有體動產差押ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス(大阪區大正五年法一二〇六號二二頁)

第七百二十條(船舶強制競賣ノ申立ト添附書類)

1 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ
第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ

- 船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ説明スルニ足ル可キ證書
- 第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本
- 2 債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳力遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラント執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

………(以下五六九頁)………

◎第三者ノ占有スル船舶ノ差押

- 一 債權者以外ノ第三者ノ占有セル船舶ニ對シテハ一般債權者ハ直チニ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス
(大阪地四五年法八二七號二二頁評論一卷民訴一九八頁)

◎不當ノ差押ヨリ生セシ損害責任

- 一 故ナク他人ノ船舶ヲ差押ヘタル者ハ之ニ因リテ直接

生シタル損害ハ勿論船舶所有者カ第三者ニ對スル賣買契約ノ履行トシテ該船舶ノ引渡ヲ爲シ能ハサリシ結果ヨリ生セシ違約金モ亦賠償スヘキ責任ヲ負フ(東京控四一年最三卷三三頁)

………(以下五七〇頁)………

第三章 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付

テノ強制執行

第七百三十一條 (不動産又ハ船舶引渡ノ強制執行)

- 1 債權者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債權者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ
- 2 此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
- 3 強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ

- 債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ
- 4 債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ
- 5 債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

◎建物返還請求ト執行方法

- 一 建物返還ノ債務ノ性質ハ強制執行ヲ許スモノナレハ其強制執行ノ方法ハ建物カ債權者ノ占有中ニ在ルトキハ執達吏ハ債權者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシムヘキモ債務者ノ手ヲ離レ第三者ノ占有中ニ在ルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ第七百三十四條ノ規定ニ從ヒ相當ノ決定ヲ爲ササルヘカラス
(大阪控三八年法三〇八號一一頁)

◎家屋明渡ト家族、同居者

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル

◎退去請求ト強制履行

- 一 當事者間ノ契約ニ因リ他人ノ住家ニ同居シタル者カ契約上ノ義務ヲ履行セサル爲メ其契約ヲ解除セラレタルトキハ住家主ハ本條ノ規定ニ依リ其同居者ニ對シ住家退出ノ強制執行ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス(大審大正四年民八八三頁評論四卷民訴一七三頁)
- 二 僧侶ニ寺院立退ヲ命スル假處分ノ如キハ家屋明渡ノ命令ト一般本條及ヒ執達吏職務細則第四十一條第三號

以下ノ規定ヲ準用シ執達吏ニ於テ其執行ヲ實施スヘキモノトス（大審二九年民七卷八頁）

……………（以下五七一頁）……………

◎執行ニ因ル占有ノ侵奪ト要債權

一 不動産ノ引渡ヲ目的トスル強制執行ハ執達吏カ債務者ノ占有ヨリ係争物ヲ債權者ニ移スニ過キス故ニ該不動産ノ執行ニ際シ執達吏カ他ノ物件ヲ債權者ノ占有ニ移付シタリトスルモ爲メニ差押債權者ハ其物件ニ對シ所有權ヲ取得スルモノニ非ス從テ差押債務者ハ所有權ヲ喪フモノニ非サルヲ以テ所有權喪失ヲ原因トシテ差押債權者ニ對シ該物件ノ損害賠償ヲ要求スル權利ナシ（東京控四二年最四卷七二頁）

第七百三十二條（第三者手中ノ物件引渡ノ執行）

1 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

◎物ノ引渡請求權ト轉付命令

◎轉付命令ト取立命令ノ並立

一 本條ハ債權者ノ請求ノ目的物ト債務者ノ第三者ニ對スル請求ノ目的物ト同一ナル場合ニ於テ其目的物カ或特定ノ動産又ハ不動産ノ引渡ニ關スルトキニ非サレハ其適用ナキモノトス（堺區大正五年法一一二九號二八頁評論五卷民訴一二九頁）
二 本條ノ轉付命令ハ債務者ノ第三債務者ニ對スル券面額アル債權ヲ差押債權者ニ移付スルモノニ非スシテ單ニ債務者ノ第三債務者ニ對スル確定物引渡ノ請求權ヲ債權者ニ付與シ債權者ヲシテ民法上代位ノ手續ヲ要セシテ物件ノ取立ヲ爲サシムルニ過キサレカ故ニ該轉付命令ノ效果ハ第六百條ノ取立命令ト異ナルコトナシ（廣島控四三年法六八二號二六頁）

一 同一債權ニ對シ數個ノ取立命令ヲ發スルコトハ法ノ禁セサル所ナルヲ以テ取立命令ト其效果ヲ同ウスル本條ノ轉付命令モ亦取立命令ト並立シ得ルモノトス（廣島控四三年法六八二號二六頁）
◎第四九九頁「數個ノ差押命令ノ競合」參照
二 引渡スヘキ動産カ第三者ノ手中ニ存スル場合ニ於テ債務者ノ引渡請求權カ債權者ニ轉付セラレタルトキハ

其請求權ハ債權者ニ移轉シ債權者ハ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ實行スルコトヲ得ルモノトス從テ他ノ差押債權者ノ爲メ發セラレタル取立命令アリトスルモ其命令ハ第三債務者ニ對シ何等ノ效力ヲ生セス（大審四四年民二三〇頁）

◎公債證書ニ對スル差押ノ競合

一 公債證書ノ貸主カ之カ引渡ヲ目的トスル債權ノ強制執行ノ爲メ同公債證書ノ引渡ヲ目的トスル債務者ノ債權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ金錢債權者ハ其債權ノ強制執行ノ爲メ該公債證書ノ引渡ヲ目的トスル債務者ノ債權ヲ差押フルコトヲ得ス（大審四五年民五四六頁）

第七百三十三條（代換的行爲ヲ目的トスル債權執行）

1 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス（民法施行法第五十四條ヲ以テ本項改正）
2 債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラントコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ

費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス……………（以下五七二頁）……………

◎民法四一四條ハ強制執行ニ關スルヤ〔類題、續民法四一四條〕

一 民法第四百十四條ハ所謂判決請求權ニ關スル規定ニ非スシテ強制執行ニ關スル規定ナリト解スヘキモノトス（東京地大正五年評論五卷民法二七八頁法一一九號二四頁）
附 民法第四百十四條ノ規定ノ性質（評論二卷民法二四七頁）

◎強制履行及ヒ強制執行ヲ論ス（學說、評論二卷民法二八頁同上四二頁同一卷民法四一〇頁）
◎一般的不作爲ノ訴（學說、評論一卷民法四六九頁）

◎第三者ヲシテ爲サシムル請求

一 民法第四百十四條第二項ニ依リ原告カ被告ノ費用ヲ以テ第三者ヲシテ建物ヲ取拂ハシムルニハ原告ハ取拂ヲ命スル給付判決ノ執行力アル正本アル場合ニ於テ本條ニ依リ決定ヲ求ムル申立ヲ爲スヘキモノトス（大阪

地大正三年法九六七號二八頁)

◎水路ノ妨害禁止ト執行方法

一 被告ハ原告カ落水ノ爲メニスル水路使用權ヲ妨害スヘカラストノ訴ハ原告ノ權利保護ニシテ利益アルハ勿論其判決確定シ若シ被告之ニ從ハサレハ本條及ヒ民法施行法第五十四條ノ規定ニ依リ之カ執行ヲ爲スヘキ途アリトス(大審三四年民五卷一三〇頁)

◎家屋明渡ノ執行ト疊、建具

一 執達吏カ家屋明渡ノ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テ疊建具ハ家屋ノ從物ナルヲ以テ假令判決ニ明記ナキ場合ト雖モ家屋ト共ニ原告ニ引渡スヘキモノトス(民刑局長回答三三年民刑第一〇一二號)

◎家屋明渡ノ執行ト終了時期

一 家屋明渡ヲ目的トスル強制執行ハ家屋形狀ヲ毀壞消滅セシムルノミニ止マラスシテ全然之ヲ解放チ其場所ヨリ取去リタルニ非サレハ未タ之ヲ完了シタリト云フコトヲ得ス(東京地三四年法六三號八頁)

◎建物取拂請求ト一定ノ申立

一 原告一定ノ申立申被告若シ建物取拂ノ行爲ヲ爲ササルトキハ原告ハ被告ノ費用ヲ以テ第三者チシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得トノ判決ヲ求ムルカ如キ事項ハ執行方法トシテ受訴裁判所カ申立ニ因リ決定スヘキモノニシテ判決中ニ之カ裁判ヲ爲ス可キモノニ非ス(大阪地四二年法五五三號一二頁)

◎地所明渡ノ判決ト建物收去

一 地所明渡ノ債務名義ノ執行ニ於テ建物收去ノ執行ヲ爲スコトハ許スヘカラサルモノトス(東京控三九年一月二四日判決要録一卷六八〇頁同旨東京地三九年法三三二號二二頁)
二 某所某地番宅地何歩ニ建設シアル被申請人所有ノ一切ノ建物ヲ取拂ヒ該宅地チ申請人ニ明渡スヘシトノ確定判決ヲ受ケタル者カ被申請人ノ費用ヲ以テ第三者チシテ該建物ヲ取毀タシムルハ結局該建物ノ現狀ヲ變更セシムルニ過キス從テ右確定判決ノ強制執行ノ方法ト云フコトヲ得ス(東京地三四年法五五號一一頁)
附 土地明渡ノ強制執行ニ於テ土地ノ上ニ建物ノ建築ア

ルトキハ執達吏ハ何等裁判所ノ命令ヲ得スシテ自己ノ職權ヲ以テ建物ヲ取毀ツコトヲ得(學說、法二七六號四頁法二八五號二頁反對法二八一號三頁)

………(以下五七三頁)………

◎建物取毀命令ノ效力

一 決定中ニ取毀ノ目的物トシテ主タル建物ノ表示アルトキハ其建物ニ立掛ケ丸木ヲ以テ建テタル物干様ノ如キモノニ對シテハ之カ表示ナクモ當然取毀ツコトヲ得ヘキモノトス(東京控大正元年最一卷二一六頁)
二 設備上建物ノ一部トシテ包含セラレ獨立シテ存在シ得ヘカラサル廠ヲ取毀ツカ如キハ建家取毀ノ必然ノ結果ニシテ何等ノ不法アラス(東京控大正二年法八三八號二三頁)

◎地所明渡ノ執行ト異議ノ方法

一 本條ニ基カ手續ニ於テハ裁判所ハ本案請求ニ關スル審査ヲ爲サスシテ裁判スヘキモノナルカ故ニ假令債務者ニ於テ義務履行ノ猶豫ヲ得タリトスルモ第五百五十五條第四號ニ該當スル證書ヲ提出シ得ル場合ハ格別然ラ

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル

七三三條

七三四條

〔五七三〕

八一

サレハ第五百四十五條ニ依リ異議ノ訴ヲ提起スルノ外ナキモノトス(大阪控大正五年法一一八〇號二六頁)

第七百三十四條(強制履行ヲ許ス債權ノ執行)

1 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス(民法施行法第五十五條ヲ以テ改正)

◎代替物ト強制履行

一 公債證書ノ一定ノ數量所謂代替物ヲ目的トスル債權ノ執行ニ付キ其物件カ債務者ノ占有ニ在ラス亦第三者ノ手中ニモ存セスシテ引渡ヲ受クル能ハサル場合ハ本條ニ依リ強制履行ヲ求ムルヲ至當トス(東京控四〇年最一卷四七頁法四二三號八頁)

◎賠償決定ト債務名義

一 本條ノ規定ニ依ル賠償決定ハ債務者ノ履行ヲ促スカ

爲メ爲サレタル執行方法タルニ過キサルト共ニ該決定ニ依リ債務ノ履行ヲ促スモ債務者ニ於テ履行ヲ爲ササルトキハ該決定ヲ債務名義ト爲シ得ヘキモノトス(神戸地大正六年評論六卷民訴二四一頁)

◎賠償決定ノ廢棄ト返還義務

- 一 債權者カ本條ニ依ル賠償決定ヲ債務名義トシテ債務者ニ對シ之カ執行ヲ爲シ賠償金ノ辨濟ヲ得タル後債務者ノ爲シタル抗告ニ因リ該賠償決定ハ廢棄セラレ債務名義消滅シタル場合ニ於ケル債權者ノ返還義務ニ付テハ民事訴訟法ハ特別ノ明文ヲ設ケサルモ右賠償決定ハ其確定前當然執行力ヲ有スルモノニシテ此點ニ於テ假執行ノ宣言アル判決ト其效力ヲ異ニセサルヲ以テ右決定廢棄ノ場合ニ於ケル債權者ノ返還義務ハ假執行ノ宣言アル判決廢棄ノ場合ニ於ケル差押債權者ノ返還義務ニ關スル規定ノ準用アルモノト解スルヲ正當トス(神戸地大正六年評論六卷民訴二四一頁)
- 二 賠償決定ノ廢棄ト遲滯ノ責任(補遺五一〇條參看)

.....(以下五七四頁).....

◎幼兒引渡ト執行ノ許否

- 一 幼兒ノ引渡ハ其性質強制履行ヲ許ササルモノニ非ス本條ニ定メタル方法ニ依リ間接ニ之ヲ強制シ得ヘキモノトス(大審大正元年民一〇八七頁)
- 二 執達吏ハ人身引渡ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス(民刑局長回答四二年民刑第二四八號)

◎夫婦同居義務ト強制執行

- 一 夫カ公力ニ依リ妻ノ同居義務ヲ履行セシムルコトハ勿論公序良俗ニ背反スルモノナルノミナラス其ノ強制執行ノ方法ニ關シテハ關係法規ニ規定ノ存セサルニ徴シ同居義務履行ノ強制執行ハ之ヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス(大阪控大正元年法八二四號二五頁)

◎不代換的行爲ノ執行ト其異議

- 一 確定判決ノ強制執行上本條ノ規定ニ基キ第一審ノ受訴裁判所カ宣言シタル決定ニ對シ其決定自體ヲ不法トシ之ニ因ル執行ヲ不當トスル場合ハ第五百五十八條ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ該當シ判決ニ依リ確定シタル請求ニ關スル實

體上ノ理由ニ非サレハ固ヨリ訴ヲ以テ其不服ヲ主張スヘキモノニ非ス(大審三八年民四〇六頁)

第七百三十六條(意思表示ヲ目的トスル債權ノ執行)

- 1 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

◎本條ノ旨趣

- 一 本條ノ規定ハ意思表示ノ内容ヲ將來ノ事項ニノミ限リタル法意ニ非サルヲ以テ判決ニ因ル承諾ノ效力ハ既往ニ週ルモ固ヨリ有效ナリトス(東京控四四年最九卷二頁)

◎本條ト「意思ノ陳述」ノ範圍

- 一 本條ニ意思ノ陳述云云トアルハ民法第四百十四條第

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル

◎意思ノ陳述ヲ爲スヘキ判決

- 一 國有林野法施行規則第五十三條ニ當事者ヲシテ願書ニ連印シ契約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘキ旨ヲ規定シタルハ即チ大林區署長ニ許可ノ要求ノ意思ヲ陳述セシムル趣意ナルヲ以テ裁判所カ當事者ニ權利讓渡ノ許可ヲ受クル爲メ大林區署長ニ對シ出願ノ手續ヲ爲スヘシト命シタル判決ハ本條ニ所謂意思ノ陳述ヲ爲スヘキコトノ判決ニ該當ス(大審四三年民四二六頁)

.....(以下五七五頁).....

◎意思ノ陳述ヲ求ムル判決ト假執行(類題、五〇三條)

- 一 意思ノ陳述ヲ爲スヘキコトノ判決ハ其判決ノ確定ヲ以テ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノナル

ヲ以テ性質上假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ス(東京地
四四年法七四七號二三頁)

二 不動産所有權ノ移轉登記ヲ爲スヘシトノ請求ハ相手
方ノ意思ノ陳述ヲ求ムルモノニシテ斯ノ如キ判決ハ其
確定前ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノニ非ス(大審四
五年民三三七頁)

◎三二二頁「意思ノ陳述ヲ爲スヘキ旨ノ和解」參照

◎判決ニ因ル登記手續ト其執行

一 判決ヲ以テ債務者方意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看
做スヘキ場合ニ於テハ毫モ執行機關ノ干與スヘキモノ
ニ非スシテ其判決ノ確定ト同時ニ當然債務者カ斯ル陳
述ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ登
記權利者ハ其確定判決ヲ提出シ單獨ニテ登記申請ヲ爲
シ得ヘキモノトス(東京地四四年法七四九號二四頁)

◎株式名義書換ト執行方法

一 株式所持人ノ變更アリタル場合ニ其當事者ノ爲ス名
義書換手續ハ書換ナル行爲ヲ爲スコトニ非スシテ會社
ニ對シ書換要求ノ意思表示ヲ爲スコトナルカ故ニ其手
續ヲ爲ス義務ヲ負フ者カ之ヲ履行セサルニ於テハ本條

2 假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲ス
コトヲ得

◎假差押ノ目的

一 民事訴訟法中假差押ノ規定アル所以ハ畢竟訴訟ノ當
事者カ其訴訟ノ完結ヲ俟チ執行ニ著手スルヲ不得策ト
スル場合即チ當該訴訟ノ完結ヲ俟タンカ假令勝訴ノ確
定判決ヲ得タリトスルモ其執行ノ不能若クハ著シキ困
難ヲ來ス虞アル場合ニ於テ他日判決ノ執行ニ至ル迄右
ノ危險ヲ豫防シ債務者ノ財產狀態ヲ維持セントスル所
謂強制執行保全ノ目的ニ外ナラス(大阪地四二年法六
〇九號一四頁)

◎假差押假處分ノ性質 (類題、五九二頁)

一 假差押假處分ハ執行保全ノ爲メニ要スル行爲ナレハ
其申請及ヒ之ニ對スル命令ハ即チ一種ノ特別訴訟手續
ニ屬スルモノニシテ執行手續ニ非ス(大審三四年民三
卷一頁)

二 假差押命令ハ強制執行ヲ保全スルカ爲メニシテ單純
ナル強制執行ノ一部ニ非ス(大審三二年民一一卷一九

ニ依リ履行ヲ命シタル判決ノ確定ヲ以テ其意思ノ陳述
ヲ爲シタルモノト看做サルヘキモノトス(東京控大正
元年法八三六號二一頁)

◎判決ニ因ル地代値上ノ時期

一 判決ニ因リテ地代承認ノ意思表示ニ代ハラシムル場
合ニ於テハ判決ノ確定シタル時ヲ以テ承認ノ意思表示
ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノナルモ其判決ノ確定
ニ因リ陳述ヲ爲シタルモノト看做サルヘキ地代値上ノ
意思表示ノ内容ハ土地所有者ヨリ地上權者ニ地代値上
ノ請求ヲ爲シタル日ニ遡リテ其日ヨリ増額セラレタル
地代ヲ支拂フコトヲ承認シタルモノト爲ササル可カラ
ス(東京控大正二年法八八一號二一頁)

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 (假差押ヲ許スヘキ請求)

1 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得
ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保
全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

(頁)

三 假處分ハ假差押ト異ナリ金錢以外ノ特定給付ニ對ス
ル請求權ノ執行ヲ保全スル方法ナレハ本案訴訟ニ係ル
請求權ニシテ金錢給付ヲ目的トスルモノナルニ於テハ
之ヲ保全スルニ假差押ヲ以テスヘカシテ假處分ヲ以テ
スルコトヲ得ス(大審大正元年民八四二頁)

四 假差押ノ處分ハ執行保全ノ方法ニ過キサレハ縱令其
申請ヲ爲スモ之ヲ以テ直ニ訴訟ヲ提起シタルモノト云
フヲ得ス(大審四〇年刑一〇九一頁)

..... (以下五七六頁)

◎條件附ノ請求ト假差押

一 條件附ノ請求權ト雖モ一タヒ條件到來スルニ於テハ
強制執行ヲ要スルコトアルヲ以テ豫メ其執行ヲ保全ス
ル爲メニ假差押ヲ爲スノ必要アリ從テ假差押ハ條件附
ノ請求ニ付テモ亦之ヲ許スヘキモノトス(大審四一年
民二三四頁)

◎立木ニ對スル假差押 (類題、六二五條)

一 立木ハ假令伐採ノ目的ニテ賣買セラレタル場合ト雖

モ未タ伐採ナキ以上ハ依然トシテ不動産ノ一部ヲ構成スルモノトス（甲府地大正三年最一五卷五〇頁）

二 右伐採目的トセル買主ハ賣主ニ對シ一種ノ財産權ヲ有スルコト明カニシテ而カモ該立木伐採權ハ生立ノ儘不動産トシテ之ヲ進退スル權利ニアラサルト同時ニ民事訴訟法上一般債權ニ對スル執行ノ規定中ニ舉示セラレタル債權ニモ該當セサルモノト認ムヘキカ故ニ該立木伐採權ハ第六百二十五條ノ所謂一種ノ財産權ニ當スルモノト認ムヘキヲ相當トス從テ買受人ハ第七百四十八條第六百二十五條ヲ準用シ假差押ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ（同上）

◎抵當附債權ト假差押

一 抵當アル債權ト雖モ假差押ヲ爲スコトヲ得（法曹會決議四三年二一巻二號三六頁）

◎相手方以外ノ者ノ債權ト假差押

一 債權ノ假差押ハ相手方カ第三債務者ニ對シテ有スル債權ニ付キ第三債務者ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ禁スルノ趣旨タルコト寔ニ明白ナルヲ以テ相手方以外ノ者ノ有スル債權ニ對シ假差押命令ヲ發シタルハ不當ナリト

第七〇號法曹記事十九卷四號九五頁）

……………（以下五七七頁）……………

◎漁業權ニ對スル假差押

一 新漁業法施行前ニ於テモ漁業權ハ行政官廳ノ免許ニ因リ生スル一種ノ財産權ニシテ之カ差押假差押ハ素ヨリ法ノ認許スル所ナルヲ以テ苟モ適當ナル假差押ノ實施アル以上假差押債權者ハ民事訴訟法ノ認ムル一種ノ擔保權ヲ漁業權ノ上ニ獲得スヘキモノトス（青森地大正元年法八一九號二六頁）

◎自己ニ對スル債權假差押

一 假差押債權者甲カ假差押債務者乙ニ對シテ有スル債權ノ爲メニ乙カ甲ニ對シテ有スル債權ハ甲ニ於テ之カ假差押ヲ爲シ得ルモノトス（旭川區大正六年評論六卷民訴一五四頁）

二 債權差押（假差押亦同シ）ノ場合ニ於テ同一人カ一方ニ於テ債權者トナリ他方ニ於テ第三者ト爲リ得ヘキモノニ非ス（東京控三四年法一七號一一頁）

三 銀行カ其株主ノ有スル株式ニ對シ假差押ヲ爲ス場合

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

ス（旭川區大正六年法一二四〇號二五頁）

◎押收證據品ト債權假差押

一 刑事被告事件ニ關シ私人ノ財物ヲ證據品トシテ押收シ之ヲ保管スルコト並ニ其證據品ヲ沒收スヘキヤ否ヤヲ確定スルコトハ何レモ刑事訴訟法所定ノ手續ニ依リ之ヲ爲スモノナリト雖モ證據品カ其ノ差出人ニ對シ還付スヘキモノト確定セル場合ニ差出人ハ證據品保管者タル官廳ニ對シ其返還ヲ請求シ得ルコトハ其證據品ニ對シ本來有セル私權ニ基クモノナルカ故ニ右返還請求權其モノハ一種ノ財産權トシテ私法上ノ法律關係ノ支配ノ下ニ立ツコトヲ得ヘク從テ民事訴訟法上其請求權タル差出人ニ對スル債權保全ノタメ右證據品保管官廳ニ對シ右請求權ニ付キ假差押ヲ爲シ得ヘキモノトス（大阪地大正四年法一〇〇七號二三頁評論四卷民訴九七頁）

二 刑事上證據トシテ押收中ノ金品ニ對シテハ被差押者ハ其物件差押ノ當初ヨリ既ニ該判決確定ニ至ラハ其還付ヲ受クヘキ請求權ヲ有スルモノナレハ此請求權ニ對スル裁判所ノ債務ハ一般債務ノ場合ト同シク假差押ヲ受クルコトヲ得ヘキモノトス（民刑局長回答四二年甲

ニ於テハ株券ニ付テハ執達吏ノ占有ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又既ニ確定シタル利益ノ配當ヲ受クル權利ニ付テハ自己第三債務者トシテ債權ノ假差押ヲ爲スコトヲ得ヘキモ將來利益ノ配當ヲ受クヘキ權利ニ付テハ假差押ヲ爲スコトヲ得ス（法曹會決議四三年二一巻一一號五四頁）

◎供託金又ハ賣得金ノ差押

一 假差押ノ金錢若クハ假差押物ノ賣得金ヲ供託シタル場合ニ於テ他ノ債權者ヨリ該差押事件ノ債務者ニ對シ右供託金ニ付キ強制執行ヲ爲サントスルトキハ債權差押ノ手續ニ依ルヘキモノトス（民刑局長回答三八年民刑第一〇一〇號）

◎保管者ニ對スル債權假差押

一 債務者所有ノ公債證書又ハ株券ヲ保管スル第三者ハ之ヲ返還スル債務ヲ負フ者ナレハ債權者ハ債權假差押ノ手續ニ依リ之カ假差押ヲ爲スコトヲ得（大審三二年民一一巻一九頁）

◎假差押中ノ株金拂込催告ノ效力

七三七條

〔五七七〕

八一七

一 株金拂込ノ債務ニ付キ假差押ノ存續中債務者タル株式會社カ第三債務者ニ對シテ拂込ノ催告ヲ爲スモ其行為ハ法律ニ違背スル所ナケレハ之ヲ無効ナリト云フヲ得ス（大審四〇年民三〇七頁）

◎假差押後ノ抵當權者ト優先權 〔補遺七三七條〕

- 一 債權者カ債務者所有ノ不動産ニ對シ假差押ヲ爲シ其假差押命令ノ登記簿ニ記入セラレタル場合ニ於テ其以前他ノ債權者カ該不動産ニ付キ抵當權ヲ取得シタルモ假差押後其登記ヲ爲シタルトキハ對抗條件欠缺ノ爲メ其抵當權ヲ假差押債權者ニ對抗スルコトヲ得スト雖モ之ヲ以テ該登記後ニ配當要求ヲ爲シタル債權者ニ對抗シ得ルモノトス（大審大正三年民一一六六頁）
- 二 不動産ニ對スル假差押命令登記ノ後抵當權設定ノ假登記又ハ本登記ヲ爲スモ假差押債權者ニ對抗シ得サルハ勿論該差押カ其效力ヲ斷絶セス本差押ニ移轉シタルトキハ其假差押ノ效力ハ爾後配當要求ヲ爲シタル債權者ノ爲メニモ亦發生スルモノトス（東京控大正二年最一三卷一九五頁評論二卷民訴三五四頁）
- 三 從テ右配當要求ノ債權者ハ差押債權者ト執行手續上ニ於テ何等待遇ヲ異ニセラルルモノニアラス乃チ前記

◎所有權移轉後ノ強制執行

- 一 假差押ヲ爲シタル不動産ニ付キ債務者ハ第三者ニ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ト雖モ假差押債權者ハ債務者ニ對スル執行名義ヲ以テ強制競賣ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（民刑局長回答三七年民刑第八三四號）

◎假差押登記ノ不法抹消ノ效力

- 一 地所假差押ノ登記カ抹消セラレタル後其地所ノ賣買登記ヲ受ケルモ假差押登記ノ抹消カ不法ニ出テ假差押ヲ爲サシメタル債權者之ニ關與セサルトキハ假差押ノ效力ハ依然トシテ失ハス從テ所有權ハ後ノ賣主ニ移轉スルモノニ非ス（大審二七年民七一〇頁）

第七百三十八條 〔假差押ヲ許スヘキ場合〕

1 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

◎假差押ノ原因タル事由

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

假差押登記後抵當債權者ノ登記ハ假差押債權者ニ對抗シ得サルト同時ニ配當要求ノ債權者ニモ對抗力ナキカ故ニ該不動産ノ競落代金ハ平等ニ分配セララルルモノトス（同上）

……………（以下五七八頁）……………

◎假差押後ニ於ケル賣買讓渡 〔類題、五三〇〕

- 一 不動産ニ對スル假差押ハ不動産ニ付キ處分ヲ禁スルモノニアラサルヲ以テ假令債務者カ爾後ニ於テ其不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シ又ハ賣買ヲ爲スモ唯假差押債權者ニ對抗スルヲ得サルニ止マリ抵當又ハ賣買ノ登記ハ無効ニアラス（大阪地三五年法七九號七頁同旨大阪地四四年法七三二號二三頁）
- 二 假差押ハ債權者ノ財產ニ付キ其處分權ヲ制限スルモノニシテ不動産ニ付テハ登記記入ニヨリ執行セララルモノナレハ債權者カ一旦適法ニ其登記記入ヲ受ケタルトキハ爾後假令第三者ニ於テ債務者ヨリ該不動産ノ所有權ヲ取得シ其登記ヲ受ケルモノ之ヲ以テ假差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス（東京控三八年法三〇二號八頁）

- 一 假差押ハ債權ノ強制執行ヲ保全スルコトヲ目的トシテ之ヲ爲ササルトキハ強制執行ヲ爲スコト能ハサラシメ若クハ著シク其執行ヲ困難ナラシムヘキ危險アル場合ニ於テ爲スモノニシテ債權ノ存否ヲ決スル手續ノ如何ハ假差押ノ事由タルモノニ非ス（大審大正元年民七五四頁）

◎假差押ト損害責任 〔類題、七四一條七四八條〕

- 一 詐欺行為ニ基ク損害賠償ノ請求權アリト信シ且之ヲ信スヘキ相當ノ理由存シタルトキハ假差押ヲ爲スハ權利實行上當然ノ行為ナリトス故ニ假令公訴力無罪トナリ私訴力棄却セラレタリト雖モ之ヲ以テ假差押カ故意若クハ過失ニ出テタルモノトスルニ足ラス（橫濱地大正六年法一三三三號二〇頁）
- 二 假差押ヲ爲シタル本訴請求ノ理由ナカリシ場合ト雖モ故意又ハ過失ヲ認ムルニ足ルヘキモノナキトキハ不法行為ノ原因トスル請求ハ當テ得ス（東京地大正四年法一〇九〇號一五頁評論五卷民法八九頁同旨東京地四〇年最一卷二八頁）
- 三 債權ノ執行保全トシテ故意又ハ過失ニ因リ執達吏ニ委任シ或ル物件ノ假差押ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ

- 一 一般不法行為ノ原因ニ從ヒ是ニ因リテ生シタル損害ヲ差押物件ノ所有者ニ賠償スヘキ責任アルモノトス（宮城控四一年法五二七號一七頁）
- 二 何等ノ債務ヲ負ハサル者カ假差押ヲ受ケタルトキハ之カ救済ノ方法ヲ講スル爲メ辯護士ニ依頼シ一面ニ於テ假差押ノ取消ヲ求メ一面ニ於テ告訴ヲ爲スカ如キハ當然ノ處置ニシテ之カ爲メニ其費用トシテ辯護士ニ支拂ヒタル金額ハ不當ナル假差押ノ爲メ被ムレル損害ト見做スヘキモノトス（東京控大正元年法八〇八號二三頁）
- 三 右假差押ヲ受ケタル不動産カ被害者唯一ノ財産ナルトキハ爲メニ痛心苦慮シタルコトヲ推知スルニ難カラサルヲ以テ慰藉料ノ請求權ヲ有ス（同上）
- 四 假處分ト損害責任（五九六頁參看）
- 五 假處分ノ損害ト要債權ノ不成立（同上）

◎假差押ト名譽毀損

- 一 假差押ハ權利實行保全ノ方法ニ過キサルカ故ニ債務者カ相當財産ヲ有シ且ツ不當ニ之ヲ隱匿スル如キ事情

……（以下五七九頁）……

◎虛偽ノ債權ニ因ル假差押ト詐欺罪

- 一 ナキニ拘ハラヌ假差押ノ必要アリト誣ヒテ假差押決定ヲ得ルハ不法ナリ故ニ債務者ハ其假差押ニ因リテ失墜セラレタル名譽ノ回復ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス（大阪地大正三年法九五〇號二六頁）
- 二 債權者ハ債務者カ財産隱匿ノ虞ナク寧ロ相當ノ資産ヲ有シ假差押ヲ爲ササルモ其執行ノ容易ナルヘキヲ知リナカラ假差押ノ申請及ヒ之カ執行ヲ爲サシメ右假差押事實力直ニ大阪市内同業者間ニ傳播シタルトキハ債務者ノ名譽ヲ毀損セラレタルモノニシテ債務者カ其後假差押債權金額ヲ供託シテ動産假差押ノ取消ヲ受ケタリトスルモ之カ爲メニ假差押ニ依リ債務者ノ名譽ヲ侵害セスト爲ス能ハサルハ勿論既ニ毀損セラレタル名譽ヲ回復シ得ルモノト爲ス能ハス從テ債權者ハ故意ニ因リ原告ノ名譽ヲ毀損シタルモノニシテ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任アルモノトス（大阪地大正六年評論六卷民法九五三頁）

- 一 虛偽ノ債權ヲ主張シ裁判所ニ對シ假差押ノ申請ヲ爲スモ裁判官チ欺罔スルニ依ル詐欺未遂罪ヲ構成セス（法曹會決議大正五年法曹記事第二七卷四號二五頁）

- 二 其申請ニ基キタル假差押命令ヲ執行スル行爲ハ裁判官チ欺罔スルニ依ル詐欺既遂罪ト爲ラス（同上）
- 三 然レトモ財産騙取ノ目的ヲ以テ假差押命令執行ノ事實ヲ暗黙ノ意思表示トシ自己ノ虛偽債權ノ主張ヲ相手方ニ通知スルハ詐欺未遂罪ヲ構成ス（同上）

◎假差押ノ損害要債ト立證責任

〔補遺七三八條〕

- 第七百三十九條（假差押ノ管轄裁判所）
- 一 假差押ノ命令ハ假差押ノ可キ物ノ所在地チ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之チ管轄ス

◎假差押命令ト管轄裁判所

- 一 假差押命令ハ本案ノ管轄裁判所又ハ假差押フヘキ物ノ所在地チ管轄スル區裁判所之チ管轄シ其物カ債權ナルトキハ第十七條ニ依リ第三債務者ノ住所チ管轄スル區裁判所之チ管轄ス（長崎區大正五年法一一六八號三二頁同旨東京區四〇年法四二〇號六頁）

……（以下五八〇頁）……

◎私訴ト假差押假處分

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

- 一 民事裁判所ニ申請シテ假差押ノ命令ヲ得タル後申請者ノ選擇ニ依リ本案ノ訴チ私訴トシテ刑事裁判所ニ提起スルモ既ニ得タル假差押ノ命令ノ無効ヲ惹起スルカ如キ關係チ生セス（大審二九年民一一卷四九頁）
- 附 公訴附帶ノ私訴ニ關スル假差押假處分ハ私訴裁判所之カ裁判ヲ爲シ得ヘキモノトス（學說、評論五卷刑訴四〇頁）

第七百四十條（假差押申請ノ方式）

- 一 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ
- 第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額
- 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
- 第二 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ
- 第三 申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

◎假差押申請ノ要件

- 一 假差押ノ申請ニ付テハ本案請求ノ旨趣ヲ表示スルヲ以テ足り請求ノ原因ハ之ヲ開示スルヲ要セス（大審三五年民七卷四三頁）

七三九條

七四〇條

〔五八〇〕

八二一

第七百四十一條 (假差押ノ申請ト審理手續)

1 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

2 請求又ハ假差押ノ理由ヲ疎明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者力裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

3 又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疎明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

4 保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

◎假差押ノ疎明不充分ト保證

一 本條ニ依レハ假差押事件ニ在リテハ請求又ハ假差押ノ理由ヲ疎明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生スヘキ損害ノ爲メ債權者力裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得ルモノナレハ其請求ニ付キ疎明不充分ナ

◎假差押ト損害責任 (類題、七三八條)

一 不當ノ假差押ニ付テハ民事訴訟法ハ法律上ノ效果トシテ訴訟費用執行費用及ヒ假差押物ヲ債權者ノ占有ニ復歸セシムル爲メノ費用ヲ債權者ニ支拂ハシムルニ過キス (大審三五年民二卷二六頁)

二 債務者ニ於テ債權者ニ對シ前項以外ノ損害ヲ請求セント欲セハ宜ク原告トシテ債權者ノ爲シタル假差押カ故意又ハ過失ニ出テタルコトヲ立證セサルヘカラス然ラサレハ民法ノ規定ニ基キ債權者ノ賠償責任ヲ生セシムルコトヲ得ス (大審三五年民一一卷二六頁)

◎第三者ノ供託ト其適否 (類題、四一七頁)

一 第三者カ假處分命令申請人ノ爲メニ供託ヲ爲スコトハ敢テ違法ニアラス (東京控四五年法八二〇號二五頁)

◎假差押ノ供託金ト優先權 (類題、次頁及七五四條)

一 我法律ニハ供託シタル金錢又ハ有價證券ニ對スル被假處分者ノ權利ニ付キ特ニ明言スル所ナシト雖トモ供託行爲自體ニ因リテ法律上質權ヲ設定シタルト同一ノ

リトテ保證ヲ立テタル假差押ニ對スル債務者ノ異議ハ其理由ナキモノトス (大阪區大正三年法九五二號二六頁)

二 假差押ハ處分行爲ヲ妨グル效力ナシト雖モ債務者ハ之カ爲メ損害ヲ受クルコトナシト云フヲ得ス從テ債權者ニ保證ヲ立テシムル必要アルモノトス (民刑局長回答二九年民刑第四五〇號)

◎假差押ニ因リ生スヘキ損害ノ意義

一 本條第二項ニアル假差押ニ因リ債務者ニ生スヘキ損害トハ單ニ假差押ノ爲メニ生シタル訴訟費用及ヒ執行費用ヲ指スノミナラス不當ナル假差押ノ爲メニ生シタル總テノ損害ヲ指スモノトス (大審三五年民一一卷二六頁)

二 本條第二項ノ所謂假差押ノ爲メニ生スヘキ損害トハ訴訟上ノ損害即チ訴訟費用及ヒ假差押執行ノ費用等ニ關スルモノニシテ實體法上ノ損害ヲ包含スルモノニアラス (東京控三五年法九三號八頁)

◎次ノ「假差押ト損害責任」參看

…………… (以下五八一頁) ……………

效力ヲ生スルモノト解セサルヘカラス然ラハ供託ノ效果ハ供託物自體 (若シ供託物カ一旦金庫ノ所有ニ移ルトキハ其返還請求權) ヨリ損害ノ填補ヲ受クル權利ニシテ供託物ヲ離レ其ノ價格ヲ限度トシテ一種ノ對人的擔保義務ヲ發生セシムルモノニ非ス故ニ被假處分者ハ須ラク質權實行ノ方法ニ準シテ假處分者ノ保證トシテ供託セル物ヲ賣却シ其賣得金中ヨリ損害ノ填補ヲ爲スヘシ然ルニ事爰ニ出テス第三者カ供託セル社債券ノ價格ノ範圍内ニ於テ法律上保證義務ヲ負擔セルト同一ノ效果發生セルモノト解シ之ニ基キ金員ノ支拂ヲ求ムルハ失當ナリ (東京控四五年法八二〇號二五頁)

二 訴訟上ノ保證ト優先權 (四一六頁參看)

◎假差押保證金ノ處分

一 假差押ノ消滅シタル場合ニ於テ假差押ノ爲メニ立テシメタル保證ノ處分ニ關シテハ法律ニ何等ノ規定ナシト雖モ假差押裁判所ハ一債權者ノ申請ノ趣旨ニ基キ諸般ノ事情ヲ斟酌シ其意見ニ依リテ下戻ノ當否ヲ決定スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ債務者ニ於テ假差押ノ爲メニ何等ノ損害ナカリシコトヲ認ムルニ足ルヘキ場合ニ於テハ差押裁判所ハ之ヲ債權者ニ還付スヘキヲ相

當トス（仙臺地三七年法二一三號一四頁）

第七百四十二條（假差押ノ裁判ノ形式）

- 1 假差押ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
- 2 假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

◎假差押申請ノ却下ト不服申立

- 一 假差押假處分ハ執行手續ニアラス故ニ其申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ第五百五十八條ヲ適用スルコトヲ得サルモ訴訟手續ニ相違ナケレハ第四百五十五條ニ依リ抗告ヲ爲シ得ヘキモノトス（大審三四年法三一號七頁）

……（以下五八二頁）……

第七百四十三條（假差押命令ト執行停止ノ供託金額）

- 1 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スルコトヲ得ル爲メ債

務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

◎本條ノ供託金額ヲ定ムル標準

- 一 本條ノ規定ニ依リ假差押命令ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スルコトヲ得ル爲メニ債務者ノ供託スヘキ金額ヲ定ムルニハ債權者カ假差押申請ノ基本トシテ主張スル請求ノ金額又ハ價額ヲ標準トスヘキモノニシテ假差押命令ノ執行ノ目的ト爲ルヘキ債務者ノ財産ヲ標準トスヘキモノニ非ス（大審大正五年民七六四頁）

◎假差押取消ノ供託金ト優先權（類題、前頁）及七五四條

- 一 假差押命令ノ執行ヲ取消ス爲メニスル供託金ハ第七百四十七條ニ依リ債務者カ根本的ニ假差押命令其モノノ取消ヲ求メムトスル場合ニ將來相手方ニ生スルコトアルヘキ未發ノ損害賠償ヲ擔保シ以テ相手方ヲシテ他ノ債權者ニ優先シテ其辨濟ヲ受ケルコトヲ得セシメムカ爲メ保證トシテ提供スル供託金ト異ナリ債務者カ本條ノ規定ニ基キ假差押命令ニ定メラレタル金額ヲ供託シテ單ニ假差押命令ノ執行ノミノ取消ヲ求メムトスル

一 裁判所ナリトス（東京地四〇年法四三二號五頁）

◎債權假差押第三債務者ノ異議

- 一 債權假差押命令ニ於ケル第三債務者ハ本條ニ所謂債務者ニ該當セス從テ第三債務者ハ債權假差押命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス（安濃津地四一年法五二六號一八頁）

◎假差押假處分ノ異議ト其理由

- 一 假處分ノ理由消滅セシ場合ハ之カ取消ノ申立ヲ爲スヘク異議ノ申立ヲ爲スナサト雖モ假處分決定ノ送達ハ株金拂込及ヒ失權通知ノ效力發生後ナルヲ以テ假處分ハ無効ナリ又ハ假處分ニ依リ保全スヘキ請求權ナシ若クハ繼續セル權利關係ナシ等ノ理由ニ因リ假處分決定ニ對シ初メヨリ假處分ヲ不當ナリト主張スル場合ノ如キハ異議ノ申立方法ニ依ルモ敢テ不適法ニアラス（大阪控四二年最五卷三一頁法六一號一三頁）
- 二 假處分ニ對スル異議ハ債務者カ其決定ノ當否ヲ爭フモノニシテ該命令ノ取消ヲ申立ツル場合ノ如ク事由ニ制限ナシ（大審三九年民一六二七頁）

◎第七四七條「假差押ノ取消理由」參照

◎假差押假處分ノ異議ト管轄

- 一 假處分ノ命令ハ本案ヲ管轄スヘキ裁判所之ヲ管轄スルヲ原則トス從テ之ニ對スル異議申立ノ裁判所モ亦同

場合ニ提供スル單純ナル供託金ニシテ是ニ由リ假差押債權者カ其執行ヲ取消サルルモ將來假差押命令ニ表示セラレタル請求權確定スルトキハ該供託金ニ對シ該ニ執行シタル物件ニ於ケル同一ノ權利ヲ實行シテ債務者ノ辨濟ヲ確實ナラシムルコトヲ得ルモノナリ故ニ該供託金ハ假差押債權者ノ請求權ノ實行ヲ確保スル爲メ假差押命令ニ羈束セラレルモノニシテ全ク取消シタル執行ノ目的物ニ代位シテ假差押中ニ在ルモノトス（奈良地大正元年法八一七號二三頁同旨長野地大正四年評論四卷民訴一二七頁）

二 五一三頁「債權ノ差押ノ競合」ノ二以下參看

第七百四十四條（假差押ノ決定ニ對スル異議）

- 1 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
- 2 此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ
- 3 異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

三 本條第一項假差押ノ決定ニ對スル異議ニハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ニ何等ノ制限ナキヲ以テ其理由トシテ實體權ノ不存在ヲ主張スルヲ妨ケス(大阪地大正元年法八二一號二六頁)

四 假差押ハ保全セントスル請求權ノ存在ヲ確定シテ之ヲ爲スモノニアラサルカ故ニ其保全セントスル請求權ノ存否ヲ以テ其決定ニ對シ異議ノ理由ト爲スコトヲ得ス(福岡地方久留米支部四〇年法四六二號一〇頁)

.....(以下五八三頁).....

◎假差押假處分ノ異議ト理由ノ疏明

一 假處分ノ決定ニ對シ異議ヲ申立ツル者ハ其理由ヲ疏明スルヲ以テ足り之カ證明ヲ爲スコトヲ要セス(大審四一年民三六〇頁)

二 第七百五十六條及ヒ本條第二項ニ依リ債務者カ異議申立書ニ開示スル理由ハ防禦方法ニ關スル準備書面タルノ性質ヲ有スルニ過キスシテ異議ノ申立ニ依リ假處分申請ニ關スル當事者ノ地位ニハ何等變更ヲ受クルコトナキヲ以テ債權者ハ請求及ヒ假處分ノ理由ヲ疏明セサルヘカラス(大審大正五年民一九二頁同旨東京控四

二年最五卷一五頁學說、評論三卷民訴二九九頁)

◎異議ノ申立ト當事者ノ表示

一 假處分決定ニ對スル異議ノ申立ニハ當事者ノ表示ヲ要件トセス唯何人ノ申請ニ因ル假處分ノ決定ニ對シ取消又ハ變更ヲ申立ツルカノ理由ヲ開示スレハ足レリ(大審三一年民二卷四四頁)

第七百四十五條 (假差押ノ異議ト裁判手續)

1 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ
2 裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

◎本條ハ假處分ニ準用セス

一 本條ハ假處分ニ準用スルコトヲ得ス(大審二八年民二卷六〇頁)

◎假處分申請代理人ノ權限

一 假處分申請ニ付テノ訴訟代理人ハ其決定ニ對スル相手方ノ異議申立ニ對シ第六十五條ニ從ヒ當然答辯ヲ爲ス資格ヲ有ス(大審三〇年民三卷九二頁)

◎假處分異議ヨリ損害賠償ニ變更

一 假處分ニ對スル異議ノ申立ハ訴ノ性質ヲ有スルモノニ非ス故ニ右申立ニ代ヘテ損害賠償ヲ請求スルハ前訴ヲ變シテ損害賠償ヲ請求スルモノニ非スシテ新ナル訴ナリトス從テ民事訴訟用印紙法ノ定ムル所ニ從ヒ相當ノ印紙ヲ貼用スヘキモノトス(大審四四年民二四七頁)

.....(以下五八四頁).....

第七百四十六條 (起訴命令ト其ノ效果)

1 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ
2 此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

ナ、以テ假差押ヲ取消ス可シ

◎起訴命令仲裁判斷ノ請求

一 本條ニ所謂訴トハ狹義ノ訴即第九十條ノ訴ノミナラス凡テ請求ヲ確定セシムヘキ訴訟上ノ方法ヲ包含シ仲裁判斷ヲ求ムルコトモ亦之ニ屬スレハ起訴命令ノ申立ハ裁判所ニ訴ヲ起スヘキ命令ニ限定シタルモノト解スヘカラス從テ裁判所ノ命スル所ノ起訴モ斯ノ如キ限定的意義ヲ有スルモノニ非スシテ仲裁契約ノ成立セル場合ニ於ケル起訴ハ仲裁判斷ヲ求ムルニ在リト爲ササルヘカラス(大審大正六年民七七六頁評論六卷民訴二〇一頁)

◎期限前ノ假差押ト起スヘキ訴

一 債權者カ辨濟期ノ未タ到來セサル債權ニ付キ強制執行ヲ保全スル爲メ假差押ヲ爲シタル場合ニ於テ起訴命令ヲ受ケタルトキ其起スヘキ訴カ確認訴訟ナルコトハ勿論ナリ(新見區大正元年法八三三號二五頁評論一卷民訴二二三頁)
二 假差押債務者カ訴訟提起命令ヲ申請シタルトキハ債

權者ハ辨濟期到來前ト雖モ尙ホ確認訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ(秋田區大正五年法一一四二號二四頁)

◎起訴命令ノ期間存否ト不服申立

- 一 假差押債權者ニ對スル本案訴訟ノ提起命令ハ假差押ノ執行ヲ目的トスルモノニ非サルヲ以テ右提起命令ニ對シテハ第五百五十八條ノ準用ナシ(大阪地大正五年法一一四九號二五頁)
- 二 右提起命令ニ於ケル期間カ短キニ失スル場合ニ於テハ本條第二項ノ終局判決ニ關スル口頭辯論ニ於テ之主張スルノ外ナシ(大阪地大正五年法一一四九號二五頁)

◎起訴命令ノ期間經過ト假差押維持

- 一 起訴命令ニ定メタル期間ヲ經過シタル爲メ法律上當然起訴ノ權利ヲ失フモノニアラス債務者ノ申立ニ因リ假差押命令ヲ取消スマテハ何時ニテモ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘク其結果縱令期間經過後ト雖モ起訴アル場合ニハ假差押命令ヲ取消スコトヲ得サルモノトス(東京控四〇年法四四六號一四頁同旨大阪地四四年法七〇〇號二六頁)

第七百四十七條(假差押ノ取消)

1 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

2 此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又ハ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

◎假差押取消ノ申立ト管轄 [補遺、七四七條]

- 一 本案カ控訴審ニ繫屬中ハ控訴裁判所カ所謂本案ノ裁判所ナルヲ以テ假差押取消申立ノ當時本案カ控訴審ニ繫屬スル以上ハ其申立ニ付テノ管轄裁判所ハ控訴裁判所ナリトス而シテ判決當時ニ於テハ既ニ本案カ控訴審ノ繫屬ヲ離脱スルモ之カ爲メ管轄ニ變更ヲ來スヘキモノニ非ス(大審大正六年民一六五一頁評論六卷民訴四三六頁)
- 二 假差押命令取消申立ニ付テノ裁判ハ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲スヘキモノナルモ本案カ未タ繫屬セス又ハ和解若クハ取下ニ因リテ其繫屬

ヲ離レタルトキハ假差押ヲ命シタル裁判所之ヲ爲スヘキモノトス(長崎地四二年法五五一號二頁)

- 三 債權者カ區裁判所ニ於テ假差押命令ヲ得タル後本案ノ訴訟トシテ地方裁判所ノ刑事部ニ公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタルモ棄却ノ言渡ヲ受ケ其判決確定シタル場合ニ於テ債務者カ假差押ノ取消ヲ求ムルニハ假差押ヲ命シタル區裁判所ニ其申立ヲ爲スヘキモノトス(法曹會決議大正三年第二五卷二號八二頁評論四卷民訴五五頁)

.....(以下五八五頁).....

◎假差押假處分ノ取消方法 [補遺七四七條]

- 一 假差押債務者ハ第七百四十八條ニ依リ債務不存在ノ理由トシテ假差押不許ノ宣言ヲ求メ得ヘキニ似タリト雖モ假差押ノ取消ニ付テハ特別ノ規定存シ債務者ハ第七百四十四條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘク又理由消滅其他事情ノ變更ヲ理由トシテ假差押決定ノ取消ヲ求メ得ヘキノミナラス第五百四十五條ノ規定ニ基キ執行異議ノ訴ヲ提起スルニハ判決ニ因リテ確定シタル請求ノ存在ヲ必要トスルニ拘ラス假差押ノ執行ハ單ニ將來ノ強制執行ヲ保全スルヲ以テ目的トシ確定

◎訴ヲ以テスル假差押ノ取消

- 一 假差押債務者ハ假差押決定ニ對スル異議ノ申立ヲ爲サスシテ訴ヲ以テ假差押ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス(神戸區四二年法五九〇號一四頁)

◎假差押ノ取消理由 [類題、五九七頁]

- 一 本條ハ裁判所カ假差押ノ命令ヲ發スル當時ニハ之ヲ發スル理由アリテ債務者ノ異議ヲ容ルルコト能ハサルモ爾後假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルカ如キ場合ニ於テ該命令ノ取消ヲ申請シ得ヘキコトヲ規定

セルモノトス（大審三九年民一六二七頁）

- 二 私訴判決ノ形式上竝ニ實質上ノ確定力ハ公訴判決ノ變更ニ依リ動カサルヘキモノニ非サレハ犯罪ニ因ル賠償請求權ノ爲メニスル假差押後同旨趣ノ私訴判決確定シタル以上ハ其後被告力無罪ノ判決ヲ受クルコトアルモ斯ル事情ハ本條第一項ニ所謂假差押ノ理由消滅シ其他事情ニ變更ヲ生シタル場合ニ該當セサルモノトス（大審大正四年民一三五〇頁評論四卷民訴一五二頁）
- 三 假差押ノ命令ノ取消ト執行（第七五四條參看）
- 四 假處分命令ノ取消理由（第七五九條參看）
- 五 假處分取消ノ理由（五九七頁參看）

……………（以下五八六頁）……………

◎費用不拂ト假差押理由ノ不消滅

- 一 債務者ニ於テ強制執行ヲ受クル請求ニ對スル履行ト同時ニ之カ執行ニ必要ナル費用ノ支拂ヲ爲ササルトキハ本條ニ依リ假差押命令ニ記載シタル金額カ債權額ノミニシテ執行費用ヲ含マサル場合ノ外假差押ノ理由ハ未タ當然消滅ニ歸スルモノニ非ス（大審大正六年民二七〇頁評論六卷民訴八四頁）

◎訴ノ取下ト假差押理由ノ消滅

- 一 假差押ノ基本タル請求ニ付テノ訴カ取下ケラレタリト看做サレタルノ一事ヲ以テ假差押ノ理由消滅シタリト云フコト能ハス（東京控大正四年法一〇五五號三一頁評論四卷民訴二六二頁）
- 附 假差押ノ基本タル請求ニ付キ再訴ヲ爲シ該訴訟ノ繫屬スル以上ハ本條第二項ノ所謂本案カ既ニ繫屬シタルトキト謂フニ該當スルモノトス（同上）

◎假差押假處分ト事情ノ變更

- 一 本條ニ所謂事情ノ變更トハ假差押ノ續行ヲ不當トスヘキ事情ヲ謂フモノニシテ即チ假差押ノ理由ノ消滅シタル場合ヲ指稱スルモノトス（大審大正元年民七五四頁）
- 二 裁判所カ終局判決ヲ以テ起訴者ノ請求ヲ排斥スルトキハ假處分ニ關スル事情ノ變更ト看做シ申立ニ依リ其處分ヲ取消スコトヲ得ヘキハ法理上當然ナリ（大審三一年民五卷一〇三頁）
- 三 假差押又ハ假處分ニ付キ其本案ノ請求原因消滅シタル場合ハ本條ノ所謂事情ノ變更シタルモノニ該當ス

（大審四一年民一〇六二頁）

◎本案判決ト假差押假處分ノ取消

- 一 假處分裁判所カ本案訴訟ヲ審理シタル結果其請求ヲ棄却シ從テ如何ナル條件ニ從フモ強制執行ノ債務名義ヲ付與スルニ足ラサルモノト認メタル場合ニ於テハ判決確定ヲ待タズ最早其認許シタル假處分ヲ持續スルノ必要ナキヤ言テ俟タズ從テ斯カル場合ハ本條ニ所謂事情ノ變更シタルトキニ該當スルモノト認ムヘキモノトス（大阪地四二年法六一四號一二頁）
- 二 家督相續回復請求ノ訴訟ニ付キ原告カ第一審第二審トモ實體上ノ理由ニ依リ敗訴ノ判決ヲ受ケ其假差押申請ニ當リ疏明シタル事實ト反對ナル事實ノ存在ヲ觀得ルニ至リタルトキハ該判決ハ未確定ナルモ事情ノ變更アリタルモノニシテ假處分ノ取消ヲ許スヘキモノトス（大審大正六年民二七四頁評論六卷民訴七七頁）
- 三 本案ノ受訴裁判所カ本案訴訟ニ於テ假差押申請者ノ請求ヲ理由ナキモノトシテ排斥シタル場合ニハ其判決ノ確定ヲ俟タズ本條ノ所謂事情ノ變更アリタルモノトシテ申立ニ因リ假處分命令ヲ取消シ得ヘキモノトス（長崎控四四年法七三三號二六頁）

◎假處分ノ取消ト登記ノ囑託

- 一 假處分命令取消決定ノ登記囑託ハ決定裁判所タル地方裁判所カ爲スヘキモノトス（東京控三四年法五五號九頁）

◎假差押假處分取消ノ裁判

- 一 假處分取消ノ申立ニ付テハ第七百五十六條ニ依リ假差押取消手續ニ於ケル本條第二項ノ規定ヲ準用シ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判スヘキモノトス（大審三三年民一卷一二七頁同旨大阪控四二年法五六一號一三頁）

……………（以下五八七頁）……………

第七百四十八條 (假差押ノ執行)

1 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

◎假差押ニ對スル第三者ノ異議 (類題、四四六頁)

- 一 第三者ノ執行異議ト原因 (四四七頁參看)
- 二 第三者ノ執行異議ト目的物 (同上)

◎假差押執行ノ費用ト取立 (類題、四五四頁、四五五條)

一 假差押ノ執行ニ付テハ本條ニ依リ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スルヲ以テ假差押ノ執行ニ必要ナル費用ハ第五百五十四條ニ依リ債務者ノ負擔ニ歸シ強制執行ノ請求ト同時ニ債務者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得ルモノトス (大審大正六年民二七〇頁評論六卷民訴八四頁)

◎假差押ノ執行ト債務供託書ノ提出

一 執達吏カ假差押ヲ爲サントスルニ當リ債務者ニ於テ供託ヲ爲シタル旨ノ證明書ヲ提出シタルトキハ其執行ヲ停止シ之カ顛末ヲ調査ニ記載スルハ當然執達吏ノ職務ニ屬スルモノトス (大審四〇年刑六五七頁)

◎假差押ヨリ強制執行

一 假差押ナルモノハ金錢ノ債權ノ強制執行ヲ保全スル目的トスヘキモノナルカ故ニ其金錢ノ債權ニシテ確定スルニ至レハ假差押ハ之ヲ解除セスシテ直ニ強制執行ニ移リ即チ本差押ニ變更シ之ヲ續行スルヲ得ヘキモノトス (大審三五年民六卷一二九頁同旨大審三四年民一一卷七八頁)

二 債務者カ債權者ノ爲シタル假差押ニ對シ異議ノ訴ヲ提起セル場合ニ於テ其訴訟中假差押ノ基本タル請求ニ關スル判決確定シ現ニ執行セラレルニ至リタルトキハ原告ハ其訴ヲ強制執行異議ノ訴ニ改ムルコトヲ得ヘキモノトス (大審大正五年民三九七頁同旨大審大正二年民一〇〇四頁評論二卷民訴三三四頁)

三 假差押カ本差押トナリシ場合ノ申立 (一七〇頁參看)

◎異議ノ目的物變更ト權利拘束

一 前項ノ場合ニ在テハ前ノ假差押ハ當然強制執行上ノ差押ト爲リ訴訟中目的物ノ狀態ニ變更ヲ來シタルモノニ外ナラスシテ其目的物ノ前後同一ナルコトニ於テ毫

モ妨ケル所ナケレハ本件ニ於ケル權利拘束モ亦假差押不許ノ訴ノ當初ヨリ繼續スルモノトス (大審大正五年民三九七頁)

◎假差押執行ノ取消 (類題、前頁)

一 假差押命令執行ノ取消ニ付テハ本條以下ノ規定ニ依ルヘキモノナレハ債務者ニ於テ之ヲ取消シ得ヘキ裁判又ハ其他ノ書類ヲ得タルトキハ第五百五十條ヲ準用シ執行ノ取消ヲ求メ得ル場合アレトモ然ラサルトキハ債權者ニ於テ其取消ヲ求ムヘキハ當然ナリ (大審三七年民一二四二頁)

…………… (以下五八八頁) ……………

◎不法ノ假差押ト債權者ノ責任 (類題、五七八頁、五三二條)

一 債務者ハ假差押命令ノ執行ニ對シテ之ヲ拒ムコトヲ得サルト同時ニ縱令債務者ヨリ其差押物ヲ選擇指示スルモ執達吏ハ之ニ從フヘキ責任ヲ有セス故ニ差押自體ノ不法ナル場合ニ在テハ執達吏カ債權者ノ指示セル物品ヲ差押ヘタリトモ之カ爲メニ債權者ノ責任ニ異同ヲ

生スルコトナシ (大審四一年民一〇九七頁)

第七百四十九條 (假差押命令ト執行文)

〔假差押ノ執行著手ノ時期〕

1 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

2 假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

3 右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

◎「十四日ノ期間ヲ徒過シタル」意義

一 本條ニ「十四日ノ期間ヲ徒過シタルトキ」トアルハ「十四日ノ期間ヲ經過シタルトキ」トアルニ等シク執行權利者ニ於テ執行ニ著手スルコトヲ得サリシ正當ノ事由アリシト否トチ間ハス十四日ノ期間内執行ニ著手セザリシトキハ假處分命令ノ執行ヲ爲スコトヲ禁止スルノ法意ナリトス而シテ執達吏カ假處分命令執行ノ爲

メ現場ニ臨ミ相手方ノ所在ヲ取調フルカ如キハ未ダ執行ニ著手シタリト認メ難キモノトス(東京地大正六年評論六卷民訴四四二頁)

二 本條第二項ハ正當ノ理由ナク十四日ノ期間ヲ經過シタルトキハ其執行ヲ許ササルノ法意ナレハ期間内一旦執行ニ著手シ期間後之ヲ繼續スルカ如キハ違法ニ非スト雖モ期間後ノ執行力全ク新ナル執行行爲ト見ルヲ得ヘキ場合ニ於テハ縱令期間内ニ一旦執行ヲ爲シタルモノナルト否トテ問ハス之ヲ許スヘキモノニ非ス(大分地四四年法七二七號二二頁)

三 假差押命令ハ之ヲ言渡シ又ハ申立人ニ送達シタル後十四日ノ期間ヲ經過シタルトキハ假令債權者ノ委任ハ其期間内ニシテ執達吏ニ正當ノ事由アリタル場合ト雖モ之カ執行ヲ許ササルモノトス(民利局長回答四二年民刑第二四八號)

四 執達吏カ假差押ニ著手セントスルニ方リ當事者合意ノ申立ニ因リ之ヲ中止シタル場合ト雖モ右法定期間經過後ニ至リ執行スルコトヲ得サルモノトス(同上)

五 法定期間内ニ假差押ヲ實施シ之カ續行ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ期間經過後ト雖モ妨ナキモノトス(同上)

六 假處分ト十四日ノ執行期間(第七五六條參看)

リ差押ヲ爲シタル旨ノ通知アリタルトキハ單ニ其旨ヲ差押債權者ニ通知スヘキモノトス(民利局長回答三九二年民刑第七九八號)

五 轉付命令ト債權ノ侵害(五〇一頁參看)

.....(以下五八九頁).....

◎假差押命令ト債務者氏名ノ誤記 [類題、二二七頁]

一 假差押命令中債務者ノ氏名ニ誤記アルトキト雖モ債務者其人ノ表示ト認ムルニ足ルヘキ場合ハ有效ナルモノトス(民利局長回答四四年民刑第四九號)

第七百五十條 (假差押ノ執行(動産))

- 1 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス
- 2 債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス
- 3 債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支持拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコシ
- 4 假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及

◎假差押ノ競合ト照査手續 [類題、四八一頁]

一 假差押ヲ爲シタル物件ニ對シ更ニ差押ヲ爲スヘキトキハ通常差押ノ手續ニ依ルヘキモノニシテ若シ再度ノ執行モ假差押ナルトキハ第五百八十六條ノ規定ヲ準用シ照査手續ヲ爲スヘキモノトス(民利局長回答三三年民刑第一二〇〇號)

◎假差押ト差押トノ競合 [類題、四八一頁]

- 一 債權ニ對スル假差押命令アリタル場合ニ於テハ其命令ノ取消サレル迄ハ何人ト雖モ取立命令又ハ轉付命令ヲ受クルコトヲ得サルモノトス(東京地大正五年法一六五號二五頁)
- 二 假差押ニ係ル物件ニ對シ縣稅滯納處分ニ因リ之ヲ差押ヘタルトキハ假差押ノ效力ハ自然消滅スヘキモノニシテ又右競賣代金ノ殘額ハ所有者タル債務者ニ還付スヘキモノトス(民利局長回答三一年民刑第九四號)
- 三 鑛山採掘權ノ書入登錄出願ハ假差押ノ前ニ在ルモ登錄ニシテ其後ナルトキハ書入債權者ハ假差押債權者ニ對シ優先權ナキモノトス(大審三一年民九卷一三頁)
- 四 假差押ヲ爲シタル動産不動産ニ付キ國稅徵收法ニ依

ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

◎有體動産ノ假處分執行

一 假處分命令カ有體動産ノ賣買讓與質入書入及使用ヲ禁止シタルニ止マリ別ニ執達吏ヲシテ保管其他ノ方法ヲ爲サシムヘキ手續ヲ定メサルトキハ執達吏ハ縱令債權者ノ委任アルモ該命令ヲ執行スルコトヲ得ス(民利局長回答三三年民刑第一〇一四號)

◎債權假差押命令ト其執行

一 債權假差押ノ申請アリタルトキハ假差押ノ命令ノミヲ發シ假差押執行ノ申請アルヲ缺テ本條第三項ニ依リ第三債務者ニ對シ債務者ニ支持拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ヲ發スヘキモノナルモ假差押ノ申請ト其執行ノ申請ト同時ニ爲シタルトキハ同時ニ二個ノ命令ヲ發スルコトヲ得ヘキモノニシテ假差押ノ申請アリタルトキハ實

際ノ取扱上多クノ場合ニ於テハ同時ニ其執行ノ申請モアリタルモノト認ムルナ相當トス(民刑局長回答四〇年民刑第六五六號)

◎債權假差押ト債權讓渡ノ優劣 (類題、四九九頁)

- 一 債權假差押命令ノ送達ト該債權讓渡ノ通知ト同時ニ受ケタルトキハ第三債務者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス(民刑局長回答四四年民刑第四九號)
- 二 假差押債權ノ讓渡アリタル場合ト雖モ假差押債權者ハ讓渡ナカリシモノトシテ強制執行ヲ爲スコトヲ得從テ讓渡人ヲ債務者トシテ發シタル差押命令ハ有效ナリ(同上)

.....(以下五九〇頁).....

◎假差押命令ノ效力

- 一 有體動產假差押命令ハ債務者所有ノ有體動產ニ限リ之ヲ差押フヘキコトヲ命スルモノトス從テ假差押命令ニ依リ第三者所有ノ有體動產ヲ差押フルカ如キハ該命令ノ法律上ノ效力トシテ當然發生スヘキ結果ニ非ス(大審三九年民二二六頁)

- 二 金錢支拂ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ハ有價證券引渡ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキヤ否ヤハ其假差押命令タルノ性質上他ノ法則若クハ規約等ニ拘ハラス專ラ民事訴訟法ノ規定ニ依リ之ヲ決セサルヘカラス(大審三四年民三卷七三頁)
- 三 金錢支拂ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ハ有價證券引渡後ノ債權ニ及ホスコトヲ得サルモノトス(大審三四年民三卷七三頁)

◎占有離脱ト假差押ノ消滅

- 一 有體動產ニ對スル假差押ノ執行ハ執達吏ニ於テ其動產ヲ占有スヘキモノナルニ執達吏ニ於テ其差押物件ノ封印ヲ解キ自己ノ占有ヲ離脱シテ管財人ニ占有セシメタル以上ハ假差押ハ事實上既ニ存在セス消滅ニ歸シタルモノトス(大阪控三八年法二八一號九頁)

◎假處分物件ト換價申立

- 一 第七百五十六條及ヒ本條第四項末段ノ規定ハ假處分債權者又ハ債務者ニ換價申立ノ權能ヲ付與シタルニ止マリ其申立ノ義務アリト爲シタル法意ニ非ス(大審大

正四年民一七〇九頁)

- 二 本條末項規定ノ假差押物件競賣ノ申立ハ利害關係人之ヲ爲スヘキモノニシテ執達吏ノ申出アルノミニテハ裁判所ハ競賣ヲ命スルコトヲ得サルモノトス(民刑局長回答三三年民刑第一〇一五號)
- 三 四二九頁「強制執行ニ關スル過失ノ有無」ノ七參看

◎換價命令ト管轄裁判所

- 一 假差押物件所在地ノ管轄裁判所以外ノ裁判所ニ於テ假差押命令ヲ發シタル場合ト雖モ本條第四項ノ規定ニ基キ假差押物件ノ換價ヲ爲ス場合ニハ假差押ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請スヘキモノトス(民刑局長回答四三年民刑第五九九號)

◎換價金ニ對スル債權者ノ權利 (類題、五九七頁)

- 一 假差押債權者ハ假差押物件ノ換價金ニ對シ何等ノ物上權ヲ有セサルヲ以テ他ノ債權者カ裁判所ノ取立命令ニ依リ執達吏ヨリ右金員ヲ取立テ配當ヲ實施シタル場合ニ於テハ其手續上欠缺アルモ不當利得若クハ間接訴權ニ依ルノ外之カ取戻ヲ求ムルコトヲ得ス(大阪地四四

◎供託物ノ拂渡請求

- 一 供託金ノ取立命令ヲ得タル者ト雖モ供託金ノ支拂ヲ求ムルニハ供託法及ヒ供託物取扱規程ニ定メタル手續ヲ盡ササルヘカラス(東京控四五年法七九五號一九頁)
- 二 假差押假處分ノ命令カ取消サレタルニ因リ供託ノ原因消滅シタルモノナルトキハ該命令ヲ取消シタル判決

.....(以下五九一頁).....

年法七一二號二三頁)

- 二 換價命令トハ特定ノ場合ニ於テ假差押物件競賣シ賣得金ヲ供託スヘキ旨ノ命令ニ外ナラサルヲ以テ縱令換價命令ヲ得テ假差押物件競賣セシメタリトスルモ換價命令ノ申請者ヲシテ毫モ其物又ハ競賣賣得金ニ對シ自由ナル支配ヲ爲サシムルモノニ非ス(大審大正三年刑八九五頁)
- 三 假差押ニ係ル有體動產ヲ換價シ其賣却代金ヲ金庫ニ供託シタル時ニ於テハ之ニ對シ更ニ差押ヲ爲スノ途ナキモノトス(法曹會決議四四年二一卷六號四七頁)
- 四 假處分ノ換價金ト強制執行(五九九頁參看)

又ハ決定ノ正本ヲ金庫ニ提出スルヲ以テ足ルヘク其他ノ理由ニ依リ(例之本案判決勝訴トナリ強制執行ヲ爲シ得ルニ至リタル等)供託ノ原因消滅シタルコトヲ證スヘキ判決又ハ決定ナキモノハ裁判所ノ證明書ヲ金庫ニ提出スヘキモノトス(民刑局長回答三二年民刑第九四八號)

◎保證物還付ノ決定ト抗告

- 一 保證物ノ還付申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得保證物ヲ還付スル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス(東京控四〇年最一卷一三四頁)
- 二 供託金還付ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキ法規ナキヲ以テ抗告ヲ許ササルモノトス(大審四三年民四六四頁)
- 三 假差押ノ爲メ供託シタル保證金還付ノ申請ヲ却下シタル決定ハ強制執行ノ手續上口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ナルヲ以テ之ニ對シテハ抗告ヲ爲スヲ得ヘシ(大審三二年民九卷一一三頁)

第七百五十一條(假差押ノ執行(不動産))

1 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿

◎假差押ノ執行ノ取消

一 本條第一項ノ規定ニ依リ債務者カ假差押ノ執行ノ取消ヲ求ムルニハ執行アリタル財産ノ價額如何ニ關セス假差押命令ニ於テ定メラレタル金額ノ全部ヲ供託スルコトヲ要ス從テ執行アリタル財産ノ價額カ債權者ノ請求金額又ハ價額ヲ超過スル場合ニ於テモ其超過部分ノ價額ニ相當スル金錢ヲ供託シテ執行ノ一部ノ取消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス(大審大正五年民七六五頁)

.....(以下五九二頁).....

◎假差押ノ命令ノ取消ト執行ノ取消

一 假差押命令ノ取消ハ假差押裁判所ノ管轄ニ專屬シ該裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經テ終局判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スヘキモノナリ反之假差押命令ノ執行ノ取消ハ或ル例外ノ場合ヲ除ク外ハ一般強制執行ニ對スル規定ヲ準用スルモノナレハ有體動産ニ對スル執行ハ執達吏ノ職務ニ屬シ其他ハ執行裁判所若クハ本案ノ管轄裁判所等ノ管轄ニ屬スヘク從ツテ此等ノ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ其裁判ヲ爲スコトヲ得ヘク此

ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

◎不動産ニ對スル假差押ノ執行

- 一 假差押ハ債權者カ後日ニ爲スヘキ強制執行ヲ保全スルヲ以テ目的ト爲スモノナレハ不動産ニ對スル假差押ニ於テハ其命令ヲ登記簿ニ記入スルトキハ此登記ニ因リ後日其不動産ノ讓渡若クハ不動産ノ負擔ニ歸スヘキ權利ノ登記アルモノヲ以テ假差押債權者ニ對抗スルヲ得サルモノトス(東京控大正二年法九二一號二頁)
- 二 不動産假處分ノ執行(六〇〇頁參看)

第七百五十四條(假差押執行ノ取消)

- 1 假差押命令ニ於テ定メラタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ
- 2 假差押ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得
- 3 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
- 4 假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

二者ハ混同スヘカラサルモノトス(大審三七年民一二四二頁)

◎假差押取消ノ供託金ト優先權 [類題、七四一條]

一 假差押ヲ受ケタル債務者カ其ノ執行ノ取消ヲ求ムル爲供託セル金額ハ假差押ノ目的物ニ代ハルニ過キスシテ執行ヲ取消シタルカ爲メ債權者ニ生スルコトアルヘキ損害ヲ賠償スル趣旨ノ擔保ニアラス然ルニ假差押ヲ爲シタルノミニテハ我國ニ於テハ其ノ目的物ニ付キ債權者ニ別段ノ優先權ヲ生スルコトナキカ故ニ單ニ假差押物ニ代ハレル供託金ニ付テモ亦假差押債權者ニ優先權ヲ生ス可キ理ナシト云ハサル可カラス(東京控大正二年法九一三號一九頁同旨長野地大正四年法一〇〇八號二五頁學說、評論六卷民訴二七三頁)

二 假差押債權者ハ假差押ノ目的物ニ付キ優先辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有セサレハ其目的物ニ代ル供託金ニ付テモ亦優先辨濟ヲ受クルノ權利ナキモノトス(大審大正三年民八一〇頁)

◎補遺七五四條

三 假差押命令ノ執行ヲ停止シ又ハ執行シタル假差押ヲ取消ス爲メニ爲シタル供託金ニ對シ強制執行開始シタ

ルトキハ假差押債権者ハ該供託金ニ付キ配當要求ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス(東京地大正三年法一〇〇六號二六頁)

第七百五十五條(係争物ノ假處分)

一 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル虞アルトキ之ヲ許ス

◎本條ニ所謂係争物ノ意義 (類題、七六一條)

一 本條ニ所謂係争物トハ訴訟ニ於ケル争アル凡テノ物ノ謂ニ非スシテ單ニ訴訟ノ目的物ノミヲ指稱シタルニ外ナラス(東京控四五年第一卷五一頁)

◎假處分手續ノ性質

一 假處分命令ノ手續ハ一種ノ訴訟手續ニシテ強制執行ノ手續ニ非ス(大審三〇年民三卷一七六頁)
二 假差押處分ノ性質(第七三七條參看)

◎係争物假處分ノ要件 (補遺七五五條)

六年法一二二六號二三頁)

二 凡ソ裁判上要求シ得ル相手方ノ行爲ハ又必ス裁判外ニ於テモ其者ノ爲シ得ヘキモノタルヲ要ス從テ假處分命令ニ因リ假登記變更ノ如キ裁判外ニ於テモ相手方カ自ラ爲シ得サル行爲ハ之ヲ裁判上訴求スルコトヲ得ス(東京地四一年法四九九號九頁)

◎假處分ト本案訴訟ノ提起

一 假處分ハ既ニ本案訴訟ノ提起アリタルト否トテ問ハスト雖モ少クトモ本案訴訟ト相牽連シテ申立ヲ爲スコトヲ要スヘク從テ本案訴訟ノ提起スヘカラサルカ又ハ提起セサル場合ニ於テハ假處分ハ許スヘカラス(浦和地大正六年法一三四五號二三頁)
二 民法第二百三十七條ニ違反シ所有權ヲ侵害スル者ナリトシテ之レカ侵害ヲ排除セント欲シツツアルニ際シ相手方カ依然其工事ヲ進捗セシムルニ於テハ其工事ノ進捗カ其侵害排除請求權ノ實行ヲ困難ナラシムル恐アルコトヲ理由トシテ先ツ工事進行禁止ノ假處分申請ヲ爲シタル後其取毀ヲ求ムル訴ハ假處分ニ依リ保全セントシタル請求ニ關スル本案ノ訴訟ニ外ナラス(東京地大正二年法八八四號二二頁)

一 係争物ニ關スル假處分ハ本案訴訟ニ於テ他日勝訴ノ判決ヲ受ケルモ現狀ノ變更ニ因リ其判決ヲ執行スルコト能ハス又ハ之ヲ執行スルニ著シキ困難ヲ生スル恐アル場合ニ限リ許サル所ノ保全方法ニ外ナラサレハ判決ヲ執行スルヲ得サル第三者ノ物件ニ付キ許サルヘキモノニ非ス(大審大正六年評論六卷民訴二七〇頁)
二 凡ソ物ニ對スル假處分ハ特殊ノ事情ノ爲メ判決ノ確定ヲ待ツニ於テハ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之レヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スヘキ恐レアル場合ニ許スヘキモノニシテ其性質ハ判決執行ニ對スル保全處分ナルカ故ニ本案訴訟ノ目的物ニ關シテノミ其處分ヲ爲スコトヲ得ヘク其他ノ物ハ訴訟ニ於テ争フ所ト爲ルモ假處分ヲ施スコトヲ得サルモノトス(東京控四五年法八〇二號二三頁評論一卷民訴一〇二頁)

……………(以下五九三頁)……………

◎本案ノ執行ヲ爲シ得サル假處分

一 物ニ對スル假處分ハ申請人ニ於テ本案請求ニ關シ他日勝訴ノ判決ヲ受ケルモ執行ヲ爲スコトヲ得サルカ如キ物件ニ付テハ之ヲ許スヘキモノニ非ス(東京控大正

◎假處分ノ申請ト當事者

一 假處分ハ本訴訟ニ於テ他日權利ノ確定シタルトキ之カ執行ヲ爲サンカ爲メノ未來ノ保全方法ニシテ本訴訟ノ完結ヲ待ツ能ハサルトキ之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ假處分ノ申請ハ本訴訟ノ當事者ト爲スヘキ者ニ對シテ爲ササルヘカラス(東京地四四年法七七〇號二二頁)
二 假處分ノ當事者ハ必スシモ本案當事者ト之ヲ同ウセサル可カラサルモノニ非ス(東京控四二年法五五一號一二頁)
三 假處分ハ其ノ目的タル物件若クハ權利關係ニ付キ權利者ナリト主張スル者ノ申請ニ基キ之ヲ爲スヘキモノトス(大阪控大正五年法一二〇〇號一九頁)
四 假處分ハ假差押ト異ナリ原告ノ地位ニ立ツ者ナルト被告ノ地位ニ立ツ者ナルトテ問ハス之カ申請ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其性質上該處分ニ係ル係争物ニ付キ雙方ノ權利ノ行使ヲ停止スヘキヲ常トス(大審三六年民一〇二四頁)
五 訴訟當事者以外ノ者ニ對シ假處分ヲ爲スハ不當ナリトス(大審三三年民九卷三四頁)

●選舉公簿引渡ト假處分ノ權限

一 村長事務引繼ノ際選舉公簿ノ引渡ヲ拒ミタル場合ニ於テ之カ引渡ヲ求ムル假處分ハ司法裁判所ニ於テ受理スヘキモノニ非ス(民利局長回答三一年民利甲第五七號)

●豫告登記ヲ爲スヘキ場合ト假處分

一 豫告登記ハ該登記アルニ拘ラス登記名義人タル被告ト第三者トノ物權設定等ノ登記ヲ禁止スル效力ナキカ故ニ豫告登記ヲ爲ス場合ニ於テモ別ニ假處分ノ決定ヲ爲シ原告ノ權利實行ニ便ナラシムルハ必スシモ失當ナリトセス(東京控四〇年最一卷三九頁)

●競賣手續停止ノ假處分

一 受訴裁判所カ假處分トシテ競賣申立人ニ不動產ノ競賣ヲ停止スヘキコトヲ命令シタルトキハ競賣裁判所ハ之ニ基キテ競賣ノ手續ヲ停止セサルヘカラス(大審四

三年民一〇四頁)

二 受訴裁判所カ競賣申立人ニ競賣ノ停止即チ其權利實行ノ停止ヲ命シタルニ拘ラス競賣裁判所カ競賣手續ヲ續行セシメントスルカ如キ場合ニハ受訴裁判所ハ假處分ヲ以テ其停止ヲ命スルコトヲ得ルモノトス(長崎控四三年法六三九號一五頁)

三 形式上有效ニ發セラレタル假處分命令ニ付テハ苟クモ受訴裁判所ニ於テ之カ取消ヲ爲スマテハ羈束ノ效力アルモノトス而シテ執達吏若クハ執行裁判所ハ其執行ニ付テハ專ラ形式上ノ審査ヲ爲ス權限アルニ止マルヲ以テ既ニ確定判決ノ執行ヲ禁止セラレタル以上ハ其判決ニ付テハ執行ヲ續行スヘカラサルモノトス(大阪地三八年法二六四號一〇頁)

四 強制執行ヲ停止シ得ル場合ハ民事訴訟法ニ於テ各明文ヲ以テ規定セラレアリ然ルニ假處分ノ場合ニ關シテハ何等斯ノ如キ明文ナキヲ以テ法ノ精神ハ假處分ヲ以テ強制執行ノ停止ヲ爲スコトヲ許ササルモノトセサルヲ得ス(東京地三七年法二四六號五頁同旨東京地三七年法二二一號一九頁學說、法三二三號四頁)

五 抵當權ノ實行トシテ競賣手續力開始セラレタル以上ハ縱令其競賣申立人ヨリ競賣手續ノ停止ヲ申出ツルモ競賣裁判所ハ其申立ニ羈束セラレルコトヲ職權ヲ以

テ競賣手續ヲ進行スヘキモノナルヲ以テ假處分ヲ以テ既ニ開始セラレタル競賣手續ヲ停止スヘキ旨ノ競賣申立人ノ意思表示ニ代ルヘキ裁判ヲ求メントスル假處分ノ申請ハ結局何等ノ利益ヲ有セサル申請ニシテ許スヘカラサルモノトス(東京地三八年法三三一號一〇頁) 附 競賣法ニ因ル競賣ハ訴ノ提起ニ因ル假處分ニ於テ競賣ヲ停止スルコトヲ得(學說、法三〇七號六頁反對東京地三八年法二九八號一五頁)

競賣法ニ因リテ競賣手續ヲ停止スルニハ競賣ノ申立人ニ競賣手續停止ノ意思表示ヲ爲スヘキ旨ノ假處分命令ヲ求ムルノ外途ナキモノトス (學說、法三一八號二頁)

●執行異議ト假處分命令

一 請求ニ關スル異議ノ訴ニ於テハ其本來ノ性質ニ基ク執行處分ノ停止又ハ取消ノ外假處分ノ命令ヲ許ササルモノトス(德島地三七年法二〇六號六頁)

●假處分ノ目的物ト抵當權實行

一 裁判所カ假處分命令ヲ以テ不動產ノ讓渡其他一切ノ處分行爲ヲ禁止スルトキハ特定債權者ノ爲メ相對的ニ

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

處分禁止ノ效力ヲ生スルトモ其處分禁止ノ效力ハ假處分ノ效力ヲ發生シタル以後ニ生スヘキモノナルヲ以テ既ニ其假處分發生以前ニ成立セル抵當權ハ完全ニ其效力ヲ有スルモノナレハ此ノ權利ニ基キ抵當權者ハ抵當權ノ實行ヲ爲シ得ルモノトス(東京地四一年法五二二號一三頁同旨及反對學說、評論一卷民訴八三頁)

●會社財産ヲ檢査スル假處分

一 商法第五十四條民法第六百七十三條ニ參照シ假ニ申請人ヲシテ業務ノ執行ヲ妨ケサル範圍ニ於テ被申請會社ノ業務及其財産ノ狀況ヲ檢査スルヲ得セシメ尙亦被申請會社ヲシテ申請人ニ對スル利益配當金ヲ供託セシムルヲ以テ其損害ヲ避クル目的ヲ達スルニ必要ナル處分ト認ム(長崎控大正五年法一一三六號二五頁)

●同一ノ係争物ト一箇ノ假處分

一 同一ノ係争物ニ付キ二箇同一ナル假處分ヲ爲スモ其執行ニ支障ナキ以上ハ二者共ニ有效ニ存立スルモノト

七五五條

(五九五)

八四三

ス然レトモ第一ノ假處分ノ效力ハ第二ノ假處分ヲ以テ阻却スルコト能ハサルカ故ニ第一ノ假處分ニ因リ保全セラレタル請求權ノ實行ニ對シテハ第二ノ假處分ヲ以テ之ヲ妨クルコトヲ得ス（大審三八年民一四〇九頁）

◎同一事件ト再度ノ假處分申請

一 假處分申請ノ當否ハ一ニ權利ヲ實行セントスル當時ノ現狀如何ニ因リ決定スヘキモノナルヲ以テ時期ヲ異ニスルトキハ當事者ニ於テ同一權利ノ實行ニ關シ再三假處分ノ申請ヲ爲シ得ヘク斯ル場合ニハ其申請事件ハ各箇相獨立スルモノニシテ同一事件ニ非ス（大審三六年年民四四九頁）

◎假處分ノ許否ト審理範圍

一 假處分ヲ許スヘキヤ否ヤヲ審理スルハ唯其申請カ請求及ヒ假處分ヲ必要トスル理由ノ疏明ニ缺ケル所ナキヤ否ヤヲ審理スルヲ以テ足ルモノニシテ縱令相手方ヨリ假處分命令ニ對シ異議ノ申立アリテ口頭辯論ヲ開キタル場合ニ於テモ此審理ノ範圍ヲ超ヘ相手方ノ提出シタル證據方法ト比較對照シ假處分申請ノ基礎タル請求

權自體ノ存否ニ關シテ審理判決スヘキモノニ非ス（大審大正六年民一五一七頁評論六卷民訴四二七頁）

二 假處分ノ許否ヲ決定スルニハ其假處分ノ申請ニ付キ法律ニ規定シタル假處分ヲ許スヘキ理由アルヤ否ヤヲ審理スヘキモノニシテ主タル訴訟ノ曲直ヲ豫斷シ之ニ由テ假處分ノ許否ヲ定ムヘキモノニ非ス（大審三三年民三卷四頁同旨函館控大正元年法八三二號二五頁）

三 強制執行保全ニ關スル手續ハ本案訴訟ト異ナリ實體的私權ヲ終局的ニ確定スルモノニ非サルカ故ニ假處分手續ニ於テ債權者ノ請求權ノ存在及ヒ假處分理由ニ付キ其疏明アリタルトキハ勿論其疏明不十分ノトキト雖モ裁判所ハ其自由裁量ニ基キ假處分ヲ許容スヘキモノト認メタルトキハ債權者ヲシテ一定ノ保證ヲ立テシメ又ハ之ヲ立テシメス假處分ヲ命スルコトヲ得ルモノトス（東京地大正元年法八〇六號二五頁）

四 假處分ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テハ裁判所ハ果シテ現狀ノ變更カ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハサラシメ又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スルヤ否ヤノ審査ヲ爲ササルヘカラス而シテ又之ヲ許スニハ當事者一方ニ權利アリヤ否ヤヲ審査スルコトヲ要シ權利無シト認メタルトキハ假處分ノ申請ヲ却下スヘキモノトス（東京地三四年法六〇號七頁）

五 假處分命令ニ對スル異議申立ニ因リ辯論開始スルモ假處分ノ基本タル請求、假處分申立ノ理由ハ之ヲ證明スヘキモノニ非スシテ疏明スヘキモノトス從テ證據調ヲ爲シタル裁判ハ違法ノ訴訟手續タルヲ免レス（東京控四二年最五卷一六頁）
……………（以下五九六頁）……………

◎假處分ト費用ノ裁判

一 假處分ノ手續ハ一ノ特別訴訟ナルヲ以テ其訴訟ノ裁判ニ於テ其費用ノ裁判モ共ニ之ヲ爲スヲ要スルモノトス然ラサレハ執行シ得ヘキ裁判ナキヲ以テ第八十四條ニ依リ之ニ要シタル訴訟費用ノ確定決定ヲ申請スルコトヲ得ス（東京控三五年法一〇一號一〇頁）

◎假處分申請ノ却下

一 假處分申請ノ基本タル請求ハ其主張自體ニ於テ法律上許スヘカラサルモノナルカ若クハ理由ナキモノナルトキハ根本ニ於テ申請ノ理由ヲ缺知スルカ故ニ全然之ヲ許容スルノ要ナシ（大審四二年民六六七頁）
二 家屋明渡ノ假處分ノ申請ニシテ執達吏ヲシテ係争家

屋ヲ保管セシメンコトヲ求ムルニ在リト雖モ保管ナルモノハ保管者ニ其保管ノ目的物ノ占有ヲ移スコトヲ意味セサルヲ以テ其ノ目的ヲ達セサルヘキハ明瞭ノコトトス從テ該假處分ノ申請ハ許スヘキモノニアラス（東京地三四年法五五號九頁）
三 本案トシテ清算請求ノ訴訟ヲ提起スルニ拘ラス帳簿書類等ニ付キ假處分ノ申請ヲ爲スハ民事訴訟法假處分ノ規定ニ適合セサルモノトス（東京地三五年法一一一號九頁）

◎本案ノ移送ト假處分ノ效力

一 地方裁判所カ本案ニ付キ事物ノ管轄違トシテ訴ヲ却下シ之ヲ區裁判所ニ移送スル旨言渡ヲ爲シタル場合ト雖モ該判決確定セサル間ハ其訴訟ハ依然地方裁判所ニ繫屬スルモノニシテ尙ホ本案ノ管轄裁判所ト看做スヘキモノナレハ曩ニ同裁判所ノ發シタル假處分命令ニ付テモ亦其管轄權ヲ失フコトナシ（大審三九年民三三二頁）

◎假處分ト損害責任

一 甲ハ其所有ニ係ル宅地ヲ建物所有ノ爲乙ニ賃貸シ乙

ハ其建物ノ火災ニ罹リタル爲工事ニ著手セントスルニ當リ甲ハ第三者丙ニ對スル工事差止ノ假處分ヲ爲シ乙カ右賃借地ニ於ケル建築工事ノ施行ヲ妨ケ以テ家屋所有ノ爲ニスル宅地利用ヲ阻止シタルトキハ甲ハ賃借人タル義務ニ違背シタルモノトス其執行力執達吏ノ實施ニ係ルノ故ヲ以テ其債務不履行ノ責ヲ免カレルコトヲ得サルモノトス (東京控大正六年法一三四一號一九頁)

二 假處分ヲ爲シタル者本案ノ訴訟ニ敗訴セシトキハ相當ノ注意ヲ用ヒサル所謂過失ニ出タル假處分ト認メ損害賠償ノ原因アリト爲スヲ相當トス (東京地四二年最五卷二二七頁)

三 假差押ト損害責任 (第七三八條參看)

◎假處分ノ損害ト要債權ノ不成立

一 甲カ乙ノ開墾シツツアル土地ヲ自己ノ所有地ナリトシテ假處分手續ヲ以テ其開墾ヲ禁止シタル後右假處分ノ本訴ニ於テ原告タル甲ノ闕席ニ因リ敗訴ノ判決確定シタルヨリ乙ハ甲ニ對シ右假處分ニ基ク損害賠償ヲ請求シタルモ審理ノ結果右地所ハ甲乙共ニ其所有者ニ非スシテ全ク第三者ノ所有タルコト判明シタル場合ニ乙

ノ甲ニ對スル右損害賠償ノ訴ハ謂レナキモノトス (神戶地四三法六五八號一四頁)

..... (以下五九七頁)

◎本條ニ省略シタル判例

第七百五十六條 (假處分ノ命令其他ノ手續)
1 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

◎假處分ノ執行期間

一 假處分ヲ以テ裁判所カ決定ニ依リ被上告人ニ對シ或行爲ノ禁止ヲ命令シタル場合ニハ其決定書ヲ被上告人ニ對シ送達シ終リタリ以上別ニ執達吏チシテ執行チ爲サシムヘキモノニ非ス從テ假差押命令ノ場合トハ自ラ

◎換價ト假處分命令ノ效力

一 假處分中ノ目的物ニ付キ本條及ヒ第七百五十條第四項ニ依ル命令ニ因リ當該目的物カ換價セラレ其形狀ヲ變スルモ之カ假處分命令ハ依然トシテ其換價金ノ上行ハルル效力チ有ス (大阪控四一年最四卷九頁)

差異アルチ以テ假處分送達チ十四日ノ期間内ニ執行セサリシトテ假處分ヲ取消スヘキモノニ非ス (大審二八年民五四七頁)

◎假處分取消ノ理由

一 假處分ニ付テモ其理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキハ本條及ヒ第七百四十七條ニ依リ之カ取消ヲ許スヘキモノトス (大審大正六年民二七四頁評論六卷民訴七七頁)

◎假處分命令ニ對スル不服

一 假處分ノ命令ニ對シ不服アルトキハ本條第七百四十一條ノ急迫ナル場合ノ外ハ係爭物所在地ノ區裁判所ノ管

四條ニ依リ異議ノ申立チ爲スヘキモノニシテ抗告スヘキモノニ非ス此手續ハ假處分チ命シタル裁判所カ第一審裁判所ナルト抗告裁判所ナルトチ間ハサルモノトス (大審三三年民一三〇頁同旨大審三〇年民三卷一七六頁)
二 假處分決定ニ對シ不服チ申立ツルトキハ第七百四十四條第一項及ヒ本條ニ依リ異議チ申立ツルトコトヲ得ヘキモノ第五百五十八條ニ從ヒ抗告チ爲スコトヲ得ス (大審三〇年民三卷一七六頁)

◎假處分命令ト管轄裁判所

第七百五十七條 (假處分ノ管轄裁判所)
1 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之チ管轄ス
2 右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論チ經スシテ之チ爲スコトヲ得

..... (以下五九八頁)

◎假處分命令ニ對シ不服

一 假處分ノ命令ニ對シ不服アルトキハ本條第七百四十一條ノ急迫ナル場合ノ外ハ係爭物所在地ノ區裁判所ノ管

轄ニ屬スヘキモノニ非ス(東京區四一年法五四一號一四頁)

◎急迫ナル場合ナルヤ否ヤノ認定(類題、七六一條)

- 一 假處分ノ裁判ヲ爲スニ當リ急迫ノ場合ナルヤ否ヤヲ定ムルハ管轄裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス(大審三九年民三三二頁)

第七百五十八條(假處分命令ノ内容)

- 1 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム
- 2 假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 3 假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

◎本條「不動産」ノ意義

- 一 本條第三項ニ所謂不動産トハ汎ク不動産上ノ權利ヲ

裁判所ヲシテ本條第三項ニ依リ其處分ヲ爲サシムルヲ以テ便利且相當トス(大審三四年民九卷一七七頁)

◎假處分命令ノ效力範圍(補遺七五八條)

- 一 債務者ノ處分ヲ禁スル假處分命令ナルモノハ其採掘特許權ナルト他ノ財產權ナルトニ論ナク將來ニ於ケル行爲ヲ禁スルモノニシテ其以前ノ行爲ニ付テハ縱令其行爲力賣買ノ豫約ニ係ルト雖モ其豫約ノ實行マテ禁スルカ如キ效力ヲ有スルモノニ非ス(大審三四年民五卷一二五頁)
- 二 假處分ニ依リ製作ヲ禁止セラレタル物品ノ製作用ノ機械器具若クハ之ニ從屬スヘキ物件ハ假處分命令ノ範圍内ニ屬スルモノトス(大阪區大正五年法一一八七號二五頁)
- 三 右物品製作ノ爲使用セララル機械器具ノ作用ヲ補助スル效用ヲ有スルモノハ其一般的用途ヲ有スルト否トヲ問ハス假處分命令ノ範圍内ニ屬スルモノトス(同上)
- 四 田地ノ耕作及ヒ收穫スヘキ假ノ地位ヲ定ムル假處分決定ヲ受ケタル者ノ相手方ヨリ假處分取消ノ決定ヲ受ケタルモ抗告ノ結果廢棄セラレ其廢棄ノ決定確定シタ

指稱シタルモノニシテ地上權ノ如キハ其一ナリトス(大阪控三八年法三〇七號九頁)

◎假處分裁判所ノ權限

- 一 假處分裁判所ハ其意見ヲ以テ自由ニ假處分ノ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス(大審大正四年民二三七頁)
- 二 本條第一項ニ依レハ裁判所ハ其申請ノ目的ヲ達スルニ必要ナリト認ムル以上ハ如何ナル處分ヲモ定メ得ルモノニシテ本條第二項ハ單ニ處分ノ方法ヲ例示シタルニ止マリ之ヲ限定スル趣旨ニ非ス(長崎控四四年法七六〇號二六頁)
- 三 假處分ノ方法ニ關シテハ裁判所ハ當事者ノ申立如何ニ拘ラス之カ損害ヲ避ケルノ目的ヲ達スルニ必要ナル限度ニ於テ適當ノ處分ヲ定ムヘキモノトス(長崎控大正五年法一一三六號二五頁)

◎登記請求權ノ保全方法

- 一 地上權及ヒ永小作權登記請求ノ訴訟ヲ提起セントスルニ當リ其權利ノ保全方法トシテハ假登記ヲ申請スルヨリ寧ろ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ假處分ノ申請ヲ爲シ

ル以上ハ假處分命令ノ效力トシテ其地所ニ於ケル相手方カ植附ケタル稻作ヲ收穫スルモ不法ニアラス(東京控三四年法五八號一〇頁)

.....(以下五九九頁).....

◎係争物ヲ保管スル執達吏ノ資格(類題、四七五頁)

- 一 假處分命令ヲ以テ執達吏ヲ保管人ト定メタル場合ニ於テ執達吏カ係争物ヲ保管スルハ執達吏トシテノ職務ノ執行ニシテ執達吏以外ノ者カ之ヲ保管スル場合ノ如ク申請人ノ代理人トシテ申請人ノ爲メニ代理占有ヲ爲スモノニ非ス(大審大正四年民一七〇九頁)

◎假處分ヲ無視セル讓渡ノ效力(類題、五三〇頁)

- 一 一定ノ權利ノ讓渡ヲ禁止スル假處分アリタル場合ニ於テ之ヲ無視シテ爲シタル讓渡行爲ハ善意ノ讓受人ニ對シテモ效力ヲ生スヘキモノニ非サルカ故ニ右行爲ノ有效ナルコトヲ前提トシテ爲シタル免許ノ行政行爲ハ自然其效力ヲ失ヒ其權利ハ原權利者ニ復歸スルモノトス(大審大正六年民一二三〇頁)
- 二 假處分命令ニ依リ物ノ所有者ニ對シ處分行爲ヲ禁止

セラレタル場合ニ於テハ禁止中ニ係ル物件ヲ買受クルモ其效力ヲ生スルコトナシ（大審三七年民四五八頁）

三 假處分ノ命令ニ依リ不動産ノ讓渡又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ獨リ該命令ニ反スル讓渡ヲ以テ假處分申請シタル當事者ニ對抗シ得サルノミナラス其假處分中ニ在テハ相手方モ亦讓渡ヲ實行シ得サルモノトス（大審三七年民一七九頁）

四 假處分被申立者ハ其目的物ニツキ何等ノ處分行爲ヲ施スコトヲ得サルハ勿論假處分中ノ目的物ニツキ換價命令ニ依リ當該目的物カ其形狀ヲ變シタルニ止マリ其係争物タル點ニ至リテハ前後其性質ヲ異ニスルモノニアラサレハ假處分被申立者ハ該換價金ニ對シテモ亦何等ノ處分行爲ヲ施スコトヲ得サルモノナリ（大阪控四一年法五四五號一三頁）

五 登記官吏ハ登記申請カ形式ノ要件ヲ具備スルトキハ實體法上ノ效力ヲ調査シテ之カ許否ヲ決スヘキモノニ非ス故ニ同一不動産上ニ處分ノ制限タル假處分命令ノ登記アル場合ニ於テモ所有權移轉登記ノ申請アルトキハ之ヲ受理スルヲ相當トス（大阪控四一年最二卷一四六頁）

六 汎ク處分ヲ制限セル假處分命令ノ登記アル不動産ヲ賣買シタル行爲ハ縱令後日該命令カ取消サレルト雖モ

形式實體トモ無効ニシテ週及シテ其效力ヲ生スルモノニアラス（大阪控四二年最五卷三〇四頁）

七 讓渡禁止ノ假處分ノ登記アル不動産ニ對シテモ強制競賣手續ヲ爲スコトヲ得（法曹會決議四三年二〇卷三號三一頁）

◎假處分ノ換價金ト強制執行 [類題、五九〇頁]

一 假處分命令ノ内容カ單ニ其目的物ヲ執達吏ニ保管セシムルコトニ在リシトスルモ後日裁判所ノ換價命令ニ因リ其ノ目的物ヲ賣買ニ付シ執達吏ニ於テ之レカ換價金ヲ保管スルニ過キサル場合ニ於テハ苟モ假處分命令ノ存續中ハ執達吏ニ其換價金ノ拂渡請求ヲ爲シ得サルヤ勿論ナルモ之カ支拂ヲ求ムルニ非スシテ唯其換價金ニ對スル權利者ノ權利自體ヲ強制執行上他ニ移轉スルカ如キハ假處分命令ノ禁スル範圍外ナリトス（大阪地四三年法六三六號一四頁）

……………（以下六〇〇頁）……………

◎假處分後ニ於ケル本登記ノ許否 [類題、五二七頁]

一 或不動産ニ付キ甲ノ爲メ所有權移轉請求權保全ノ假

登記アリタル後乙ノ爲メ賣買贈與並ニ抵當權賃借權ノ設定其他一切ノ處分行爲禁止ノ假處分登記アルモ此假處分ノ内容ハ右不動産ニ對シ新ナル處分行爲ヲ禁止スルニ在ルカ故ニ右假處分以前ニ爲サレタル假登記ニ付キ其本登記ヲ爲スカ如キハ新ナル處分行爲ト謂フヲ得サルヲ以テ右制限範圍ニ屬セサルモノトス（旭川地大正六年評論六卷民訴一八九頁）

二 假登記ハ後日爲スヘキ本登記ノ順位ヲ保存スルモノナレハ或土地ニ付キ所有權移轉ノ請求權保全ノ假登記アリタル後其土地ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ處分禁止ノ假處分ナルモ之カ爲メ本登記ヲ爲スノ妨ケト爲ルモノニアラス（大審大正六年民一〇九五頁）

◎抵當權ノ實行ト其後ノ假處分

一 抵當權ノ實行ハ其後ニ處分ヲ禁止セラレタル假處分ノ爲メ妨ケラレルモノニアラス何トナレハ現狀維持ノ假處分ハ物ノ現狀ニ付テ爲ス所ノモノナレハ若シ物ニ或ル物件ヲ負擔シ居リタルトキハ其負擔附ノ儘之ニ假處分ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得レハナリ（廣島控三九年法三五九號一一頁）

二 假處分ハ該處分ノ命令ヲ受ケタル者ニ對シ處分行爲

ヲ禁止スルノ效力ヲ有スルモ其處分前既ニ當該不動産上ニ抵當權其他ノ物權ヲ取得セル者ニ對シ其權利ノ行使ヲ制限スルモノニアラス（大阪控四〇年法四一五號一〇頁）

◎不動産假處分ノ執行 [類題、五八七頁]

一 不動産ノ賣買禁止ノ登記ヲ爲スコトハ一ノ執行行爲ニシテ不動産所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄トス（東京地三四年法五五號一〇頁）

附 債權及ヒ不動産ノ假差押命令ノ執行ハ一ノ強制執行ニ外ナラサレハ其裁判ノ執行ヲ爲サント欲セハ須ラク執行裁判所ニ對シ其申立ヲ爲ササルヘカラス（學說、法三三號一頁）

第七百五十九條（假處分ノ取消）

1 特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

◎本條ノ適用

一 本條ハ次條ニ規定スル假處分ノ場合ニモ之ヲ適用スヘキモノトス（大審四一年民三六〇頁）

- 二 本條ハ第七百五十五條ニ規定セラレタル假處分ニミ適用セラレルル規定ニアラス何レノ假處分ノ場合ト雖モ特別ノ事情アルトキハ保證ヲ立テシメテ之レカ取消ヲ許スコトヲ得ヘシ（東京控大正元年最一卷二一七頁）
- 三 前掲本條ノ所謂特別ノ事情トハ法律上一定スル所ナリ裁判所ノ心證ニ因リ各事件ニ付キ各別ニ査定スヘキ事項ニシテ金錢上ノ賠償可能ノ一事ニ因リテ特別ノ事情ノ有無ヲ論斷スルコトヲ得ス（同上）

……………（以下六〇一頁）……………

◎假處分命令ノ取消

- 一 假處分命令ハ假差押命令ノ如ク金錢ノ給付請求權ノ執行保全ヲ目的トスルモノニ非スシテ特別給付ノ執行ヲ保全スル爲メ若クハ爭アル法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ確定スルヲ目的トセル命令ナルヲ以テ該命令ノ取消ニ因リテ生スル損害ハ金錢的保證ヲ以テハ之ヲ補填シ得サルノ場合アルコトヲ認メ得可ク隨テ本條ニ所謂特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得ト規定シタル法意ノ存スル所ヲ窺知

スルニ足ルヘシ故ニ特別ノ事情アルニ非サレハ縱令債權者ニ於テ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムヘキ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタリトスルモ假差押命令ノ如ク之カ取消ヲ許スヘキモノニ非ス（宇都宮地四四年法六九二號二五頁）

- 二 假處分命令ノ取消ハ終局判決ヲ以テスルモノナレトモ必スシモ申立ノ形式ニ依ルチ要セス申請ノ形式ニ依ルモ妨ナシ又假處分異議事件ノ權利拘束中ト雖モ尙ホ假處分命令取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得而シテ假差押命令認可ノ判決言渡後ニ於テモ尙ホ其命令ノミノ取消ヲ申立ツルコトヲ得（東京地四二年法五九七號一二頁）
- 三 本條ハ第七百四十七條第一項後段ノミニ對スル特別規定ニシテ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スハ特別ノ事情アルトキニ限ルモノトス（大審大正六年民二七四頁評論六卷民訴七七頁同旨大審三二年民四卷八八頁）
- 四 假處分ニ付キ其理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキハ第七百五十六條第四百七十七條ニ依リ之カ取消ヲ許スヘキモノトス（大審大正六年民二七四頁同旨大審大正五年民一九二頁評論五卷民訴一二三頁）
- 五 本條ハ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スニハ特別ノ事情アルコトヲ要スルモノト爲シ此點ニ於テ假差

- 押ノ規定ニ差異ヲ設ケタルモノナレハ保證ヲ立ツルコト以外ノ理由ニ因リ假差押ノ取消ニ付テノ第七百四十五條第二項第七百四十七條第一項等ノ規定ハ假處分ニ準用セラレサルモノニ非ス（大審大正五年民一九三頁）
- 六 假處分取消ニハ保證ヲ立ツルノ外特別ノ事情ノ存在ヲ必要トスヘク本條ハ第七百四十七條ヲ準用スルニ當リテ之ニ一ノ制限ヲ加ヘタルモノトス（東京地大正三年最一五卷七三頁）
- 七 判決未確定ト假差押假處分ノ取消（第七四七條參看）

◎假處分取消申立ト管轄裁判所

- 一 假處分ノ取消申立ニ付テハ假處分ヲ命シタル裁判所之カ管轄ヲ有ス然レトモ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ其本案裁判所之カ管轄ヲ爲シ而シテ本案カ既ニ控訴審ニ繫屬スルトキハ該控訴裁判所之カ管轄ス（東京地大正二年法八九四號二一頁）
- 二 假處分命令取消ノ申立ハ本案裁判所ニ之ヲ爲スヘク本案裁判所トハ則チ其第一審裁判所ヲ原則トスルモ本案カ控訴審ニ繫屬スルトキハ其控訴裁判所ヲ指スコトハ第七百六十二條ニ依リ明瞭ナリトス（東京地大正三

◎「特別ノ事情アル場合」ノ意義

- 一 本條ニ所謂特別ノ事情ハ裁判所ノ意見ニ依リ定ムヘキモノニシテ假處分ニ依リ保全セラレタル給付ニ代フキニ金錢ヲ以テスルモ債權者ヲ満足セシムルコトヲ得ル事情ノ存スル場合ハ勿論ナレトモ假處分ニ依リ保全セラレタル請求權ハ存否尙ホ未確定ノ間ニ在ルチ以テ特別ノ事情ノ存否ハ獨リ債權者ノ利害ノミナラス債務者ノ利害ヨリモ觀察スルコトヲ要スルチ以テ債務者カ假處分ニ因リ普通ニ受クル損害ヨリモ多大ナル損害ヲ被ルヘキ場合ノ如キモ特別ノ事情ノ存スル場合ナリトス（大審大正六年民二六三頁評論六卷民訴八七頁）

二 本條ニ所謂特別ナル事情トハ債權者カ假處分命令ノ取消ニ因リテ被ルヘキ損害ヲ金錢ニテ補填シ得可ク且ツ之カ爲メニ假處分ノ目的ヲ没却セサル場合ニ於ケル事情ナリトス（宇都宮地四三年法六九二號二五頁）

三 本條ニ所謂特別事情トハ法律上一定スル所ナク裁判所ノ心證ニ因リ各事件ニ付各別ニ査定スヘキ事項ナルヲ以テ或ハ金錢賠償ノ可能ヲ以テ特別ノ事情ト看做ス場合アリ得ヘク或ハ之ニ反スル場合アリ得ヘキカ故ニ金錢ヲ以テ賠償シ得ヘシトノ一事ニ因リテハ直チニ之ニ依リ特別ノ事情アルモノトシ又其特別事情ナキモノト論斷スルヲ得ス故ニ對世的ノ性質ヲ有スル一種ノ無形財產權タル特許權ノ性質及ヒ其效力ニ鑑ミ考察スルトキハ金錢賠償ノ可能ナル故ヲ以テ保證ヲ立テシメ此保證ヲ以テ假處分ニ代リ執行保全ノ目的ヲ達シ得ヘキモノト斷スルコト能ハサルカ故ニ特許權ノ如キニ在テハ金錢賠償ノ可能ヲ以テ特別ノ事情アリト看做ササルヲ穩當トス（東京控大正元年法八六二號二三頁）

附 本條ニ所謂特別事情ノ發生時期ニ付テハ法律上特ニ制限シタル所ナキヲ以テ假處分ノ前後ヲ問フヘキモノニ非ス（大審四一年民三六〇頁）

◎銘酒店ノ假處分ト特別ノ事情

一 銘酒店營業ヲ爲スニハ其筋ノ許可ヲ受クルヲ要シ而シテ許可ハ一定ノ區域ニ於テノミ許容セララルモノナルカ故ニ若シ假處分ニ因リ家屋明渡ノ執行ヲ受クルニ於テハ酌婦等ハ逃走シ失業ノ悲境ニ陥ルヘキ状態ニ在ルヲ以テ斯カル状態ハ本條ニ所謂特別ノ事情アルモノニ該當ス（東京地大正四年法一〇三三號二二頁）

◎家屋明渡ト特別ノ事情

一 係爭家屋（病院）ニハ三十餘名ノ患者ヲ收容シアリ其多數ハ癩病患者ニシテ其中數名ハ重患者ナリト認メ得ル事實アリトスルモ這ハ本條ニ所謂特別ノ事情アリト云フコトヲ得ス（大阪控四三年法六二二號一六頁）

◎特許品ノ假處分ト特別ノ事情

一 假處分命令ノ爲メ自己ノ專有ニ屬スル特許權ニ基ク器械ノ製造販賣ヲ禁セラレ該品ノ購買信用ヲ墜シ販路ヲ妨ケ得意ヲ失ハントスル事情アリ而モ其假處分申請カ穩カナラサルトキハ本條ヲ適用シテ假處分ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ（東京控大正元年最一一卷二一七頁）

.....(以下六〇三頁).....

◎伐木ニ對スル假處分ト特別ノ事情

一 假處分ノ目的物タル伐木カ伐採後一年九箇月餘山中ニ放置シ雨季冬季ヲ經過スルコト兩回ニ及ヒ其間ニ雨雪ノ侵蝕ヲ受ケ從テ來ルヘキ冬季迎ヘ三度積雪ノ埋ムルニ至ラハ腐蝕朽廢ノ度益甚シク徒ニ其價格ノ減少ヲ來スハ勿論或ハ全ク製材ノ用ニ適セサルニ至ルノ虞アルトキハ本條ニ所謂特別ノ事情アルモノトス（東京控大正六年評論六卷民訴三五五頁法一三三六號二二頁）

◎假處分ノ事情ト異議理由ノ主張

一 假處分事件ニ於テ債務者カ本條ニ依リ假處分命令ノ取消ヲ求ムル申立ト同人カ第七百五十六條第七百四十四條ニ依リ假處分命令ニ對シ異議ヲ主張シ其取消ヲ求ムル申立トハ其申立ノ形式ヲ異ニスルモ共ニ假處分命令ノ取消ヲ求ムルモノニ外ナラサルヲ以テ假處分債務者カ假處分ノ取消ヲ求ムル場合ニ右二個ノ申立事由ヲ其請求原因トシテ併セテ主張スルハ違法ニ非ス（大阪地大正四年法一〇五四號二四頁同旨大阪區大正四年法

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

一〇一五號二五頁）

◎假處分ト執行停止

一 假處分ハ一旦其執行ヲ爲シタル後ハ爾後續行スヘキ執行行為ナルモノ存在セサルヲ以テ之カ取消ヲ求ムルハ格別其執行ノ停止ヲ申請スルコトヲ得サルモノトス（東京地大正三年評論三卷民訴四五頁）

附 假處分ノ執行停止又ハ取消ハ特別ノ事情アルコトヲ理由トシテ假處分命令ノ取消ヲ申請シ之ト同時ニ右命令取消ノ判決アルマテ保證ヲ立ツルコトヲ條件トシテ一時執行ノ停止又ハ取消ヲ求メタル場合ニ限り之ヲ許スヘキモノトス（學說、法四六〇號五頁）

◎假處分取消ノ裁判

一 特別ノ狀況ニ因レル假處分命令取消ノ申請ニ付テハ終局判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スヘキモノナリ（大審三三年民四卷四三頁同旨大審三〇年民七卷二二頁）

◎命令ニ依ル假處分ノ取消ト抗告

一 本條ニ依ル假處分取消命令ニ對シテハ抗告ノ途ナキ

ト同時ニ其必要ナキモノト謂ハサルヲ得ス蓋シ本條ニ依ル裁判ハ常ニ必ス終局判決ヲ以テスヘキ法意ニシテ民事訴訟法ハ本條ニ由ル假處分取消命令ナルモノノ現ハルルコトヲ豫期セス從テ之ニ對スル抗告ヲ認容スルノ法意ナシサレハ新ル命令ハ假令之アルモ假處分取消ノ效力ヲ有セサルモノトス(大阪控四二年最四卷八五頁同旨德島地四二年法五六一號一一頁)

二 假處分取消ノ申請ニ對シ第一審裁判所カ決定ヲ以テ其取消ヲ命スルハ違法ナレトモ斯ノ如キ裁判ニ對シテハ抗告ニ依リテ救済ヲ求ムルコトヲ得ス(大審三八年民一一二〇頁同旨大審三四年民五卷九二頁大審三三年民一一卷一二七頁)

三 終局判決ヲ以テスヘキヲ決定ヲ以テシタル裁判ニ對スル抗告ハ第四百五十五條ニ則リ之ヲ受理シ其決定ヲ廢棄シテ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ事件ヲ差戻スヘキモノトス(大審三三年民四卷四三頁)

四 違式ノ裁判ニ對スル上訴(三二九頁參看)

第七百六十條 (假ノ地位ヲ定ムル假處分)

一 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關

係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防グ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

.....(以下六〇四頁).....

◎假ノ地位ヲ定ムル假處分 [補遺七六〇條]

一 本條ノ假處分ハ係爭ノ權利關係カ數回ノ行爲ヲ目的トシ又ハ占有ノ狀態ヲ維持スルカ如ク其性質ニ於テ繼續スル時ニ在ラサレハ之ヲ許ササルモノトス(大審三九年民一五八九頁)

◎灌漑用水ニ關スル假處分

一 稻作灌漑ノ時期ニ方リ其灌漑ヲ妨害スルニ因リ生スヘキ著シキ損害ヲ避ケル爲メノ假處分申請ハ本條但書ノ規定ニ該當スルモノトス(大阪控四二年法六〇六號九頁)

二 灌漑用水ノ利用ヲ禁止セントスル假處分ノ如キハ假令保證ヲ立ツルコトヲ條件トスルモ其禁止ヲ求メ得ヘキ權利ニ付キ疏明アルニ非サレハ轍ク之ヲ認容スヘキモノニ非ス(東京控大正五年法一一八八號二五頁)

◎意匠權ト假處分ノ許否

一 意匠權ハ行政處分タル登録許可ノ査定ヲ經其登録ヲ爲スニ因リ始メテ發生スル權利ナルコト明カナリト雖モ因リテ生シタル意匠權ハ私法上ノ財產權ヲ組成スルモノナルカ故ニ此權利ヲ侵害スル者アリタル場合ニ於テハ民事裁判所ニ對シ之カ救済ヲ求ムルコトヲ得ルハ勿論其權利關係ニ付キ爭アル場合ニ於テハ其權利關係ノ假ノ地位ヲ定ムル爲メ假處分ノ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(東京地大正三年法九四一號二一頁)

◎漁業權ニ對スル假處分

一 免許漁業權登録書換ノ請求ハ意思ノ陳述ヲ求ムルモノナレハ其判決ノ確定前ニ於テ判決確定ト同一ノ效果ヲ有スル假處分命令ヲ發シ請求者ヲ以テ漁業權者ト爲スヲ得ス(大審大正二年民一二八頁)

◎強制執行ヲ爲ス可カラストノ假處分

一 執行力アル公正證書ヲ以テ抵當權ヲ設定シタル債務者カ強制執行ノ著手ナキ以前其債權者ニ對シ抵當無効ノ確認竝ニ抵當登記ノ抹消ヲ請求セントスルトキハ本

條ノ規定ニ從ヒ強制執行ヲ爲スヘカラサル旨ノ假處分ヲ申請スルコトヲ得(大審三五年民一〇卷一九三頁)

◎戶主タル地位ニ對スル假處分

一 推定家督相續人タル養子ニ對シテ戶主タル養父及ヒ養母カ離縁ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニハ其養子ノ家督相續ヲ爲スヘキ期待權(推定家督相續權)ハ消滅セザルヘキヤ從テ養家ノ戶主タル地位カ其養子ニ依リテ相續セラレヘキヤハ不明瞭ナルカ故ニ養家ノ戶主タル地位ハ本條ニ所謂「爭アル法律關係」ト云フコトヲ得ヘク又該離縁訴訟ノ繫屬中ニ養父カ死亡シ依リテ家督相續カ開始シタル場合ニハ其被告タル養子ニ於テ直ニ養家ノ戶主タル地位ヲ相續スヘキ急迫アルカ故ニ同條ニ所謂爭アル權利關係(養家ノ戶主タル地位)ニ對スル「急迫ナル強暴」アルモノトシテ養家ノ戶主タル地位ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルカ爲メ本條ノ規定ニ依リテ假處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(學說、評論六卷民訴三三二頁)

二 民法第九百七十八條カ戶主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ヲ命スヘキモノトスル範圍ニ於テハ同條ハ本條ノ補充規定タルモノトス(同上)

..... (以下六〇五頁)

◎遺產ノ管理ニ關スル假處分

- 一 本條ノ規定ニ依ル假處分ハ民事裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ非訟事件タル遺產ノ管理ニ付テハ本條ニ依リ假ノ地位ヲ定ムル假處分ヲ爲スコトヲ得シテ非訟事件手續法第六十六條ノ規定ニ依リ非訟事件裁判所ニ於テ遺產ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ爲スヘキモノトス(學說、評論 六卷民訴三三三頁)

◎相續財產ノ管理ニ關スル假處分

- 一 家督相續回復ノ訴ニ於テ本條但書ノ規定ニ該當スル事由アルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ相續財產ニ關シテ假處分ヲ爲シ得ルモノトス(大審三七年民一三〇三頁)

◎子ノ監護ヲ目的トスル假處分

- 一 子ノ監護ヲ目的トスル假處分ハ子ノ利益ヲ主眼トスヘキモノニシテ生母ノ健康保全ヲ理由トスヘキモノニ

◎失權通知停止ノ假處分ノ解釋

〔補遺七六〇條〕

- 一 株金拂込及ヒ失權通知ノ無効ヲ理由トシテ本案ノ判決アルマテ株式ノ競賣ヲ禁止セントシテ得タル假處分命令ハ該株金拂込及ヒ失權通知等ヲシテ假ニ其效力ヲ發生セシメサル假處分ナリト解スルヲ穩當トス(大阪控四二年最五卷三一頁)

第七百六十一條 (假處分ト急迫ナル場合)

- 1 急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
- 2 此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ
- 3 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

◎本條ノ「係爭物」ノ意義

〔類題、七五五條〕

- 一 本條ニ所謂係爭物トハ單ニ第七百五十五條ニ所謂係爭物ニ關スル場合ノミナラス第七百六十條ニ所謂爭ア

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

◎後見人ノ權利行使禁止ノ假處分

非ス(大阪控大正五年法一二〇〇號一九頁)

- 一 後見人ノ行爲ニ因ル不當ノ結果ヲ防避セントスルニハ其後見人ノ權利行使ヲ禁止スルノ外ナキニヨリ之ヲ以テ假處分申請ノ目的ト爲スコトヲ得ルモノトス(東京控四二年法五五一號一二頁)

- 二 後見人免職訴訟繫屬中後見人ノ權利行使ヲ一時禁止スヘキ旨ノ假處分命令アリトスルモ之ニ因リテ後見人ハ失格スヘキニアラサルカ故ニ後任者ノ選任ヲ爲スヘキモノニアラス(法曹會決議大正二年法曹記事二三卷八號四九頁評論二卷民法六一七頁)

◎清算人ノ職務執行禁止ノ假處分

- 一 本條ニ依ル假處分ハ爭アル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定ムル目的ノ爲メニアラサレハ許サレサルモノナルカ故ニ會社ノ代表者タル清算人ノ職務執行ヲ全然禁止シテ會社ノ行動ヲ絕對ニ不能ナラシメントスルカ如キ場合ニ於テハ假處分ハ許スヘカラサルモノトス(大阪控三七年法二一九號七頁)

ル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル場合ヲモ包含指稱スルモノトス (橫濱地大正六年評論六卷民訴一八六頁)

..... (以下六〇六頁)

◎急迫ナル場合ナルヤ否ヤノ認定

- 一 本條ニ所謂急迫ナル場合ナルヤ否ヤヲ定ムルハ一ニ管轄裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス(橫濱地大正六年評論六卷民訴一八六頁)

◎條件附ノ假處分命令

- 一 係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所カ本條第一項ニ依リ假處分ヲ命シタル場合ニ於テ其命令中ニ申請人ハ該命令送達ノ日ヨリ十四日內ニ本案管轄裁判所ニ訴訟ヲ提起スヘキコトヲ掲グルモ之カ爲メニ該命令ヲ目シテ不適法又ハ無効ナリト謂フヲ得ス(大審四二年民二四〇頁)

◎假處分當否申立期間ノ徒過ト異議

- 一 本條ニ基キ區裁判所ノ發シタル假處分命令ニ對シテ

七六〇條 七六一條

〔六〇六〕

八五九

ハ本案ノ管轄裁判所ニ於テ之カ當否ノ辯論ヲ經テ其運命ヲ決スヘキモノナレハ之ニ對シ本條ノ期間徒過ノ故ヲ以テ取消ノ申立ヲ爲スハ格別異議ヲ申立テ其他特別ノ事情ニ基ク取消ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス (大審大正六年民一三八〇頁評論六卷民訴四五八頁)

第七百六十二條 (本條ニ所謂本案ノ管轄裁判所)

1 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

◎本條ノ法意

一 本條本文ノ法意ハ要スルニ本案ノ未タ何レノ裁判所ニモ繫屬セサル場合及ヒ其上告裁判所ニ繫屬スル場合ニ於テ第一審裁判所ヲ以テ所謂本案ノ管轄裁判所トスルコトヲ規定シタルニ外ナラス (大審三四年民一一卷七八頁)

第七編 公示催告手續

(以下六〇七頁)

第七百七十四條 (除權判決ニ對スル不服ノ申立)

1 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
2 除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ
第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サズ又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ
第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セザルトキ
第四 判決ヲ爲ス刑事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ
第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ
第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原告回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

◎除權判決ノ不服申立人

一 除權判決ニ對シ不服ノ申立ヲ爲シ得ル者ハ證書上權利ヲ主張シ得ル者ニ限ラス該判決ニ利害ノ關係アル者ハ何人ニテモ不服ノ申立ヲ爲シ得ルモノトス (東京控四〇年最一卷九六頁)

(以下六〇八頁)

第七百七十五條 (除權判決ノ不服申立期間)

1 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル
2 除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五午年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

◎除權判決ニ對スル不服申立期間

(以下六〇七頁)

第七百七十四條 (除權判決ニ對スル不服ノ申立)

1 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
2 除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ
第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サズ又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ
第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セザルトキ
第四 判決ヲ爲ス刑事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ
第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ
第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原告回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十七條 (證書ノ無効宣言ノ公示催告)

1 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス
2 此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

◎國庫債券喪失ノ公示催告

一 國庫債券ニ關シテハ公示催告ノ手續ヲ爲スヘキモノニアラス (三九年民刑第一三六五號民刑局長通牒) (明治三十九年法律第三十四號、明治三十六年勅令第二百九十一號第四條、明治三十七年法律第一號第四條、明治三十八年法律第十二號第六條參看)

○騙取セラレシ債券ノ公示催告

一 債券ヲ騙取セラレタル場合ニハ公示催告ノ申立ヲ爲シ得サルモノトス(東京地大正四年評論四卷民訴三八頁)

.....(以下六〇九頁).....

第七百八十二條(公示催告ノ公告)

1 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス
2 公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

○公示催告手續ノ公告

一 公示催告手續ニ關スル公告ヲ官報ニ掲載セスシテ一地方ニテ發行スル縣報ニノミ掲載スルハ適法ニアラス(民刑局長回答四〇年民刑第八三七號)

第八編 仲裁手續

號二三頁)

第七百八十七條(將來ノ争ニ關スル仲裁契約)

1 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

.....(以下六一〇頁).....

○仲裁契約ノ解釋 [補遺七八七條]

一 賣買契約中「仲裁人某某カ係争山林カ貳萬八千圓ニ相當スル價值ヲ有スルヤ否ヤノ判斷ヲ爲スコトヲ辭退シタル場合ニ於テ更ニ他ニ仲裁人ヲ選定シテ之カ判斷ヲ爲サシムル」旨ノ記載アリテ此ノ如キ場合ニ示談契約カ其效力ヲ喪失スル旨ノ記載ナキトキハ該證ノ全趣旨ニ照シ仲裁人カ價格ノ當否判斷ヲ辭退セルトキハ當事者間ノ力協定ヲ爲スヘク若シ協議整ハサルトキハ裁判所ノ判定ヲ受クル約旨ナリト解釋スヘク之ヲ合意上又ハ合法的ニ更ニ仲裁人ヲ選定シテ其判斷ヲ求ムルカ又ハ暗示的解除ノ上ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起シ得サルノ約旨ニ在ラスト認ム(大阪控四二年最四卷一二二頁)

第七百八十六條(仲裁契約ノ成立要件)

1 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス

○仲裁契約ノ意義

一 民事訴訟法ニ所謂仲裁契約ハ一定ノ權利關係ニ關スル現在又ハ將來ノ争ニ付キ争ノ當事者カ第三者ノ判斷ヲ受ケ該判斷ニ羈束セラルルコトヲ約スルニ因リテ成立スル契約ナリ(東京控大正二年法八九九號二二頁)

○仲裁人ハ自然人ニ限ルカ

一 仲裁人ハ必スシモ自然人タルコトヲ要セス法人ト雖モ有效ニ仲裁人タルコトヲ得(大阪控四四年法七五二號二五頁)

○勸解手續ニ於ケル調和證ノ效力

一 民事訴訟法施行以前ノ勸解手續ニ於ケル調和證ハ確定判決ノ如ク當事者カ爾後之レニ反スル主張ヲ爲シ得サル效力ヲ生スルモノニ非ス(大阪地四四年法七四八號二五頁)

二 大阪市ニ於ケル棉花商ノ日本紡績聯合會ノ規約中棉花賣買ニ付キ生シタル紛議ノ仲裁判斷ニ關スル規定ハ會員又ハ準會員間ノ賣買ニシテ而カモ仲裁判斷ヲ求ムル當時モ雙方現ニ會員又ハ準會員タル資格ヲ保有スル事ヲ前提トセル規定ト解スルチ相當トシ假令賣買及紛議發生ノ當時雙方會員又ハ準會員タルモ爾後其雙方若クハ一方カ會員又ハ準會員タル資格ヲ喪失シタルトキハ仲裁判斷ニ付スヘキ限リニアラス(大阪控大正四年法一〇二七號二二頁)

三 仲裁契約ハ一方ニ於テ賣買ニ關シ締結セラレタルモノト雖モ又一方ニ於テハ當事者間ニ他日右賣買ノ履行其他ニ關シ紛議發生シタル場合ニハ仲裁手續ニ依リ其爭議ヲ完結スルコトヲ目的トシテ成立シタルモノトス(東京控大正五年法一一二二號二八頁評論五卷民訴三九頁)

四 故ニ不履行ニ因ル損害賠償並ニ約定金返還ノ請求權アリト爲ス場合ニ在リテハ仲裁契約ヲ締結シタル豫定事項ニ該當シ特ニ該契約約款ヲ適用スヘキ必要アル場合ニシテ假令賣買契約ヲ適法ニ解除セラレタリトスルモ仲裁契約ノ效力ヲ左右スヘキモノニ非ス(同上)

○仲裁契約ノ效力

- 一 當事者カ或ル權利關係ニ紛争ヲ生セハ之ヲ或者ノ仲裁判斷ニ委スヘキ契約ヲ爲セシトキハ其契約ノ内容ニ當事者ノ一方カ仲裁判斷ヲ乞フニ付キ合意ヲ求メラレ之ヲ拒絕シタル場合ニ關スル明規ナキトキト雖モ被拒絶者ハ之ニ對シ其合意ヲ求ムル訴ヲ通常裁判所ニ提起シ其判決ノ確定ヲ俟ツテ紛争ニ關スル仲裁判斷ヲ求メサルヘカラス如何ナル場合ト雖モ直チニ其取引ノ紛争自體ニ付キ通常裁判所ノ判斷ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（大阪控四一年最二卷一三二頁）
- 二 注文主ト仲買人トノ間ニ授受セル通帳ニ「此委託買賣取引關係ヨリ委託者ト當店トノ間ニ紛争ヲ生シタルトキハ仲裁ハ必ス當取引所ニ規定スル仲裁委員ノ判斷ヲ求ムヘシ其紛争ノ原因及ヒ事實如何ヲ問ハス總テ裁判所ノ判定ヲ乞ハサルモノトス」トノ契約ハ仲裁契約トシテ有效ナリ而シテ本條ハ仲裁契約ノ目的タル權利關係又ハ其關係ヨリ生スル争ハ仲裁契約ニ於テ一定スレハ足り必スシモ契約當時ニ現ニ成立スルヲ要セサルモノナリ（大阪地四五年法七九〇號一九頁評論一卷民訴六六頁）
- 三 當事者間ニ於テ後ニ生スヘキ紛争ヲ仲裁判斷ニ付スルコトヲ契約シタル場合ハ即チ民事訴訟法第八編ノ規定スル處ナレトモ一旦仲裁契約ニ付シタルトキハ如何

- ナル事情アリト雖モ必ス強制的ニ其仲裁ニ頼ラサル可ラサルモノニ非ス（神戸地三三年法二三號二頁）
- 四 仲裁判斷ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ宜シク先ツ該契約ニ基キ仲裁判斷ヲ求メサルヘカラス故ニ仲裁判斷ヲ求メスシテ直ニ裁判所ニ出訴スルハ不法ナリトス（大審三三年法二三號二頁）
- 五 當事者間ニ於テ豫メ契約ヲ以テ仲裁判斷ヲ受クルコトヲ定メタル場合ニ於テ直チニ司法裁判所ニ訴ヲ提起シタルトキハ相手方ハ之ニ對シ抗辯ヲ爲スコトヲ得而シテ該抗辯ハ第二百六條第二項第一號ニ所謂無訴權ノ抗辯ナリ（大審三三年法二三號二頁）
- 六 起訴命令ト仲裁契約トノ關係（第七四六條參看）

……………（以下六一一頁）……………

◎仲裁契約ト妨訴抗辯

- 一 學說、評論第二卷民訴一九一頁

第七百八十八條（仲裁人ノ選定（一））

- 1 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

◎仲裁人選定ノ方法

- 一 仲裁人選定ノ方法ニ關シテハ民事訴訟法上列ニ制限スル所ナシ故ニ一方ノ指名者ノ相手方ノ承諾ニ繋ラシメタル場合ト雖モ不適法ナリト云フコトヲ得ス（東京控大正五年法一一二二號二八頁評論五卷民訴三九頁）

第七百九十二條（仲裁人ノ忌避）

- 1 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得
- 2 此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得
- 3 無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

◎仲裁人忌避權ノ性質

- 一 仲裁人ノ忌避ハ當事者カ判事ヲ忌避スル權利アルト同様ニ法律ノ付與シタル特種ノ權利ニシテ仲裁人ヲ其職務ノ執行ヨリ除外スル一種ノ訴訟手續ニ屬シ仲裁人

ニ對スル委任契約ノ解除ニ非サルト同時ニ相手方ニ對シ其同意ヲ求ムル解任ノ意思表示トモ觀ルヘキモノニ非ス（大審大正五年民一〇三五頁評論五卷民訴二五三頁）

……………（以下六一二頁）……………

◎仲裁人ノ解任

- 一 仲裁人ト仲裁契約ノ當事者ノ間ニ於ケル法律關係ハ當事者雙方ノ合意ニ因リ選定シタル場合ハ勿論當事者ノ各自又ハ裁判所ノ選定ニ係ル場合トテ間ハス恰モ共同行為ニヨル委任契約ニ於ケル法律關係ト同様ニシテ仲裁契約ノ當事者雙方ハ何時ニテモ共同ノ意思ヲ以テ仲裁人ヲ解任シ得ヘク唯タ不當ノ解任ニ付テハ仲裁人ニ對シ相當ノ損害ヲ賠償スル責任アルニ過キサルモノトス然レトモ當事者ノ一方ノミノ意思ニ因リテハ假令其者ノ選定ニ係ル仲裁人ト雖モ之ヲ解任スルコトヲ得サルヲ以テ本則トス（大阪控大正四年最一六卷一二八頁法一〇五〇號二六頁）

◎仲裁契約ノ解除

一 當事者ノ選定シタル仲裁人カ不當ニ其義務ノ履行ヲ
 遲延シタリトセハ相手方ニ於テ其仲裁人ヲ忌避スル等
 事件解決ニ付キ相當ナル處置ヲ取ルハ可ナルモ一方ノ
 仲裁人ノ行動ニ不満足ナレハトテ直チニ仲裁契約ヲ解
 除シ得ヘキモノニ非ス (東京地四四年法七六三號二
 三頁)

二 仲裁契約モ亦一個ノ契約ナルカ故ニ法律ノ認メタル
 解除原因發生セスハ擅ニ之ヲ解除シ得ヘキモノニ非
 ス (東京地四四年法七六三號二三頁)

第七百九十三條 (仲裁契約ノ消滅原因)

1 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定チ
 爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

- 第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁
 人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺
 シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタ
 ル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタ
 ルトキ
- 第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ
 通知シタルトキ

..... (以下六一三頁)

◎本條ノ適用

一 本條ハ仲裁契約ニ於テ仲裁人ヲ選定シタル場合ノ規
 定ニシテ當事者ニ於テ各仲裁人ヲ選定スヘキ契約ノ場
 合ノ規定ニ非ス (東京地四四年法七六三號二三頁)

◎仲裁契約ノ失効ニ關スル本條ノ解釋

一 本條ノ規定ハ其第一號及ヒ第二號ニ掲ケル出來事ア
 リタル場合ニ於テ之ニ應スル豫定ナカリシトキハ仲裁
 契約ノ效力ヲ失フヘキコトヲ指示シタルモノニシテ此
 等ノ豫定ナキ仲裁契約ハ出來事ノ到來有無ヲ問ハス最
 初ヨリ效力ナシト云フニ非ス (大審三七年民四六一
 頁)

二 本條ハ本條列記ノ如キ事項生シタルトキ之ニ應スル
 豫定ナカリシ場合ニ仲裁契約ヲ無効ナリト爲スニ止マ
 リ右豫定ナキ事實ソレ自體カ絕對的ニ仲裁契約ヲ無効
 ナラシムルモノニアラス (大阪地四四年法七五二號二
 五頁)

第七百九十四條 (仲裁判斷ト當事者ノ審訊)

1 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限
 リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

2 仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其
 手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

◎仲裁契約ト審理手續ノ特約

一 仲裁契約ノ當事者カ我國法ノ禁止セサル審理ノ手續
 ナ定メ仲裁人ヲシテ之ヲ履踐セシムルコトヲ約スルハ
 公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル契約ヲ
 爲シタルモノニ非サレハ其契約ハ有效ナリトス (大
 阪控大正六年評論六卷民訴二七二頁法一二九八號三一
 頁)

第七百九十七條 (仲裁人ノ職務權限)

1 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スカラサルコトヲ主
 張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサル
 コト、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ
 仲裁人カ其職務ヲ履行スル權ナキコトヲ主張スルトキ
 ト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

◎仲裁人ノ職務及性質

一 仲裁手續ニ於ケル仲裁人ノ職務ハ仲裁契約ノ目的タ
 ル係爭事項ニ付キ自己ノ獨立自由ナル意見ヲ以テ適當
 ト認ムル所ニ從ヒ判斷ヲ與フルニ在ルモノナレハ民事
 訴訟法ノ認ムル一種ノ公ナル裁判機關ニシテ單純ナル
 當事者ノ代理人ニ非サルモノトス (大審大正五年民一
 〇三五頁評論五卷民訴二五三頁)

◎仲裁人ノ仲裁判斷權

一 仲裁人ハ當事者間ノ合意ニ因リ之ヲ解任スルカ若ク
 ハ忌避ノ場合ノ如ク一定ノ理由及條件ノ下ニ當事者一
 方ノ意思表示ニ因リ解任スルニ非サレハ仲裁契約ノ趣
 旨ニ從ヒ有效ニ仲裁判斷ヲ爲シ得ヘキモノトス (大阪
 區大正五年法一一七一號二九頁)

二 仲裁判斷ハ仲裁人カ係爭事項ニ對シ公正ト認ムル所
 ニ從ヒ獨立自由ナル意見ヲ以テ爲スヘキモノナレハ當
 事者ノ眞意ニ副ハサルノ故ヲ以テ之ヲ攻撃シ其取消ヲ
 求ムルヲ得サルモノトス (大阪區大正五年評論六卷民
 訴八六頁)

◎仲裁人ノ權限

一 仲裁人ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ニ在ラサレハ金圓授受ノ權限ヲ有セス(大審二九年民九卷九三頁)

.....(以下六一四頁).....

第七百九十九條(仲裁判斷書ノ形式)

- 1 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之署名捺印ス可シ
- 2 仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

◎仲裁判斷ノ補正

- 一 仲裁判斷ニ關シテハ民事訴訟法中補充判決ニ於ケルカ如ク特ニ規定スル所ナキヲ以テ仲裁人カ一旦本條ニ定メタル手續ヲ完了シタル後ハ補正判斷ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(大審大正元年民九〇五頁)
- 二 仲裁人カ其判斷ヲ爲スヘキ請求ヲ看過シ且ツ本條ノ規定シタル手續ヲ完了シタル場合ニ於テハ仲裁手續終

了スルヲ以テ仲裁人ハ新タナル仲裁契約アルニアラサレハ仲裁判斷ヲ補充スル判斷ヲ爲ス事ヲ得サルノ筋合ナリ(東京控四五年法七九二號二〇頁)

三 仲裁判斷ノ補正判斷ハ法律ニ於テ之ヲ認ムル旨ノ明定ナキモ仲裁判斷ニ脱漏誤謬アリタル場合ニ於テ之レカ補正ヲ認ムルコトハ仲裁判斷ノ正當ヲ得ル所以ニシテ且ツ當事者ノ利益トスル所ナルヲ以テ短期間内ニ於ケル仲裁判斷ノ補正ハ追加判斷ニ於ケル場合ニ於テモ之レヲ有效ナルモノト認ムヘキモノトス(東京地四四年法七三七號二三頁)

四 仲裁判斷ノ數多ノ事項カ彼此牽連シテ分離スヘカラサルモノナルトキハ其中或一項ニ關スル判斷ニシテ取消サルル以上ハ他ノ事項ニ關スル判斷モ亦之ヲ取消スヘキモノナリト雖モ或事項ト他ノ事項ト牽連セサル場合ニ於テ彼ノ判斷ヲ取消ストキハ此判斷ヲモ取消ササルヘカラサルカ如キ規定及ヒ條理ナシ(大審三七年民一〇〇〇頁)

◎仲裁判斷ノ原本

一 商業會議所ニ於テ仲裁判斷ヲ爲シタル場合ト雖モ一私人ノ爲シタル仲裁判斷ト同シク管轄裁判所ノ執行判

.....(以下六一五頁).....

◎本條第四號ノ法意

一 本條第一項第四號ニハ單ニ當事者ヲ審訊セザリシトキトアルカ故ニ當事者本人ノ審訊ヲ必要ト爲ササル法意ナリトス(大審三八年民九八七頁)

◎仲裁判斷ノ理由ノ意義

一 仲裁判斷ノ理由トハ其判斷ノ基ク事由ニシテ之ニ因リテ以テ其判斷ノ如何ナル理由ニ出テタルカヲ知ル所ノモノナリ故ニ仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキトハ其判斷ニ全然理由ヲ缺ケルトキ及其判斷ノ一部ニ付理由ヲ缺ケルトキハ勿論形式上其理由ヲ付シタル場合ト雖モ其理由ニシテ前後矛盾シテ結局其理由ノ何タルカヲ解スル能ハサル場合ヲモ指稱スルモノトス(東京地大正元年法七三七號二三頁)

二 本條第五號ハ第四百三十六條第七號ニ所謂裁判ニ理由ヲ付セザルトキトアル規定ト同シク全然理由ヲ缺キタル場合ハ勿論縱令仲裁判斷ニ理由ヲ付スルモ其理由ニシテ如何ナル旨趣ニ因リ其判斷ヲ下シタルヤノ説明即チ判斷ノ基ク理由ヲ開示セザル場合ヲモ包含セルモ

決テ得ルニ非サレハ執行力ナキモノナルヲ以テ仲裁判斷ノ原本ハ管轄裁判所ノ書記課ニ預ケ置クヘキモノトス(民事局長回答二四年民第一一八二號)

第八百一條(仲裁判斷ノ取消)

- 1 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得
 - 第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ
 - 第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行為ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ
 - 第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ
 - 第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ
 - 第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ
 - 第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
- 2 仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

ノトス(大審三七年民六二一頁)

◎仲裁判斷ニ對スル不服ノ許否

- 一 仲裁人ノ呼出ニ謂レナク應セサリシ當事者ハ審訊ヲ受ケサリシトノ理由ヲ以テ仲裁判斷ニ對シ不服ヲ唱フルコトヲ得サルモノトス(神戸地四三年法六一七號一四頁)
- 二 當事者ノ特別ノ合意ナキ仲裁人カ當事者ヲ審訊セス又ハ理由ヲ付セスシテ爲シタル仲裁判斷ハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得(東京控大正二年最一三卷五六頁評論二卷民訴二四六頁)

第八百二條(仲裁判斷ニ對スル執行判決)

- 1 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
- 2 右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

◎仲裁判斷ト執行判決

- 一 仲裁判斷ノ當事者カ執行判決ヲ求メタル場合ニ其訴

適法ニシテ第八百一條所定ノ取消原因存在セサル限ハ裁判所ハ確定事件ノ如キ執行機關ノ執行行為ヲ要セサル時ニ於テモ該判斷ノ内容如何ヲ調査スルコトナク直ニ執行判決ヲ爲ササルヘカラス(大審三九年民一三五三頁同旨東京地四四年法七七號二三頁)

二 仲裁判斷書カ法律所定ノ要件ヲ具備スルトキハ其仲裁手續ハ法律規定ニ適合セルモノト謂フヘク從テ強制執行ヲ爲スニ適法ナルモノトス(大阪區大正五年法一九八號一九頁)

◎仲裁人ノ忌避及其確認訴訟

- 一 仲裁人ニ對スル忌避權ナルモノハ法定原因ノ存在ニ因リ當然發生シ其施行方法ハ一般契約解除ノ場合ト同様ニ相手方タルヘキ仲裁人ニ對スル一方の意思表示ニ因リ之ヲ爲スコキ本則ナリトスルモ該忌避ニ付キ相手方及其仲裁人等ニ於テ異議ナキ場合ハ格別然ラサル場合ハ忌避ノ申立ヲ爲シタル當事者ノ一方ハ相手方ニ對シ忌避ノ正當ヲ確認セシム可キ訴ニ於テ法律上ノ利益アルモノト謂ハサルヲ得ス(大阪控大正四年最一六卷一二八頁)

.....(以下六一六頁).....

◎仲裁人ヲ忌避スル方法

- 一 當事者ノ一方カ仲裁人ヲ忌避スルニハ他ノ一方ヲ相手方トシ第八百五條ノ規定ニ從ヒ訴ノ形式ニ依リ裁判所ニ忌避ノ權利アルコトノ確定ヲ求ムヘキモノニシテ相手方ニ對シ忌避ノ承諾ヲ求ムヘキモノニ非ス(大審大正五年民一〇三五頁評論五卷民訴二五四頁)

民事訴訟法(完)

競賣法

第一章 通則

第二條

1 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス
 2 競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ
 因リテ消滅ス
 3 競買人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質
 權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨
 濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

..... (以下六一七頁)

◎本條ノ解釋

一 本條ニ競落ニ因リ消滅スヘキ權利トシテ先取特權及
 ヒ抵當權ヲ掲ケタルハ此種類ノ權利ハ競賣申立人タル
 抵當權者ニ對シ優先ノ權利ヲ有スルモ尙ホ消滅スルコ
 トヲ示シタルモノトス (大審大正六年民六二五頁評論

競賣法 通則

六卷民法三七一頁)

二 競賣ノ目的物ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競
 落ニ因リテ消滅スルコトハ本條ノ規定スル所ナルモ本
 條ハ此ノ權利ノ競落人ニ對スル效力ノミヲ定メタルモ
 ノニシテ其他ノ者ニ對スル效力ヲ規定シタルモノニ非
 ス (大阪地四三年法六三五號一五頁)

◎競賣事件ノ審理手續ト準據法 [類題、三八二頁]

一 競賣法ニ依ル競賣ニ關シテハ競賣法ニ特別ノ規定ナ
 キ以上其性質ノ許ス限ニ於テ民事訴訟法ノ規定ヲ準用
 スルヲ要ス故ニ不動産競賣申立ノ許否、競賣手續ノ開
 始並ニ競落許否ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ民事訴訟
 法ノ規定ニ依ルヘキモノトス (大審大正二年民四三六
 頁同旨大審大正二年民八七五頁大審大正三年民三三三
 頁評論三卷諸法五頁)

二 競賣法ニ依ル不動産競賣事件ニ付キ口頭辯論ヲ命シ
 タル場合ニ於ケル證據ニ關スル手續ハ民事訴訟法ニ依
 ルヘキモノナルヲ以テ重要ナル爭點ニ關スル唯一ノ證
 據申請ヲ許容セサルハ不法ナリトス (大審大正三年民
 六八七頁評論三卷諸法一七一頁) [類題三八九頁]

三 抗告裁判所方原裁判所ノ爲シタル競賣開始決定ニ對

二條 (六一七) 八七三

スル抗告ヲ受理シ該決定ノ當否ヲ審察スルニ當リテハ其競賣ノ申立ヲ爲シタル者カ果シテ抵當權ヲ有スルヤ否ヤヲ審査スルハ至要ノ事項ニ屬スト雖モ其抵當權ニ依リテ擔保セラレル所ノ債權ノ容積如何ノ如キハ審査ヲ要スヘキ至要ノ事項ニ非ス(名古屋控四〇年法四二四號八頁)

四 競賣法ニ依ル競賣ハ一ノ非訟事件ナリト雖モ申請人カ競賣ヲ申立テ得ヘキ權利ヲ有スルヤ否ヤニ關シ裁判所ハ非訟事件ナルカ故ニ其取調ヲ爲スコトヲ得ストノ法理ナキニ因リ裁判所ハ申請人カ有スル權利ノ實體ニ付取調ヲ爲シ權利アリト認メタル上開始決定ヲ爲スヘキモノトスルチ相當トス(東京地三四年法六三號一〇頁)

五 競賣開始決定ニ對スル不服申立(五三一頁參看)
……………(以下六一八頁)……………

◎争アル債權ト競賣申立

一 競賣法ニ依ル競賣ハ假令其基本タル債權方争ニ係ルトキト雖モ之ヲ申立テ且ツ進行スルニ於テ何等ノ妨アルモノニアラス(東京控三九年法三六二號一七頁)
二 競賣法ニ因ル不動産競賣ハ其基本タル權利ニ争アル

所有權ヲ他ニ移轉セラレルコトナシ夫レ故ニ假令抵當ニ供シタル不動産ト雖モ之ヲ競賣スルニ當リ競賣法ノ規定ニ依リ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ其事由チ不動産所有者ニ告知シテ之ヲシテ干與セシムルニ非サレハ競賣人ノ競落ハ適法ニ非ス(大審三七年民一八七頁法一九九號一五頁)

◎裁判所ニ對スル競賣代金請求ノ訴

一 裁判所カ競賣代金ヲ受領シ之ヲ受取ルヘキモノニ交付スルハ國家ノ司法機關トシテ公法上ノ手續ヲ執行スル爲メ金品ヲ受領シタルモノニシテ債務者又ハ所有者ノ代理人タル資格ヲ以テ受領シタルニ非ス即チ民法上ノ法律行為ニ因リテ之ヲ受領シタルニ非ス故ニ債權者カ裁判所ニ對シ右金額ノ配當ヲ請求スル訴ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニ非ス(大審三七年民六四一頁法二一一號二四頁)

◎債權者ノ遲滞ト競賣申立權

一 債務ノ履行ニ付キ債權者カ遲滞ニ付セラレタル後ニ於テハ債權者カ其債權ノ擔保タル抵當不動産ノ競賣申立ヲ爲シタルトキハ其競賣申立ハ債務辨濟ヲ求ムルノ

場合ト雖モ裁判所カ競賣申立人ノ權利ニ付キ相當ノ調査ヲ爲シ申立人カ競賣ヲ爲スヘキ權利ヲ有スルコトヲ認メタルトキハ債務者ニ於テ之ヲ争フモ競賣ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(長崎控三六年法一三〇號一〇頁同旨東京控三五年法一一九號一一頁)

◎競賣法ノ性質

一 競賣法ハ既存ノ事實關係ニ基キ質權抵當權等ノ實行其他民法又ハ商法ノ規定ニ依ル競賣ノ施行ヲ完結センカ爲メ裁判所又ハ執達吏ヲシテ之ニ干與セシムルコトヲ目的トスルモノナレハ其性質上非訟事件手續法ニ屬スヘキモノトス(大審三九年民四二八頁)

◎競賣ノ性質 (類題、五二三頁)

一 競賣ハ法律ノ定メタル手續ニ從ヒ裁判所之ヲ行ヒ競落人ハ裁判所ノ競落ヲ許ス裁判ニ因リテ競賣物件ノ所有權ヲ取得スルモノニシテ競賣物件ノ所有者ト競落人トノ間ノ法律行為ニ基キ其效力トシテ競賣物件ノ所有權ヲ取得スルモノニ非ス(東京地三六年法一七〇號一頁)
二 何人ト雖モ法律ノ規定若クハ自己ノ意思ニ因ルノ外

◎抵當權實行ト地上權及永小作權

一 抵當不動産ニ對シテ地上權ヲ設定シタル場合ニ於テハ抵當權實行ノ結果競落ニ至ルトキハ其地上權ハ當然消滅ニ歸スヘキモノトス(東京控四〇年法四七三號三頁同旨東京地四〇年法四二四號五頁和歌山地大正六年評論六卷民法七六二頁)

二 抵當權ノ負擔アル土地ニ付キ設定シタル地上權ハ抵當權實行ノ結果其土地ヲ競賣ニ付シタルトキハ當然消滅ニ至ルハ勿論ナリト雖モ抵當權實行前ニ於テハ固ヨリ其地上權ノ有效ナルチ失ハサレハ抵當權者ハ即チ之ヲ取消テ請求スルチ得サルモノトス(東京控三五年法一一二〇號四頁)

三 抵當權設定後ニ取得シタル永小作權ハ抵當權實行ノ爲メ競賣ヲ爲ストキハ之ト同時ニ消滅スルモノナルチ以テ競落人ハ其永小作權消滅ノ狀態ニ於テ之カ所有權ヲ取得スヘキモノナリ(東京控三五年法一〇六號七

頁)

四 抵當權設定登記後ニ設定シタル地上權ト雖モ競落ニ因リ消滅スヘキモノニ非ス(學說、法四二六號二頁)

.....(以下六一九頁).....

◎競賣ト實體上ノ確定力 [類題、五二九頁]

- 一 競賣ハ權利ノ實行方法ニ外ナラサレハ假令競賣手續カ競賣法上適法ニ完結スルモ其結果タル所有權移轉ノ實體上ノ效力ハ之ニ依リテ確定スルモノニ非ス(大審四四年利二六五頁同旨大審四〇年民九一五頁)
- 二 競賣手續ハ權利實行ノ方法ニシテ競賣機關ハ之ヲ實施スルニ當リ其權利ノ存否ニ付キ之カ調査判斷ヲ爲スヘキモノナリト雖モ其判斷タルヤ實體的ノ確定力ヲ生スルモノニ非ス(大審大正二年民五一三頁)

◎抵當權ノ無効ト所有者ノ訴權 [類題、五五三頁]

- 一 競賣ニ依リ實行セラレタル抵當權ニシテ實體上無効ノモノナルトキハ本條ノ所有者ハ競賣手續完結後ニ於テモ尙ホ競落ニ因ル所有權移轉ノ效力ヲ爭ヒ以テ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得而シテ該所有者カ競賣手續

ノ開始ヲ知リ乍ラ其繼續中抗告又ハ異議ニ依リ抵當權ノ無効ヲ主張シタルト否トハ問フ所ニ非ス(大審四四年利二六五頁同旨大審大正二年民五一三頁大審四〇年民九一五頁)

- 二 所有權取得ノ登記カ競落許可決定ニ基キタルモノナリトスルモ其登記カ無効原因ニ基キモノナルトキハ其登記ハ形式上ニ於テ存在スルニ止マリ實體上ニ於テ所有權移轉ノ效果ヲ生スヘキモノニ非ス(大審大正三年利三〇九頁評論三卷民法八一頁)
- 三 執行異議ニ代ル他ノ訴求(四四九頁參看)

◎競賣事件ト受繼手續

- 一 競賣法ニ依ル競賣手續ノ如キハ非訟事件ニ屬スルモノニシテ民事訴訟事件ニ非サレハ名義主ノ變更アリテ其事件ノ受繼手續ヲ爲ササレハトテ之ヲ以テ直チニ不當ナリト云フヲ得ス(東京地四一年法四八八號二〇頁)
- 二 建物ノ所有者カ其競賣開始決定ヲ受ケタル後破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ爾後競賣手續ハ破産者タル所有者ノ管財人ニ對シテノミ之ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス(東京地大正五年評論四卷商法五二〇頁)

第二章 動産ノ競賣

第三條

- 1 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス
- 2 前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

.....(以下六二〇頁).....

◎記名株式ト動産ノ競賣

- 一 競賣法ノ所謂動産ニハ記名ノ株式ヲモ包含セルモノトス從テ商法第百五十三條第三項ニ依リ記名ノ株式ヲ賣却スル場合ニハ競賣法ノ規定ニ依ラサルヘカラス(大審三九年民九七一頁同旨大阪地三八年法二七六號五頁名古屋地三八年法二八八號二〇頁)
- 二 商法第百五十三條ニ所謂競賣トハ競賣法ニ依ル競賣ノミヲ指シタルモノナレハ會社カ失權株主ノ株式ヲ競

賣法ニ依ラスシテ賣却處分ヲ爲シタルトキハ法律上無効ナリ(大阪控四〇年法四二九號一一頁)

第六條

- 1 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

◎縣令ノ「一定ノ時間」及「競賣」ノ意義

- 一 山口縣令第一條ノ一ニ所謂一定ノ時間トハ一日中ノ一定セル時限ヲ指稱スルノミナラス一日中ヲ午前午後ニ分チ通常發生スヘキ特定事實ノ到來ヲ標準トシテ定メタル時間ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス(大審大正六年利二一頁)
- 二 山口縣令第一條ノ一二所謂競賣トハ購買者チシテ購買價格ニ付キ競争ヲ爲サシメ其申出タル價格中最高ノモノヲ選ヒ之ヲ標準トシテ同條所定ノ物品ヲ販賣スルノ意義ニシテ其競争ノ方法カ購買者チシテ價格ヲ競上ケシムルノ方法ニ止マラス競争入札ノ方法ニ依ルモ妨ナキモノトス(同上)

第七條

- 1 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
- 2 公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 3 公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 競賣委任者ノ氏名、住所
 - 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
 - 三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件
 - 四 競賣ノ場所及ヒ年月日時
 - 五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所
- 4 委任者カ競賣ノ條件ヲ定メザリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

◎本條及ヒ第九條第十四條ノ法意

一 本條及ヒ第九條第十四條ハ利害關係人ノ保護ヲ目的トスルニ過キスシテ公益規定ニ非サレハ縱令此等ノ規定ニ違背スルモ其競賣ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス(大審四〇年民三〇七頁)

第八條

- 1 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

◎本條ノ違背ト競賣ノ效力

一 本條ニ違背シテ競賣ノ場所及ヒ日時ヲ利害關係人ニ通知セサル事由ハ單ニ異議ノ原因タルニ過キサルヲ以テ株式競賣人カ利害關係人ニ對シテ之カ通知ヲ爲サザリシトテ株式不足額ヲ請求スル妨ト爲ラス(大審四五年民六頁同旨大審四四年民七五五頁)

二 本條ニ「競賣ノ場所及日時ハ通知ヲ發スルコトヲ要ス」ト規定シ茲ニ「要ス」ノ文字ヲ用ヒタルハ此手續ヲ履踐セサル處分ニ對シテハ適法ノ期間内ニ異議ヲ申立テ之カ匡正ヲ爲シ得ルノ法意ニシテ之カ違法處分ハ全然競賣無効ノ結果ヲ伴ハシムルノ法意ニアラス(大阪控四三年最六卷八四頁同旨大阪地四二年法五九九號一一頁)

(以下六二二頁)

第十五條

- 1 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

◎「競賣代金ヲ受取ルヘキ者」ノ意義 (第三三條參看)

第十七條

- 1 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- 2 異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 3 異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス

◎違法競賣ト異議申立ノ時期 (類題、四三五頁)

(以下六二二頁)

(以下六二三頁)

◎受任外執達吏ノ競賣ト異議 (四七七頁參看)

一 失權株ノ手續ヲ爲シ株式ノ競賣ヲ爲スニ當リ執達吏カ其競賣ノ場所及ヒ日時ヲ株式讓渡人ニ通知セザリシ不法アリトスルモ之カ異議申立ハ該競賣ノ完結前ナラサルヘカラス(大阪控四三年最六卷八四頁同旨富山地四三年法六八七號二五頁)

二 執達吏カ競賣法ノ規定ニ依リ正當權利者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲シタル場合ニ於テハ假令同法ニ定メタル方式ニ循由セス例之競賣調書ニ記載スヘキ事項ヲ適式ニ記載セス若クハ各別ニ競賣スヘキ目的物ヲ併合シテ競賣シタルカ如キ不適式ノ行爲アリト雖モ利害關係人ハ本條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ主張スルニアラサレハ異日其不適式ノ事實ヲ理由トシテ競賣ノ效力ヲ否認スルコトヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス(大審四〇年民七二二三頁同旨大審四〇年民一〇五四頁)

第三章 不動産ノ競賣

第二十二條

- 1 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス
- 2 民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス

◎抵當不動産競賣ノ性質

- 一 競賣法ニ依リ抵當權實行ノ爲メ抵當不動産ノ競賣ヲ行フ場合ニ於テハ其競賣ハ會ニ債務者ノミナラス抵當權其他ノ利害關係人全般ノ爲メニ裁判所之ヲ行ヒ競落人ハ直ニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要シ又裁判所ハ其競落代價ノ中ヨリ之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要スルモノトス(大審大正三年民九一一頁)

◎商法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲ス場合

- 一 動産ハ商法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲スヘキ場合アルモ不動産ニ付テハ商法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲スヘキ場合ナカルヘシ(民刑局長回答三三年民刑第七九九號)

◎競賣申立ノ要件 [類題、五二四頁]

- 一 競賣ノ申立カ抵當權ノ實行ニ基クモノナルコト明瞭ナルトキハ之カ申立ニハ抵當權カ存在シ且ニ抵當債權ノ履行期カ到來スレハ足ルモノニシテ之カ債務名義及ヒ抵當權設定登記ヲ必要トスルモノニ非ス(東京地四五年法八一號二頁)
 - 二 競賣ノ申立ヲ爲スニハ申立ノ原因タル事由ヲ申立書ニ記載スルヲ以テ足り債權證書ヲ提出シ又ハ債務者ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民刑局長回答三二年民刑第一五七九號)
- 附 抵當權者ハ債權ノ一部若クハ利息ノミヲ以テ競賣ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス(學說、評論四卷諸法二一三頁)

◎未登記抵當權ト競賣申立

- 一 抵當權ノ登記ヲ爲ササル抵當權者ト雖モ亦競賣法ニ從ヒ競賣申立ヲ爲シ得可キ適格ヲ有スル者ト解釋スルヲ妥當トス(東京地大正三年法九五九號二五頁評論三卷諸法一四一頁)
- 二 抵當權實行ニ因ル不動産ノ競賣ハ抵當權ノ登記ヲ要

局長回答三三年民刑第七九九號)

◎相續登記前ノ抵當地所ノ競賣

- 一 抵當權設定後債務者死亡シ相續人カ未タ抵當地所ニ付キ相續登記ヲ爲ササル中ハ債權者ハ抵當權實行ノ競賣申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(民刑局長回答三五年民刑第八六九號)

◎不分明ノ相續人ト抵當權ノ實行

- 一 債務者死亡シテ相續人分明ナラサルトキハ相續財產ハ法人トナルヲ以テ利害關係人ハ法人ノ管理人ノ選任ヲ請求シ之ニ對シ抵當權ノ實行ヲ爲スコトヲ得ヘシ(學說、法一〇五號二九頁)

◎共同擔保物ト一部競賣

- 一 抵當權者カ抵當權ノ實行ヲ爲スニ當リ抵當權ノ目的タル共同擔保物中ノ一部ノ不動産ニ付キ競賣ノ申立ヲ爲スト其全部ニ付キ競賣ノ申立ヲ爲ストハ抵當債權者ノ隨意ナリトス(大阪區大正五年法一二一三號二三頁)

◎地上權及ヒ永小作權ノ競賣

- 一 地上權及ヒ永小作權ヲ目的トスル抵當權ノ實行ハ不動産ノ競賣ニ關スル規定ニ準據スヘキモノトス(民刑

◎未登錄漁業權ト競賣申立

- 一 物權ノ設定移轉ハ當事者間ノ意思表示ノミニ因リテ其ノ效力ヲ生シ漁業權ニ於テモ登記ニ代ハルヘキ登錄ハ唯第三者ニ對スルノ要件ニ過キサルカ故ニ假令抵當權カ其登錄ナシトスルモ其實行トシテノ競賣申立ヲ却下スルコトヲ得ス(靜岡地大正二年法八八八號二六頁)

セスト雖モ其目的タル不動産カ既登記ナル場合ハ須ラケ法律上有效ナル登記簿謄本ノ添附ヲ要スヘク之カ謄本ノ添附ヲ缺クトキハ不適法トシテ競賣開始決定ノ申請ハ却下セラルヘキモノトス(東京地大正三年最一四卷一七〇頁)

- 三 未登記抵當權ニ基ク競賣申立ノ登記囑託ニ對シ事件カ登記スヘキモノニ非ストシテ却下スルコトヲ得ス(法曹會決議大正四年二五卷一二號二七頁)

.....(以下六二四頁).....

二 或不動産ノミノ競賣適否(五四六頁參看)

◎建物ノ一部取毀ト競賣申立 [類題、五二五頁]

一 登記簿上一用紙中ニ記載セラレタル建物ハ之ヲ一物ト看做サレ一物ノ一部ニ對スル競賣ハ之ヲ許スヘカラサルヲ以テ一用紙中取毀ニ因リ消滅シ現存セサルモノアルトキハ之ヲ抹消登記ヲ經タル後ニ非サレハ其用紙全部ニ對スル競賣申立ハ不當トシテ却下セサルヘカラス(大阪區大正五年法一二一三號二四頁)

◎土地ノ合併ト競賣申立

一 抵當權設定ノ登記アル土地ト其登記ナキ土地ト合併シタル場合ニ於テハ分筆ヲ爲シタル後ニ非サレハ競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(法曹會決議大正五年法曹記事二六卷第八號五六頁)

◎鑛業採掘權ノ競賣 [類題、五二三頁]

一 鑛業採掘權ハ競賣法ニ依リ競賣ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民利局長回答三八八民利第七四〇號)

◎抵當權ノ實行ト果實 [類題、五三〇頁]

一 民法第三百七十一條第一項但書ノ規定ハ第三者カ賃借權其他ノ權原ニ基キ收益ヲ爲ス場合ト雖モ之ヲ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サル限リハ適用ス可ク又抵當權者カ競賣法ニ依リ抵當權ノ實行ニ著手スル場合ヲモ包含スル趣旨ナリトス(大審大正四年民二二四頁評論四卷民法二五四頁)

第二十三條

1 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限リ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得

.....(以下六二五頁).....

◎競賣申立ノ取下時期 [類題、五三五頁]

一 本條ニハ申立人ハ競落期日迄ハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限リ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得トアルヲ以テ本條ハ競落期日後ハ假令利害關係人全體ノ同意ヲ以テスルモ其取下ヲ許ササル趣旨ナリ(長崎控四一年法五一五號一三頁)

二 不動産競賣申立人ハ競落期日經過後ハ任意ニ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(大審大正五年民

一〇七二頁)

◎競賣ノ申立又ハ取下ト登記原因

一 競賣申立記入登記囑託書ニハ登記原因ヲ證スル書面トシテ競賣開始決定正本ヲ添附シ又同取下ニ因ル抹消登記囑託書ニハ登記原因ヲ證スル書面トシテ競賣ノ申立取下ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附スヘキモノトス(法曹會決議大正二年二三卷二號五九頁)

第二十四條

1 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
2 申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ
一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所
3 申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添

附スルコトヲ要ス

4 民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス

◎競賣申立ト債權證書ノ添附

一 不動産競賣申立ニハ執行力アル正本ヲ添附スヘキモノニ非ス又競賣申立ニハ執行正本ニ代ルヘキ借用證書即チ債權證書ヲ添附スヘシトノ法規ノ存スルコトナシ(長崎地四二年法六〇八號一七頁同旨東京地四五年法八一號二二頁評論一卷諸法五五頁)

二 民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號ハ本條第四項ニ依リ競賣ニ準用セラルルモノナリト雖モ競賣申立ノ際執行力アル正本ヲ添附スヘキ旨ノ規定ハ準用ノ範圍外ニ屬スルモノトス故ニ抵當權設定ノ證書ヲ添附セサル競賣申立ハ違法ニアラス(大阪控四〇年法四五〇號七頁)

◎競賣法ニ依ル競賣手續ト行爲能力

一 非訟事件ニ於ケル行爲能力ニ付テハ之ヲ規定セル直接ノ明文ナシト雖モ一ニ訴訟能力ニ準シテ之ヲ定ムヘ

キ法意ナリト解セサルヘカラス從テ其性質ニ於テ非訟事件手續法ニ屬スル競賣手續ニ於テモ訴訟無能力者ナル未成年者ハ亦行為能力ナキモノニシテ其法定代理人ニ依ルニ非サレハ自ラ行為ヲ爲シ又ハ之ヲ受クルコトヲ得サルモノトス (東京地大正二年法八七九號二三頁)

◎競賣申立代理人ノ權限

一 非訟事件ニ關スル行為ニ付キ汎博ナル委任ヲ爲シタルトキハ其代理權ノ範圍ハ當事者カ特ニ除外セザリシ限リハ其事件ニ於ケル凡テノ攻撃防禦ノ方法ヲ包括スルモノトス (東京控四四年法七二六號二二頁)
附 競賣申請ノ委任ハ書面トシテ記録ニ添附セサルヘカラサルモノニ非ス (大阪控四一年法四七二號三頁)

..... (以下六二六頁)

◎競落抗告ト代理人ノ資格

一 本條ノ代理人ハ必スシモ辯護士タルコトヲ要スルノ旨趣ニ非サルヲ以テ競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲ス場合ニ於テモ必スシモ辯護士ヲ代理人ト爲スコトヲ要ス

ルモノニ非ス (大審大正三年民一三八頁)

◎競賣事件ノ抗告ト執行中止

一 本間ニ付テハ民事訴訟法第四百六十條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス (學說、評論一卷諸法一三頁)

第二十五條

1 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
2 開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ
3 民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

◎不動産競賣ト二重ノ開始決定 (類題、五三二頁)

一 競賣法ニ依ル競賣手續ニ於テモ一旦開始決定アリタル不動産ニ付テハ其手續ノ廢止セラレサル限り之ヲ進行完結スヘキモノナレハ民事訴訟法第六百四十五條第一項ヲ準用シ強制執行ニ依ル強制競賣ト同シク二重ノ競賣開始決定ヲ許ササルモノトス (大審大正二年民六

◎債權額ノ相違又ハ不定ト開始決定 (類題、五三二頁)

一 競賣法ニ基キ競賣開始決定ヲ爲スニハ民事訴訟法ニ於ケル競賣ト異ナリ競賣ノ原因タル債權ノ額ヲ確定スルヲ要セス (東京控三五年法一一三號七頁同旨長崎控四〇年法四三五號一八頁)
二 抵當權者ニ於テ辨濟其他ノ事由ニ因リ消滅セル債權ノ幾部ヲ控除セス抵當權設定當時ノ債權額ヲ表示シテ競賣申立ヲ爲シ又裁判所ニ於テ該申請ニ基キ競賣開始決定ヲ爲シタリトスルモ其競賣申立又ハ競賣開始決定ハ違法ナリト云フヲ得ス (長崎控四〇年法四三五號一九頁)

◎建坪ニ相違アル競賣開始決定 (類題、五三一頁)

一 抵當ノ目的物トシテ登記シタル家ト競賣ノ目的物タル家屋ト建坪ニ於テ相違アルモ他ノ點ニ於テ其同一物タルコト明ナル以上ハ之ニ對スル競賣開始決定ハ不當ニアラス (東京地三五年法一〇七號七頁)

◎競賣事件ノ裁判ノ告知

競賣法 不動産ノ競賣

..... (以下六二七頁)

◎競賣法ノ競賣開始決定ト差押ノ效力

一 競賣法ニ依ル不動産ノ競賣開始決定モ亦一ノ執行處分ニ外ナラサレハ民事訴訟法ニ因ル不動産ノ競賣開始決定ト同シク差押ノ效力ヲ生スルモノトス (大審大正四年民一四四三頁)

◎競賣開始決定ト欠缺ノ補正 (類題、五三〇頁)

一 競賣法ニ依ル競賣開始決定ハ決定當時抵當權實行ノ要件ヲ具備スル場合ニ限リ始メテ適法ニ之ヲ爲スヲ得ヘク爾ラサル場合ニ於テハ假ニ其後ニ至リ要件ヲ具備スルモ當初ノ競賣開始決定ハ尙其不適法タルヲ免レサル結果該決定ハ廢棄セラルヘキモノトス (大審大正六年民一〇一六頁評論六卷諸法二〇三頁)

◎競賣開始決定ニ對スル不服申立 (類題、五三一條)

一 一旦適法ニ成立シタル競賣開始決定ノ效力ハ其以後ニ於ケル競賣手續ノ適否ニ因リ影響ヲ受クヘキモノト非ス (大審大正二年民一〇二一頁)

◎競賣開始決定ト確定力 (類題、五二九頁、競二條)

一 競賣法ニ依ル競賣事件ノ裁判ノ目的ハ債權又ハ先取特權ノ存否ヲ確定セシムルニ非サルヲ以テ縱令其存否ニ付キ判斷ヲ爲スモ判決ト同一ノ確定力ヲ生スヘキモノニ非ス故ニ更ニ訴訟ニ於テ之ヲ争フニ妨ナキモノトス (橫濱地四三年法六五四號一四頁同旨東京控三八年法二九四號一二頁)

二 競賣開始決定ノ確定期日ニ付テハ法律上別ニ規定ナキヲ以テ少クトモ抗告ヲ爲シ得ル者ハ競落許可決定ノ確定マテニハ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノト解釋セサルヘカラス (東京控三八年法三〇五號一〇頁)

◎競賣事件ト再抗告ノ理由 (類題、三八四頁)

一 競賣法ニ依ル競賣ニ關スル抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ民事訴訟法第四百五十六條第二項ヲ準用シ其裁判ニ由リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (大審大正四年民一六二二頁評論四卷諸法二二四頁)

第二十六條

1 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ
2 民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎競賣申立ノ登記記入ノ旨趣

處分ハ物ノ現狀ニ付キ爲ス所ノモノナレハ若シ物ニ或ル物權ヲ負擔シ居リタルトキハ之カ負擔附ノママ之ニ假處分ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得レハナリ (廣島控三九年法三五九號一一頁)

第二十七條

1 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス
2 競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
3 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 申立人
- 二 債務者及ヒ所有者
- 三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
- 四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

◎競賣手續ノ利害關係人 (類題、五三三頁)

一 競賣法ニ依ル競賣ノ目的タル不動産ニ對シ登記簿上所有名義者タル者ハ本條第三項ノ二ニ依リ利害關係人ニシテ縱令其者ニ於テ該不動産ヲ他人ニ賣渡シタル旨

..... (以下六二八頁)

◎競賣申立ト假處分トノ關係 (類題、五三五頁)

一 抵當權ノ實行ハ其後ニ處分ヲ禁止セラレタル假處分ノ爲メ妨ケラレルモノニ非ス何トナレハ現狀保持ノ假

一 不動産ニ付キ競賣開始決定ヲ爲シタル場合ニ競賣法第二十六條ニ依リ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記セシムル所以ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ公示シ第三者ヲシテ右登記以後ニ於テ物權若クハ之ト同一ノ效力ヲ生スヘキ權利ヲ取得スルモノヲ以テ競賣申立人竝ニ競落人ニ對抗スルコトヲ得サラシムル趣旨ニ外ナラス (東京地三八年法三〇〇號一三頁)

◎競賣申立登記後ノ賣買ノ效力 (類題、五三〇頁)

一 競賣法ニ依ル競賣申立ノ登記アリタル不動産ノ所有者ハ絕對ニ該不動産ノ處分權ヲ喪失スルモノニ非スシテ唯其爲シタル處分カ競賣申立人及ヒ競落人ニ對抗シ得サルニ止マルモノナレハ其處分ニ關スル登記申請ハ之ヲ受理スヘキモノトス (大審大正四年民二一〇六頁)

ヲ主張シタレハトテ直ニ利害關係人ニ非スト謂フヲ得サルモノトス(大審大正四年民一八九五頁)

二 本條ニ所謂所有者中ニハ競賣申立ノ登記アリタル以後ニ於テ其目的タル所有權ヲ所有者ヨリ取得シタル第三者ヲ包含セサルモノトス(大審大正四年民一四四三頁)

三 本條第三項第三號ニ所謂不動産上ノ權利者トハ不動産上ノ物權ヲ有スル者ヲ指稱スルモノニシテ賃借人ヲ包含セサルモノトス(大審大正二年民六九五頁同旨東京控三九年法三五四號一一頁)

四 債權保全ノ爲メノ假處分命令カ登記簿ニ表示セラレタリトスルモ假處分權利者ヲ以テ直チニ本條ノ所謂利害關係者ナリト謂フヲ得ス(大阪控四二年最五卷八八頁)

五 本條第二號ニ所謂債務者及ヒ所有者トハ競賣申立書ニ表示セラレタル債務者及ヒ不動産ノ所有者ヲ指シ申立書ニ表示セラレス而カモ登記簿ニ登記ナクシテ物件ノ所有者ト主張スル者ハ本條第四號ノ不動産上ノ權利者ニ該當シ此種ノ者ハ競賣期日マテニ其權利ヲ證明シタルニ非サレハ競賣事件ノ利害關係人ヲ以テ目スヘキモノニ非ス(大審大正五年民二四二四頁評論六卷諸法六八頁)

附 競賣ノ目的タル不動産ノ上ニ地上權ヲ有スル旨ヲ證明シタル者ハ假令登記ヲ缺クモ競賣手續ニ於ケル利害關係人ナリトス(學說、評論四卷諸法二〇八頁)

◎競賣期日通知記載事項

一 本條ニハ競賣期日ヲ利害關係人ニ通知スヘキ旨ノ規定アルモ其場所ヲ通知スヘキ規定ナケレハ通知書ニ場所ノ記載ナシトスルモ違法ニ非ス(大阪控三八年法三一七號一一頁)

二 本條第二項ニ依ル競賣期日ノ通知ハ單ニ期日ヲ通知スルノミニテ足り競賣物件ノ表示ノ如キハ競賣手續ノ内容ヲ明ニスル意味ニ於テ其ノ同一ヲ害セサル程度ニ記載スレハ足レルモノトス(東京地大正三年評論三卷諸法一四四頁)

.....(以下六二九頁).....

◎競賣ト所在不明者ノ送達通知 「類題、四三三頁」

一 競賣法ニ依ル不動産競賣事件ニ於テ債務者ノ所在不明ナルトキハ債務者ニ對スル開始決定ノ送達及ヒ競賣期日ノ通知ヲ必要トセス(奈良地大正五年法一〇七四

號二〇頁)

附 執達吏カ受送達者ノ所在ヲ捜査スルニ付何等法律上ノ制限ナキヲ以テ元住所ノ隣家一二ニ就キ問合セタルノミニテ所在不明ト認定シタリトテ違法ニ非ス(同上)

◎競賣期日ノ通知ニ對スル抗告

一 競賣法ノ規定ニ依ル競賣期日通知ハ單ニ通知ニ止マリ裁判ニ非サルヲ以テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ヘキ限ニ在ラス(東京地三四年法四二號一二頁)

二 競賣期日ノ通知ヲ爲ササルモノ之ヲ以テ抗告ノ理由ト爲スコトヲ得ス(奈良地大正元年評論一卷諸法九三頁)

◎公告ニ記載ヲ要スル貸貸借 「類題、五三八頁」

一 第三者ニ對抗スルコトヲ得サル貸貸借ト雖モ抵當權ノ實行ニ當リテハ競賣期日ノ公告ニ掲載スルコトヲ要スルモノトス(學說、評論五卷民法一一五一頁)

第二十八條

1 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ

爲サシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ

◎競賣ニ於ケル鑑定人ノ評價

一 本條ノ鑑定人ニ依ル評價額ハ競賣ノ目的タル不動産ノ最低競賣價格ヲ定ムルニ付キ裁判所カ絕對ニ準據セサルヘカラサル標準ニシテ裁判所ノ心證ヲ定ムル證據方法ニ非ス總テ其ノ評價ノ手續ハ證據調ノ手續ニ非ス(東京地三九年法三六四號八頁)

◎剩餘アル見込ナキ場合ト競賣 「類題、五三七頁」

一 競賣法ニ依ル競賣ニモ民事訴訟法第六百五十六條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス(岐阜地大正三年評論三卷民訴二八二頁)

附 競賣法ニ依ル競賣ノ場合ニ於テ裁判所カ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ裁判所ハ競賣申立人ニ其旨ヲ通知シ申立人カ剩餘アルヘキ價額ヲ定メ其價額以上ノ競買人ナキ場合ニハ自ラ其價額ヲ以テ買受クヘキヲ申立テサルトキハ競賣手續ヲ取消スヘキモノトス(學說、評論四卷諸法

二二三頁

第二十九條

1 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ依リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
2 民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

◎錯誤アル競賣期日公告ノ效力 [類題、五四〇頁]

一 競賣期日ノ公告ニ其不動産ノ表示トシテ番地併合前ノ番地ヲ記載スルモ該不動産力抵當權ノ目的物件タルコト疑ナキ以上ハ縱令公告ト不動産所在地ト齟齬スルモ何等失當ノ點アルモノニ非ス(東京地大正六年評論六卷諸法三四七頁)
二 新聞紙ニ依リテ爲ス競賣期日ノ公告ハ補充的ノモノナルヲ以テ縱令其公告中不動産所有者ノ誤記ノ點(大和田新吉ヲ大和田新七ト記載シタルカ如キ)アリトスルモ競落許可決定ヲ不法ナラシムルモノニ非ス(東京

地大正六年評論六卷諸法三四七頁)

三 競賣公告ノ抵觸(五四〇頁參看)

.....(以下六三〇頁).....

◎競賣公告ト揭示期間

一 不動産ノ競賣期日ハ公告ノ日ヨリ十四日ノ後ナラサルヘカラサルモ其公告ハ十四日間斷ナク揭示セラレサルヘカラサルモノニ非ス(東京控四〇年最一卷六一頁)

◎競賣法ニ依ル競賣ト公告ノ記載 [五三八頁參看]

第三十條

1 競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

◎賣却條件ノ意義 [類題、五四〇頁]

一 本條ニ於テ準用セラレル民事訴訟法第六百六十二條所定ノ合意變更ヲ許ス所謂賣却條件トハ競賣セラレヘ

キ不動産ノ所有權ヲ競落人ニ移轉スルニ付キ直接ノ關係ヲ有スル條件ヲ指稱シ競賣期日ノ如キハ之ニ屬セス(字都宮地四四年法六九三號二五頁)

◎競賣期日ノ變更 [類題、五四一頁]

一 競賣法中競賣期日ノ變更ニ關シ何等規定ナキカ故ニ一旦開始シタル競賣手續ノ進行ハ全然裁判所ノ職權行動ニ屬スルモノトス隨テ當事者ヨリ競賣期日變更ノ申請アルモ之ヲ許否スルハ一ニ當該裁判所ノ自由裁量ニ屬シ必ス期日ヲ變更スヘキ義務ヲ生セシムルモノニ非ス此ノ故ニ如斯申立ナキ場合ニ於テモ職權ニヨリ競賣期日ヲ自由ニ變更シ得ヘキハ勿論又如斯申立ヲ看過シテ競賣ノ實施ヲモ爲シ得ルモノトス(字都宮地四四年法六九三號二五頁)
二 一旦裁判所ニ繫屬シタル競賣事件ノ進行ハ事件申立人ヨリ取下ヲ爲ササル限りハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノナレハ縱令競賣申立人及ヒ被申立人ノ合意ヲ以テ競賣期日ノ變更ヲ申請スルコトアルモ裁判所ハ之ヲ聽許セサルヘカラサルモノニアラス(東京控三五年法七五號一〇頁)

◎競賣場所ト競買催告トノ關係

一 本條ニ依リ準用セラレル民事訴訟法第六百六十三條後段ノ法意ハ廣ク競賣ノ場所ニ參集セル利害關係人及ヒ競買希望者ニ對シ其ノ競買價額申出ノ催告ヲ爲サシムルニ在リ而シテ競賣ノ場所トハ現實ニ競賣ヲ行フ所ヲ謂フニアラスシテ競賣開始決定ニ掲ケラレタル競賣ノ場所ヲ謂フモノトス故ニ其ノ場所トシテ公務所又ハ私人ノ邸宅店舗等ヲ指定シタルトキハ競賣等ヲ實施スヘキ公務所ナラサル限りハ其全建築物ヲ以テ之ニ充テタルモノト認メサルヘカラサルカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ執達吏ハ其各場合ニ恰當スル方法ヲ以テ競買價額申出ノ催告ヲ爲ササル可カラス(字都宮地大正元年法八三〇號二五頁)

◎公告事項ノ遺脱ト競賣調書ノ瑕疵 [類題、五四五頁]

一 競賣ノ日時場所ヲ公告セサルコト若クハ競賣調書ニ競賣ノ日時ヲ記載セサル事實アリトスルモ元來此ニ關スル規定ハ公益規定ニ非サレハ斯カル事實ヲ以テ直チニ競賣ハ當然無効ナリト云フヲ得ス(大審四〇年民三〇七頁法四一八號一三頁)

第三十二條

1 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

2 競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

(以下六三一頁).....

◎共同競買ノ申出ト其適否 (類題、五四二頁)

一 競賣法ニ依ル競賣ニ於テ數人共同シテ競買スヘキ申出ヲ爲スモ其競買代金支拂ニ付キ連帶若クハ不可分ノ義務ヲ負擔シテ申出テタルモノニ非サルヲ以テ該競買ハ許スヘキモノニ非ス(大阪地四五年法七九五號二三頁)

◎一括的競買價額申出ノ適否

十二條第七號ニ於テ競買價額申出ノ催告後滿一時間ヲ過キサルニ競賣ヲ終局シタル場合ヲ規定シ全ク適法ナル催告ナカリシ場合ヲ規定セスト雖モ適法ナル催告ナクシテ終局シタル競賣ハ尙ホ催告後滿一時間ヲ經過セサルニ終局シタル競賣ト彼是些ノ區別ナキカ故ニ此ノ如キ場合ハ本條ニ該當スル不適法ノ競賣ナリト謂ハサルヘカラス(字都宮地大正元年法八三〇號二五頁)

◎或不動産ノミノ競落適否 (類題、五四六頁)

一 數個ノ不動産ヲ競賣ニ付シ其賣得金ヲ以テ債權ヲ辨濟シ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルトキハ他ノ不動産ニ付テ競落ヲ許ササルコトハ民事訴訟法第六百七十五條ニ規定アルモ競賣法ニハ新カク規定ナシ故ニ競賣法ニ依ル競賣ハ執行裁判所カ數箇ノ不動産ニ對シテ競落ヲ許可スルモ不當ニアラス(東京控三六六年法一三六號一三頁)

二 競賣法ニ依ル競賣ニ付テモ民事訴訟法第六百七十五條ヲ準用スヘキモノトス(岐阜地大正三年評論三卷民訴二九三頁)

(以下六三二頁).....

一 民法ノ規定ニ依レハ同一債權ヲ擔保スル數箇ノ不動産ニ付キ其代價ヲ配當スルトキハ其各不動産ノ價格ニ應ジテ其債權ノ負擔ヲ分ツヘキモノナルカ故ニ民事訴訟法第六百七十五條ノ如キ制限ヲ付スルコトヲ得ス是本條ニ於テ特ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用セサル所以ニシテ且不動産全部ノ一括的競買申出ヲ認メタル理由ナリトス(奈良地大正元年法八三三號二三頁評論一卷諸法九四頁)

◎「競買申込ヲ爲ササル」契約ノ效力

一 競賣法ハ多數ノ競買申込人ヲシテ自由ニ高價ノ申込ヲ爲サシメ以テ競賣物件ニ付キ可及的高價ノ換價ヲ得ムトスルニ在ルヲ以テ任意ニ申込ヲ爲ササルハ格別之ヲ爲ササルコトヲ契約上ノ義務タラシムトスルカ如キ契約ハ競賣法ノ精神ニ背馳スルモノニシテ即チ民法第九十條ノ所謂公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノトス(大審大正六年民七〇六頁評論六卷民法三六八頁)

◎競買催告ノ不適法ト抗告理由

一 本條第二項ニ依リ準用セララルル民事訴訟法第六百七

◎長期貸借ト抵當權トノ關係

一 民法第六百二條ノ期間ヲ超エタル家屋ノ貸借ニシテ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノハ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルヲ得サルカ故ニ該抵當權者カ抵當權ノ實行トシテ競賣法ニ依リ競賣ノ申立ヲ爲ストキハ其抵當不動産ハ貸借ノ存在セサルモノトシテ競賣ニ付スルモノナリ從テ競落許可決定ニ因リ該不動産ヲ取得スル者ハ亦貸借ノ存在セサルモノトシテ之ヲ取得スルモノナリ(東京地三六六年法一四二號一三頁同旨東京控三六六年法一六二號九頁)

二 公告ニ記載ヲ要スル貸借(五三八頁參照)

◎競落ノ許可ニ付テノ異議

一 競賣期日ヲ競賣手續ノ利害關係人ニ通知セサルヘカラサルハ競賣法第二十七條第二項ノ規定スル處ナリト雖モ賣却條件ニ非サルコト明ナルヲ以テ從テ通知ナキヲ理由トシテ民事訴訟法第六百七十二條第三號ニ則リ競落許可ニ付異議ヲ申立ツヘキモノニ非ス(東京地三四年法五一號九頁)

◎競賣法ノ異議及抗告ト實體上ノ理由〔類題、五〕

一 競賣手續ノ開始並ニ競落許可ノ決定ニ對スル異議ハ競賣手續ニ關スル理由ニ基キテ之ヲ爲スチ通則トスルモ競賣法ニ依ル競賣ハ民事訴訟法ノ強制執行ト異ナリ執行力アル債務名義ヲ必要トセサルモノナルヲ以テ右異議及ヒ抗告ハ手續上及ヒ實體上ノ理由ニ基キテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(大審大正二年民四三六頁同旨大阪控四一年法四八〇號八頁長崎控三九年法四〇三號一三頁東京地大正六年評論四卷諸法三七二頁)

◎任意競賣ノ債權額ノ擴張

一 當初年賦債權ノ一部ノ金額請求ノ爲メ競賣ノ申立ヲ爲シ競賣開始決定ヲ受ケタルトキト雖モ競落許可決定ニ至ル迄ハ其請求金額ヲ擴張シ其債權全額ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス(山口地大正五年法一一一號二三頁)

附 抵當權實行ニ因ル不動産競賣ノ請求金額ハ競賣手續開始決定後ト雖モ之ヲ擴張シ又ハ減縮スルコトヲ得ルモノトス(學說、評論四卷諸法二一三頁)

.....(以下六三三頁).....

◎競落ニ關スル抗告ト其期間

一 不動産競賣事件ノ競落許可ノ決定ニ對シ利害關係人ノ爲ス抗告ハ即時抗告ニシテ民事訴訟法第四百六十六條ノ準用ニ依リ裁判ノ送達ヨリ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スヘキモノトス(大審大正二年民九九一頁)

二 競賣法ニ依ル不動産競落許可決定ニ對スル即時抗告ニ付テハ民事訴訟法第四百六十六條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判ノ言渡ヨリ七日ノ不變期間内ニ限リ提起スルコトヲ得ルモノニシテ該決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ノ與ヘタル裁判ニ對スル再抗告ニ付テモ亦即時抗告ノ規定ニ從ヒ裁判ノ言渡アリタルトキハ其言渡ヨリ不變期間ヲ計算スヘキモノトス(大審大正四年民一四九六頁評論四卷諸法二〇〇頁)

三 競賣法ニ依ル競落許可決定ハ之ヲ言渡スヘク該決定ハ言渡ノ方法ニ依リテ告知スヘキモノニシテ又其決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得而シテ其七日ノ不變期間ハ言渡ヲ以テ告知サレタル日ヨリ起算スヘキモノトス(東京控三八年法三〇〇號一二頁同旨大阪控三九年法三五一號一二頁)

◎競落許可決定ト抗告權利者〔類題、五四八頁〕

一 競賣法ニ依ル競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ル人ニ付テハ本條ニ於テ準用セラレル民事訴訟法第六百八十條ノ規定ニ從フヘキモノトス而シテ同條ニ所謂利害關係人ハ本法ニ付テハ第二十七條第三項ニ列記セラレル者ニ限ルカ故ニ右列記以外ノ者ハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(大審大正二年民九四八頁)

意見ヲ聽クコトヲ要セス(民刑局長回答三三年民刑第八四三號)

◎競落管理人ノ選定ト其權限

一 本條第二項及ヒ民事訴訟法第六百八十七條ニ依リ選任シタル管理人ニ付テハ該選任ノ決定ヲ債務者ニ送達スルコトヲ必要トセス(大阪區大正五年法一一五九號二五頁)

二 管理人ハ強制執行ノ機關トシテ債務者ヨリ任意若クハ裁判所ノ協力ニ依リテ不動産ノ占有ヲ取得シ債務者ノ管理權ヲ剝奪シテ不動産ノ保全殊ニ之カ利用收益ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民訴六九四條二項二號)(同上)

三 抵當權ノ實行ニ因ル競賣ハ抵當權ノ及フ範圍ニ於テ結果ヲ生スヘキモノナレハ競買人ノ取得スヘキ權利モ亦其範圍ヲ出テサルモノトス從テ本條第二項ノ準用ニ係ル競落許可決定後競落人ニ引渡アルマテ競賣不動産ノ管理ヲ命セラレタル管理人ノ權限ハ抵當權ノ效力ノ及フ範圍ニ於テノミ存スルモノトス(大審大正六年民九七頁同旨二審大阪控大正五年法一一八六號二五頁)

四 抵當權ノ及フヘキ範圍ハ其目的タル不動産ニ附加シ

◎競落許可決定ニ對スル抗告理由〔類題、五四九頁〕

一 債權ノ多少ハ配當ノ問題ニ影響ヲ及ボスモ之カ爲メニ競賣手續ヲ開始進行スルニ何等ノ妨ナク從テ競賣法ニ準用シタル本條第二項ニ所謂抗告適法ノ理由ト爲ラヌ(東京地大正三年法九六七號二七頁)

◎競落許可否ノ抗告ト非訟事件ノ通知

一 本條ニ依リ民事訴訟法第六百七十七條及ヒ同第六百八十條ノ規定ヲ準用シ競落許可ノ決定及ヒ之ニ對スル即時抗告ヲ爲ス場合ニ付テハ非訟事件手續法第十五條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ檢事ニ通知シ

之ト一體ヲ爲ス物即チ有體物ニ限レルヲ以テ家賃金取立債權ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス(大阪控大正五年法一一八六號二五頁)

五 管理人カ其ノ管理權ヲ行フコトヲ得ルハ競賣不動産ノ引渡ヲ受ケタル後ナラサルヘカラス(和歌山地大正五年法一一七四號二五頁)
右判決ノ一審、競落不動産ノ引渡及管理(五五六頁)参照

六 競落人カ未タ所有權取得ノ登記ヲ爲ササル場合ト雖モ管理人ハ執行機關タル資格ニ於テ支拂ヲ求ムルモノナレハ土地賃借人ハ登記ノ欠缺ヲ主張シテ貸料ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス(大阪區大正五年法一一五九號二五頁)

◎競賣停止ト管理決定トノ關係

一 縱令競賣手續ノ停止アリタル場合ト雖モ競落許可決定ノ取消サレサル限リハ其決定ニ基キ發セラレタル管理決定ニ消長ナキモノトス(大阪區大正五年法一一五九號二五頁)

.....(以下六三四頁).....

◎競賣法ノ競賣ト不足額ノ請求(類題、五五八頁)

一 競賣法ニ依ル競賣ニ於テ前ノ競落人カ民事訴訟法第六百八十八條末項ノ命スル負擔義務ヲ履行セザルトキハ競賣法第二十七條ノ規定ニ於ケル利害關係人ハ該競落人ニ對シ強制執行ヲ爲ス爲メ直接ニ訴ヲ提起シ得ヘキモノトス(大審三六年民二六四頁)

第三十三條

1 競落人ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ
2 裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

◎「競賣代金ヲ受取ルヘキ者」ノ意義

一 本條及ヒ第十五條ニ所謂「受取ル可キ者」トハ一般債權者チ指シタルモノニ非スシテ留置權者先取特權者質權者其他民法商法ニ依リ競賣申立權ヲ有スル債權者

ノミチ云フモノトス(名古屋地四二年法三七六號一三頁)

二 第二十二條第一項ニ該當セサル債權者ハ本條第二項ニ依リ競賣代金ノ交付ヲ受クルコトヲ得サルモノトス(民刑局長回答三七年民刑第五〇號)

三 本條第二項ノ所謂競賣代金ヲ受取ルヘキ者トハ登記シタル不動産上ノ權利者、不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者及ヒ支拂殘額ヲ生シタルトキ之ヲ受クヘキ債務者又ハ不動産所有者等トス(民刑局長回答三三年民刑第六九號)

◎滯納地租ト競賣代金ノ配當

一 滯納地租金ノ徵收ニ付テハ本條第二項ニ依リ競賣代金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ルモノトス(民刑局長回答三八年民刑第二六四號)

◎競賣代金ノ交付ト期限前ノ優先債權

一 第二抵當權者ノ申立ニ因リ競賣ヲ爲シタル場合第一抵當權者ノ債權カ辨濟期前ナルトキト雖モ第二條第二項ニ依リ抵當權ハ競落ニ因リ消滅スルカ故ニ競賣代金ヲ以テ該債權ノ支拂ヲ爲スヘキモノトス(民刑局長回

答三五年民刑第一七一號民刑局長回答三五年民刑第三七二號)

二 本條第二項ニ依リ裁判所カ競賣代金ヲ交付スヘキ場合ニ於テハ適當ノ方法ニ依リ債權ノ有無及ヒ交付スヘキ金額ヲ定ムヘキモノトス(同上)

◎競落不動産ト所有權ノ移轉(類題、五五一頁)

一 競賣法ニ依ル競落不動産ノ所有權ハ競落代價ノ全額カ支拂ハレタル時ニ於テ競落人ニ移轉スルモノトス(大審大正四年民二一一七頁)

◎建物競落人ノ取得スル權利

一 抵當權ノ目的タル建物カ抵當權實行ノ爲メ競賣セラレルトキハ特別ノ事情ニ因リ取毀ノ爲メニスル場合ヲ除ク外競落人ハ不動産トシテ其建物ノ所有權ヲ取得スルモノトス(大審三八年民一一九七頁)

.....(以下六三五頁).....

◎競賣手續費用ノ支拂

一 不動産競賣手續ノ費用ハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ之

チ計算シ競賣代金中ヨリ第一ニ之ヲ控除シ受取ルヘキ者ニ交付スヘキモノトス（民刑局長回答三四年民刑第二三二號）

◎競落人ノ登記抹消請求權（類題、五六四頁）

- 一 競賣法ニ依リ競落シタル不動産ノ抵當權先取特權ノ抹消登記ニシテ職權ヲ以テ該抹消ヲ囑託セザリシモノハ囑託遺漏ノ趣旨ヲ以テ更ニ之カ囑託ヲ爲スコトヲ得ヘシ（法務局長回答大正四年民第一五二八號法曹記事二五卷一〇號一四七頁）
- 二 競落許可決定確定後競落ニ因リテ消滅シタル先取特權抵當權其他不動産上ノ權利ノ登記ニ付テハ當事者雙方ヨリ抹消登記ヲ申請スルコトヲ得ヘシ（民刑局長回答三四年民刑第二三二號）
- 三 第五六四頁「地上權及ヒ永小作權ノ登記抹消」ノ一及ヒ二ハ省議變更前ノモノニ係レリ（編者）

◎代金支拂ノ不當延期ト異議申立

- 一 裁判所カ競落代金ノ支拂及ヒ其代金ノ交付期日ヲ不當ニ延期シタル處分ニ對スル異議ニ付テハ競賣法及ヒ其他ノ法律ニ何等之ヲ認メタル規定存セサルヲ以テ其

異議ノ申立ハ不當ナリトス（大津地三九年法三八七號一二頁）

◎登記囑託ノ當否ト抗告

- 一 本條ニ依ル登記囑託ハ競落許可ノ決定アリタルヨリ少クトモ七日以後ニ爲スヘキモノニシテ一ノ非訟事件手續タルニ過キサレハ非訟事件手續法第二十條ニ所謂裁判ニ該當セス（大審三七年民一四三七頁）

◎競賣代金ノ配當ト異議申立

- 一 競賣法ニ依ル不動産ノ競賣手續ニ關シテハ利害關係人ヨリ異議ヲ申立テ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシト雖モ抵當權者ノ優先權ニ付キ争アルニ於テハ結局競賣代金ヲ受取ルヘキ者ノ何人ナルヤハ實體法ニ依リテ決セラルヘキモノナレハ訴ヲ以テ之ヲ主張スルチ當然トス（大審四〇年民八八六頁）
- 二 競賣法ニ於テハ債權者間配當ヲ受クヘキ金額ニ付異議アルトキト雖モ裁判所ハ異議ニ拘ラス之ニ對シ裁判ヲ與フルコトナク直チニ配當スルコトヲ得ヘク從テ異議アル債權者ハ配當ノ後ニ至リ他ノ債權者ニ對シ訴ノ方法ヲ以テ自己ノ優先權ヲ主張シ得ヘキモノトス（東

……………（以下六三六頁）……………

◎配當額ニ對スル實體上ノ訴求

- 一 本條ハ實體上受取ルヘキ配當額ノ交付ヲ受ケサル債權者ノ爲メ其交付ニ對シ異議ヲ主張スル方法ヲ設ケサレハ交付ヲ受ケタル配當額ニ付キ異議ヲ主張セント欲スル者ハ訴ノ方法ニ依リ實體上ノ權利ニ基キ之ヲ爲スコトヲ得（大審四三年民七九五頁）
- 二 執行異議ニ代ル他ノ訴求（四四九頁參看）

◎競賣代金ノ保管方（類題、五六〇頁）

- 一 競賣代金ヲ優先權者ニ交付スルコト能ハサル場合ニ於テハ之ヲ交付スルコトヲ得ルニ至ルマテ裁判所ニ於テ保管スルチ相當トス（民刑局長回答三四年民刑第三七一號）

◎一部競賣ト分割登記ノ囑託

- 一 登記法上一用紙中ニ記載ノ不動産ノ一部ヲ競賣シテ所有權移轉ノ登記ヲ爲スニ際シ先ツ分割又ハ減失ノ登記ヲ必要トスルトキハ其囑託官廳ハ亦々其登記ヲ囑託スル權限ヲモ有スルモノトス（東京地三四年法二七號

京控三八年法三〇四號一〇頁）

- 三 本條第二項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル申立アリタル時ハ裁判所ハ不動産上ノ權利證明ノ十分ナリヤ否ヤヲ調査シ果シテ之ヲ正當ナリトスルトキハ前示法條ノ金額ノ交付ヲ爲スヘク否ラサル場合ニ於テハ其交付ヲ爲ササルニ止ムヘク特ニ右申立ニ對シ許否ノ裁判ヲ爲スヘキモノニ非ス（長崎地四〇年法四五七號五頁）

◎競賣代金ノ受領ト不當利得（類題、四九七頁）

- 一 裁判所ヨリ配當金額ヲ受領シタル場合ニ在リテモ其受益者ニシテ之ヲ受クヘキ基本債權者有セザリシトキハ不當利得ヲ構成スルモノトス（大審大正四年民九二四頁）
- 二 本條ニ依リ競賣代金ヲ交付スル行爲ハ實體上ノ權利ヲ確定スルモノニ非サレハ其代金ノ配當ヲ受クル權利ナキ者カ誤テ配當ヲ受ケ之カ爲メニ配當ヲ受クヘカリシ者カ配當ヲ受ケ得ザリシ場合ニ於テハ前者ハ民法第七百三條ニ依リ後者ニ對シテ不當利得ノ責ニ任セサルヘカラス（大審四三年民七九五頁同旨大審大正三年民五七一頁）

九頁)

第三十四條

1 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣代ニヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

◎入札ノ方式 (五六五頁參看)

第五章 增價競賣

第四十條

1 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ增價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス
2 前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス

◎增價競賣ト抵當權實行通知

附言スルモ該請求ハ固ヨリ有效ナリ (大津地四一年法四八八號九頁)

..... (以下六三七頁)

◎增價競賣ト擔保提供ノ時期

- 一 抵當權者ハ增價競賣申立ノ際擔保ノ提供ヲ要スルモノナレトモ其效力ハ單ニ擔保ノ提供ヲ爲シタルノミチ以テ足レリトセス擔保認許ノ申立後其認許ノ裁判ヲ待ツテ始メテ其效果ヲ生スヘキモノナレハ擔保提供ノ時期ハ擔保認許ノ申立期間内ナラサル可ラス (大津地四一年法四八七號八頁)
- 二 民法第三百八十四條第三項ニ依ル擔保ハ遅クモ本條ノ認許ヲ求ムル迄ニ之ヲ現實ニ供スルコトヲ要スルモノトス (大審大正四年民一二二四頁評論四卷民法五二二頁)
- 三 競賣法ニ所謂擔保認許ノ裁判トハ既ニ供シタル擔保ヲ檢證スルコトヲ指スモノニ非スシテ債權者ノ供セントスル擔保ハ適當ナリヤ否ヤヲ裁判スルモノナリト謂フヘク從テ擔保認許スル裁判アリタル後債權者ヲシテ擔保ヲ供セシメ然ル後競賣手續開始決定ヲ爲スヘキモノト解スルヲ妥當ナリトス (東京地四五年法八〇九

一 民法第三百八十一條ニ依ル抵當權實行ノ通知ハ抵當權者カ其抵當權ノ實行トシテ爲ス抵當不動産ノ競賣請求ノ前提條件ヲ爲スモ同法第三百八十四條ニ依ル增價競賣請求ノ前提條件ヲ爲スモノニ非ス本條ニハ抵當不動産ノ增價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要スト規定スルヲ以テ文理解釋上抵當權者ハ抵當權ノ濫除ヲ爲サントシタル第三取得者ニ對シ民法第三百八十四條ニ依リ增價競賣ノ請求ヲ爲ス外他ニ何等ノ條件ヲ履踐スルヲ要セス直ニ其競賣手續ニ著手スルコトヲ得ヘシ (法曹會決議四三年二〇卷九號二九頁)

◎增價競賣申立ノ要件

- 一 本條ハ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日ヲ經過シタル後ハ競賣ヲ申立テ擔保ノ認許ヲ求ムルヲ得サル旨ヲ規定シタルニ止リ競賣請求ノ送達前ニハ之ヲ許ササルノ法意ニ非ス (大審大正四年民一二二四頁)
- 二 增價競賣申立ノ期間ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日間ナルヲ要ス又民法第三百八十四條二十分ノ一ノ增價金額ト規定セルハ十分ノ一二限ル趣旨ニ非サレハ十分ノ一以上ノ增價額ニテ買受クル旨

號二五頁)

- 四 債權者ハ第三取得者ニ對シテ增價競賣ノ請求ヲ爲スト同時ニ現實ニ擔保ヲ供スルカ遅クトモ管轄區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲ス時ニ現實ニ擔保ヲ供スヘキモノニシテ而カモ其何レノ場合ニ於テモ增價競賣申立書ニハ擔保ノ種類内容等ヲ確的ニ表示スヘキコトヲ要ス (大阪控四一年法五四九號一二頁)
- 五 民法第三百八十四條ニ所謂擔保ノ提供ハ少クトモ增價競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ競賣ノ申立ト同時ニ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス (大審大正二年民八五五頁評論二卷民法六三〇頁同旨大阪控三九年法三八六號八頁)
- 六 競賣申立人カ現實擔保ヲ供セサル以前ニ爲シタル擔保認許ノ裁判ハ實質上擔保ノ認許タル效力ヲ生セサルモノナレハ斯ノ如キ裁判ニ基キ爲シタル競賣手續開始ノ決定ハ適法ナルモノトス (大審大正四年民一二二五頁)

..... (以下六三八頁)

◎增價競賣ニ於ケル擔保ノ性質

一 増價競賣ニ於テ請求債権者ノ供スル擔保ハ請求債権者ヲシテ其不動産ヲ買受ケシムル場合ニ於ケル代金支拂ノ擔保ニシテ他人ノ競落代金支拂ヲ擔保スルモノニ非ス(大阪控四二年法五七四號一二頁)

◎増價競賣申立代理人ノ權限

一 増價競賣申立ニ付キ委任ヲ受ケタル者ハ擔保認許ノ裁判ヲ受ケルコトモ委任セラレタルモノトス(大津地四一年法四八七號八頁)

第四十一條

1 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債権者之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者ノ氏名、住所
- 二 抵當不動産ノ表示
- 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
- 四 擔保ノ表示
- 五 第三取得者カ提供シタル金額
- 六 請求者カ定メタル増額金額
- 七 年月日

八 裁判所

2 申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

3 民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス

◎増價競賣ノ申立ト添附書類 [類題、五二八頁]

一 本條及ヒ民事訴訟法第六百四十三條第四號ニ依リ建物ニ關スル増價競賣ノ申立ニ其公課ヲ證スヘキ證書ノ添付ヲ要スルハ建物ニ付キ納ムヘキ公課ノ存スル場合ニ限ルモノトス(大津地四一年法四八七號八頁)

◎連帶者ノ一人ニ對スル競賣申立

一 本條ニ依リ競賣申立書ニ掲クヘキ債務者トハ抵當權ノ實行ヲ受ケル債務者ヲ指稱シ而シテ抵當權者カ連帶債務者中ノ一人ニ對シ抵當權ノ實行ヲ爲サント欲スル場合ニ於テハ他ノ連帶債務者ヲ競賣申立書ニ記載スルノ要ナキニ依リ縱シヤ申立書ニ他ノ連帶者ノ氏名ヲ記載セザリシトスルモ之ヲ以テ不適法ナリト論スルヲ得ス(大阪控三九年法四一〇號一一頁)

(以下六三九頁)

第四十六條

1 競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

2 第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

◎増價競賣ノ公告

一 増價競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル増價金額ヲ記載スルコトヲ要ス(大津地四〇年法四二〇號九頁)

第四十七條

1 競賣期日ニ請求債権者カ定メタル増價金額ニ達スル競買ノ申込ナキトキハ請求債権者ヲ以テ競落人トス

◎増價競賣ト競落代金ノ不拂

2 民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

一 増價競賣ニ於テ競落許可決定確定後競落人カ代金ヲ支拂ハサル場合ニ於テハ競落人ノ資格ハ當然消滅ニ歸シ本條ニ所謂請求債権者ノ定メタル増價金額ニ達スル競賣ノ申出ナキトキトアル場合ニ歸著スルカ故ニ此ル場合ニ於テハ請求債権者ヲ以テ競落人ト爲スヘキモノニシテ再競賣ニ付スヘキモノニ非ス(大阪控四二年法五七四號一二頁同旨大阪控四二年法六一一號一四頁大津地四一年法五〇八號一四頁)

二 増價競賣ハ競落許可決定ニ因リ終結シ競落許可決定ノ確定後競落人カ代金ヲ支拂ハサル場合ニ於ケル法律關係ハ實體法ノ規定ニ依リ定ムヘキモノニシテ再競賣ヲ爲スヘキモノニ非ス又請求債権者ヲ以テ競落人トスル決定ヲモ爲スヘキモノニ非ス(大阪控四一年法五一四號一三頁)

三 競落人カ競買代金ヲ支拂ハサルトキハ再競賣ヲ命ス

ヘキモノニシテ直ニ増價競賣請求債権者ニ競落テ許可
スヘキモノニ非ス(民刑局長回答四三年民刑第九五一
號)

.....(以下六四〇頁).....

◎増價競賣ノ終了時期 (類題、五五六頁)

- 一 増價競賣ハ競落許可決定ニ因リテ終結スルモノニ非
ス競落許可決定後競落人ヨリ競落代金ヲ受取リ各受領
権利者ニ交付スヘキモノニシテ裁判所カ此手續ヲ了シ
テ始メテ競賣手續ヲ完結スルモノトス(大阪控四二年
法五七四號一二頁)

競賣法 (完)

補遺

.....(以下六四一頁).....

第一條 (裁判所ノ事物ノ管轄)

◎人事訴訟手續ト準據法

- 一 人事訴訟ハ民事訴訟ノ一種タルニ過キサレハ特ニ人
事訴訟手續法ニ定メタルモノノ外總テ民事訴訟法ノ規
定ヲ適用スヘキモノトス(大審四三年民二八九頁)
- 二 人事訴訟手續法ニ於テハ特ニ送達ノ手續ヲ規定セサ
ルヲ以テ同第五十二條ノ送達トハ即チ民事訴訟法ニ規
定シタル送達ノ謂ナリ(同上)

第四條 (數箇ノ訴訟物ト價額ノ合算)

◎執行異議及電話名義書換ト印紙

- 一 請求ニ關スル異議ノ訴ニ於テ爲ス強制執行不許ノ裁
判ハ不動産ノ競賣手續ノ無効ヲ確定シ若クハ其取消ヲ
爲スモノニ非サレハ強制執行不許ノ裁判ヲ求ムル點ト

電話加入名義書替手續請求ノ點トハ各獨立ノ請求ニシ
テ訴ノ併合ナリトス從テ各訴訟物ノ價格ハ之ヲ合算シ
テ決スヘキモノトス(東京區大正六年評論六卷民訴三
〇五頁)

◎人事訴訟ト訴訟印紙

- 一 禁治產準禁治產又ハ失踪宣告ノ申立ニハ民事訴訟用
印紙法第三條及ヒ第十條ニ依リ二十五錢ノ印紙ヲ貼用
スヘキモノトス(民刑局長回答四三年民刑第四九八
號)

◎檢事ノ人事訴訟ト訴訟印紙

- 一 檢事カ人事訴訟及非訟事件ニ付キ申立又ハ申請ヲ爲
シ若クハ抗告ヲ爲ス場合ト雖モ印紙ヲ貼用スヘキモノ
トス(民刑局長回答三一年刑甲第二七一號民刑局長回
答同旨同年民刑第二〇六七號)

第五條 (金錢以外ノ訴訟物ノ價額ト算定方)

◎通行ノ妨害排除ト訴訟物ノ價格

- 一 通行妨害排除ノ訴訟物ノ價格ハ特別ノ事情ナキ限り

通行妨害ニ因リ原告カ被ムル損害即チ原告所有地ノ價格ノ減少額ニ從ヒテ決スルチ相當ト爲ス(青森地大正七年法一三六五號二七頁)

◎水利權收用ノ保證ト其價額

一 水利權收用ノ補償金額ハ水利權ノ相當價格ニ依リテ定ムヘキコトハ土地收用法第七條及ヒ第四十八條ノ規定スル所ニシテ其額ハ收用時期ヲ標準トシ當時其權利カ特ニ高キ賣買價格ヲ有スヘキ事情ナキ限リハ其收益價格ニ依リテ定ムヘキ即チ其權利ノ利用上生スル純收益ノ額ヲ元本タル水利權ヨリ生スル利息ト同一視シ之ヲ相當ノ利率ニ還元シタル金額ヲ水利權ノ價格ト認ムルチ相當トス(大阪控大正五年最一七卷二九六頁)

第九條〔管轄違ト移送判決〕

◎移送判決ト印紙ノ増貼

一 移送後ニ於テハ法定印紙額ト當初ノ貼用印紙額トノ差額ヲ増貼スルチ以テ是ルヘキモノトス(甲府地四四年法七五四號二五頁)

第十條〔普通裁判籍ト其標準〕

◎親權喪失請求ト管轄

一 親權ノ喪失ヲ目的トスル訴ハ本條ニ依リ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬スヘキモノトス(大阪控四一年法四八七號八頁)

第十三條〔内國ニ住所ナキ者ノ普通裁判籍〕

◎外國ノ意義ト朝鮮居住者

一 我領土内ト雖モ裁判所構成法及ヒ民事訴訟法ノ施行區域外ニ在ル裁判所ハ是等法律ニ所謂裁判所トシテ該法上認メラレタル管轄權ヲ有スヘキモノニ非サレハ其適用ノ上ニ於テハ是等法律施行區域外ノ地ハ之ヲ外國ト同一ニ看做ササルヘカラス(長崎控大正四年評論四卷諸法八五頁)
二 朝鮮ニ住所ヲ有スル者ハ民事訴訟法ノ適用ニ付テハ外國ニ住所ヲ有スルモノト看做ササルヘカラス(同上)

◎土木出張所ト國ノ代表

民事訴訟法 補遺

◎區裁判所ノ開始ト事務引繼

一 區裁判所ノ事務開始シタル場合ニ於テ舊管轄廳取扱ニ依ル訴訟書類ハ既未済ヲ問ハス總テ新管轄廳ニ引繼クヘシ又行政事務ニ關スル書類モ新管轄廳ニ屬スヘキモノハ總テ分割シテ引繼クヘシ但事件簿ノ如キ分割シ難キモノハ其原本ヲ作り移送スヘシ(民刑局長回答三三年民刑第一一三號)
二 新設區裁判所開廳シタルトキハ其開廳前舊管轄裁判所ニ於テ受理シタル未済事件ハ之ヲ新設區裁判所ニ引繼クヘキモノトス(民刑局長回答三五年民刑第二三三號)

.....(以下六四二頁).....

◎支部ノ開始ト事務ノ引繼

一 支部ノ權限カ民事事件ヲ取扱フコトトナリタル場合ニ於テハ既ニ審理ニ著手シタル事件ハ引繼キ地方裁判所ニ於テ之ヲ審理完結シ未タ審理ニ著手セサル事件ニシテ其支部ノ管轄ニ屬スルモノハ之ヲ引繼クヘキモノトス(司法大臣指令二五年書第六四四號)

一 内務省土木出張所處務規程第十二條ニ所謂民有地ノ買取トハ民有地ノ買入及ヒ收用ヲ併稱スルモノト解スヘク而シテ内務省土木直轄工事中土地收用ニ關スル事務ハ他ノ法則ニ依リ除外セラレサル限リハ總テ土木出張所ノ司掌事務ニ係ルチ以テ同所ハ民事訴訟ニ付キ國ヲ代表スルモノトス(東京控大正六年法一三七七號二三頁)

◎絶家ノ土地ト國ノ代表

一 絶家ニ因リ國庫ニ歸屬シタル土地ハ官有地ニ屬スヘキモ其土地ハ性質上大藏大臣ノ所管ニ屬スヘキモノニ非サルチ以テ同大臣ハ右不動産ニ關スル國ノ代表權ヲ有セス(金澤區大正七年法一三七八號二二頁)

◎醫師會會長ト訴訟能力

一 醫師法及ヒ醫師會則ニ遵ヒ設立セラレタル醫師會ハ法人ニハアラサレトモ會則ニ特ニ會長ヲ以テ醫師會ヲ代表セシムヘキ規定ノ存スル場合ニハ會長ハ其權限ニ基キ會長ノ名ヲ以テ醫師會ヲ代表シ裁判上裁判外ニ於テ會ノ事務ヲ執行シ得ヘキモノトス(大審大正四年民一五八一頁評論四卷諸法二四九頁同旨評論同一〇二

一〇條——一四條 [六四二] 九〇七

頁)

- 二 醫師會會則ニ「會長ハ本會ノ事務ヲ總轄シ總會若クハ評議員會ニ於テ決議シタル事項ヲ執行ス」トノ規定存スルトキハ代表ノ文字ハ存セサルモ會長ハ會長ノ名ニ於テ訴訟當事者トナリ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノトス(同上)

.....(以下六四三頁).....

第十八條(履行地ニ於ケル特別裁判籍)

◎婚姻豫約不履行ノ要償ト管轄

- 一 婚姻豫約不履行ニ基ク損害賠償ヲ求ムル訴ハ其義務タル婚姻届出ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ出訴スヘキモノトス(東京地大正五年最一八卷六二頁)

◎契約上ノ裁判籍ニ關スル判例

- 一 甲乙間ノ寄託契約ニ於テ係争指定物件ヲ甲ノ現住所ニテ返還スヘキコトノ特約アルトキハ假令右物件力契約當時他地ニ存在セルトキト雖モ甲ノ現時ノ住所ヲ管轄スル裁判所ニ於テ土地ノ管轄權ヲ有スルモノトス(東京地大正六年評論六卷民訴九三頁)

第二十二條(不動産ニ關スル物權ノ訴ト管轄)

◎登記變更ノ承諾ヲ求ムル訴ト管轄 [類題、一]

- 一 一番抵當權者甲カ抵當權ノ目的タル建物ニ變更アルニ因リ債務者ニシテ所有者タル乙ニ代位シ變更登記ヲ爲スニ當リ不動産登記法第九十三條同第八十一條ニ依リ二番抵當權ノ登記名義人タル丙ノ承諾ヲ求ムル爲メニ提起シタル訴ハ物權ニ關スル訴訟ニ非ス(大審大正六年民一五七〇頁同旨名古屋控大正六年法一二七六號二六頁)

◎礦業權ニ基ク訴ノ管轄

- 一 第一三頁ノ類題ト同旨判例(東京控大正六年評論六卷諸法一六三頁)
- 二 權利ノ實體ハ債權的請求權ナルモ之カ假登記ヲ爲スコトニ因リ第三者ニ對抗シ得ヘキ物權的效力ヲ生スル場合ニ於テ其債權的請求ハ本來ノ内容ヲ主張スルニ非スシテ單ニ該權利ノ對世的效力ヲ主張スル訴ニ在テハ物權ノ訴ト同視スルチ相當トス(東京地大正五年法一五四號一七頁)

◎經界ノミニ關スル訴訟ノ意義 [類題、一四頁]

- 一 裁判所構成法第十四條ニ所謂「不動産ノ經界ノミニ關スル訴訟」トハ相隣地所有者間ニ於テ各所有權ノ範圍ニ關シ争ナク單ニ兩地ヲ區劃スル經界線ノ所在ニ付キ争アル場合ニ相隣地ノ一方所有者ヨリ他方ニ對シ其經界線ノ確定ヲ求ムル訴訟ヲ指稱スルモノニシテ相隣地ノ一方ノ所有者ニ於テ自己ノ所有權ヲ認メ却テ全部ノ所有者ナリト争ヘル他方ニ對シ一定ノ經界線ニ至ル迄ハ自己ノ所有ニ屬スルコトノ確認ヲ認ムルカ如キ訴訟ハ之ヲ包含セサルモノトス(長崎控大正二年法八七〇號一六頁)

◎境界確定ノ訴ト要件 [類題、續民法二二三條]

- 一 既存ノ土地ノ境界線ヲ確認シ界標ヲ設置シ他人ノ不法ニ占有シタル部分ヲ取戻スカ如キハ事實行為タルニ過キサルカ故ニ之カ無効確認ノ訴ハ許ササルモノトス(東京地大正三年評論三卷民訴一五一頁)
- 二 經界確定ノ訴ノ權利保護ノ要件ハ相隣者カ該土地ノ所有權ヲ有スルコト及ヒ相隣者間ニ其經界ノ不明若クハ經界紛争ノ事實アルコトヲ要ス(東京地大正五年評論五卷民訴一五七頁)

第二十四條(相續裁判籍ニ關スル規定)

◎親族會決議ノ不服ト管轄裁判所

- 一 民法第九百五十一條ノ規定ニ依ル訴ハ假令其親族會ノ決議ノ目的タル事項カ相續人ノ選定ナルトキト雖モ本條ニ所謂相續權遺贈其他死亡ニ因リテ效果ヲ生スル處分ニ基ク請求ノ訴ニ屬セサルヲ以テ被相續人死亡ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ニ提出スルコトヲ得サルモノトス(大審大正六年民一三四九頁)

.....(以下六四四頁).....

第三十條(暗黙ノ合意管轄)

◎關席判決ト管轄ノ合意 [類題、一九頁]

- 一 被告カ口頭辯論期日ヲ懈怠シタル場合ニ於テモ管轄權ノ有無ハ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ調査スヘキモノニシテ被告ハ未タ事實上本案ノ辯論ヲ爲ササルモノナルヲ以テ本條ノ規定ニ依リ受訴裁判所ニ當然管轄權ヲ生スルモノニアラス(學說、評論四卷民訴二一一頁)
- 二 管轄ノ合意ノ許サルヘキ訴訟ニ於テハ原告ニ管轄ノ基本タルヘキ事實トシテ主張セル事實上ノ口頭供述

(例へハ受訴裁判所ノ所在地カ契約ノ履行地ナリトノ供述又ハ訴訟物ニ付キ書面ニ依ル管轄ノ合意アリトノ供述)ハ被告ニ於テ自白シタルモノト看做ス可キモノニシテ此事實ノ眞實ナリヤ否ヤニ付テハ裁判所ノ職權調査ヲ要セス但原告カ管轄ノ基本トシテ供述セル事實カ客觀的ニ不能ナルトキ又ハ顯著ナル事實ニ反スルトキ若クハ經驗上ノ法則ニ違背セル事實ナルトキハ自白ノ擬制ヲ認ムルヲ得ス(同上)

三 管轄ノ合意ノ許サレサル訴訟ニ在リテハ管轄ノ基本タル原告ノ事實上ノ口頭供述ニ付テモ職權ヲ以テ其眞實ナリヤ否ヤチ調査スルコトヲ要スルモノトス(同上)

第三十二條 (除斥ノ原因)

◎前審干與ノ意義

一 第二十頁ノ類題ノ一ト同旨判例(大審大正六年民一七八六頁)

第三十三條 (忌避ノ原因)

◎證據決定ト忌避ノ原因 (類題、二二頁)

審大正五年民四二四頁)

第四十三條 (當事者能力ト準據法)

◎市ノ一部ナル町ト人格及代表者 (類題、二四頁)

一 大阪市ノ一部ナル同市西區九條北通一丁目外十五箇所(通稱九條町)ハ水路其他ノ財産ヲ有スル法人トス該法人カ其固有ノ事務即水路管理ノ爲ニ自己ノ所有權ニ基キ設置シタル木柵ハ大阪市ノ機關トシテ設置シタルモノニ非ス而シテ其代表者ハ大阪市西區長ニシテ大阪市長ニ非サルモノトス(大阪控大正六年法一三六〇號二二頁)

.....(以下六四五頁).....

◎村ノ訴訟ト代表者

一 郡區町村編制法ノ適用ヲ受クル村カ訴訟ヲ爲スニ當リ總代人カ村ヲ代表スヘキ旨ヲ定メタル法規ナシ(大審大正四年民九九頁評論四卷民訴六四頁)

◎水論ト原告ノ訴訟資格 (類題、二四頁)

一 判事カ其シキ怠慢及ヒ過失アル證據申請ヲ却下スルノ措置ニ出テサルノ一事ヲ以テハ未タ事件ニ付キ不公平ナル裁判ヲ爲スヘキコトヲ疑フニ足ルヘキ事情アリト爲スチ得ス(東京地大正七年法一三五三號二二頁)

二 家資分散宣告事件ニ付テハ證明ヲ許ササルニ拘ラス判事カ證據決定ヲ爲シタリトスルモ未タ以テ偏頗ノ恐アルモノト謂フチ得ス(同上)

第四十二條 (檢事ノ立會フヘキ訴訟ノ種類)

◎民事訴訟ニ於ケル檢事ノ立會 (類題、二三頁)

一 檢事ノ立會ハ民事訴訟ニ於ケル裁判所ノ構成ニ缺ク可カラサル要件ニ非サレハ原裁判所カ檢事ノ立會ヲ求メスシテ判決シタリトスルモ破毀ノ理由ト爲ラサルモノトス(大審大正六年民一三八七頁)

◎人事訴訟ニ於ケル檢事ノ立會

一 人事訴訟手續法第五條第一項ハ檢事ニ對シ婚姻事件ノ辯論ニ立會ヒ意見ヲ述フヘキ旨ヲ命シタルニ過キサルレハ此規定ニ依リテ檢事カ辯論ニ立會ヒ意見ヲ述フルニ非サレハ裁判ヲ爲シ得サルモノト論スルヲ得ス(大

一 大字ニ於テ縣廳ノ許可ヲ得テ設置シタル用水路ハ其所屬地籍ノ如何ヲ問ハス其用水路ニヨリ便益ヲ受クル者ノ公共團體タル大字其モノナルト其住民ナルトハ間ハス大字ノ營造物トシテ大字ノ利益ヲ代表スヘキ村長ノ管理ニ屬ス從テ管理者タル村長ハ大字ヲ代表シテ引水權ノ確認ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(大審大正五年民一三四五頁評論五卷民訴三〇九頁)

◎無能力者ニ對スル訴訟行爲

一 後見ニ服セル未成年者ニ對シ恰モ訴訟能力者ト同視シテ爲シタル訴訟行爲ハ無効トス(大阪地大正五年法一一三九號二四頁)

◎無能力者ト人事訴訟

一 人事訴訟手續法第三條ノ所謂無能力者トハ意思能力アリテ行爲能力ノ缺ケタル者ヲ指シ兩者共ニ缺ケタル無能力者ヲ包含セス(東京控大正五年最一八卷九九頁法一一六一號一九頁)

二 養子縁組事件ニ於テ意思能力ナキ者カ當事者タル場合ハ該無能力者ニ代リ訴訟行爲ヲ爲シ得ヘキ者ノ明文規定ナシト雖モ其精神ハ無能力者ノ利益保護機關タル